

# 高槻市と関西大学による市民意識調査報告書

—令和2年度—

令和3年3月

高槻市・関西大学総合情報学部



## はじめに

本報告書は、高槻市と関西大学が共同で、高槻市民を対象に実施した令和2年度市民意識調査「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」の成果を取りまとめたものです。この調査は、関西大学総合情報学部で開講している「社会調査実習」(2020年度)の授業の一環として行われているものです。当授業では、受講生が本調査の実施全体に大きく関わっています。具体的には、まず受講生自身が関心のある調査テーマを設定した上で調査票の設計を行い、調査票のデータ入力とその分析、そして最終報告書の執筆を行うことで、社会調査の実施に必要な過程を一通り経験します。

そのため、この調査では例年、大学生らしい現代的な切り口の調査テーマが選ばれる特長があります。今年度は、特にコロナ禍の影響が大きく反映されうるテーマが多く見られました。情報源と買い溜め行動など特に社会的に問題とされていたものから、不健康の解消への関心を根底とした、運動頻度と生活満足度の関係、喫煙行動と精神的健康を扱うもの、また、インターネットの利用時間や家事分担と、家族との会話時間の関連性を検討する、家庭内でのコミュニケーションを主とするものが揃いました。これらの調査結果は、単純な特定地域の市民調査としての意義のみに留まらず、コロナ禍の最中のデータである点も含め、興味深い学術的意義を持ちうるものです。

本調査は今回でちょうど10回目となります。過去の9回の調査では、回収率が60%前後を推移しており、今回も61.4%という高い水準の回収率を達成できました。これは関係各位の皆さまのご協力があったからこそ、成しえたことです。関西大学総合情報学部の松本渉先生には、調査の事前準備から報告書提出の段階まで、進捗の度に的確なご助言をいただきました。大過なく本調査を終えることができたのは、松本先生にご尽力いただいたお陰です。また、ティーチング・アシスタントの尾藤央延さん、スチューデント・アシスタントの久保紗也花さん、中尾幸平さんには、学生に寄り添う姿勢と、これまでの豊かな経験を活かし、様々な形で授業の円滑な進行のためにご尽力いただきました。そして最後に、受講生の皆さんには、先述の通り、調査票の作成からデータ入力、分析、執筆まで、社会調査に必要な一連の作業にすべて取り組んでいただきました。これらの作業量は、例年、膨大であり、非常に負荷が大きいものです。特に今年度は、不測のコロナ禍の影響で、非常にイレギュラーな学習環境と制約の中で、例年通りの期間内に、この実際の大規模調査に係る作業をすべて行う必要があったため、さらに負荷は大きかったと考えられます。しかしそれでも、受講生の皆さんは諦めず、真剣に作業に取り組み続けました。この報告書は、そのような受講生の皆さんの、弛まぬ真摯な努力の結晶として上梓されるものです。

最後に、本調査の実施にあたり、高槻市市民生活環境部市民生活相談課の皆さま、関西大学総合情報学部オフィスの皆さまに多大なご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。そして何より、本調査にご協力いただきました高槻市民の皆さまに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2021年3月

関西大学総合情報学部「社会調査実習」担当講師 上原 依子



## 目次

はじめに		i
第1章 調査の概要	上原依子・松本渉	1
第2章 調査結果の概要	尾藤央延	8
資料		137
予告はがき		139
調査票		141



# 第1章 調査の概要

上原 依子・松本 渉

## 1. 調査の概要とスケジュール

高槻市と関西大学による市民意識調査「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」は、2020(令和2)年8月から9月にかけて、高槻市と関西大学総合情報学部によって行われた。社会調査実習の一環として、春学期には調査票の作成が、夏休みには調査票発送作業が、秋学期にはデータ入力、データ作成、分析等が行われた(表1)。

表1 高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査スケジュール

	日付	授業内	授業外
春学期	4/22	「社会調査実習」前期授業開講	高槻市と関西大学の
	4/28～7/22	調査票の作成	打ち合わせ(随時)
夏休み	7/31		サンプリング
	7/31～8/6		調査票印刷
	8/7	調査票発送準備作業	
	8/24		予告はがき発送
	8/27		調査票発送
	9/11		返送締切日
秋学期	9/23	「社会調査実習」秋学期授業開講	
	9/23～12/16	データの入力・読み合わせ	
	12/17～12/22		データクリーニング
	12/23	分析方法の習得	
	1/13	中間レポートの提出	速報版報告書執筆
	1/20	最終授業(最終レポートの提出)	報告書執筆
	1/21～2/28		報告書編集

(注1) 例年とは異なり、今年度は新型コロナウイルス(COVID-19)の流行により、4月7日に東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の7都府県に緊急事態宣言が出され、4月16日にはその対象が全国に拡大された。当初5月6日までとされていた緊急事態宣言も、大阪では5月21日に解除されるまで延長されることとなった。この間、関西大学においても4月6日から4月18日の2週間の授業が休講となり、4月20日(月)より春学期の授業を開始することとなったが、原則として遠隔授業により授業を行った。「社会調査実習」においても、春学期開始後の最初の水曜日である、4月22日から授業が開始された。

(注2) 調査票発送準備作業については、遠隔では不可能なため実施が危ぶまれた。5月21日の緊急事態宣言の解除を受け、総合情報学部では、6月20日以降、一部の授業において対面授業が可能となったため、例年同様夏休み中に準備作業を行った。

## 2. サンプリング

調査対象者： 18 歳以上 85 歳未満の高槻市民(1935 年 8 月 1 日～2002 年 7 月 31 日出生)

抽出名簿： 住民基本台帳 (2020(令和 2)年 7 月 31 日現在)

標本抽出法：層化抽出法

(具体的な手順)

1. 2020(令和 2)年 6 月末現在の人口に基づいて、性別と年齢によって作成された 12 の層の人口を算出する。次に、その人口の比率に従って、計画標本 2,000 を各層に割り当てる(表 2)。

表 2 層化の基準日の人口構成と計画標本の割り当て

	令和 2 年 6 月末現在の人口			計画標本の割り当て		
	男	女	男女計	男	女	男女計
18・19 歳	3,462	3,335	6,797	24	24	48
20 代	16,537	16,663	33,200	117	118	235
30 代	18,541	18,803	37,344	131	133	264
40 代	26,592	27,284	53,876	188	193	381
50 代	22,770	23,356	46,126	161	165	326
60 代	18,061	20,790	38,851	128	147	275
70 代以上	29,515	37,130	66,645	209	262	471
合計	135,478	147,361	282,839	958	1,042	2,000

2. 各層で割り当てられた人数を系統的に無作為抽出する。

## 3. 調査実施上の工夫

この調査では、調査および回収を円滑に実施するために、過年度と同様の工夫を行っている。

### 予告はがきの送付

調査票が届き次第、スムーズに回答できるように調査票発送の 3 日前に予告はがきを送付した。このように事前に調査の実施を通知することで、調査対象者は心の準備をすることができ、また調査に対する期待感を高められると考えたからである。なお、見やすくシンプルな文面とするため、ご挨拶以外にはがきに掲載した情報は最低限(「近日中に大きな茶封筒(ボールペン入り)が届くこと」「対象者が無作為で選ばれたこと」の 2 点)にとどめた。今回は 8 月 24 日(月)に予告はがきを送付した。

## 調査票送付日

調査票の送付は、大学の窓口の盆休み終了後、最初の木曜日である 2020(令和 2)年 8 月 27 日(木)に行った。勤め人の夏休みを避けた上で、金曜日頃に調査票を受け取るためである。

## 同封物

筆記具を探す必要がないようにという配慮から、箱入りボールペンを同封した。また、箱を同封することで封筒の形状を目立たせ、ほかの郵便物に紛れなくなるという効果もある。なお事前にも事後にも金銭的な謝礼は一切行っていない。

## 調査票の用紙

目立つように、藤色(なお前年はラベンダー色)の紙を使用した。また、やや重くなるが、裏面が透けて読みにくならないように厚手の紙を利用した。

## 調査票における挨拶文

すぐに質問文が目に入るようにするため、挨拶文は 1 ページの上段のみにとどめた。その主な内容は、①調査目的以外に一切利用しないこと、②結果の公表を約束すること、③住所や名前を記入しないことをお願いすることの 3 点である。それぞれ、①安心感の付与、②社会還元の明示、③匿名性の担保を示している。

## 調査票の構成デザイン

二段組にすることによってスペースを有効に利用し、A4 サイズ 8 ページ(両面)の範囲に収まる調査票とした。文字フォントは、質問文を太字の MS ゴシック、選択肢を MS 明朝としてメリハリをつけた。

## 封筒

調査票送付用封筒については、A4 サイズの調査票を折り曲げずに済むように、角 2 サイズの糊付封筒を利用した。

一方、返信用の封筒については、ハイシール加工済みの角 2 サイズの封筒を利用した。調査対象者が、回答票を封入して返送しやすくするためである。

## 催促状(なし)

催促状の送付は行っていない。



#### 4.2. 回収率と調査不能の内訳

郵送調査の特質上、締切日の9月11日(金)以降も調査票の返送が続いた。そのためしばらくの間返送を受け付け、10月19日(月)で打ち切った。返送されてきた調査票総数は1,231件であったが、4件については記入状況から無効と判断し、最終的に有効な回答票数を1,227件、回収率を61.4%とした。調査不能の内訳も含めた調査の状況は表3の通りである。

表3 回収率と調査不能の内訳

		件数	(%)
1. 調査不能	尋ね当たらず等	3	(0.2%)
	未返送	769	(38.3%)
	無効調査票	4	(0.2%)
	計	773	(38.7%)
2. 有効回答票		1,227	(61.4%)
3. 計画標本サイズ(合計)		2,000	100.0%

#### 4.3. 回収率の詳細

男女別の回収率については、男性54.6%、女性65.9%となり、女性の方が11%ほど高い(表4)。年齢層別の回収率では、70代以上で68.8%、60代で62.5%と高く、年齢が下がるにつれて回収率が低下し、20代で38.7%、18・19歳で31.3%まで低下する(表5)。社会調査において、男性よりも女性において、若年層よりも高年齢層において回収率が高くなることは一般的な傾向である。

表4 男女別の回収率

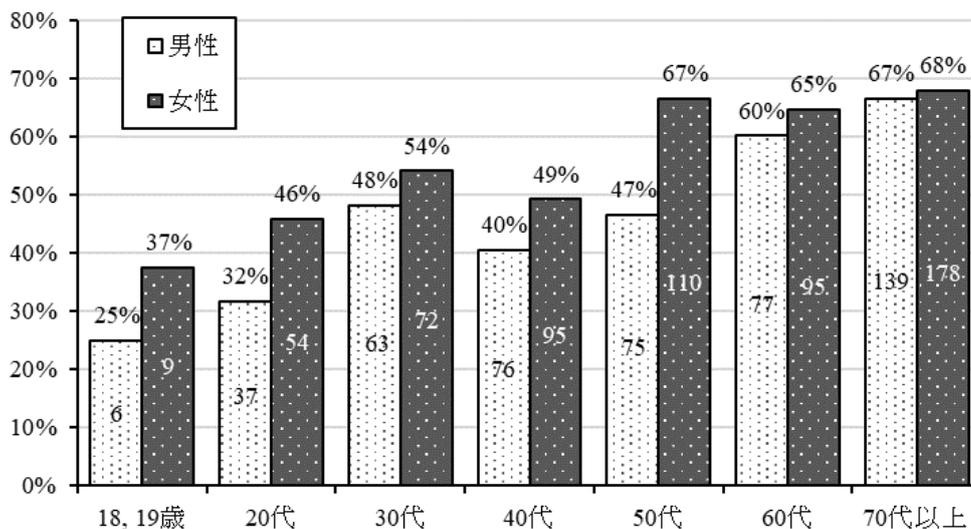
	男性	女性	不明	合計
回収標本	523	687	17	1,227
計画標本	958	1,042	—	2,000
回収率 (%)	54.6%	65.9%	—	61.4%

(注) 男女別の回収率の計算には、不明分17件が含まれていない。

表5 年齢層別の回収率

	18, 19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	合計
回収標本	15	91	137	174	186	172	324	128	1,227
計画標本	48	235	264	381	326	275	471	—	2,000
回収率 (%)	31.3%	38.7%	51.9%	45.7%	57.1%	62.5%	68.8%	—	61.4%

(注) 年齢層別の回収率の計算には、不明分128件が含まれていない。



(注1) 棒グラフの高さおよび上側の数字は、回収率をあらわしている。  
(注2) 棒グラフの内側の数字は、各層における実際の回収数である。

図2 男女・年齢層別の回収率

## 5. 回収標本の特徴

前述した男女別・年齢層別の回収率の違いにより、回収標本が母集団からある程度ずれている可能性があるため、その確認を行った。

表6は、母集団における男女・年齢別の人口分布と回収標本における男女・年齢別の人口分布を比較したものである。適合度検定\*から、男女・年齢別の人口分布について、回収標本が母集団と乖離していることが統計学的に示されている。とりわけ、20代から40代の男性といった回収率の低い層では母集団よりも過小な人口割合である一方で、60代以上の男性、50代以上の女性といった回収率の高い層では母集団より過大な人口割合である。

高槻市の統計では、世帯人数別の人口分布もわかるので、この点についても回収標本と母集団との間の人口分布の比較を行った(表7)。その結果、この比較においても適合度検定\*から両者が乖離していることが統計学的に示された。一人暮らしの多い20代、30代の回収率の低さがここにも影響したと考えられる。

### \*適合度検定

観測したデータの分布が、理論上の分布にあてはまっているかどうかを調べる統計学的手法。表6と表7では、2020(令和2)年6月末時点での高槻市全体の人口の分布を理論上の分布としている。なお、表6と表7の注釈にある統計量 $\chi^2$ は適合度基準と呼ばれる値で、この値が0の場合二つの分布は同一であり、値が大きいほど乖離していることを示している。 $df$ は、自由度と呼ばれる値(表6と表7では、「性別と年齢」「世帯人員数」の各カテゴリ数から1を引いた数に相当)である。 $p$ は、二つの分布が同一の分布である確率を表しており、統計量 $\chi^2$ と自由度 $df$ から計算されている。

表6 男女・年齢別の人口分布の比較

性別	年齢	回収標本		R2年 6月末人口	
			%		%
男性	18, 19歳	6	0.6%	3,462	1.2%
男性	20代	37	3.4%	16,537	5.8%
男性	30代	63	5.8%	18,541	6.6%
男性	40代	76	7.0%	26,592	9.4%
男性	50代	75	6.9%	22,770	8.1%
男性	60代	77	7.1%	18,061	6.4%
男性	70～84歳	139	12.8%	29,515	10.4%
女性	18, 19歳	9	0.8%	3,335	1.2%
女性	20代	54	5.0%	16,663	5.9%
女性	30代	72	6.6%	18,803	6.6%
女性	40代	95	8.7%	27,284	9.6%
女性	50代	110	10.1%	23,356	8.3%
女性	60代	95	8.7%	20,790	7.4%
女性	70～84歳	178	16.4%	37,130	13.1%
	合計	1,086	100.0%	282,839	100.0%

(注1) 表左側の回収標本には、性別または年齢の不明分141件が含まれていない。

(注2) 表右側のR2年6月末人口は、高槻市全体の人口である

([http://www.city.takatsuki.osaka.jp/shisei/profilekeikaku/tokeijoho/jinko/jinkou\\_r2/1594354959395.html](http://www.city.takatsuki.osaka.jp/shisei/profilekeikaku/tokeijoho/jinko/jinkou_r2/1594354959395.html))  
参照。

(適合度検定)  $\chi^2 = 50.9944, df = 13, p = 0.0000$

表7 世帯人員別世帯数分布の比較

世帯人員数	回収標本		R2年6月末 世帯人員数別人口	
		%		%
1人	133	10.8%	61,062	17.4%
2人	432	35.2%	94,484	26.9%
3人	287	23.4%	78,816	22.4%
4人	218	17.8%	83,784	23.8%
5人	83	6.8%	27,280	7.8%
6人	16	1.3%	4,404	1.3%
7人	2	0.2%	1,099	0.3%
8人	1	0.1%	312	0.1%
9人	0	0.0%	27	0.0%
10人	0	0.0%	40	0.0%
11人以上	1	0.1%	44	0.0%
無回答	54	4.4%	—	—
	1,227	100.0%	351,352	100.0%

(注1) 表右側の世帯人数別人口は母集団の分布であり、高槻市の人口

([http://www.city.takatsuki.osaka.jp/shisei/profilekeikaku/tokeijoho/jinko/jinkou\\_r1/1562571862415.html](http://www.city.takatsuki.osaka.jp/shisei/profilekeikaku/tokeijoho/jinko/jinkou_r1/1562571862415.html))  
から算出した。ただし、回収標本が18～84歳で構成されているのに対し、表右側の世帯  
人数別人口には未成年および85歳以上も含まれている。

(適合度検定)  $\chi^2 = 88.6576, df = 10, p = 0.0000$

## 第2章 調査結果の概要

尾藤 央延

### 1. 調査対象者の属性

調査票の質問順とは異なるが、はじめに本調査における回答者の属性を確認する。ただし、グラフや表、本文中における百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。よって合計%は100.0%になるとは限らない。回答者の性別は男性が523人で女性が687人であり女性の方が多（図1）。年齢は70代が2割以上と多く、18歳、19歳と20代は1割未満と少ない（図2）。男女別に年齢を確認しても同様の傾向が見られる（図3）。

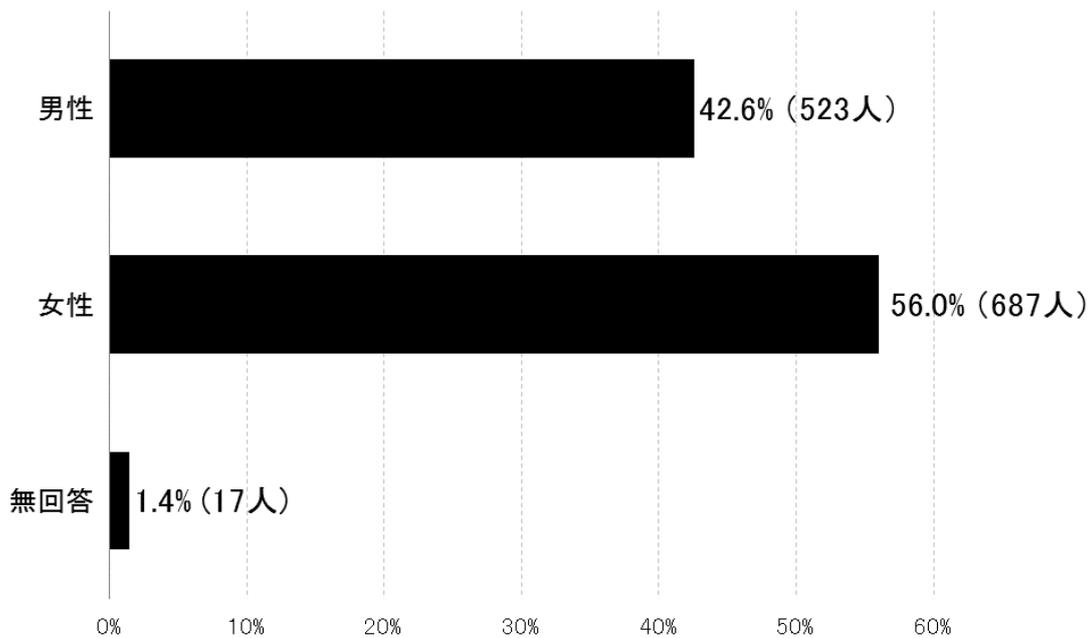


図1 Q54 性別

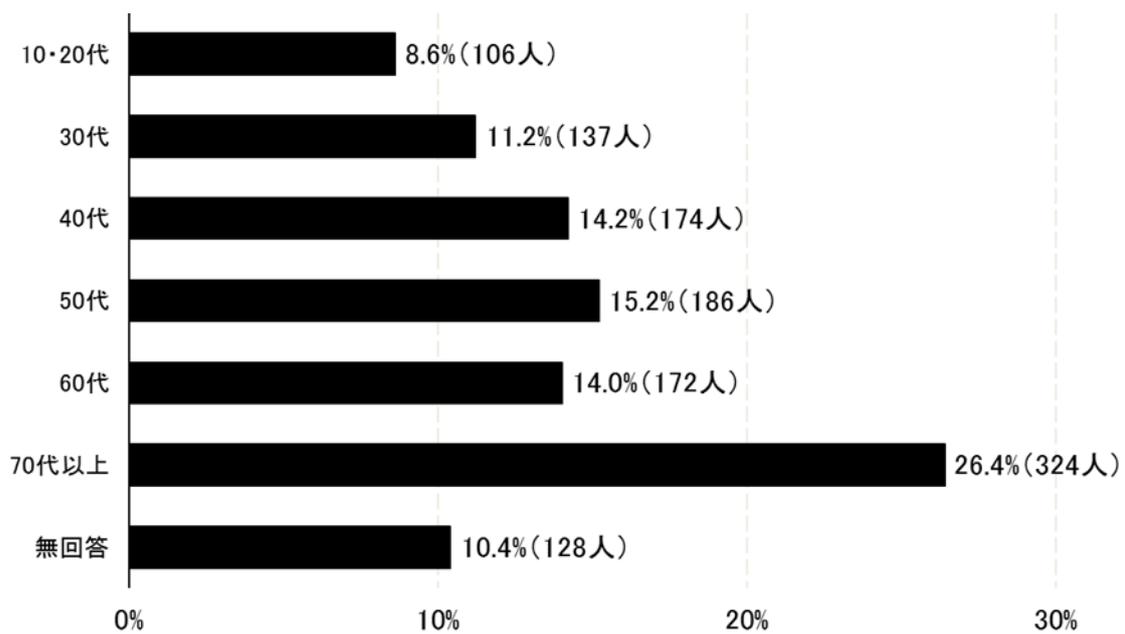


図 2 Q47 年齢

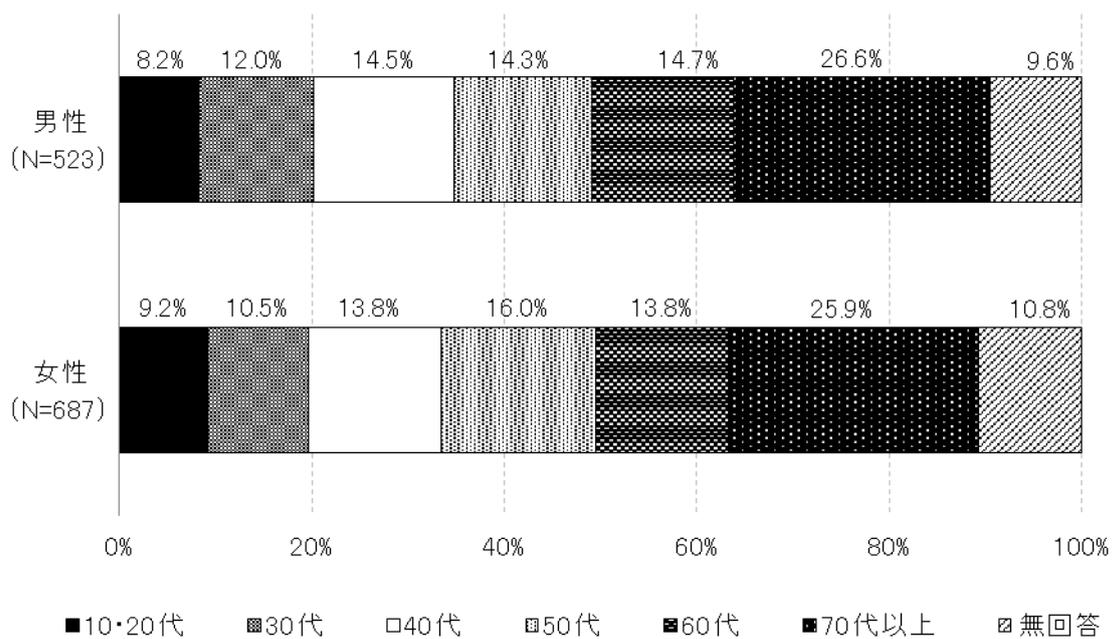


図 3 性別×年齢

以降、基本的には全ての質問項目に関して性別・年齢とのクロス集計を提示する。ただし、一部の回答者のみに回答が求められている質問項目に関して、その項目に該当しない者を非該当者として分析から除外している。なお、本調査の全回答者数は 1,227 人である。性別・年齢の内訳については図 1 と図 2 を参照のこと。また、質問項目ごとの設問提案者と例年の質問項目との対応関係の一覧については本章の最後を参照のこと。

職業は、合計を見ると常時雇用者が31.5%と最も多く、次いで無職が多い。男女別で見ると、男性は常時雇用者が43.8%と最も多く、女性は家事専業が24.3%と最も多い。年代別で見ると、60代・70代以上で常時雇用者の割合が大きく減少し、無職が大きく増加している。臨時雇用、パート、アルバイトと回答した人は、40代と50代で2割以上となっている（表1）。

表 1 Q55 職業

		(%)									
		常時雇用 の勤め人	臨時雇用、 パート、 アルバイト	自営業主	自営業の 家族 従業者	経営者、 役員	家事専業	学生	無職	その他	無回答
男女別	合計 (N=1227)	31.5	15.1	4.2	0.8	2.0	13.7	3.3	25.3	2.4	1.8
	男性 (N=523)	43.8	6.5	7.6	0.4	3.6	0.2	4.0	30.8	1.9	1.1
	女性 (N=687)	22.6	21.1	1.5	1.2	0.9	24.3	2.9	21.7	2.8	1.2
年代別	10・20代 (N=106)	45.3	2.8	2.8	0.9	0.0	0.9	35.8	4.7	5.7	0.9
	30代 (N=137)	66.4	14.6	1.5	0.0	0.7	10.2	0.0	1.5	2.9	2.2
	40代 (N=174)	51.7	25.3	3.4	1.7	2.9	6.9	0.0	4.0	1.7	2.3
	50代 (N=186)	46.2	28.0	6.5	0.5	2.7	12.4	0.0	1.6	0.5	1.6
	60代 (N=172)	19.2	15.1	4.1	0.6	2.3	23.8	0.0	32.6	2.3	0.0
	70代以上 (N=324)	1.2	6.2	4.0	1.2	1.9	18.5	0.0	62.0	2.5	2.5

最終学歴は、男女別で見ると、男性が「大学（旧高専）・大学院」が51.1%と最も多いのに対し、女性が28.4%と男性よりも少ない。女性で最も多いのは「高校（または旧制中学など）」であり、35.1%である。また、「短大・高専（5年制）」は男性が1.7%と最も少ないのに対して、女性が17.5%と「高校（または旧制中学など）」や「大学（旧高専）・大学院」に次いで3番目の多さである。年代別で見ると、10・20代が「大学（旧高専）・大学院」が75.5%であるが、年代が上がるごとに減少し、70代以上が17.9%である。反対に、10・20代が「中学（旧小学校など）」と「高校（または旧制中学など）」の合計が12.3%であるが、年代が上がるごとに増加し、70代以上が66.4%となっている（図4）。

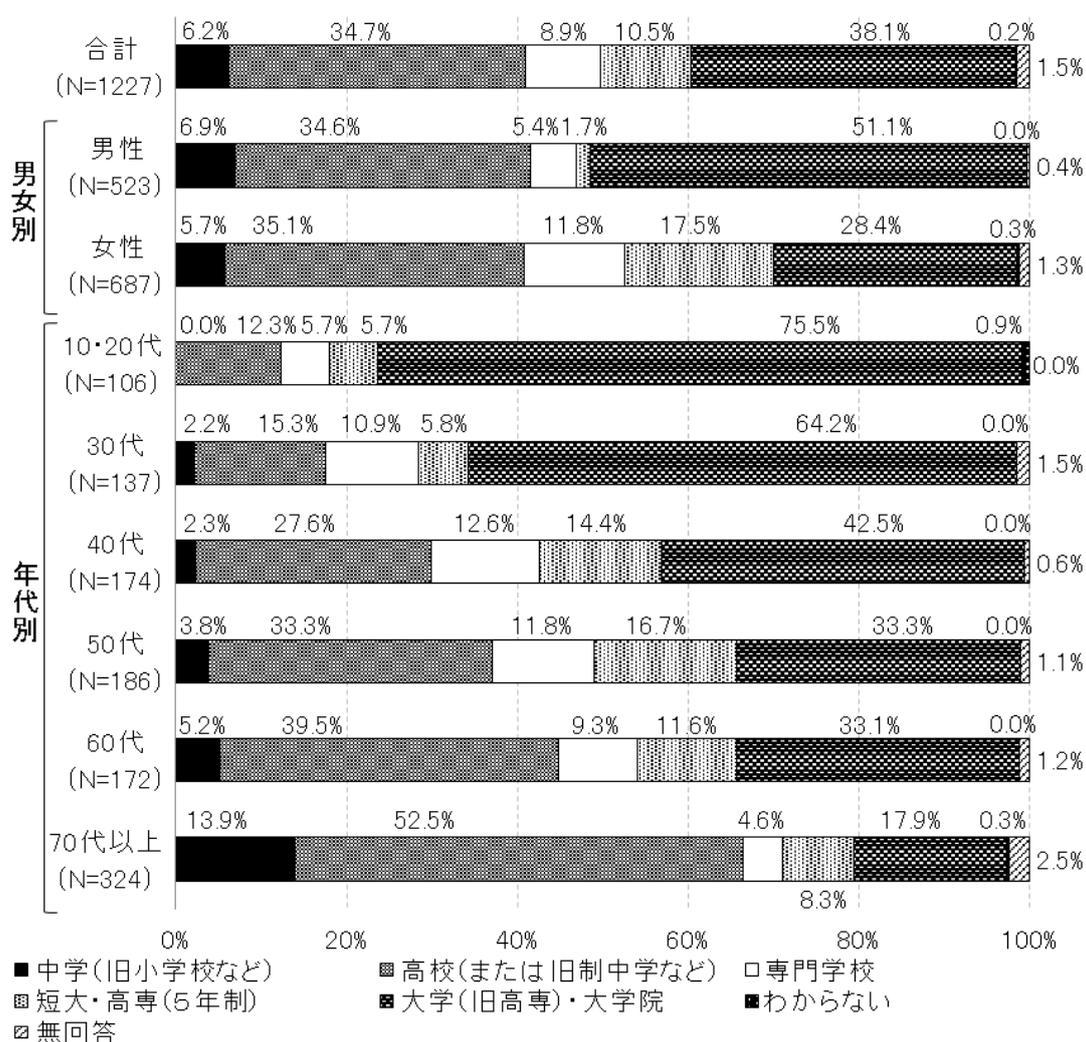


図4 Q56 最終学歴

居住地域については昨年のおり、単純集計のみを提示する。ここでの地区とは小学校の校区を参考としている。各地区と該当小学校区は、檜田地区（檜田小学校）、高槻北地区（芥川・真上・磐手・奥坂・清水・北清水・安岡寺・日吉台・北日吉台小学校）、高槻南地区（高槻・桃園・大冠・北大冠・松原・桜台・竹の内・西大冠・若松・南大冠・冠小学校）、五領地区（五領・上牧小学校）、高槻西地区（郡家・赤大路・阿武野・南平台・川西・土室・阿武山小学校）、如是・富田地区（芝生・丸橋・寿栄・富田・柳川・玉川・如是・津之江・五百住小学校）、三箇牧地区（三箇牧・柱本小学校）である（図 5）。

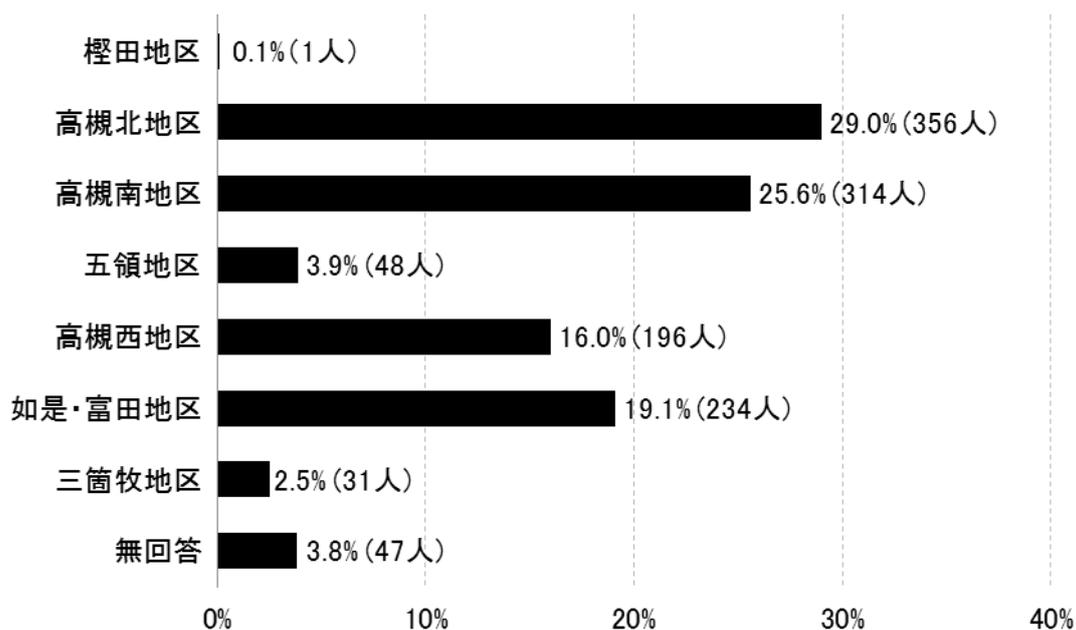


図 5 Q57 居住地域

高槻市内での居住年数に関して、全体の8割以上が10年以上市内に居住していることが分かる。年代別で見ると、10・20代が「20年以上30年未満」が44.3%と最も多く、子どものころから市内に居住していることが分かる。70代以上が「50年以上」が32.4%と最も多い。なお、大きな男女差は見られない(表2)。

表2 Q58 市内居住年数

		(%)									
		1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上 40年未満	40年以上 50年未満	50年以上	無回答
男女別	合計 (N=1227)	1.8	3.9	3.6	5.5	15.3	15.4	17.4	20.9	15.6	0.7
	男性 (N=523)	1.9	3.1	3.8	6.5	14.5	15.9	15.3	21.4	17.6	0.0
	女性 (N=687)	1.7	4.7	3.5	4.8	16.0	15.3	18.9	20.2	14.1	0.7
年代別	10・20代 (N=106)	6.6	10.4	5.7	4.7	28.3	44.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	30代 (N=137)	4.4	13.9	16.1	18.2	11.7	8.0	27.0	0.0	0.0	0.0
	40代 (N=174)	1.7	2.3	2.9	8.0	32.8	13.2	8.6	28.7	0.0	0.0
	50代 (N=186)	0.5	3.2	1.6	4.3	18.8	19.9	11.3	20.4	19.9	0.0
	60代 (N=172)	1.2	1.7	1.7	1.2	7.6	18.0	31.4	23.3	14.0	0.0
	70代以上 (N=324)	0.6	0.3	0.9	2.5	5.6	5.9	20.4	30.2	32.4	1.2

市民の住居は、男女別・年代別のすべての層で「一戸建て」の方が「集合住宅」よりも高い割合である。年代別で見ると、「一戸建て」の割合は、10・20代から40代が6割未満であるが、50代以上が6割以上である（図6）。

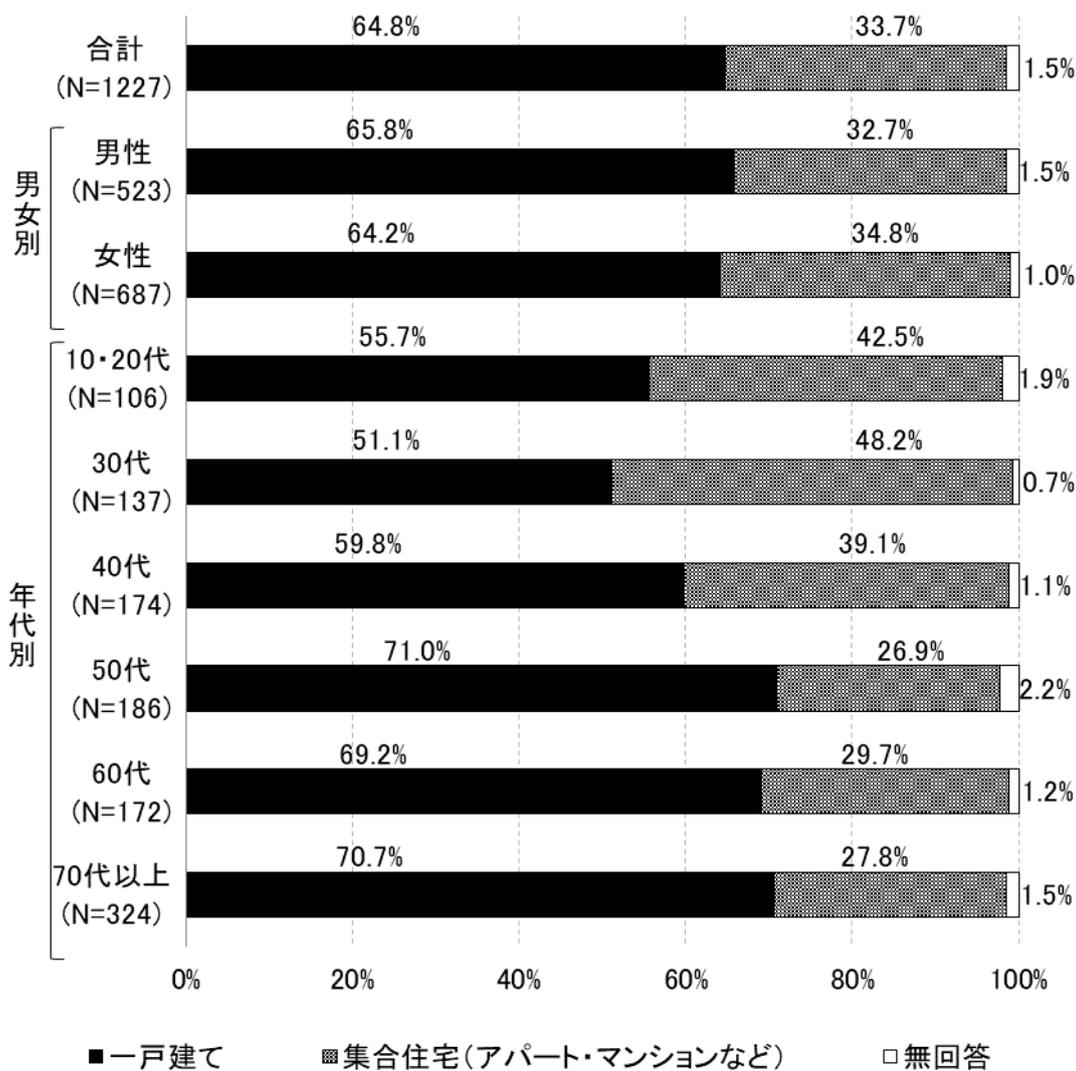


図6 Q60 住居

居住形態は、男女別・年代別のすべての層で「持ち家」がおおよそ6割以上と最も高い割合である。50代以上は8割以上が「持ち家」である。「民間の賃貸住宅」では、10・20代と30代ではおおよそ3割程度いるが、50代以上は1割未満である。「公社・公団等の公営の賃貸住宅」の割合は、70代以上が9.3%と最も高く、次いで60代の5.8%である(図7)。

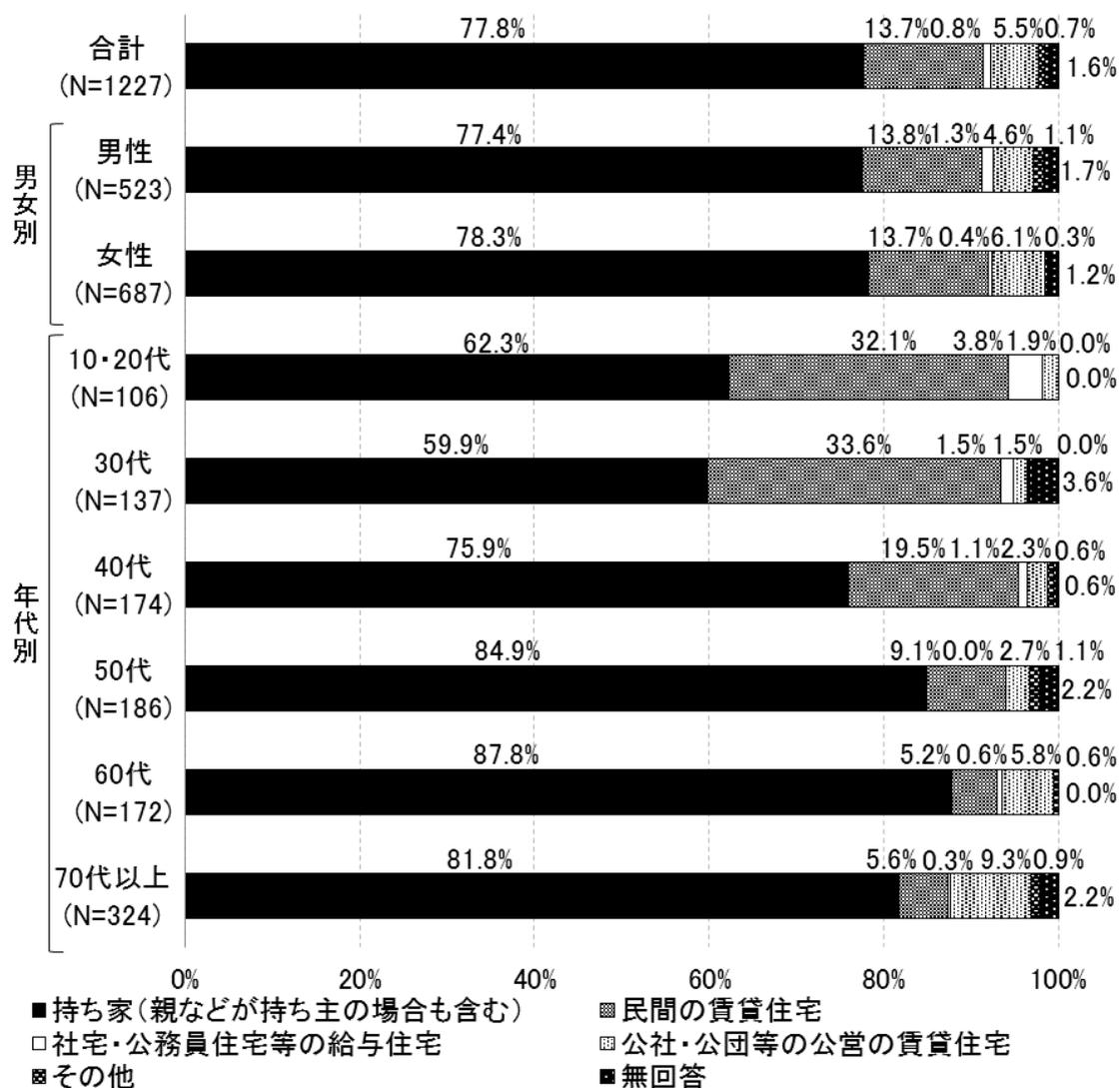


図7 Q59 居住形態

婚姻状況に関して、男女別の各層・年代別の30代以上の層で、「既婚（配偶者あり）」が最も高い割合を占める。10・20代は「未婚」の割合が8割以上である。男女別で見ると、「既婚（離別・死別）」の割合は、男性で6.7%、女性で15.4%と、女性の方が8.7ポイント高い（図8）。

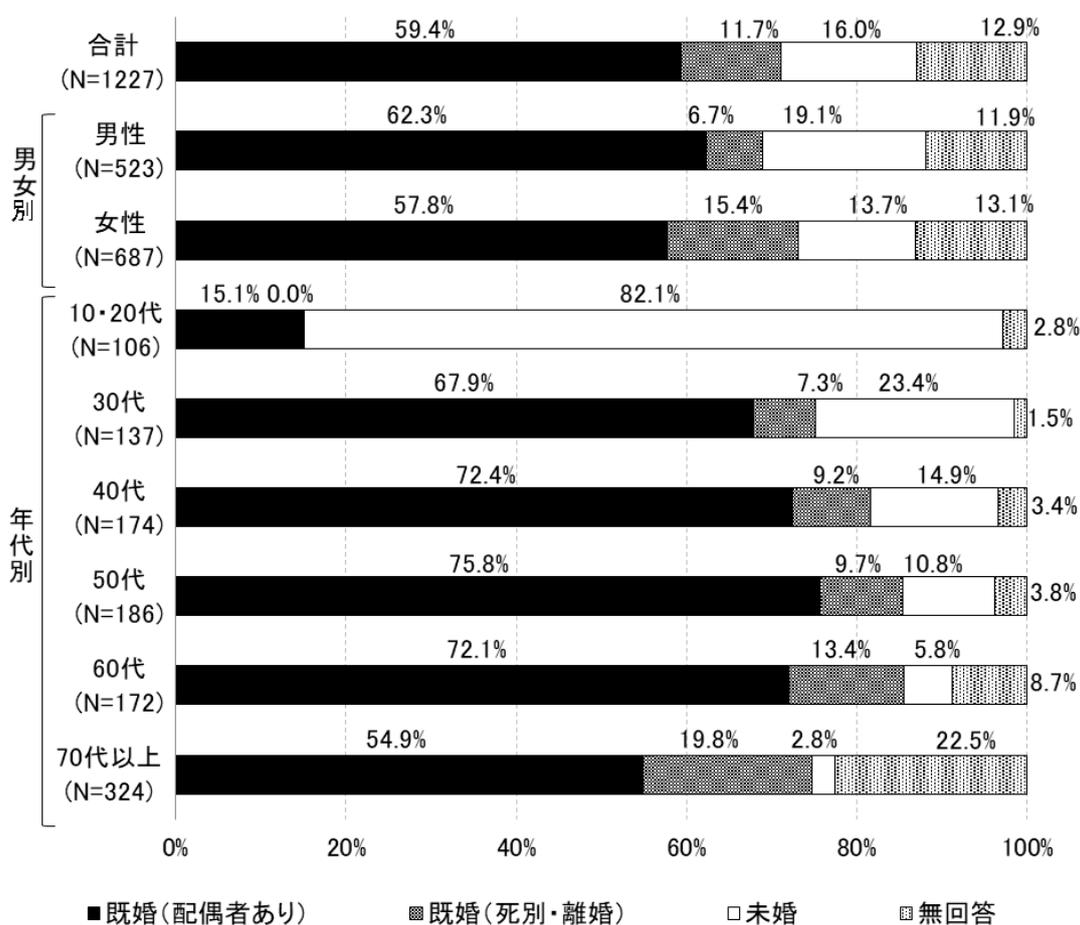


図8 Q49 婚姻状況

子どもの有無に関して、男女別の各層・年代別の30代以上の層で、同居の有無にかかわらず「いる」と回答した人の割合が「いない」と回答した人の割合より高い。10・20代は「いる」と「いない」の割合が同じ5割である（図9）。

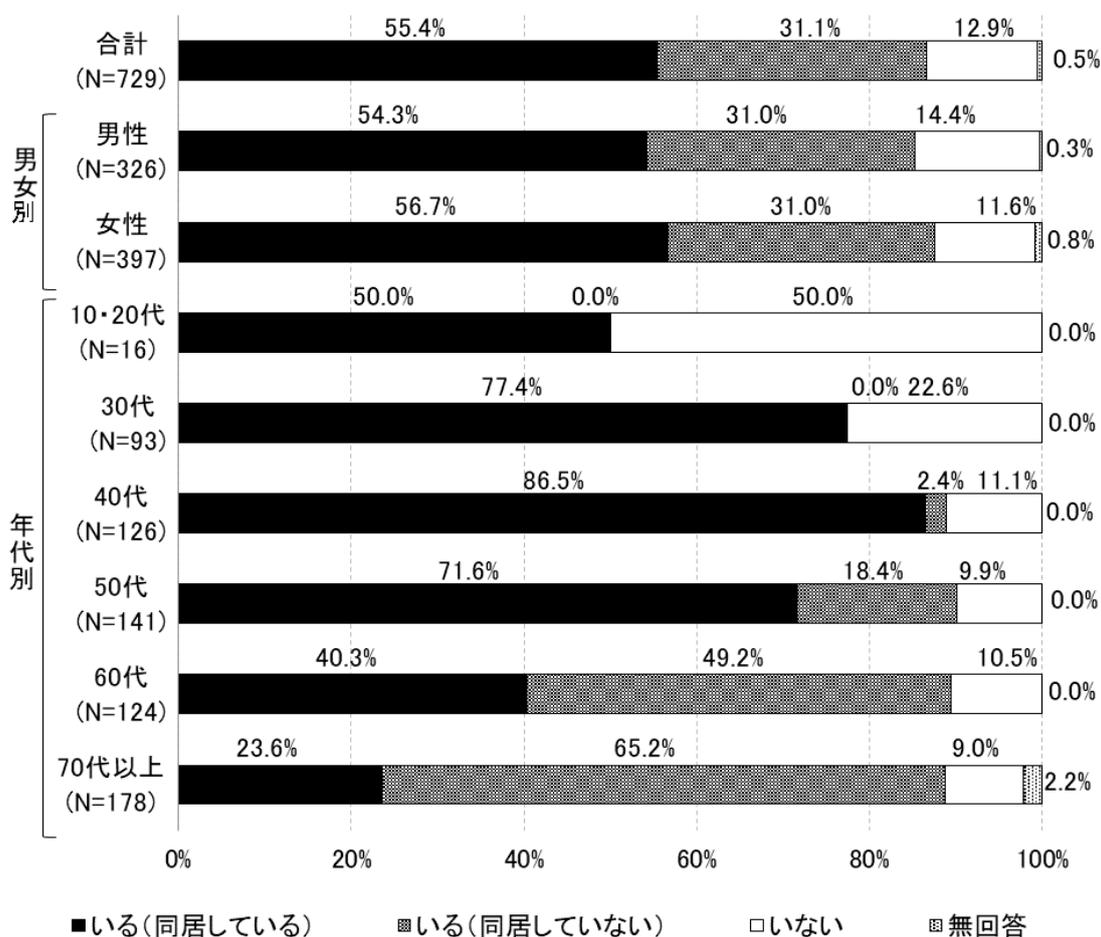


図9 Q53 子どもの有無

世帯人数に関して、その多くは2～4人世帯である。年代別で見ると、10・20代と40代は4人世帯が最も多い。一方で30代と50代は3人世帯が最も多い。また、60代以上は2人世帯が4割以上を占めている（表3）。

表3 Q61 世帯人数

		(%)											
		1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人	無回答
男女別	合計 (N=1227)	10.8	35.2	23.4	17.8	6.8	1.3	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	4.4
	男性 (N=523)	9.0	37.3	25.2	17.0	6.1	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
	女性 (N=687)	12.5	33.8	22.1	18.6	7.3	1.3	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0	3.8
年代別	10・20代 (N=106)	7.5	14.2	26.4	34.9	12.3	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8
	30代 (N=137)	7.3	21.9	29.9	25.5	10.9	1.5	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	2.2
	40代 (N=174)	5.7	15.5	23.0	37.4	11.5	1.1	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.2
	50代 (N=186)	7.5	24.7	31.7	25.3	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	1.1
	60代 (N=172)	13.4	47.7	22.7	7.0	2.3	1.2	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7
	70代以上 (N=324)	15.1	56.8	16.4	1.9	1.9	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.8

世帯年収に関して、合計および男性・女性では、(無回答を除けば)「200～400万円未満」が最も多い。年代別で見ると、「わからない」を除いて割合が最も高いのは、10・20代で「200万円～400万円未満」、30代と40代で「400万円～600万円未満」と、年代が上がるごとに年収が高額になっている。ただし50代では「400万円～600万円未満」の割合が最も高く、60代と70代以上では「200万円～400万円未満」の割合が最も高い（表4）。

表4 Q63 世帯年収

		(%)									
		100万円未満	100万円～200万円未満	200万円～400万円未満	400万円～600万円未満	600万円～800万円未満	800万円～1000万円未満	1000万円～1500万円未満	1500万円以上	わからない	無回答
男女別	合計 (N=1227)	4.2	8.2	19.4	14.9	8.2	7.4	7.3	1.5	7.2	21.7
	男性 (N=523)	3.1	6.9	21.4	17.8	8.8	9.0	7.8	1.3	5.2	18.7
	女性 (N=687)	5.1	9.5	17.9	13.0	7.9	6.3	7.1	1.6	8.7	23.0
年代別	10・20代 (N=106)	7.5	3.8	17.9	8.5	7.5	5.7	11.3	2.8	20.8	14.2
	30代 (N=137)	4.4	2.2	10.9	27.0	9.5	10.9	11.7	1.5	9.5	12.4
	40代 (N=174)	1.1	6.3	14.9	16.7	13.2	14.9	10.9	1.7	5.2	14.9
	50代 (N=186)	2.7	1.6	11.3	15.6	14.0	12.9	14.0	1.1	7.5	19.4
	60代 (N=172)	4.1	9.3	22.1	14.5	6.4	4.7	5.2	1.7	5.2	26.7
	70代以上 (N=324)	4.6	15.7	29.0	13.0	2.8	1.2	0.3	0.3	4.9	28.1

## 2. 各質問項目の結果

ここからは回答者個人の属性だけでなく、意識や行動などの項目についての結果の概要を示す。ここでも基本的には性別・年齢によるクロス集計を提示する。なお、一部の回答者のみに回答が求められている質問項目に関して、その項目に該当しない者を非該当者として分析から除外している。回答者の性別と年齢の分布については、図1と図2を参照のこと。

なお、グラフや表、本文中における百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。よって合計%は100.0%になるとは限らない。

Q1の生活満足度に関して、男女別・年代別のすべての層で5割以上が「満足」もしくは「やや満足」と回答している。年代別で見ると、「満足」もしくは「やや満足」と回答した人の割合は10・20代が72.7%と最も高く、反対に50代が57.5%と最も低い(図10)。

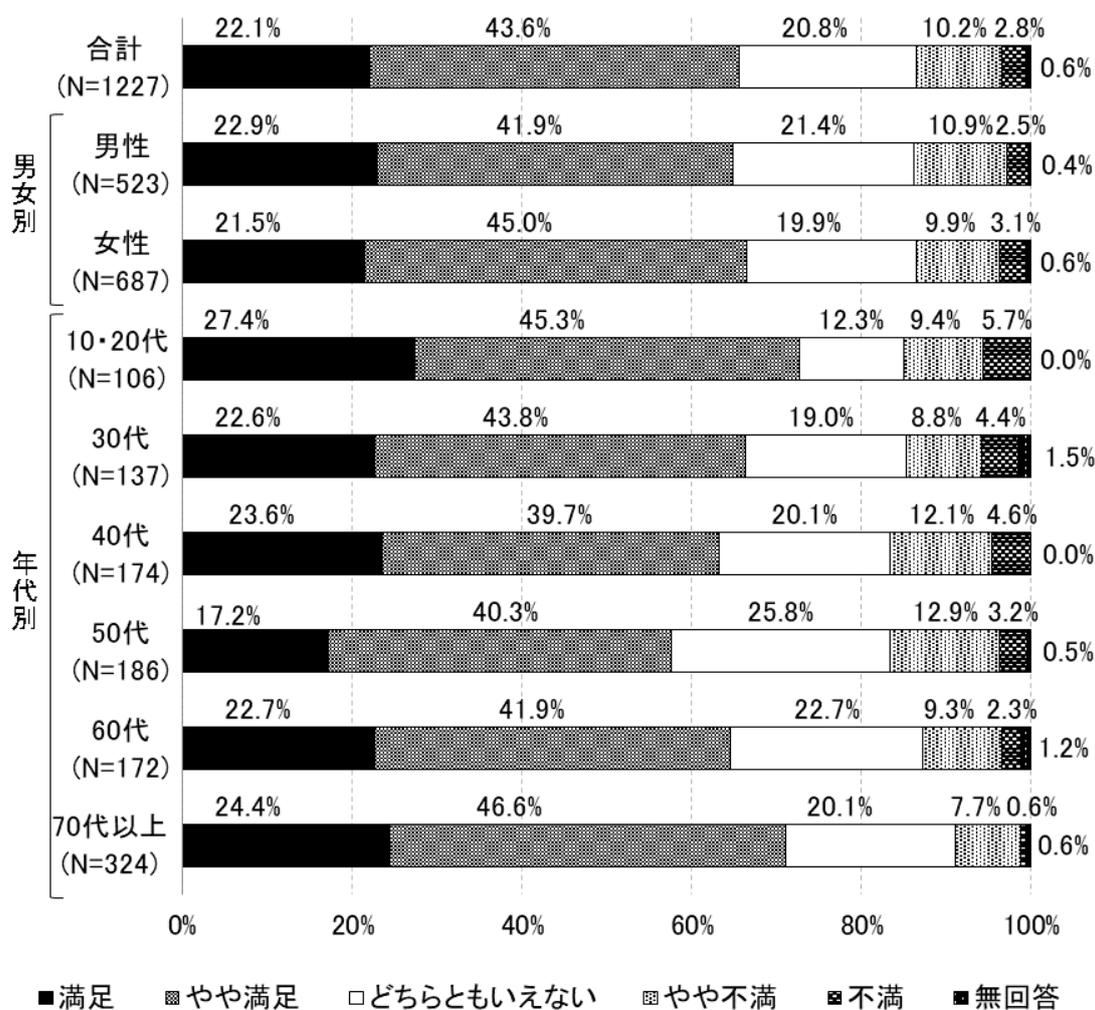


図10 Q1 生活満足度

Q2の幸福度に関して、男女別で見ると、男女ともに「幸せ」または「やや幸せ」と回答した人の割合は7割程度である。年代別で見ると、「幸せ」または「やや幸せ」と回答した人の割合は30代が78.9%と最も高く、反対に60代が70.9%と最も低い（図11）。

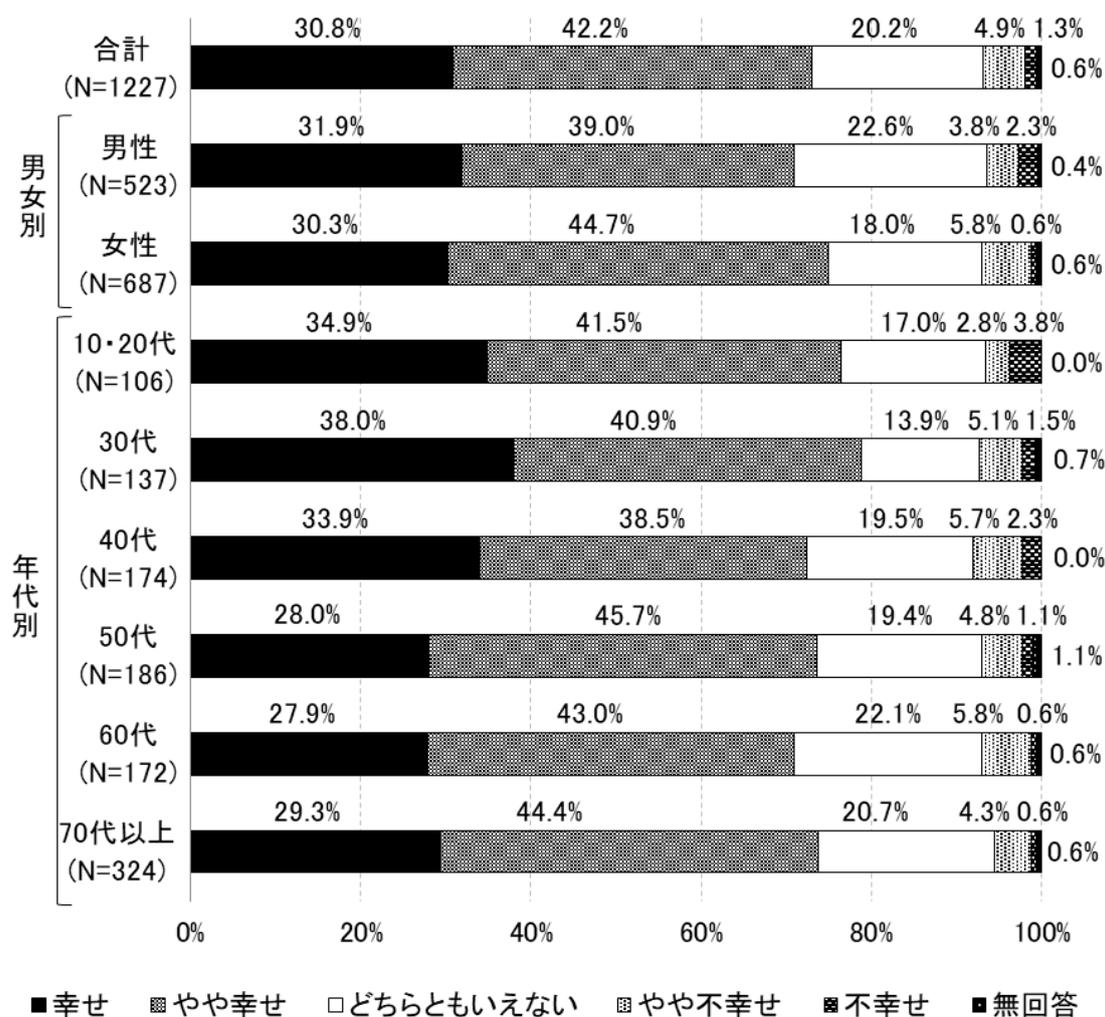


図 11 Q2 幸福度

Q3 の居住地域は暮らしやすいかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が7割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は10・20代が84.0%と最も高い。反対に、30代は77.4%と最も低い（図12）。

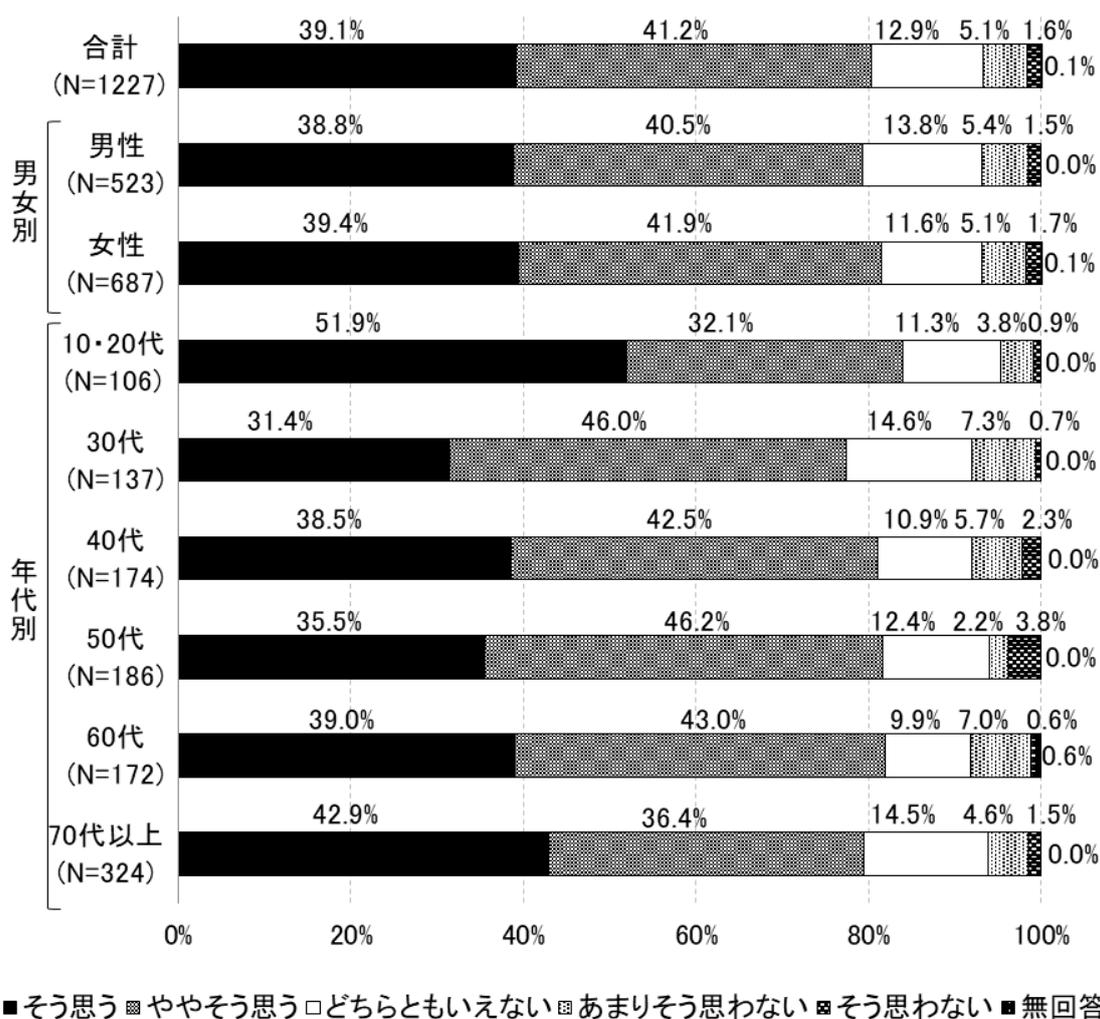


図12 Q3 居住地域は暮らしやすいか

Q4 の地域に住み続けたいかに関して、30代を除く男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合が5割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は70代以上が69.8%と最も高い。反対に、30代は49.6%と最も低い(図13)。

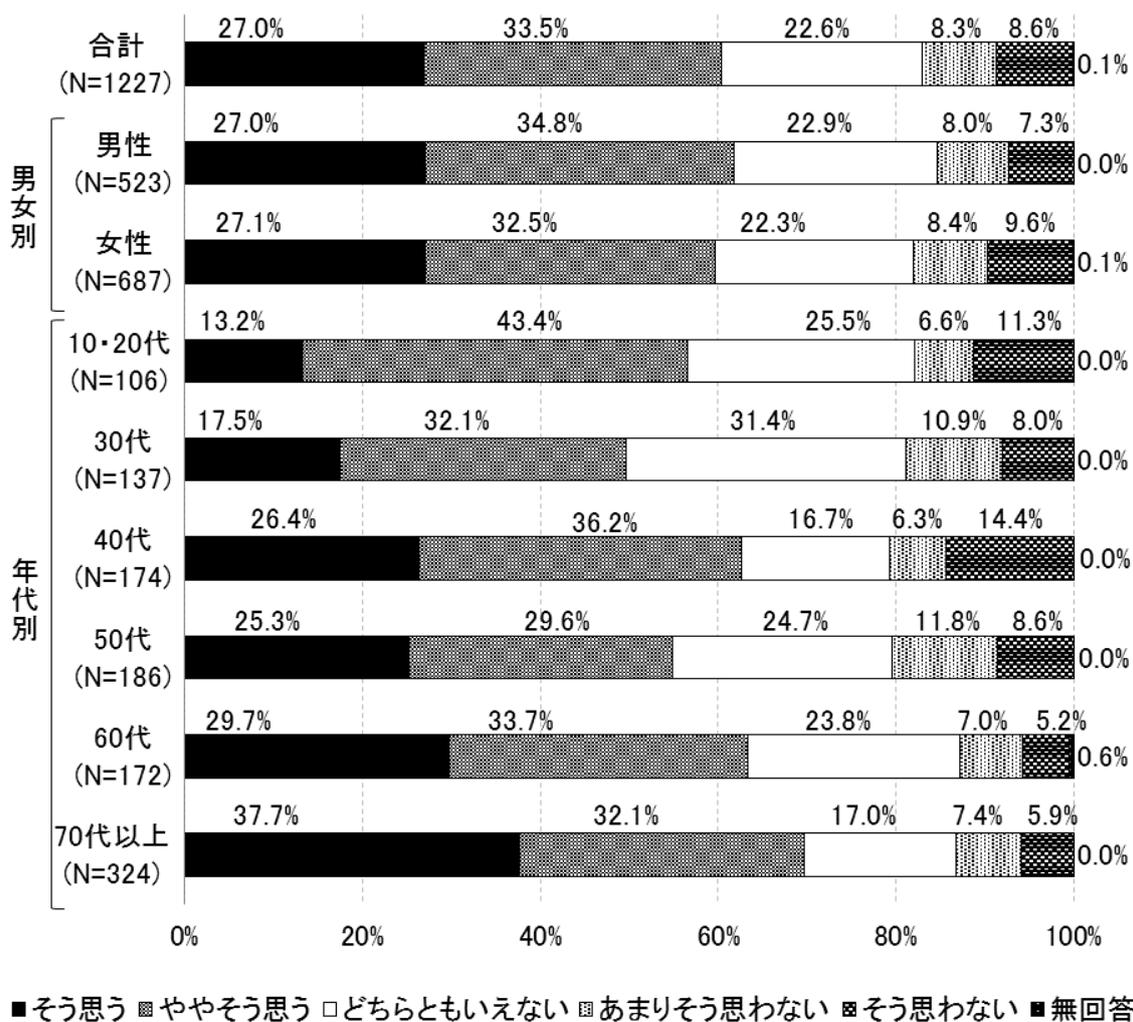
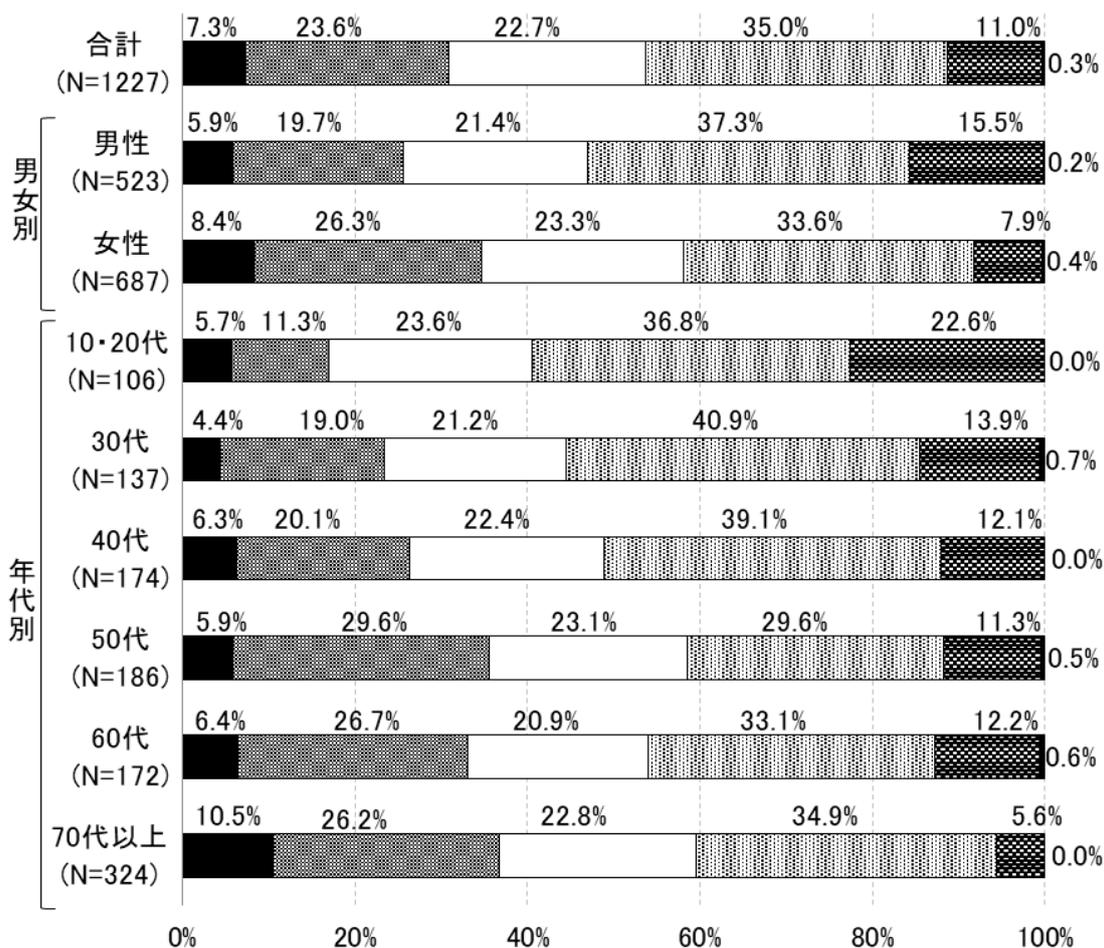


図13 Q4 居住地に住み続けたいか

Q5の高槻市に地域ブランドがあると思うかに関して、男女別で見ると、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人の割合が男性で52.8%、女性が41.5%であり、男性の方が10ポイントほど高い。年代別で見ると、すべての年代で、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人の割合の方が「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合よりも高い（図14）。



■そう思う ■ややそう思う □どちらともいえない ■あまりそう思わない ■そう思わない ■無回答

図14 Q5 高槻市に地域ブランドがあると思うか

Q6 の中心市街地に行く頻度が 3 年前と比べて増加したかに関して、年代別で見ると、10・20 代を除くすべての年代で、「減少した」または「少し減少した」と回答した人の割合の方が「増加した」または「少し増加した」と回答した人の割合よりも高い。10・20 代は「増加した」「少し増加した」と回答した人の割合が 29.2%と最も高い。反対に、60 代が 12.2%と最も低い（図 15）。

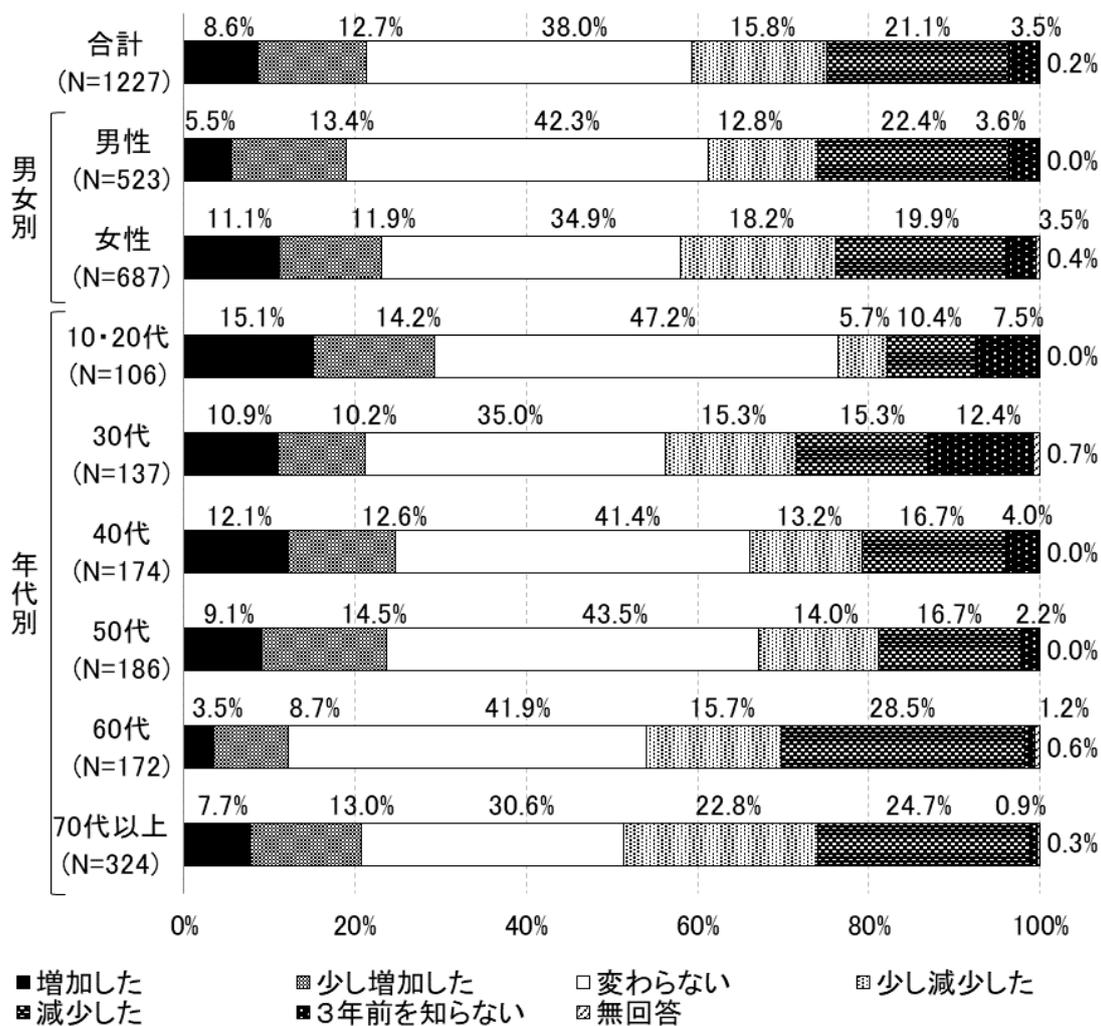


図 15 Q6 中心市街地に行く頻度が 3 年前と比べて増加したか

Q7A～Q7F が、中心市街地において、それぞれが 3 年前と比べて向上したか、低下したかを質問している。

Q7A の 3 年前と比べた場合の中心市街地の防災面での安全性や快適性に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また男女別・年代別のすべての層で「低下した」の割合が 1 割以下である。さらに「向上した」の割合を年代別で見ると、10・20 代と 30 代が 2 割未満であるが、それ以外の年代が 2 割以上である（図 16）。

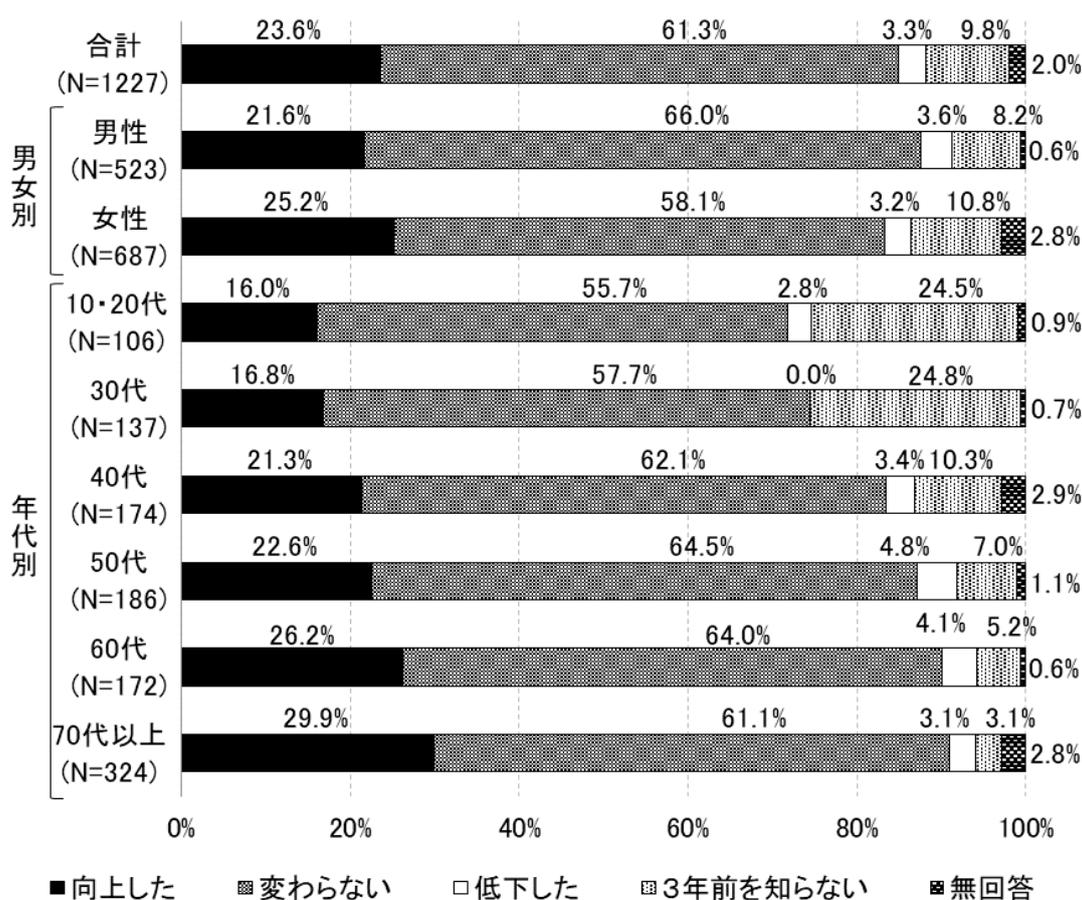


図 16 Q7A 中心市街地で 3 年前と比べて向上したか 防災面での安全性や快適性

Q7B の 3 年前と比べた場合の中心市街地の防犯面での安全性や快適性に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また「向上した」の割合を年代別で見ると、50代と70代以上が19.4%と最も高く、10・20代が13.2%と最も低い（図17）。

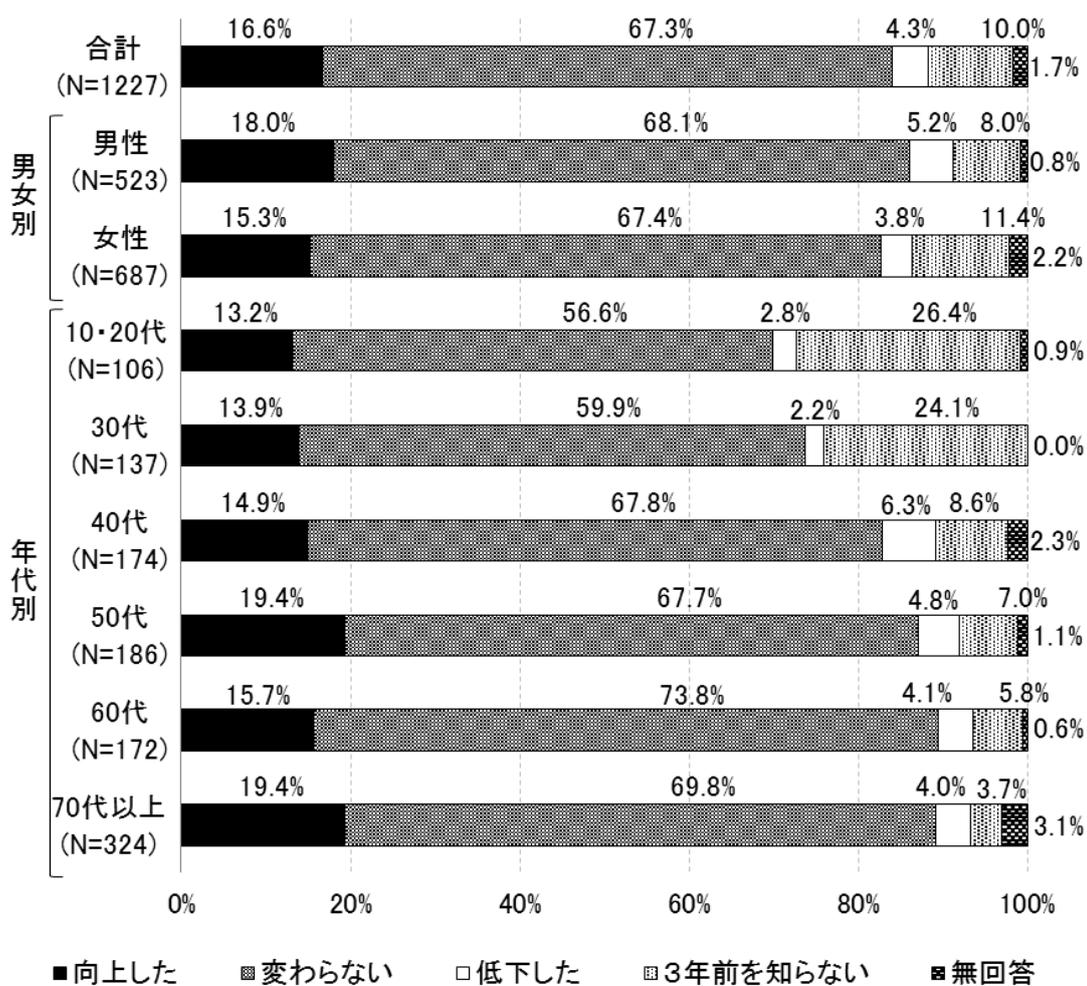


図 17 Q7B 中心市街地で 3 年前と比べて向上したか 防犯面での安全性や快適性

Q7C の 3 年前と比べた場合の中心市街地の居住環境に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また男女別・年代別のすべての層で「低下した」の割合が 1 割以下である。「向上した」の割合を年代別で見ると 10・20 代を除くすべての層で約 2 割である。10・20 代は 27.4%である (図 18)。

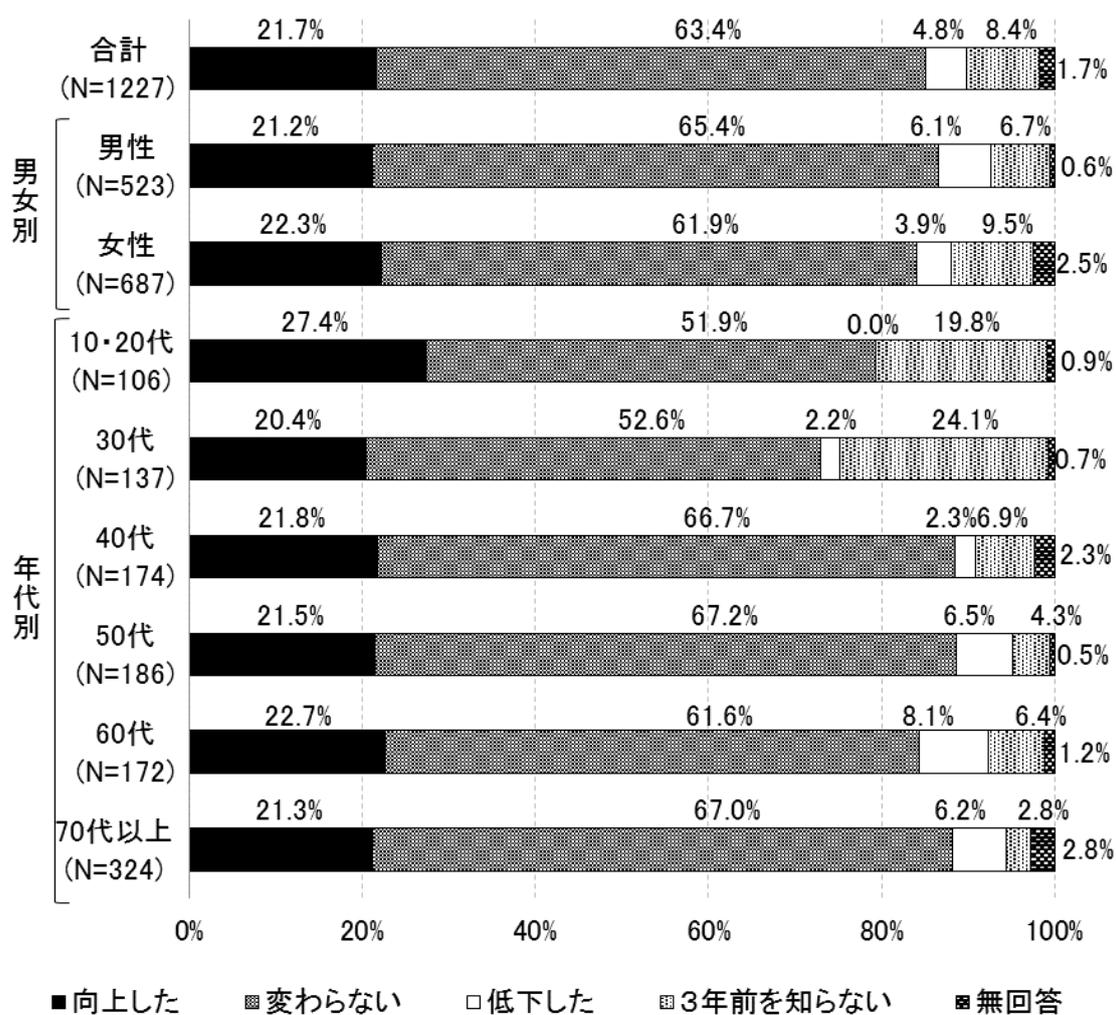


図 18 Q7C 中心市街地で 3 年前と比べて向上したか 居住環境

Q7D の 3 年前と比べた場合の中心市街地の公共交通機関の利便性に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また「向上した」の割合は、男女ともに 2 割以上である。年代別で見ると、「向上した」の割合は、30 代と 40 代を除くすべての年代が 2 割以上であり、70 代以上が 29.9%と最も高く、反対に 30 代が 16.1%と最も低い（図 19）。

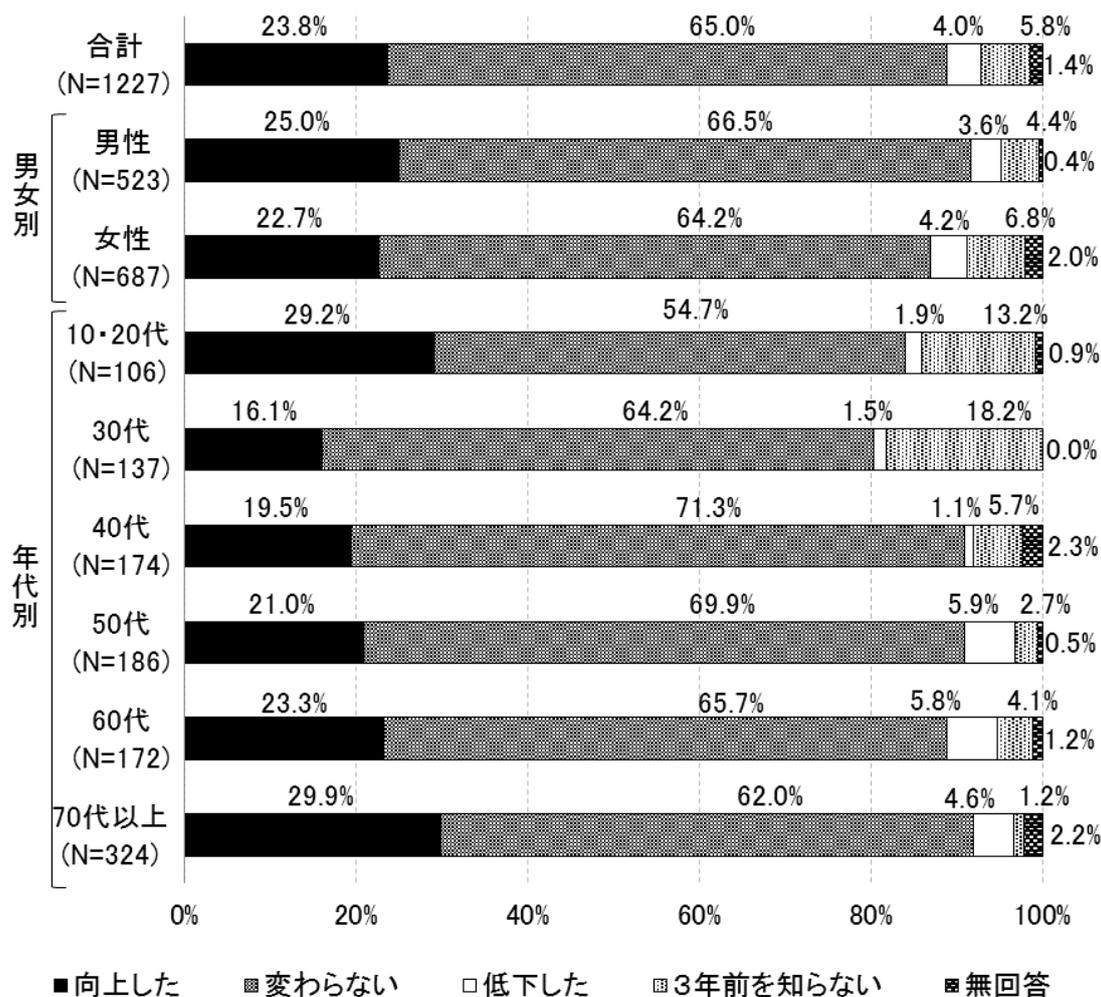


図 19 Q7D 中心市街地で 3 年前と比べて向上したか 公共交通機関の利便性

Q7E の 3 年前と比べた場合の中心市街地の歩行者にとっての歩きやすさに関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また「向上した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で 1 割以上である。年代別で見ると、「向上した」の割合は、40 代が 23.6%と最も高い。反対に 60 代が、17.4%と最も低い（図 20）。

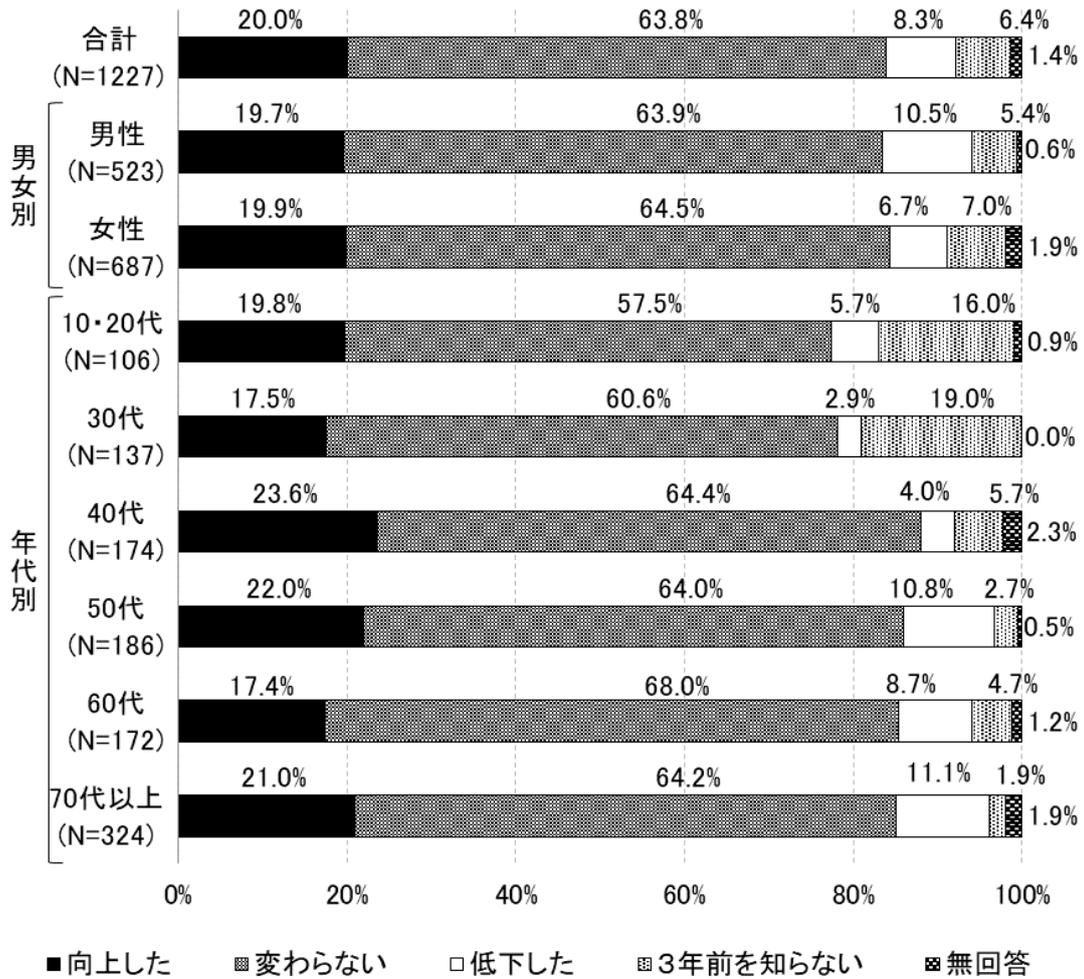


図 20 Q7E 中心市街地で 3 年前と比べて向上したか 歩行者にとっての歩きやすさ

Q7F の 3 年前と比べた場合の中心市街地の風紀や治安に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また年代別で見ると、「向上した」の割合は、70 代以上を除くすべての層で 1 割未満となっている。「向上した」の割合は、70 代以上が 12.7%と最も高く、40 代が 6.3%と最も低い。(図 21)。

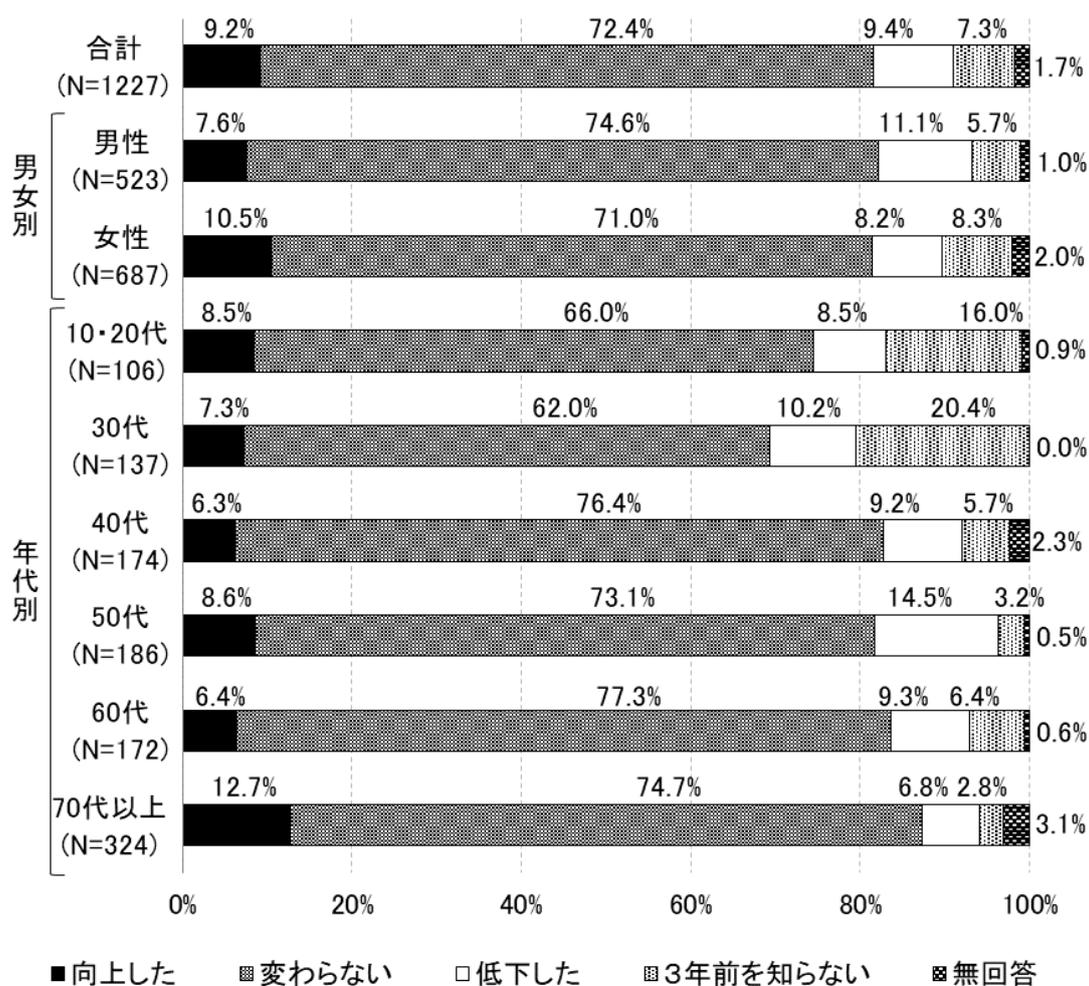


図 21 Q7F 中心市街地で 3 年前と比べて向上したか 風紀や治安

Q8A～Q8Kが、中心市街地において、それぞれが3年前と比べて増加したか減少したかを質問している。なお、Q8A～Q8Kのいずれにおいても、10・20代と30代で「3年前を知らない」の割合が高くなっていることに注意が必要である。

Q8Aの文化活動に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また、「増加した」の割合は、70代以上を除くすべての年代が2割未満である。「減少した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で1割に満たない(図22)。

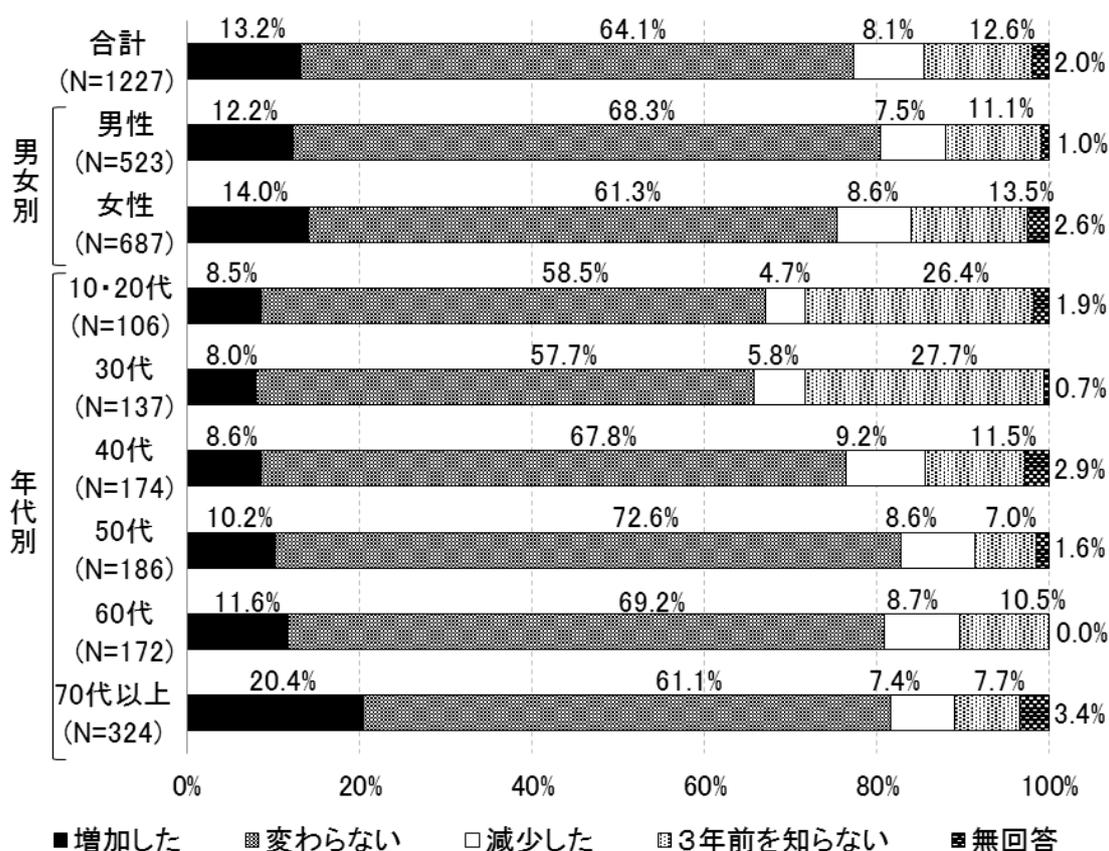


図 22 Q8A 中心市街地で3年前と比べて増加したか 文化活動

Q8B のコミュニティ活動に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また、「増加した」の割合は、70代以上を除くすべての年代で1割未満である。「減少した」の割合は、60代を除くすべての層で1割未満である（図 23）。

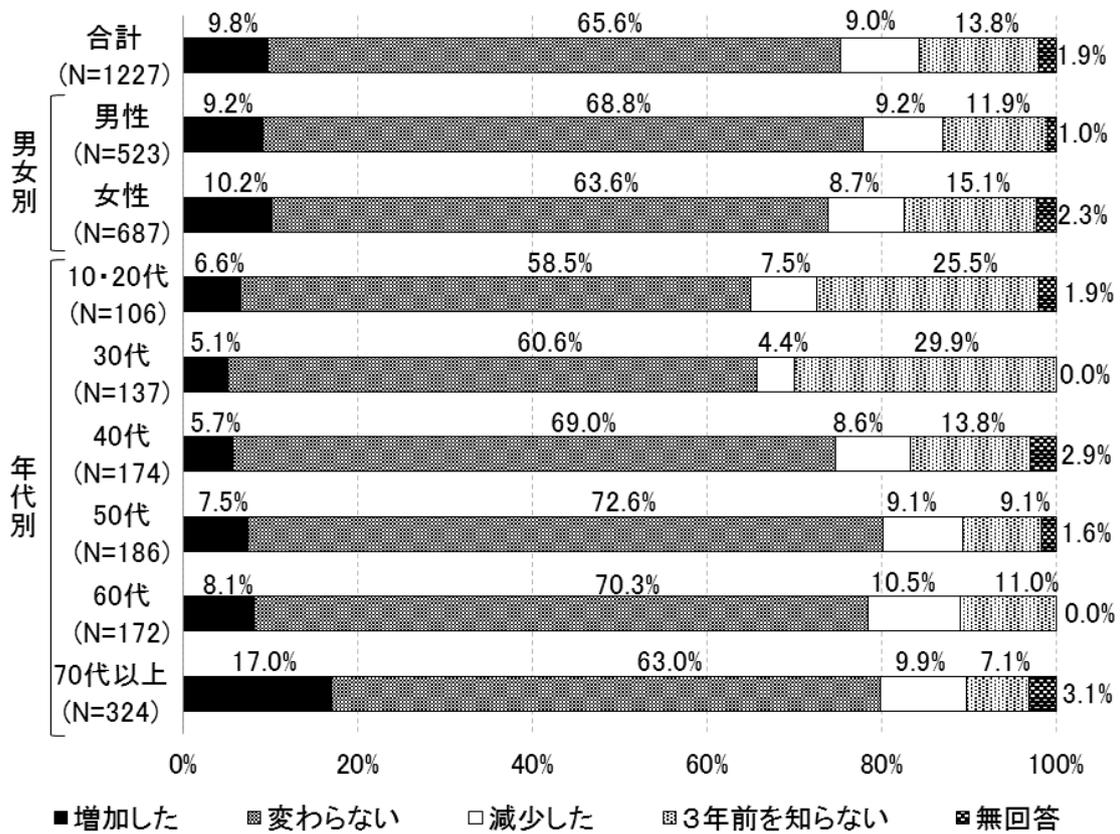


図 23 Q8B 中心市街地で3年前と比べて増加したか コミュニティ活動

Q8C の商店街の魅力に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また、「増加した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で2割未満である。「減少した」の割合は、10・20代を除くすべての年代で2割程度である（図 24）。

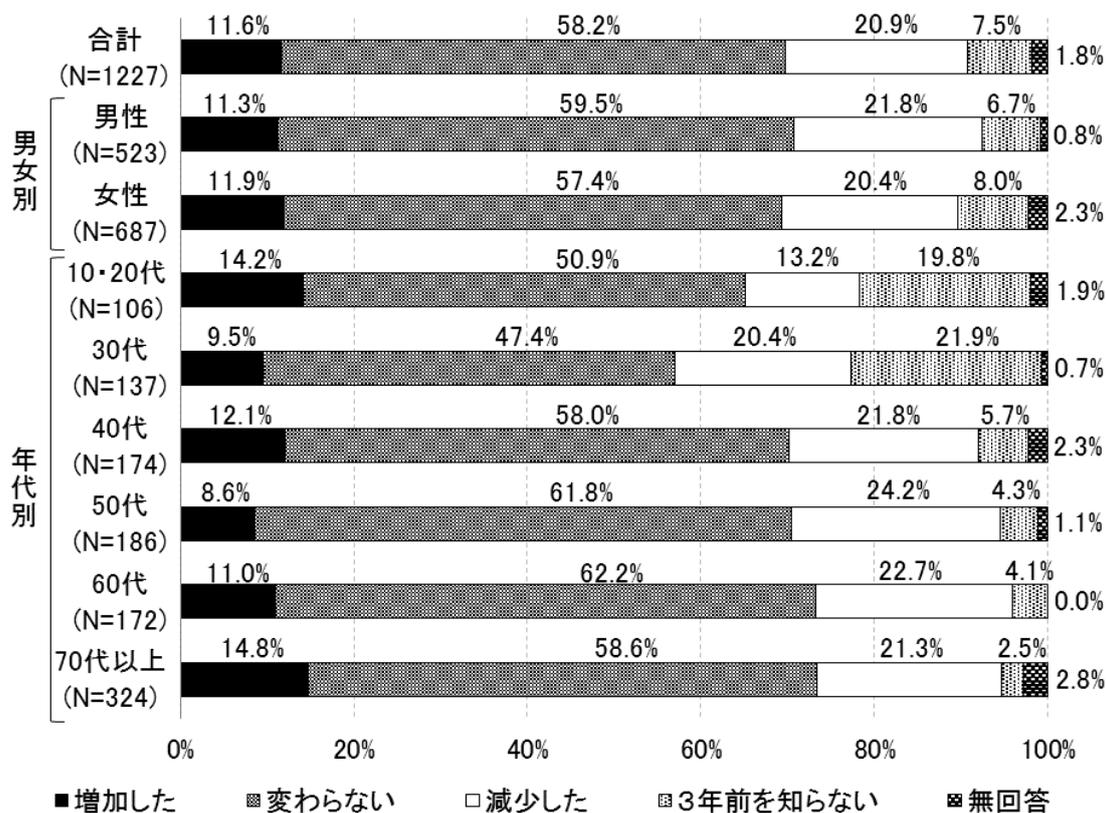


図 24 Q8C 中心市街地で3年前と比べて増加したか 商店街の魅力

Q8D の百貨店などの大型店の魅力に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また、「増加した」の割合は、すべての年代で2割以上であり、10・20代が34.9%と最も高い。「減少した」の割合は、10・20代と30代を除くすべての年代が2割以上であり、50代が24.2%と最も高く、反対に10・20代が7.5%と最も低い（図25）。

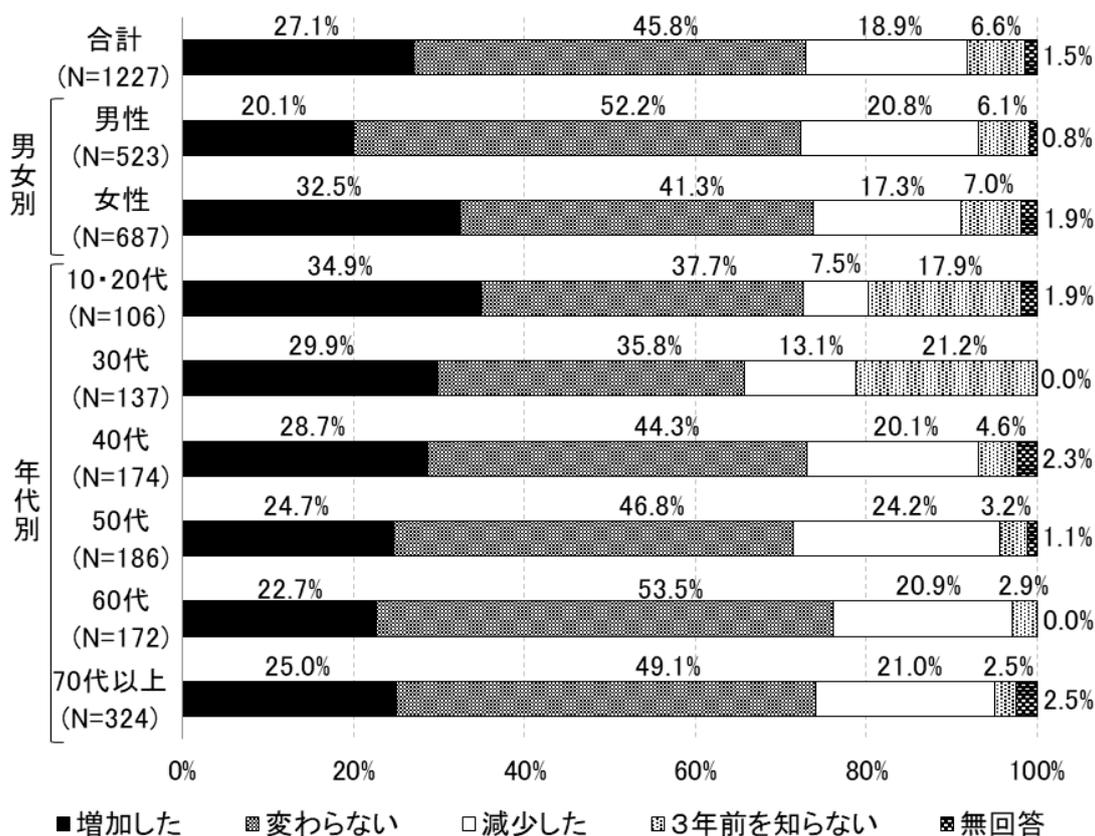


図 25 Q8D 中心市街地で3年前と比べて増加したか 百貨店などの大型店の魅力

Q8E の買い物やイベントでのにぎわいに関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また、「増加した」の割合は、10・20代を除くすべての年代で2割未満である。「減少した」の割合は、30代以下は1割程度であり、40代以上は2割程度である（図 26）。

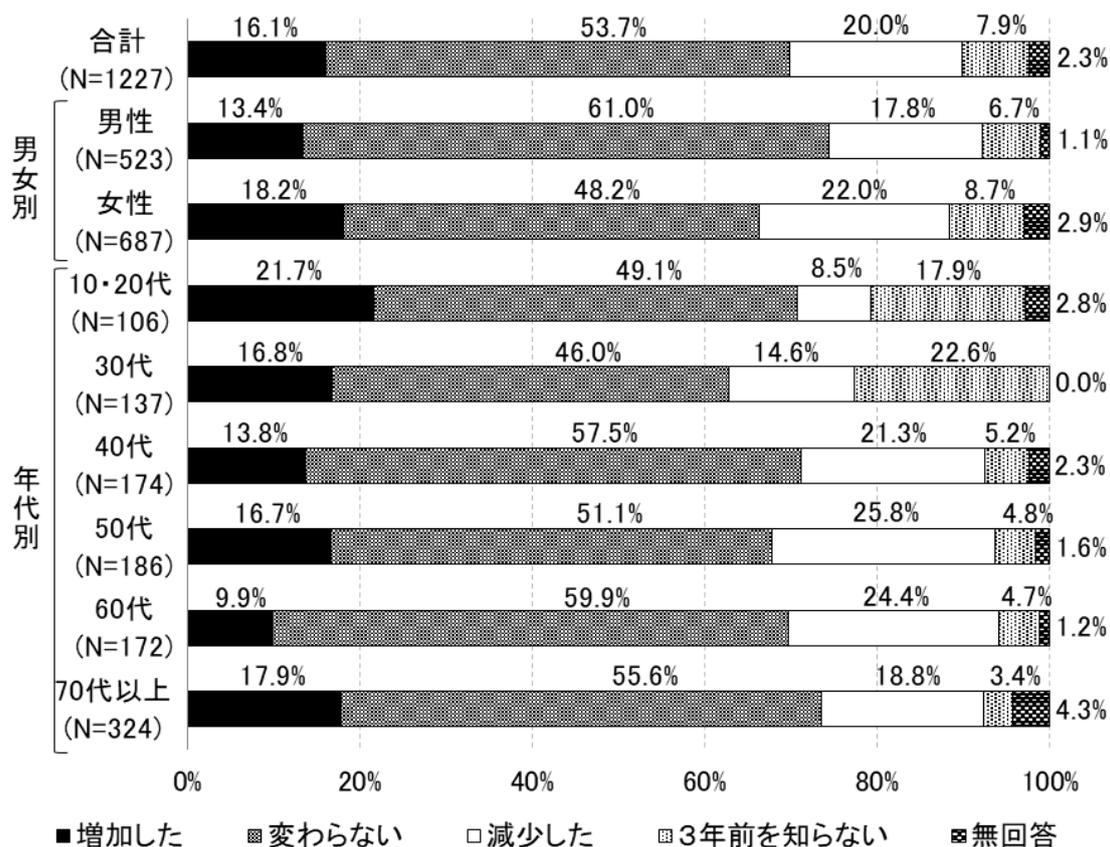


図 26 Q8E 中心市街地で3年前と比べて増加したか 買い物やイベントでのにぎわい

Q8F の魅力的な飲食店に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。年代別で見ると、「増加した」の割合は、10・20代が35.8%と最も高く、反対に70代以上で17.3%と最も低い（図 27）。

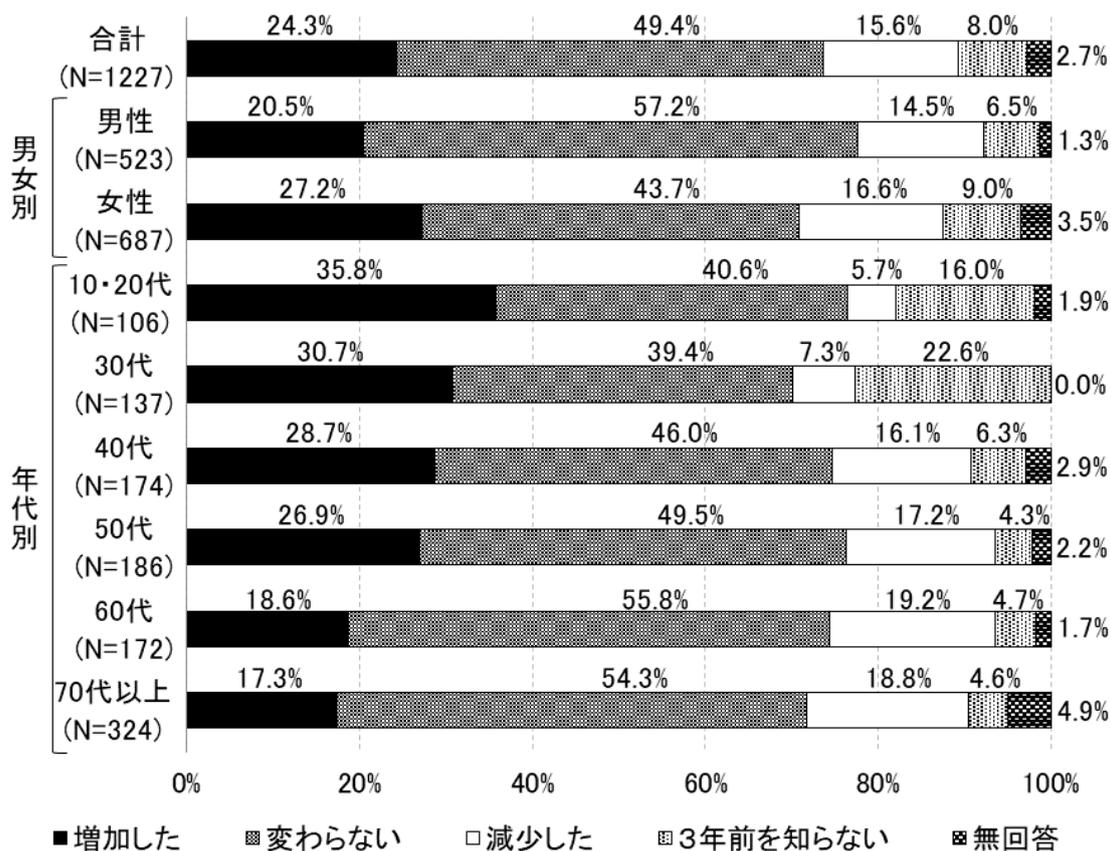


図 27 Q8F 中心市街地で3年前と比べて増加したか 魅力的な飲食店

Q8G のオフィスなどの業務施設に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また、「増加した」の割合は、男女別・年代別のすべての層でいずれも 1 割未満である（図 28）。

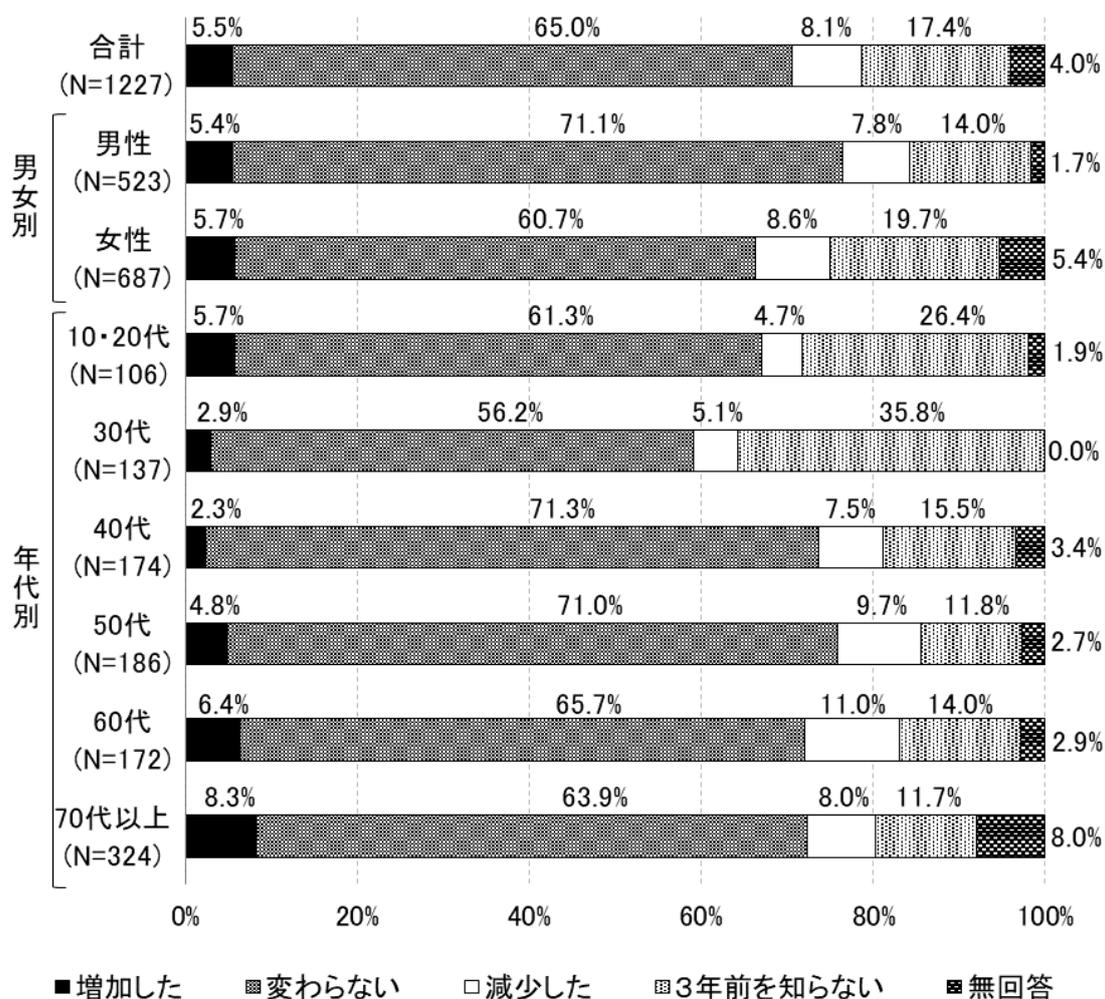


図 28 Q8G 中心市街地で 3 年前と比べて増加したか オフィスなど業務施設

Q8H の病院などの医療機関に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また、年代別で見ると、「増加した」の割合は40代、50代、60代、70代以上は2割を超えているが、30代は17.5%と最も低い。「減少した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で1割未満である（図 29）。

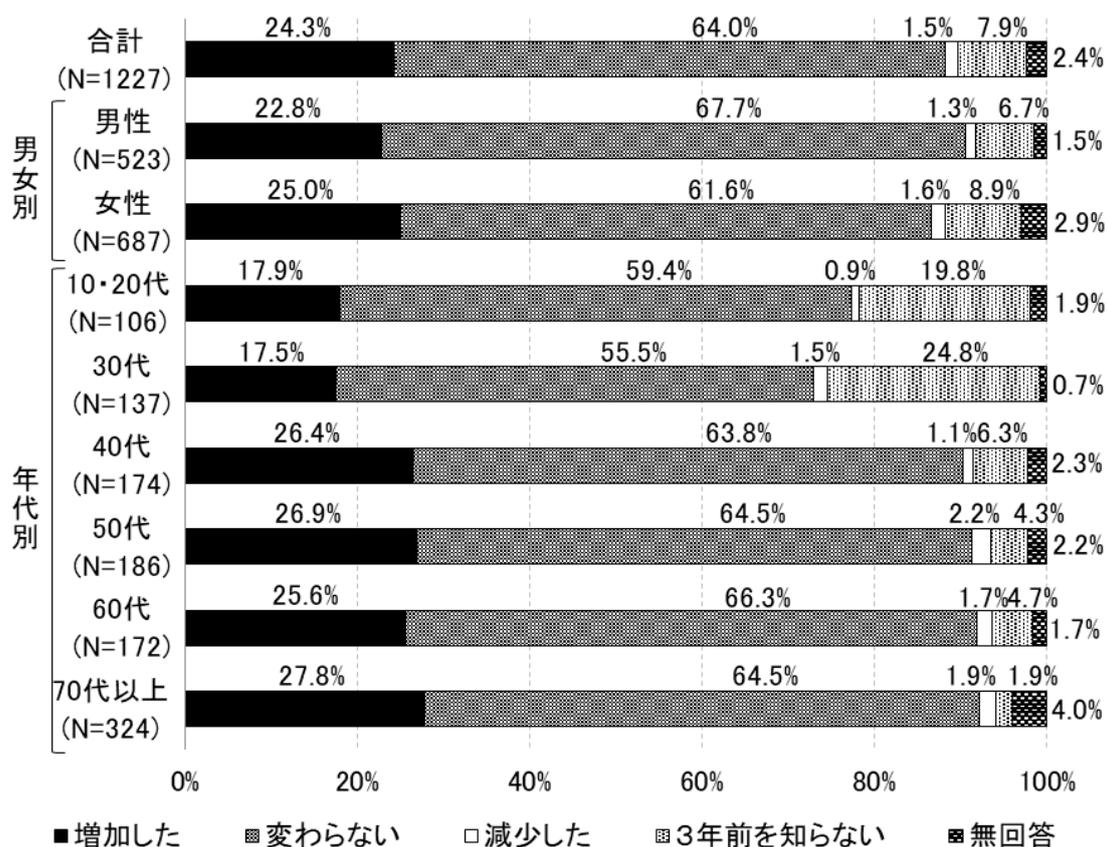


図 29 Q8H 中心市街地で3年前と比べて増加したか 病院などの医療機関

Q8I の道路の渋滞に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。年代別で見ると、「増加した」の割合は、10・20代と30代を除くすべての年代で2割以上である。また、「減少した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で1~2割程度である（図30）。

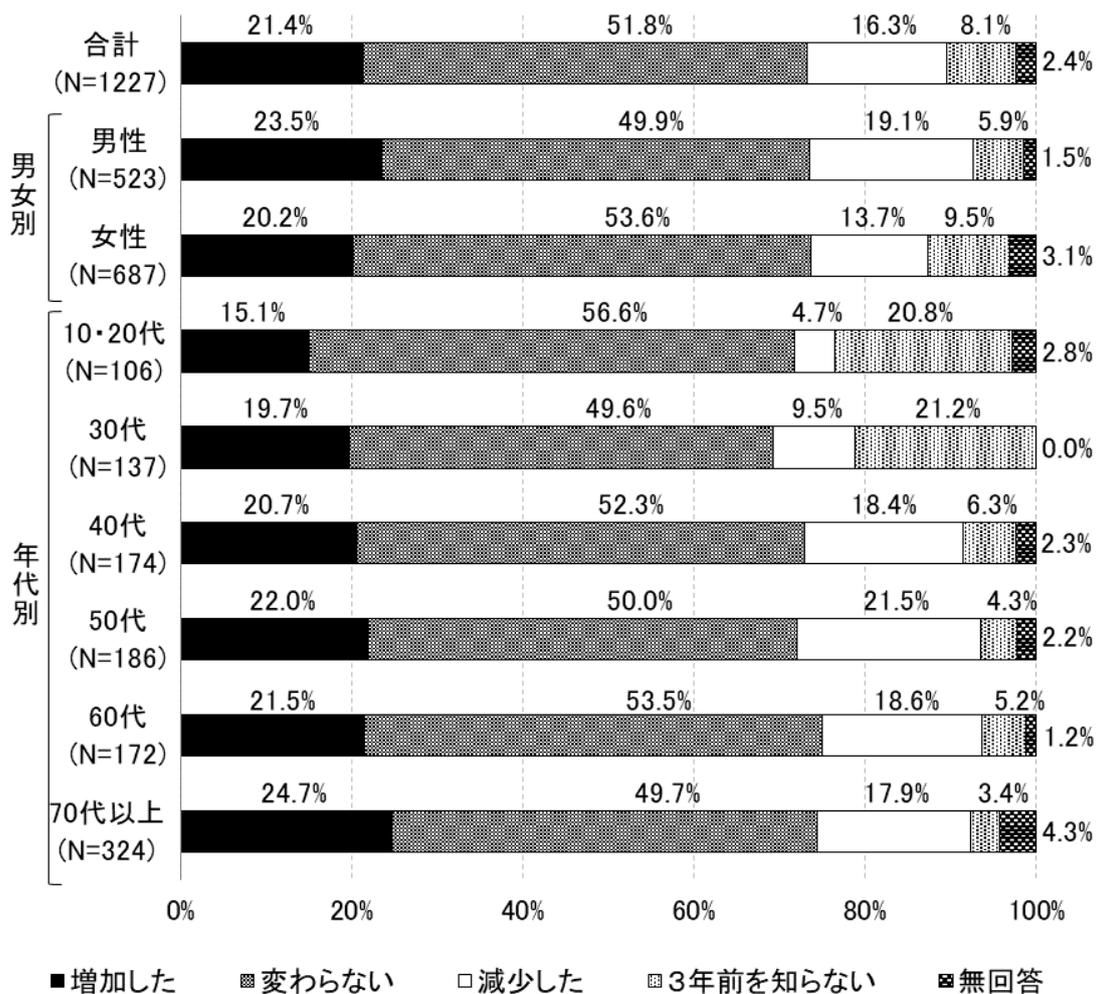


図 30 Q8I 中心市街地で3年前と比べて増加したか 道路の渋滞

Q8J の駐輪場に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。年代別で見ると、「増加した」の割合は、30代が22.6%と最も高く、反対に60代が17.4%と最も低い。また、「減少した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で1割未満である（図31）。

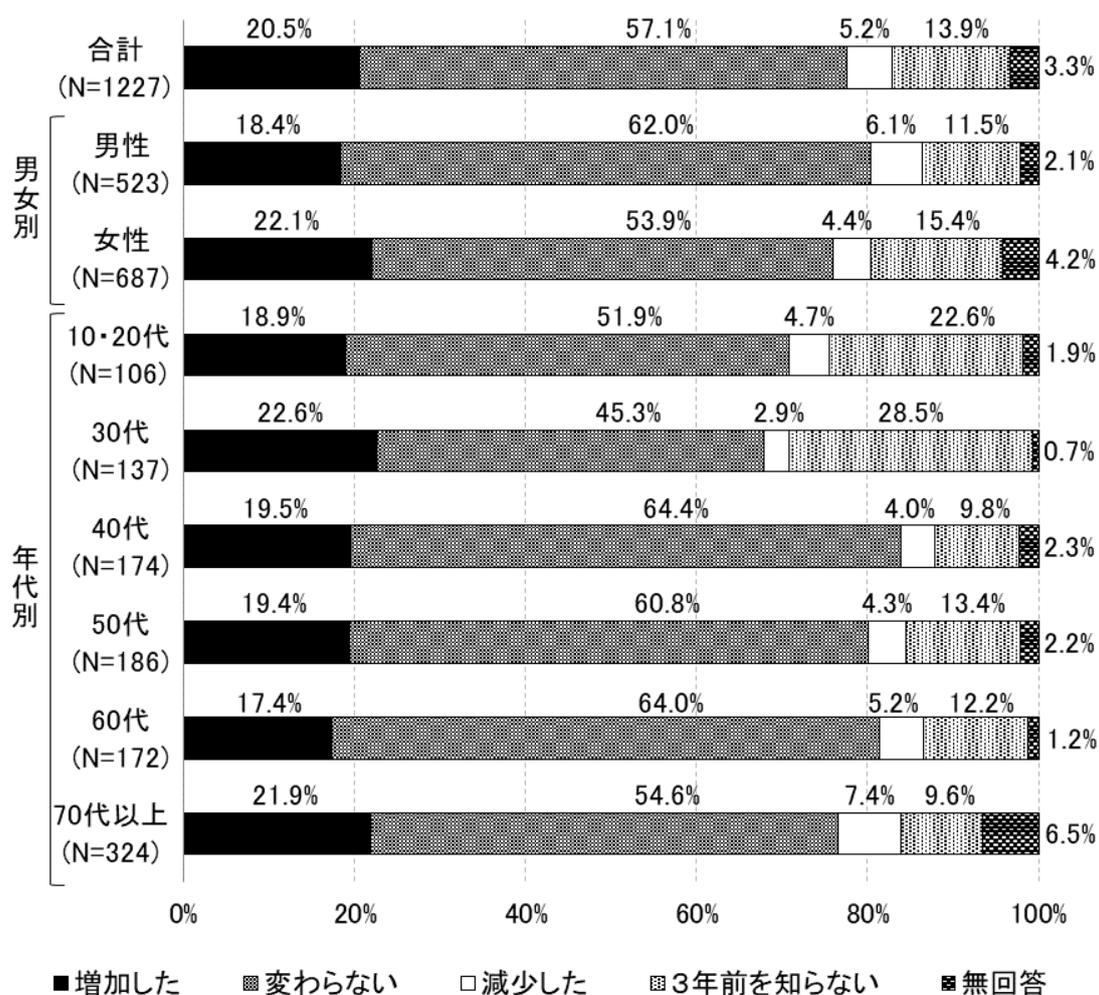


図 31 Q8J 中心市街地で3年前と比べて増加したか 駐輪場

Q8K の街なかの緑や潤いに関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。年代別で見ると、「増加した」の割合は、70代以上が14.2%と最も高く、60代が9.3%と最も低い。「減少した」の割合は、すべての年代が2割未満であり、70代以上が17.3%と最も高く、30代が6.6%と最も低い(図32)。

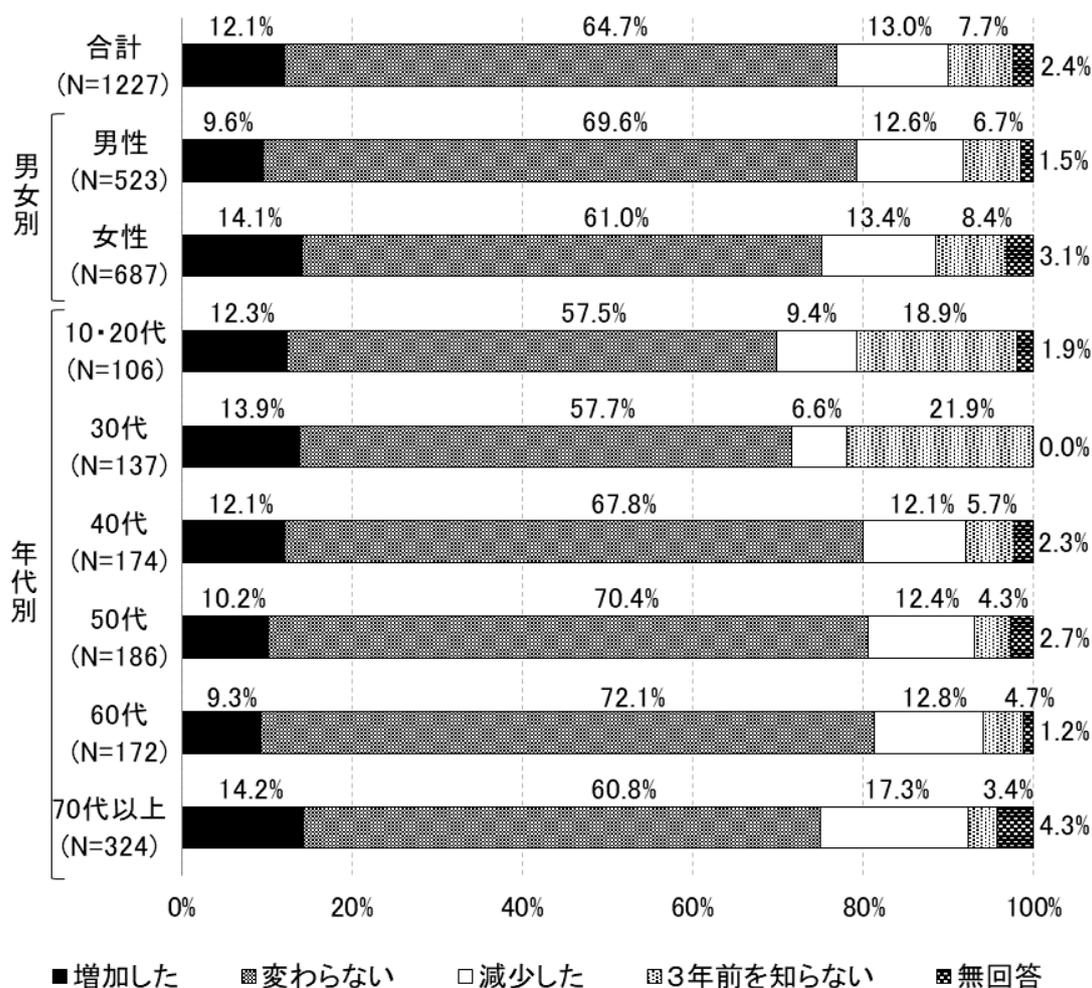


図32 Q8K 中心市街地で3年前と比べて増加したか 街なかの緑や潤い

Q9 の中心市街地を住み良い街にするための必要な取り組みに関して、「治安・防犯の向上」が 51.0%と最も高く、「緑豊かな住居環境の向上」が 45.6%と続く（図 33）。

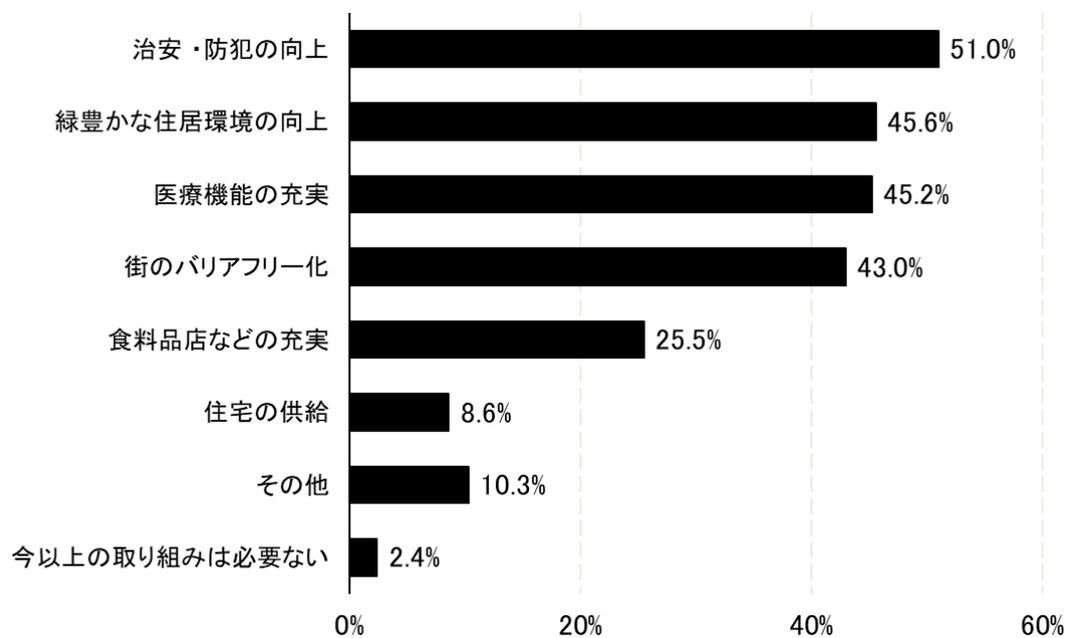


図 33 Q9 中心市街地で必要な取り組み（複数回答・全体 N=1227）

Q9 の中心市街地を住み良い街にするための必要な取り組みに関して、男女別で見ると、「緑豊かな住居環境の向上」は男女で差があり、女性よりも男性の方が 6.5 ポイント高い (図 34)。

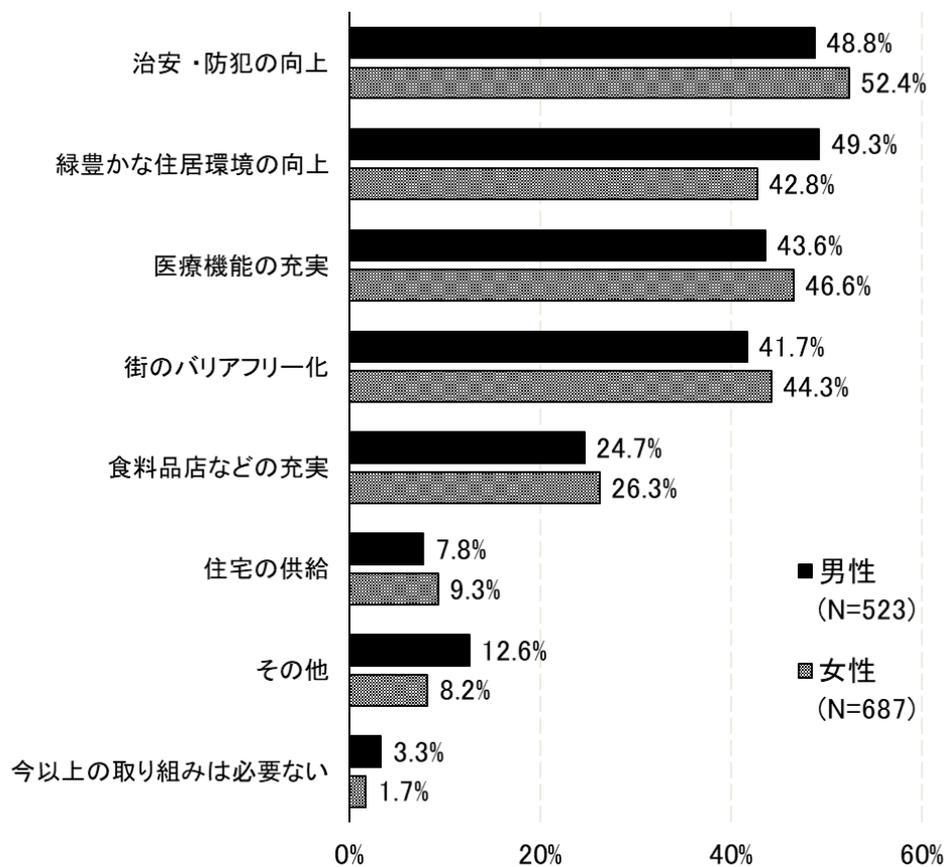


図 34 Q9 中心市街地で必要な取り組み (複数回答・男女別)

Q9 の中心市街地を住み良い街にするための必要な取り組みに関して、年代別で見ると、「街のバリアフリー化」は 40 代以下と 50 代以上で差があり、70 代以上が 56.2%と高く、反対に 30 代は 29.2%と低い（図 35）。

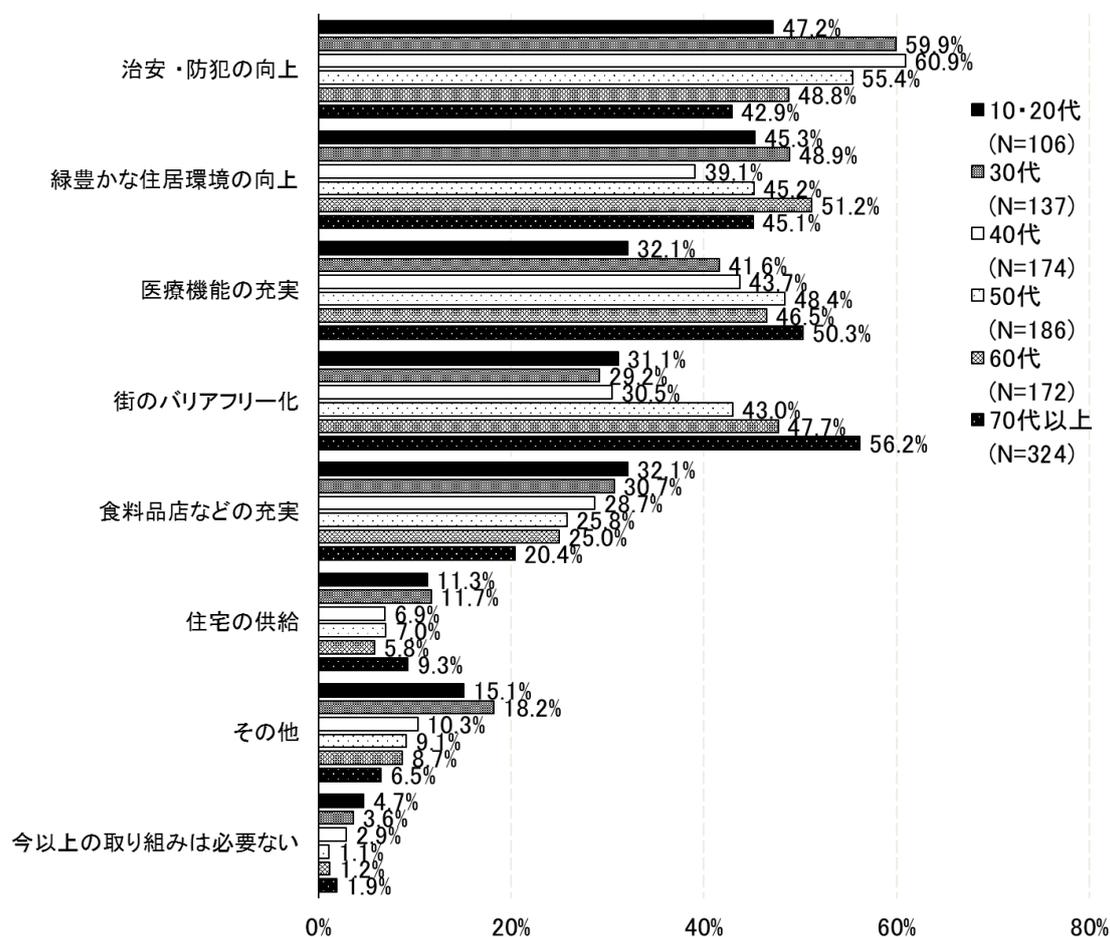


図 35 Q9 中心市街地で必要な取り組み（複数回答・年代別）

Q10 の知っている高槻市の歴史遺産や施設に関して、「高槻城跡（城跡公園）」が 82.1%と最も高く、「野見神社・永井神社」が 68.0%と続く（図 36）。

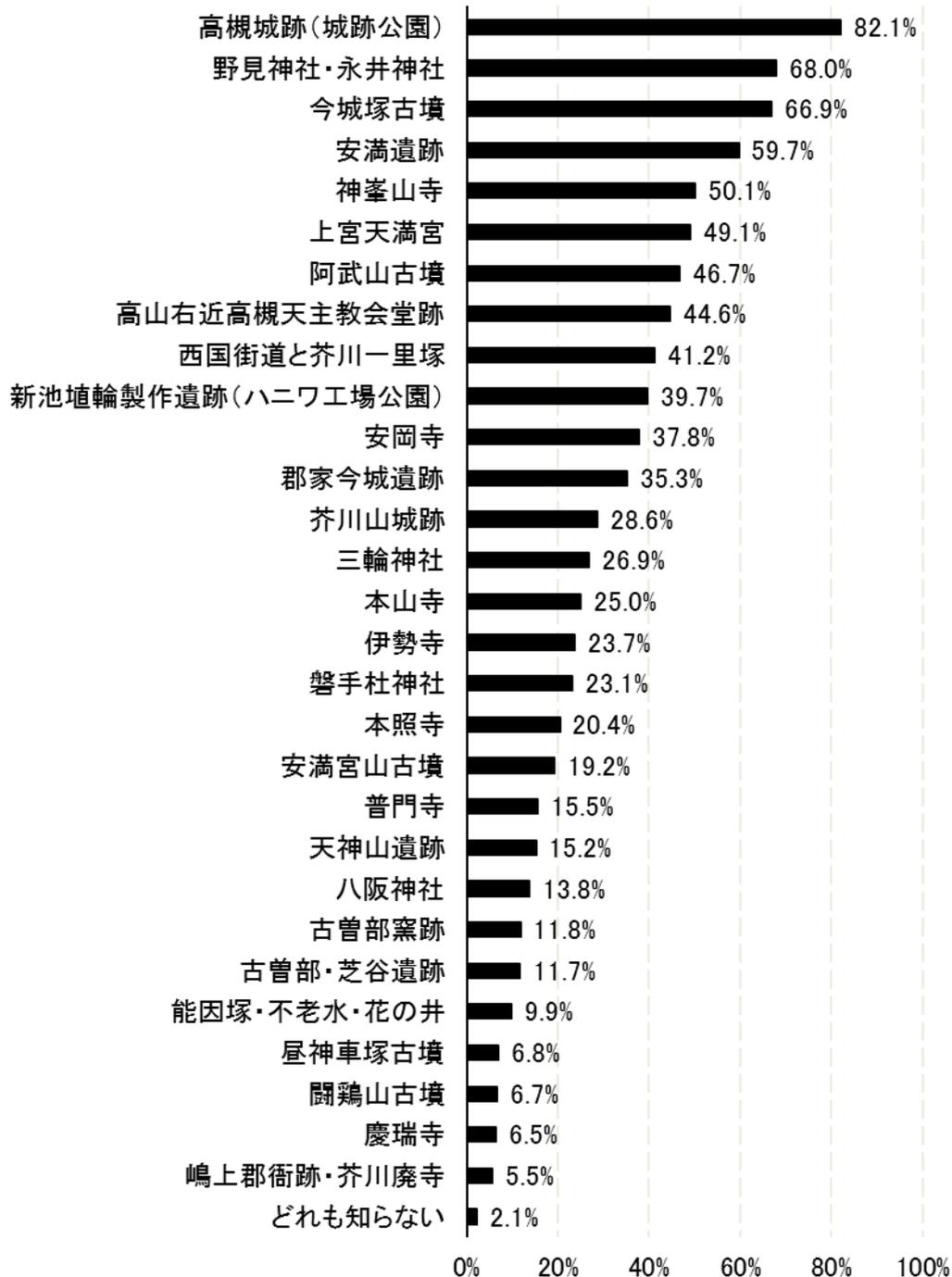


図 36 Q10 知っている高槻市の歴史遺産や施設（複数回答・全体 N=1227）

Q10 の知っている高槻市の歴史遺産や施設に関して、男女別で見ると、「芥川山城跡」は男女で差があり、女性よりも男性の方が 11.3 ポイント高い (図 37)。

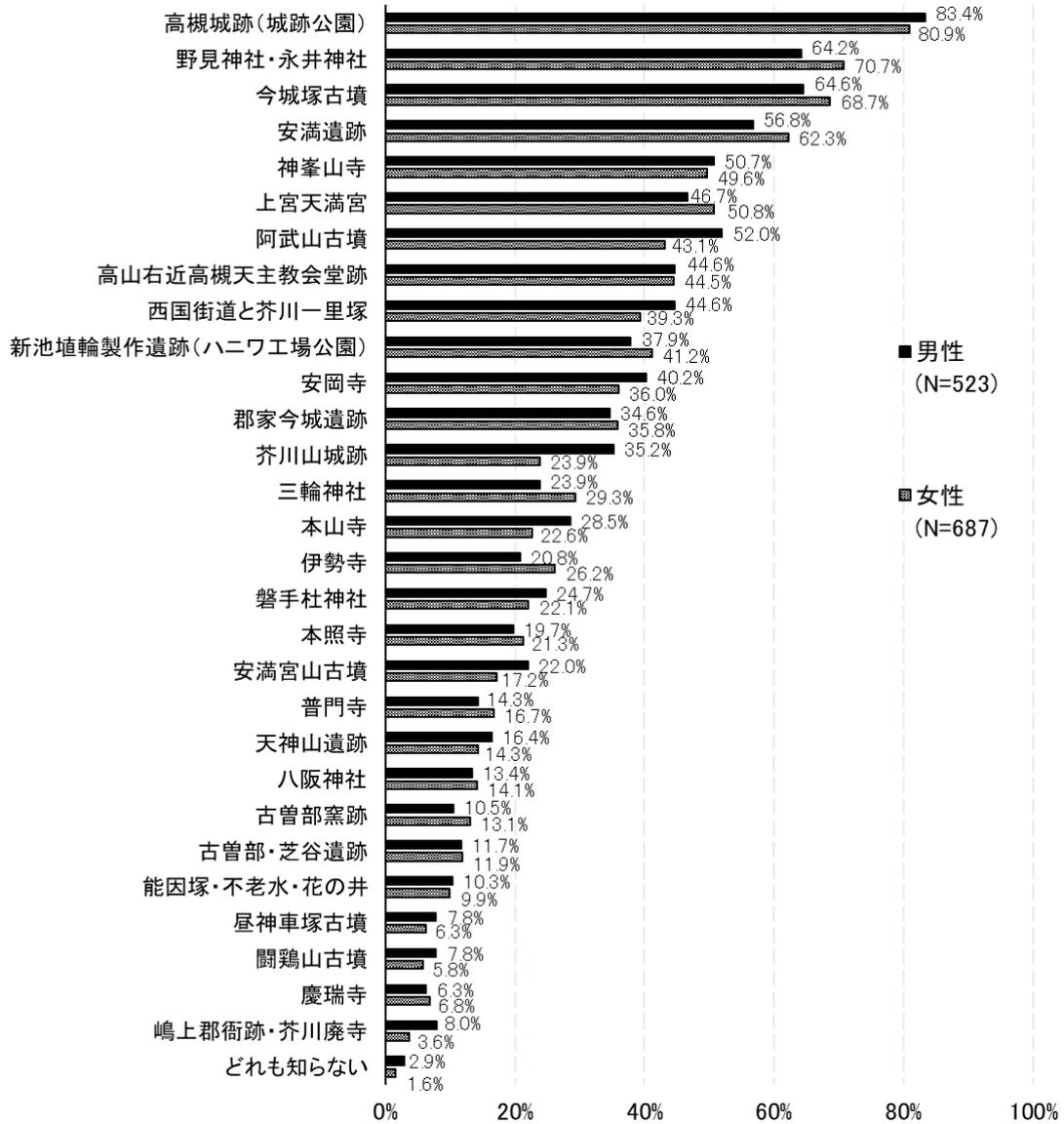


図 37 Q10 知っている高槻市の歴史遺産や施設 (複数回答・男女別)

Q10 の知っている高槻市の歴史遺産や施設に関して、年代別で見ると、「神峯山寺」は年代で差があり、70代以上が 68.5%と最も高く 10・20代は 15.1%と最も低い（図 38）。

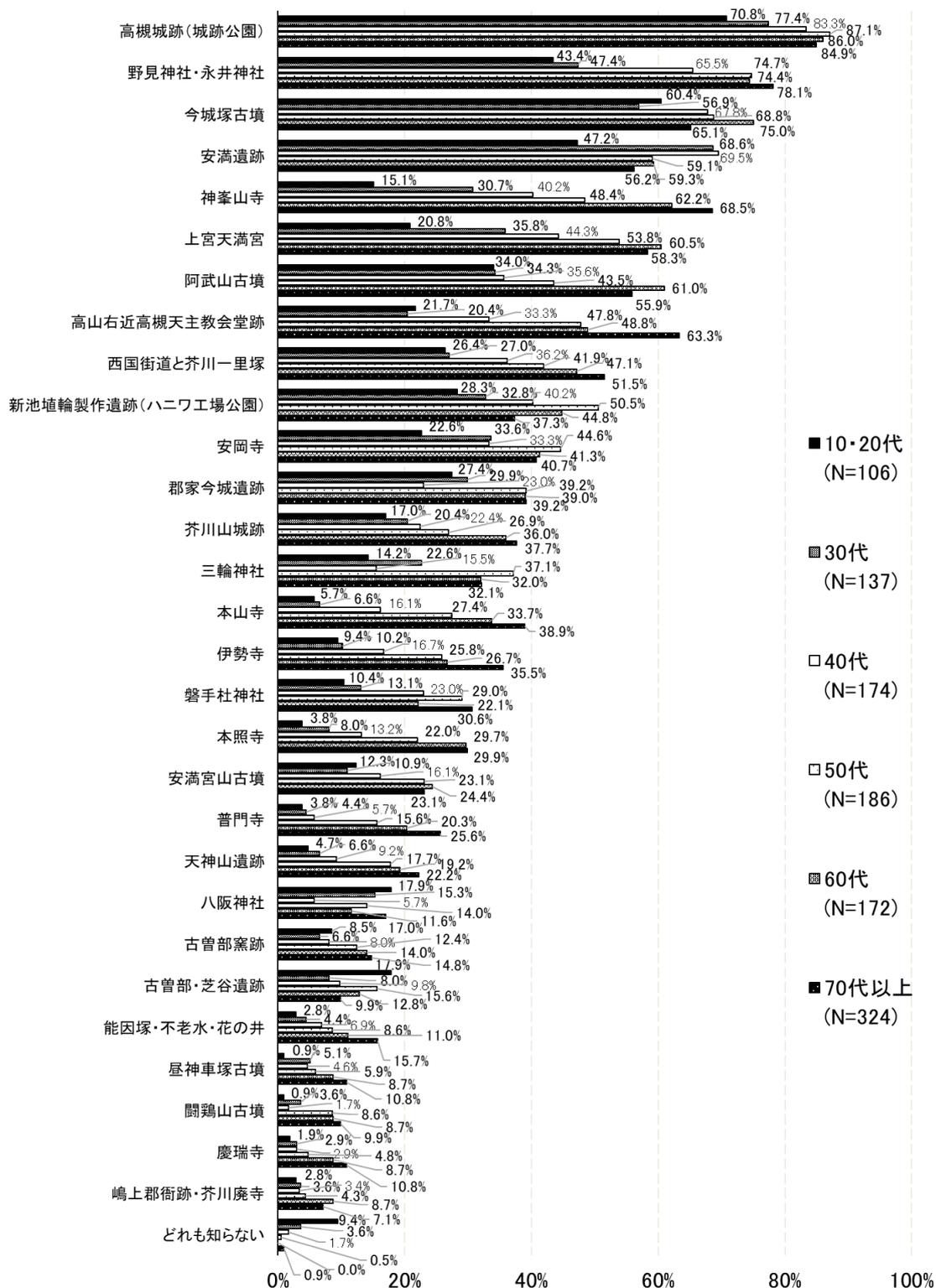


図 38 Q10 知っている高槻市の歴史遺産や施設（複数回答・年代別）

Q11 の城跡公園へ行ったことがあるかに関して、「はい」と回答した人の割合は、全体では 78.5%である。年代別に見ると、10・20代と 30代では 7割程度であるのに対し、40代以上は 8割程度である（図 39）。

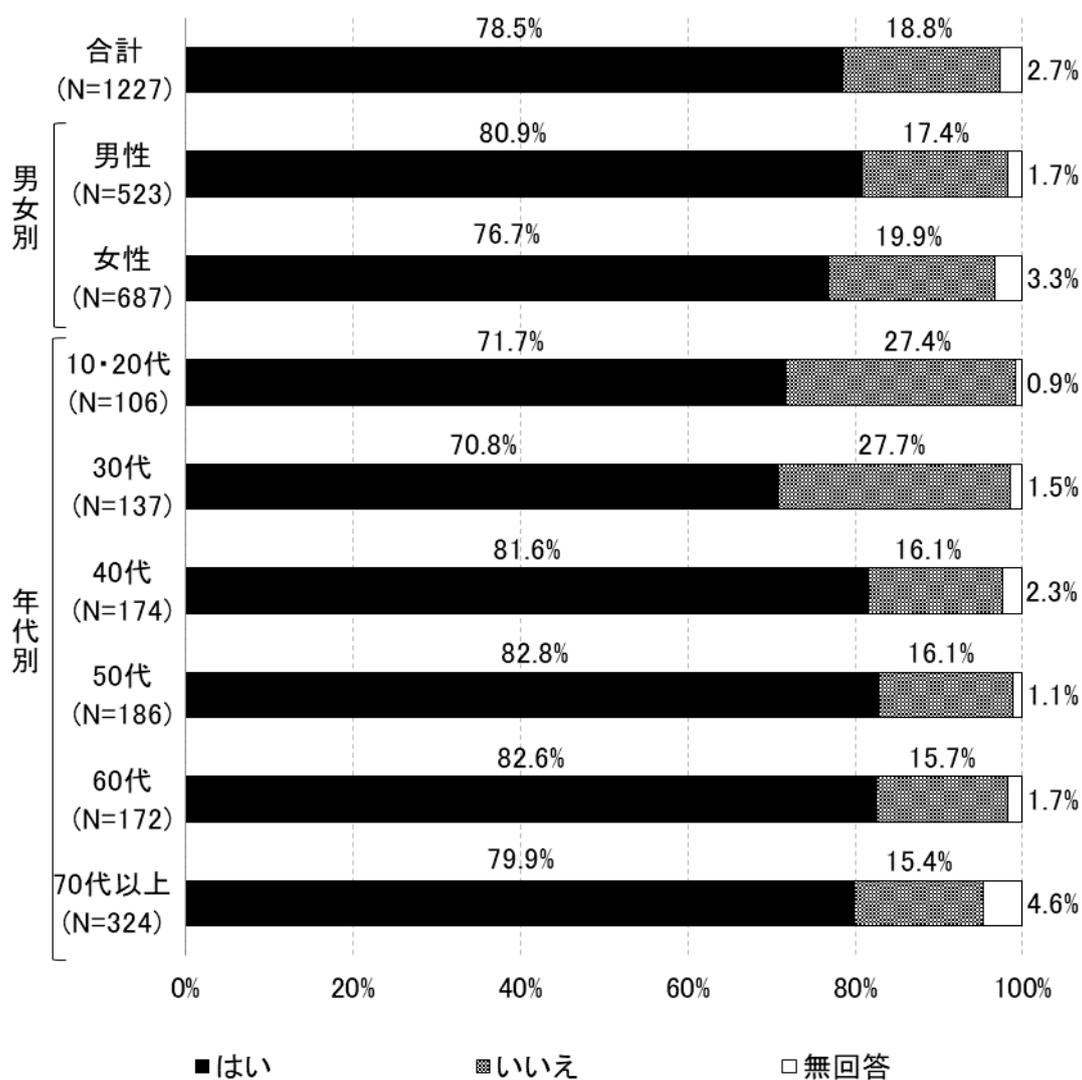


図 39 Q11 城跡公園へ行ったことがあるか

Q12の城跡公園で再整備した方がよいものに関して、「休憩できるベンチや東屋」が40.2%と最も高く、「高槻城の歴史を感じさせる景観」が34.6%と続く(図40)。

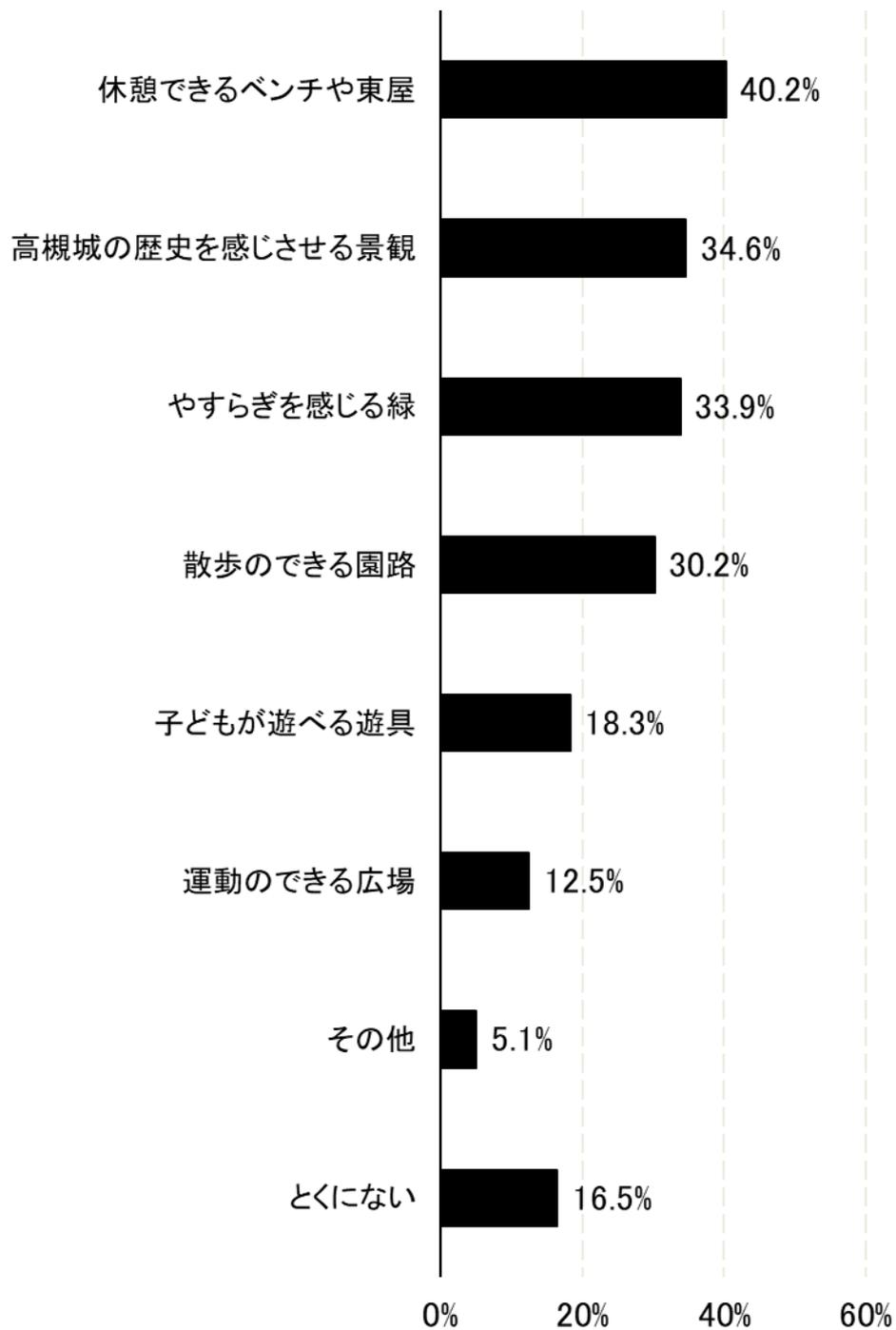


図40 Q12 城跡公園で再整備した方がよいもの(複数回答・全体 N=1227)

Q12 の城跡公園で再整備した方がよいものに関して、男女別で見ると「休憩できるベンチや東屋」は男女で差があり、男性よりも女性の方が 5.5 ポイント高い (図 41)。

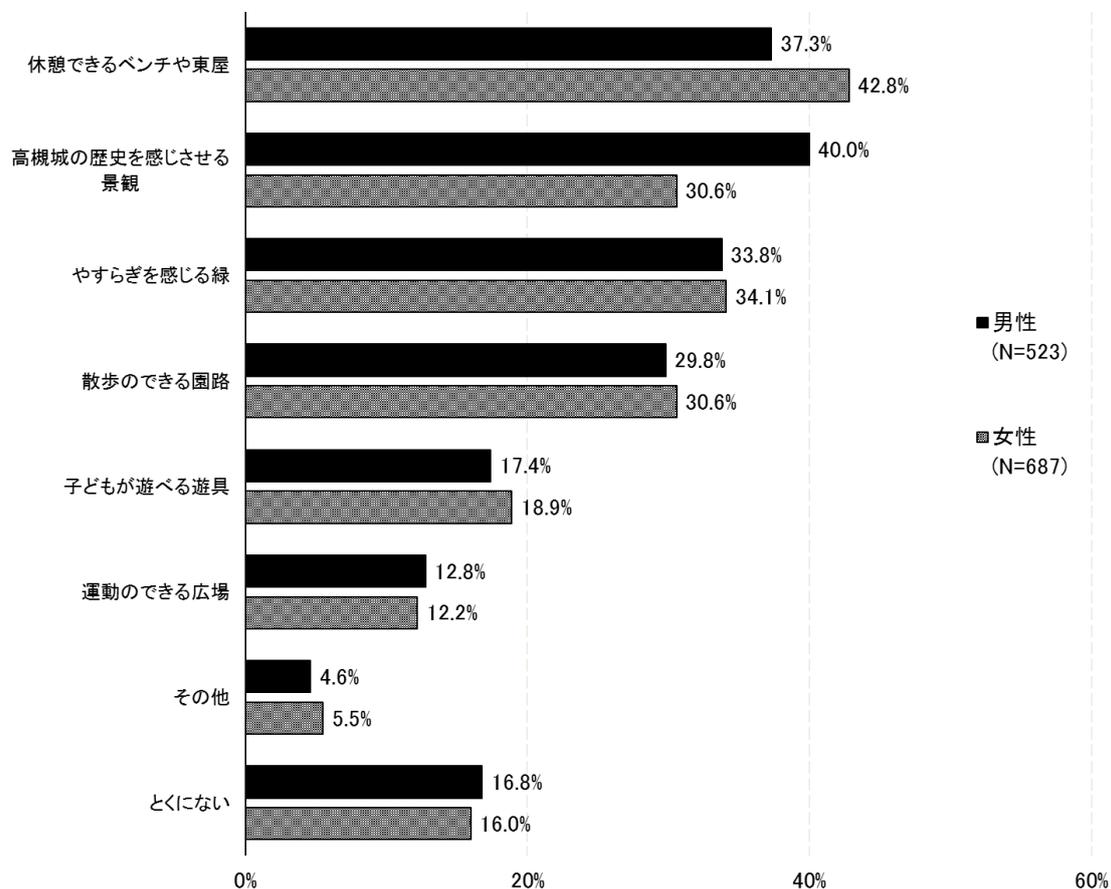


図 41 Q12 城跡公園で再整備した方がよいもの (複数回答・男女別)

Q12 の城跡公園で再整備した方がよいものに関して、年代別で見ると、「子どもが遊べる遊具」は30代が37.2%と最も高い。反対に70代以上は10.2%と最も低い（図42）。

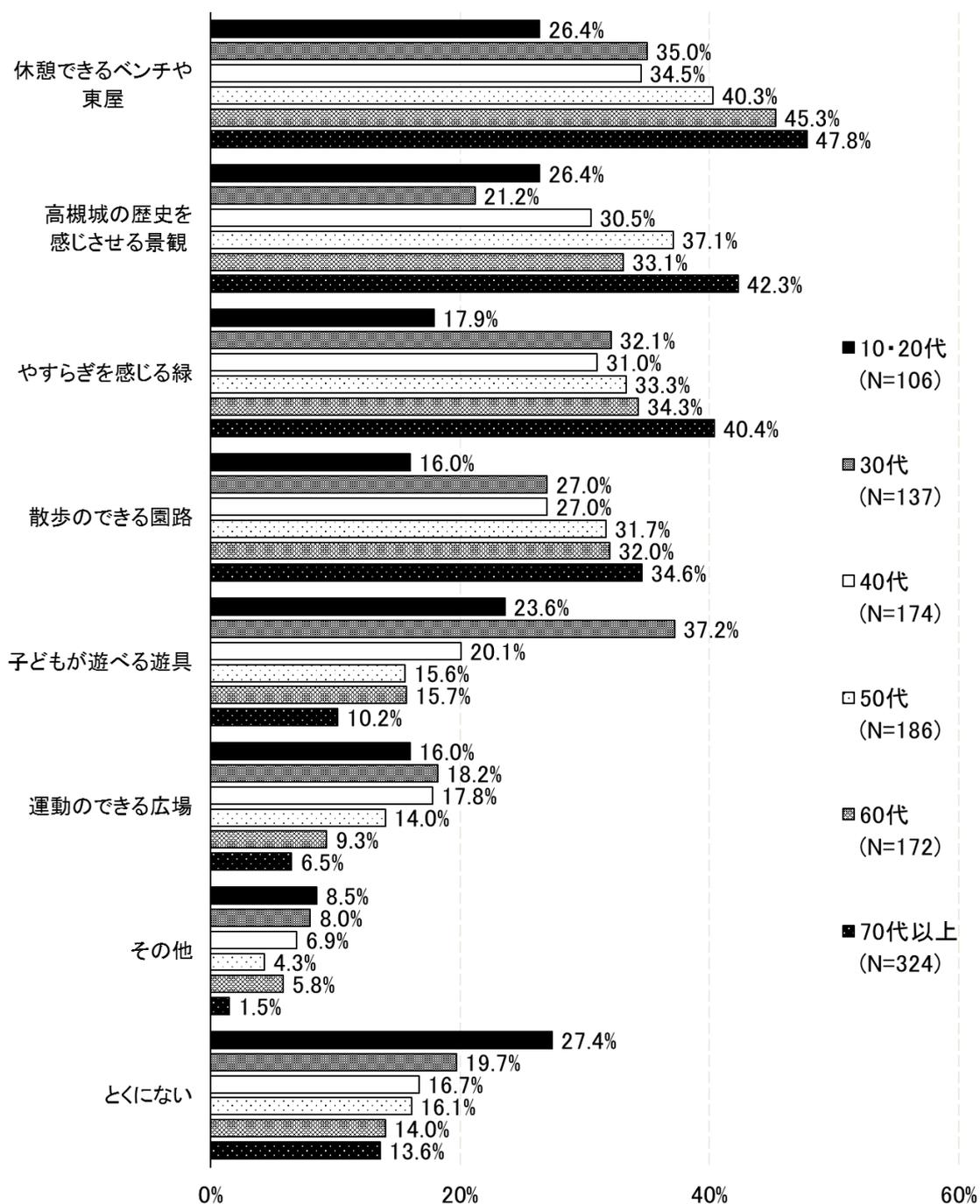


図 42 Q12 城跡公園で再整備した方がよいもの（複数回答・年代別）

Q13 の高槻城の城下町だったエリアに関する認知に関して、「知っていることはない・興味がない」が 37.4%と最も高く、「寺や城下町に関する地名が残っている」が 36.0%と続く（図 43）。

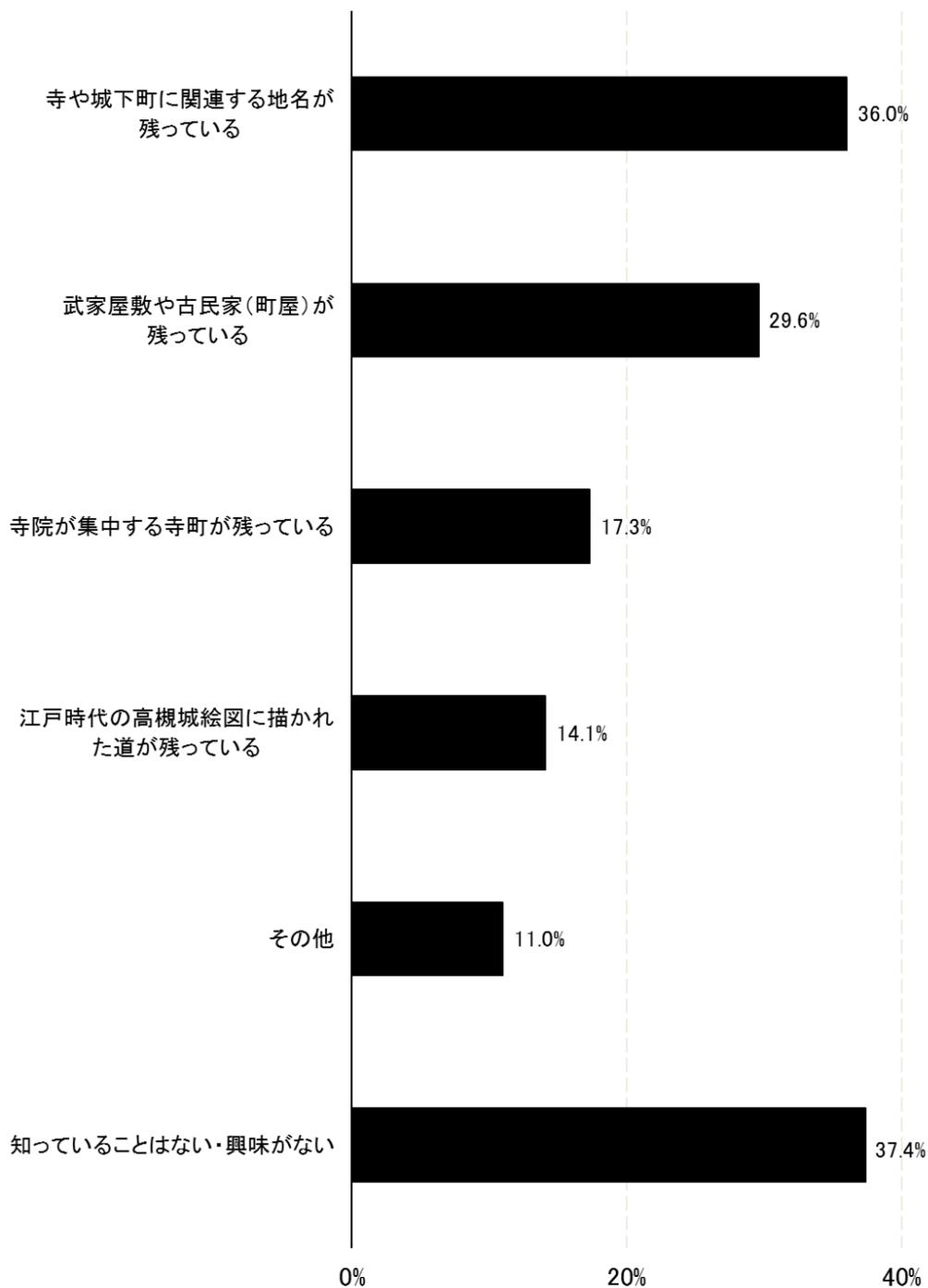


図 43 Q13 高槻城の城下町だったエリアに関する認知（複数回答・全体 N=1227）

Q13 の高槻城の城下町だったエリアに関する認知に関して、男女別で見ると、「寺や城下町に関する地名が残っている」は男女で差があり、女性よりも男性の方が 8.1 ポイント高い (図 44)。

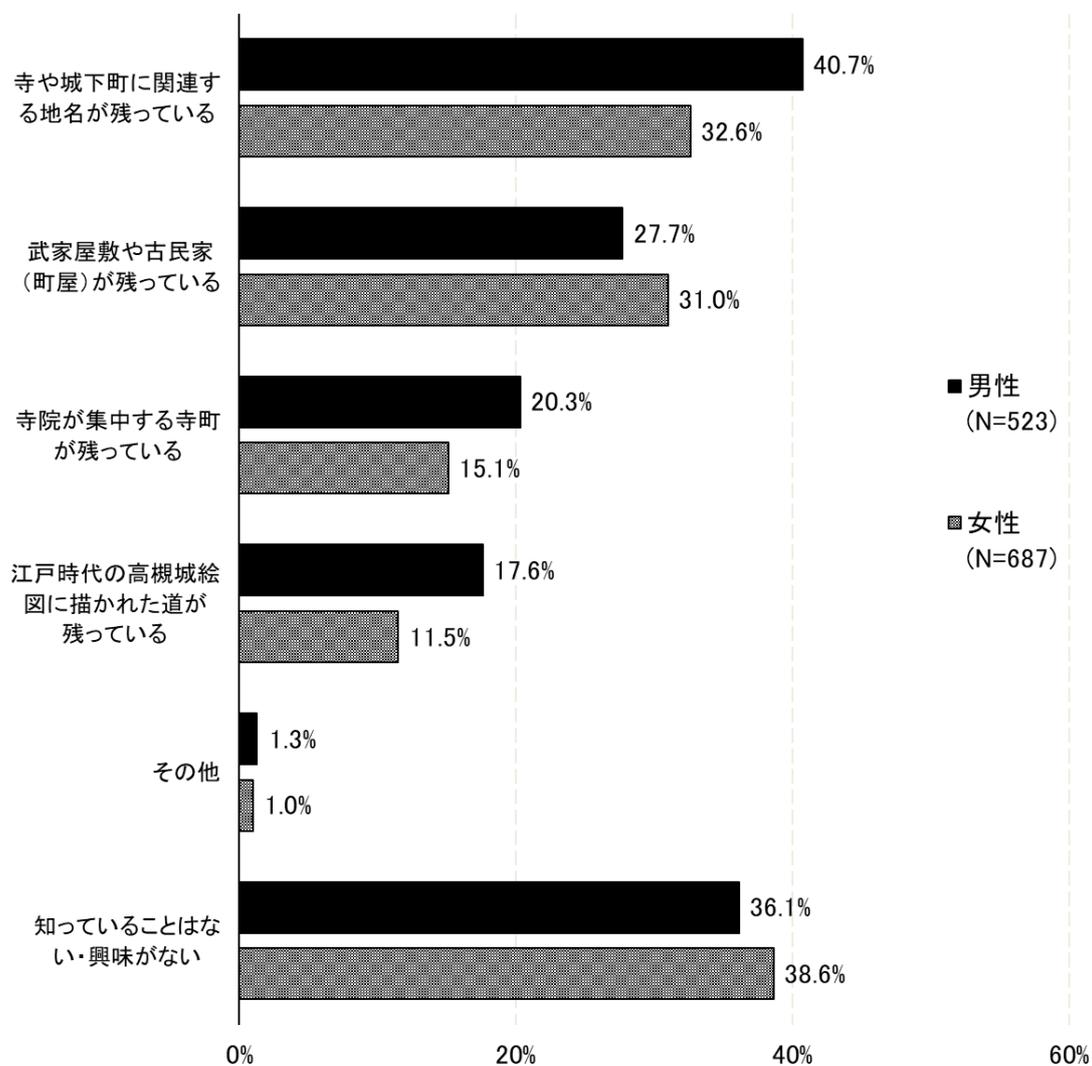


図 44 Q13 高槻城の城下町だったエリアに関する認知 (複数回答・男女別)

Q13 の高槻城の城下町だったエリアに関する認知に関して、年代別で見ると、「寺や城下町に関する地名が残っている」で、10・20代は23.6%であるが、年齢が上がるにつれて多くなっており、70代以上で43.8%となっている。(図 45)。

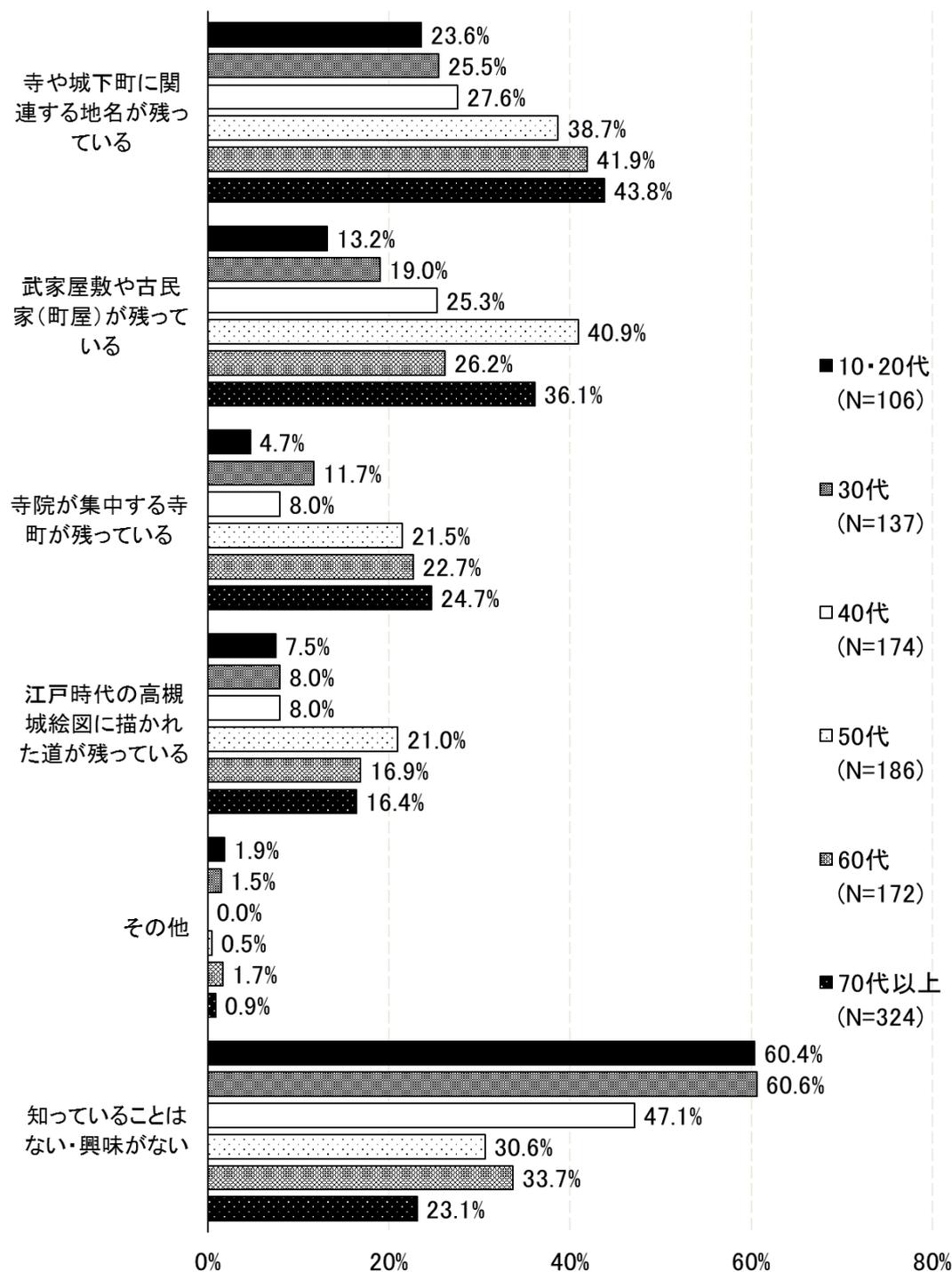


図 45 Q13 高槻城の城下町だったエリアに関する認知 (複数回答・年代別)

Q14の高槻城と城下町があったエリアで取り組んだ方がよいことに関して、「古民家（町家）の再利用」が38.8%と最も高く、「歴史的な街並みの再現」が34.3%と続く（図46）。

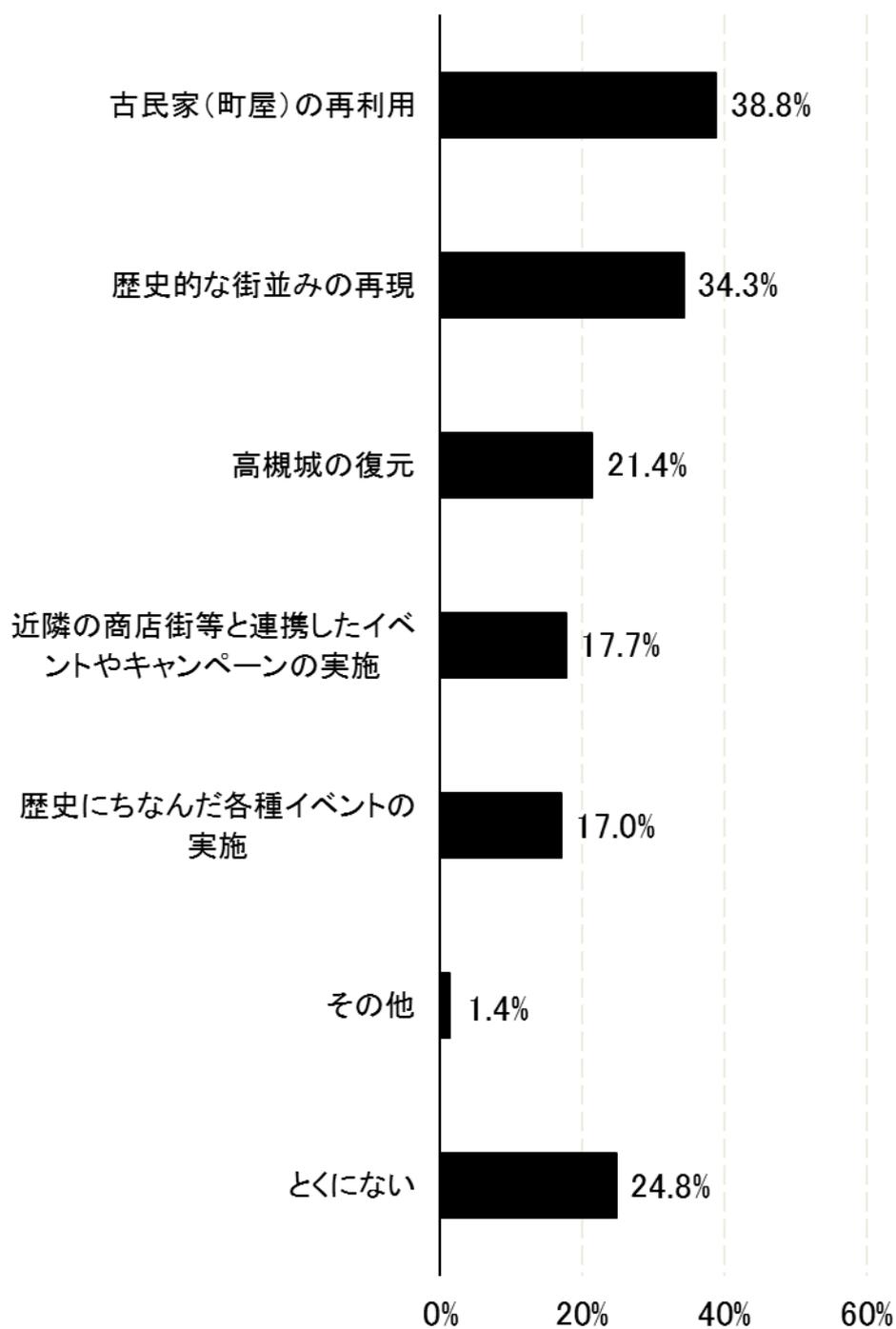


図46 Q14 高槻城と城下町があったエリアで取り組んだ方がよいこと  
(複数回答・全体 N=1227)

Q14 の高槻城と城下町があったエリアで取り組んだ方がよいことに関して、男女別で見ると、「古民家（町家）の再利用」は男女で差があり、男性よりも女性の方が 12 ポイント高い（図 47）。

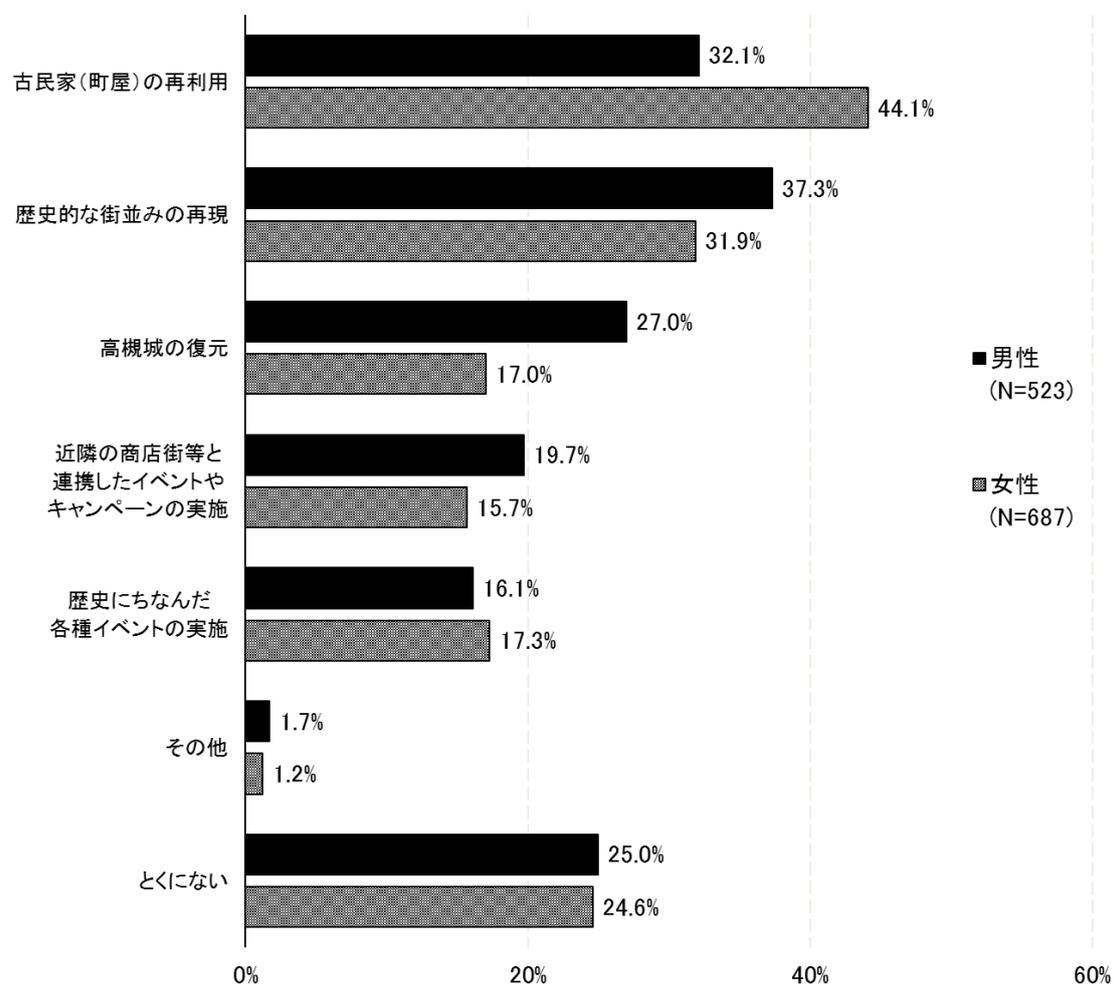


図 47 Q14 高槻城と城下町があったエリアで取り組んだ方がよいこと  
(複数回答・男女別)

Q14 の高槻城と城下町があったエリアで取り組んだ方がよいことに関して、年代別で見ると、「古民家（町屋）の再利用」は50代が52.7%と最も高い。反対に70代以上は29.9%と最も低い（図48）。

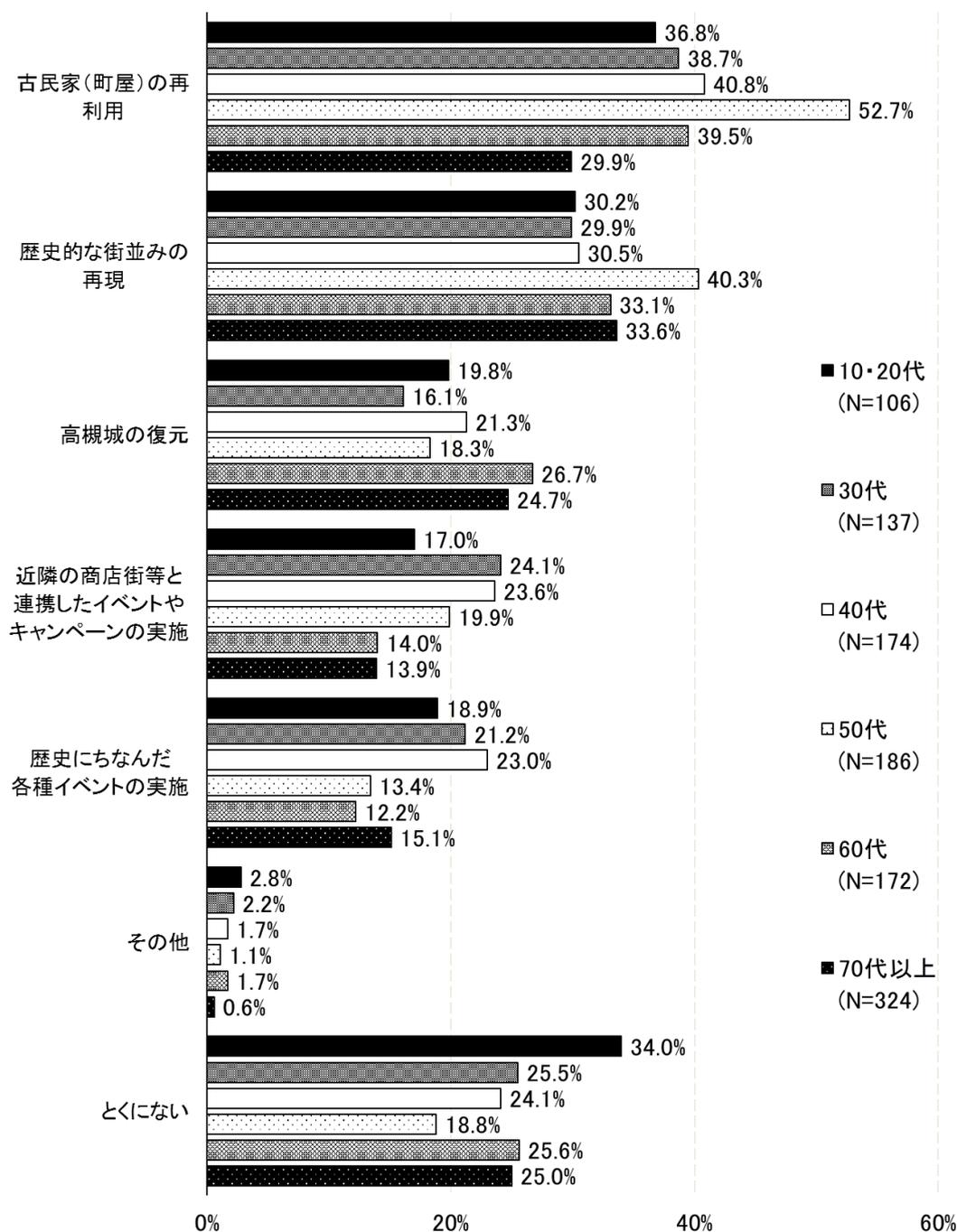


図48 Q14 高槻城と城下町があったエリアで取り組んだ方がよいこと  
(複数回答・年代別)

Q15 の文化財に親しみを持つためによいと思うものに関して、「文化財をもっと PR する」が 49.6%と最も高く、「文化財についての体験学習や歴史講座を増やす」が 27.3%と続く（図 49）。

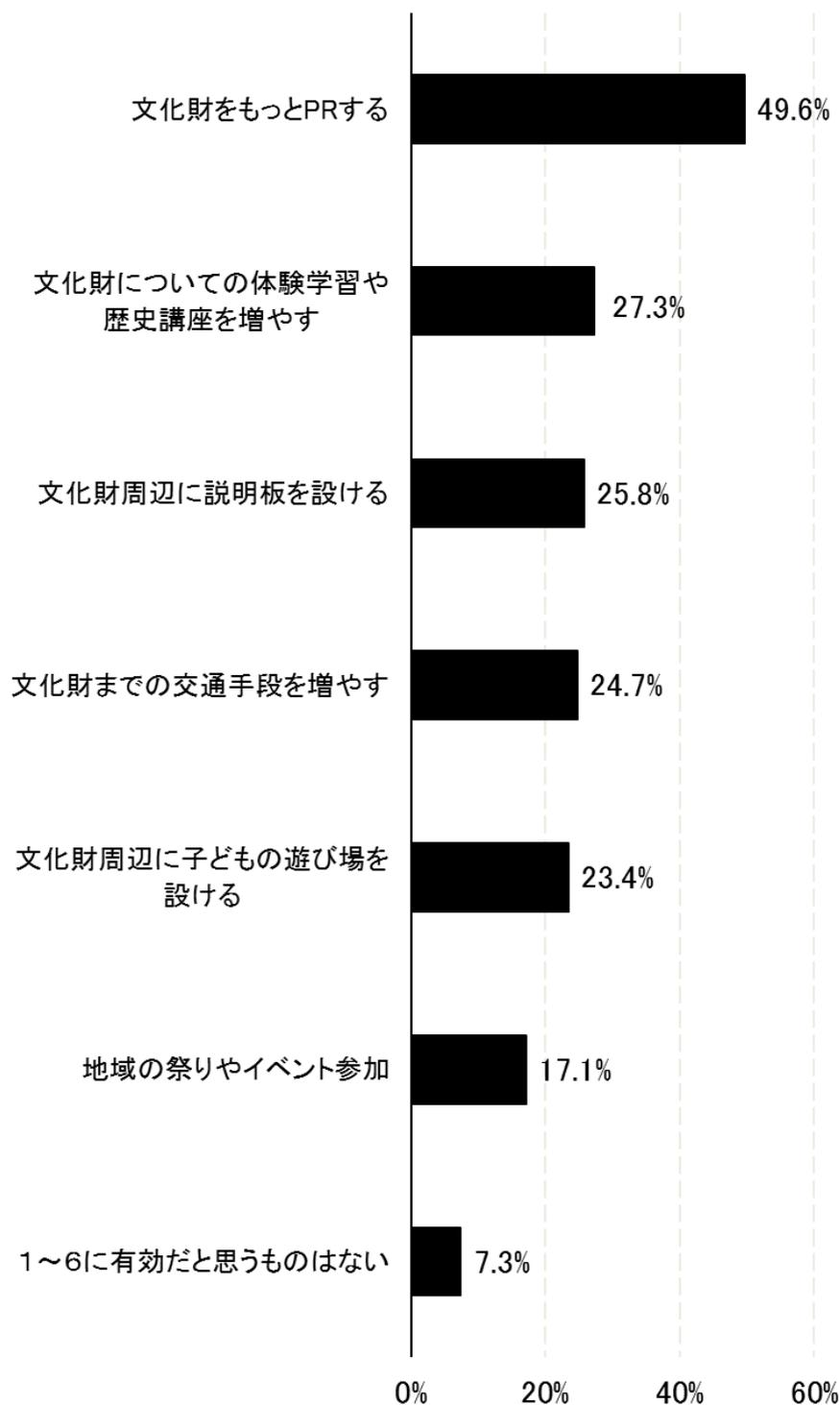


図 49 Q15 文化財に親しみを持つためによいと思うもの（複数回答・全体 N=1227）

Q15 の文化財に親しむためによいと思うものに関して、男女別で見ると、「文化財までの交通手段を増やす」は男女で差があり、男性は 19.9%であるのに対して、女性は 28.5%である（図 50）。

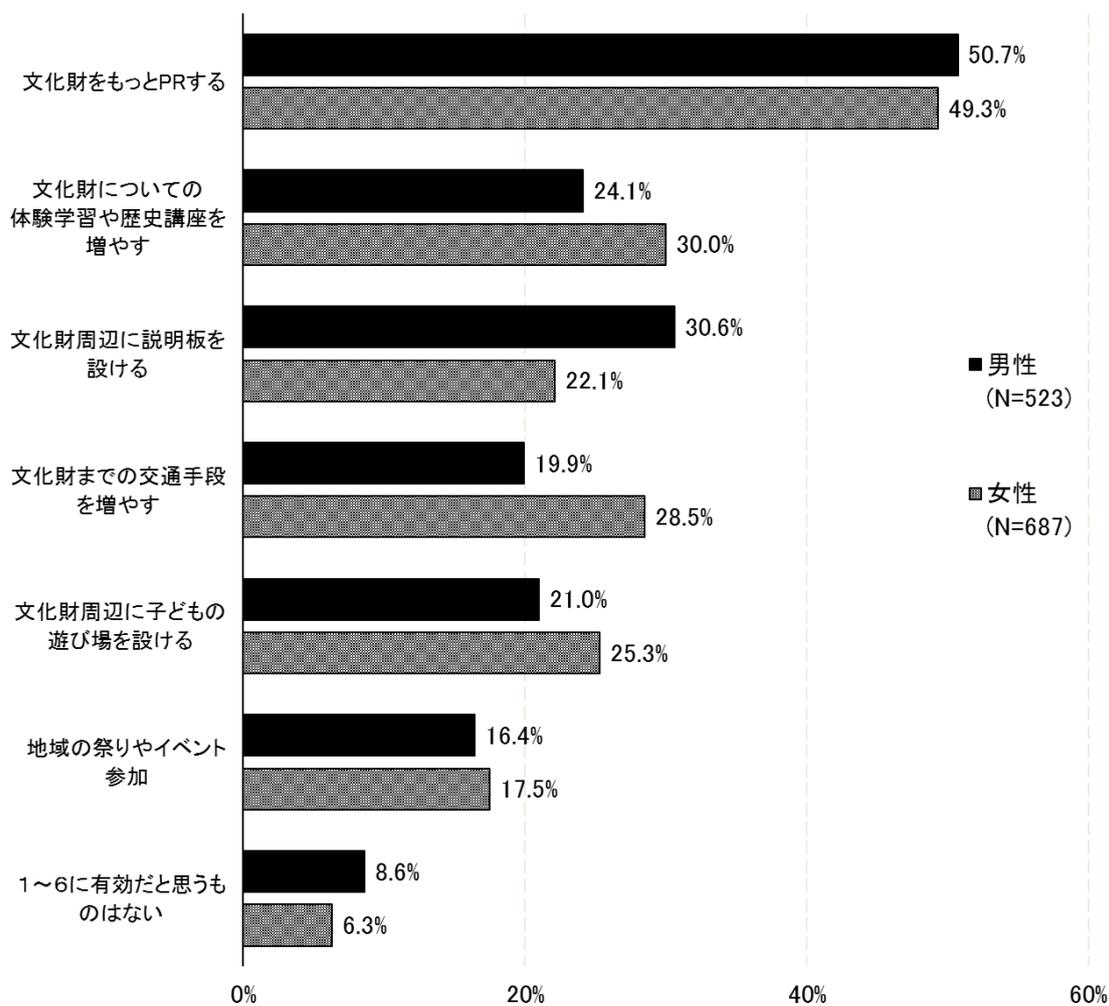


図 50 Q15 文化財に親しむためによいと思うもの（複数回答・男女別）

Q15 の文化財に親しみを持つためによいと思うものに関して、年代別で見ると、「文化財をもっとPRする」は60代が55.8%と最も高い。反対に30代は38.7%と最も低い(図 51)。

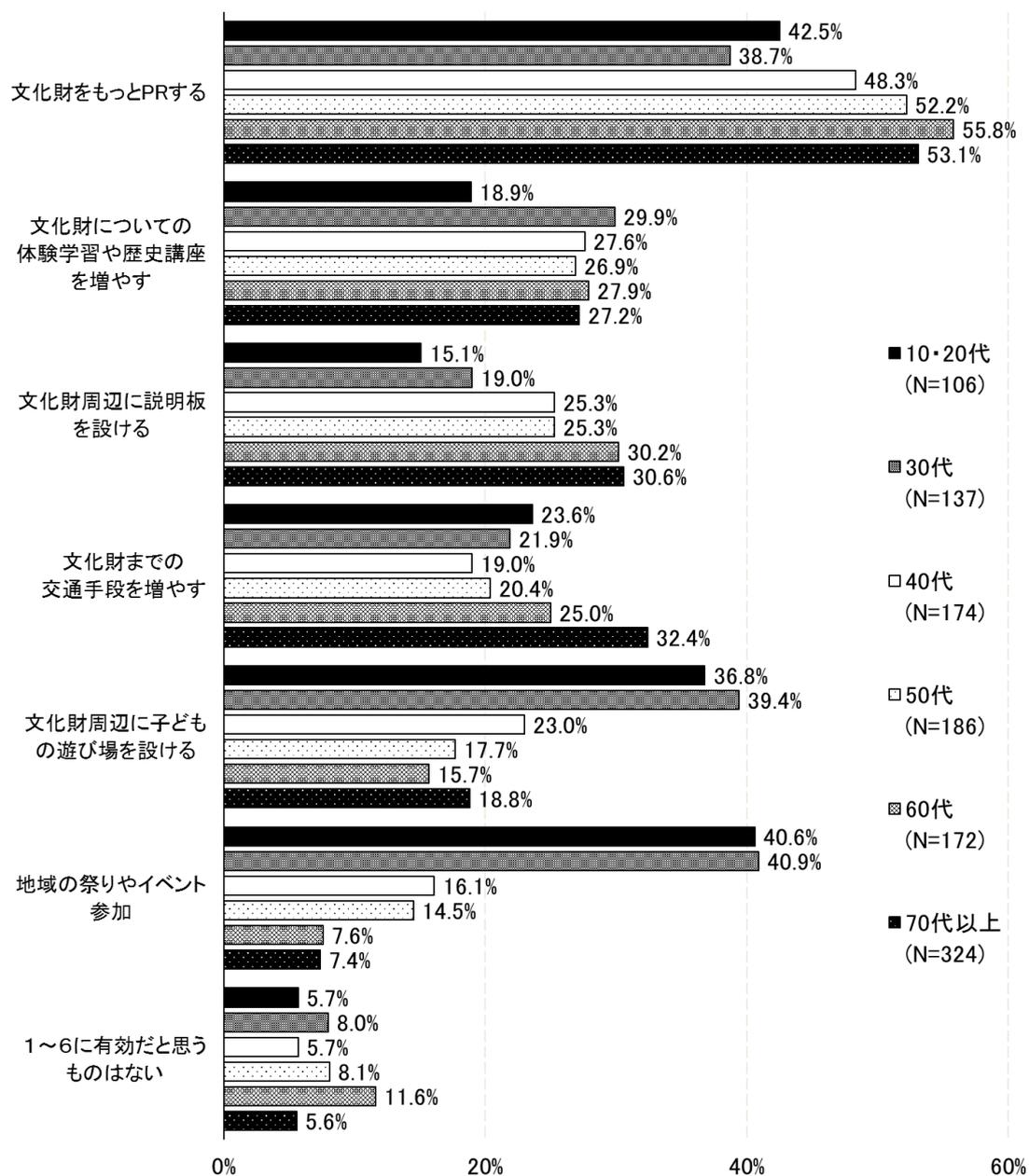
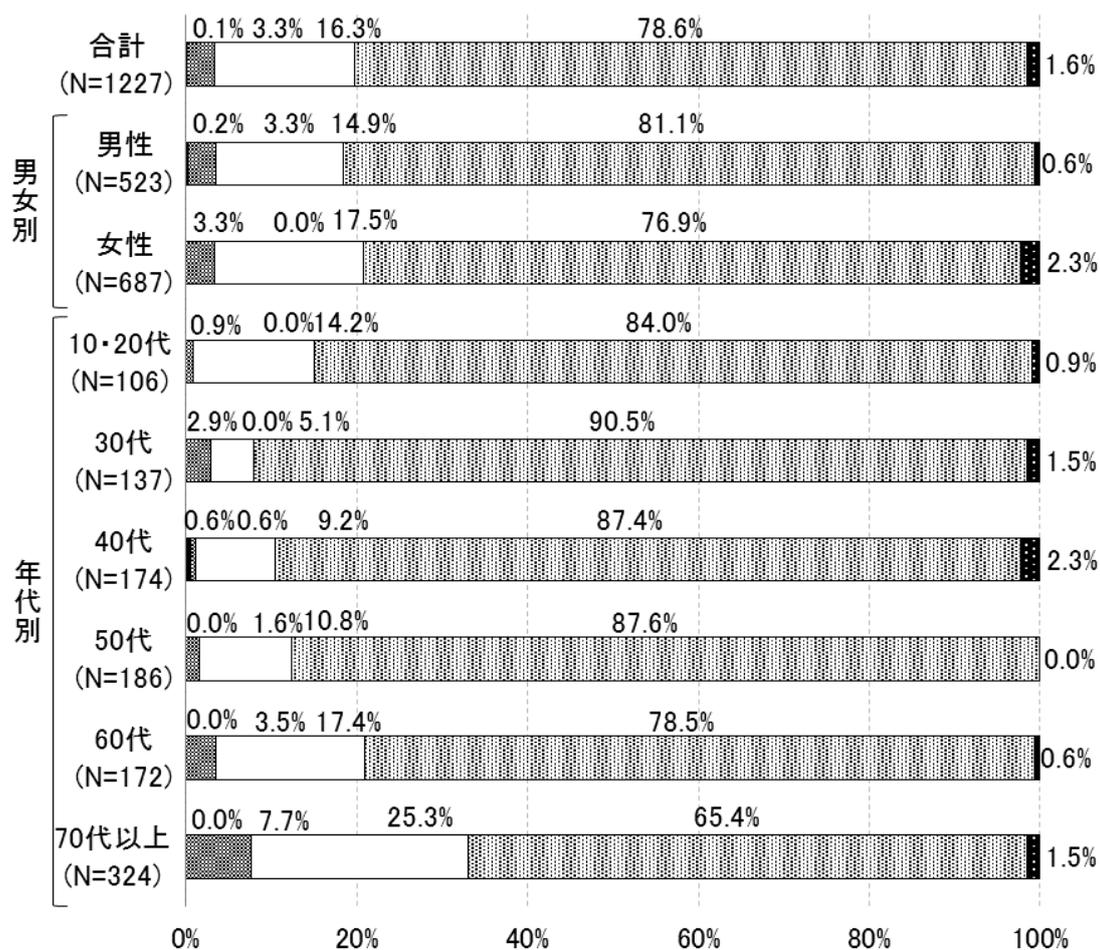


図 51 Q15 文化財に親しみを持つためによいと思うもの（複数回答・年代別）

Q16 の歴史講座・現地説明会・体験学習会の参加経験に関して、「よく参加している」「たまに参加する」または「参加したことがある」と回答した人の割合の合計は、年齢が上がるにつれて多くなる傾向があり、30代・40代ではおおよそ1割程度であるのに対し、70代以上は3割以上にのぼる（図 52）。



■よく参加している ■たまに参加する □参加したことがある ■参加したことがない ■無回答

図 52 Q16 歴史講座・現地説明会・体験学習会の参加経験

Q17の文化財についての情報源に関して、「市の広報誌」と回答した人の割合は、年齢が上がるにつれて多くなる傾向があり、10・20代が18.9%であるのに対し、70代以上が68.5%にのぼる（図53）。

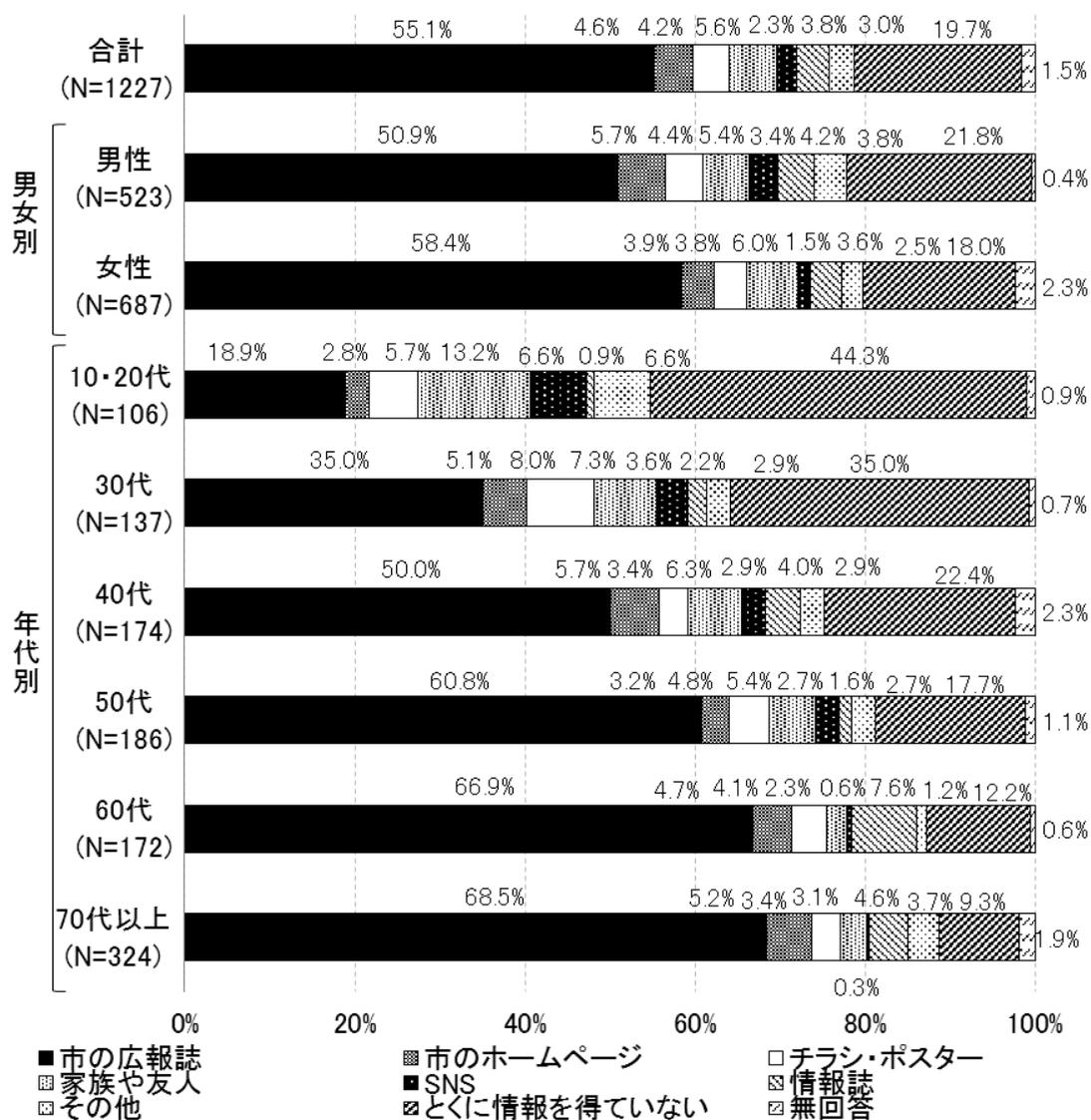


図 53 Q17 文化財についての情報源

Q18A の情報源への信頼：テレビに関して、「かなり信頼している」「ある程度は信頼している」と回答した人の割合は、男女別で見ると、女性の方が男性よりも 6.8 ポイント高い。年代別で見ると、10・20代で 71.7%と最も低い。反対に 70代以上が 85.8%と最も高い（図 54）。

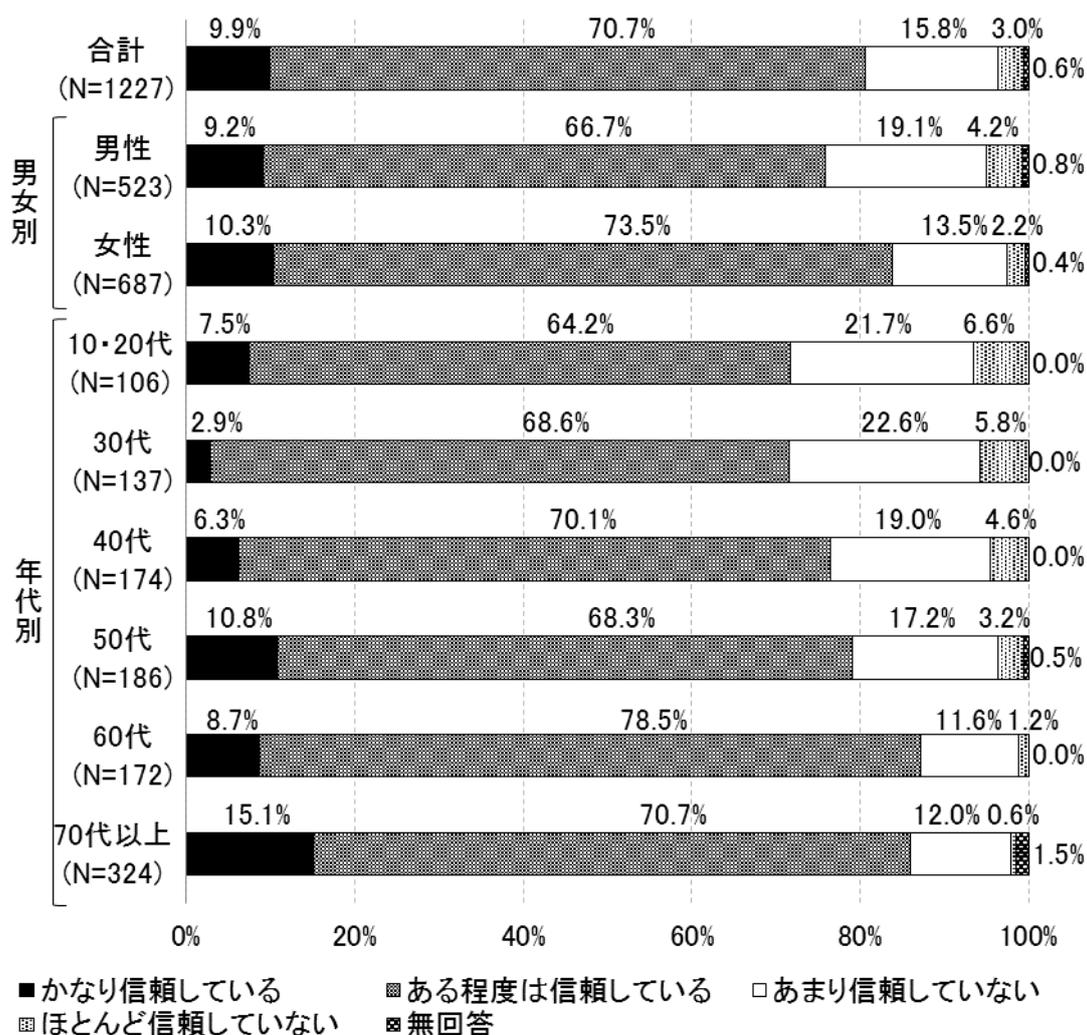


図 54 Q18A 情報源への信頼：テレビ

Q18B の情報源への信頼：新聞に関して、年代別で見ると、「かなり信頼している」「ある程度は信頼している」と回答した人の割合は、年齢が上がるにつれて多くなっており、10・20代が 82.0%であるが、70代以上が 91.0%となっている（図 55）。

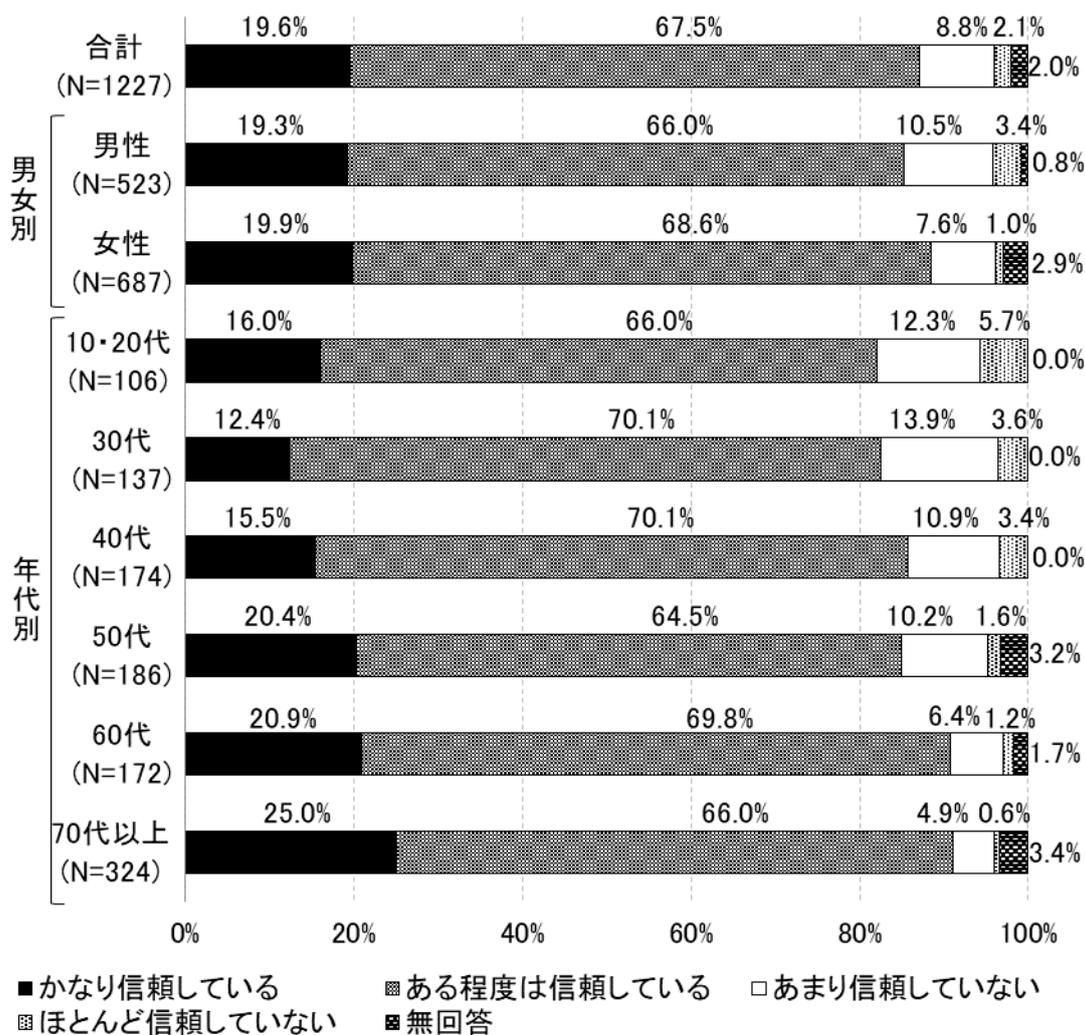


図 55 Q18B 情報源への信頼：新聞

Q18Cの情報源への信頼：SNS（Twitter・Instagramなど）に関して、「かなり信頼している」「ある程度信頼している」と回答した人の割合は、男女別で見ると、女性の方が男性よりも6.2ポイント高い。年代別で見ると、10・20代が49.1%であるが、年齢が上がるにつれて少なくなっており、70代以上が14.8%となっている（図56）。

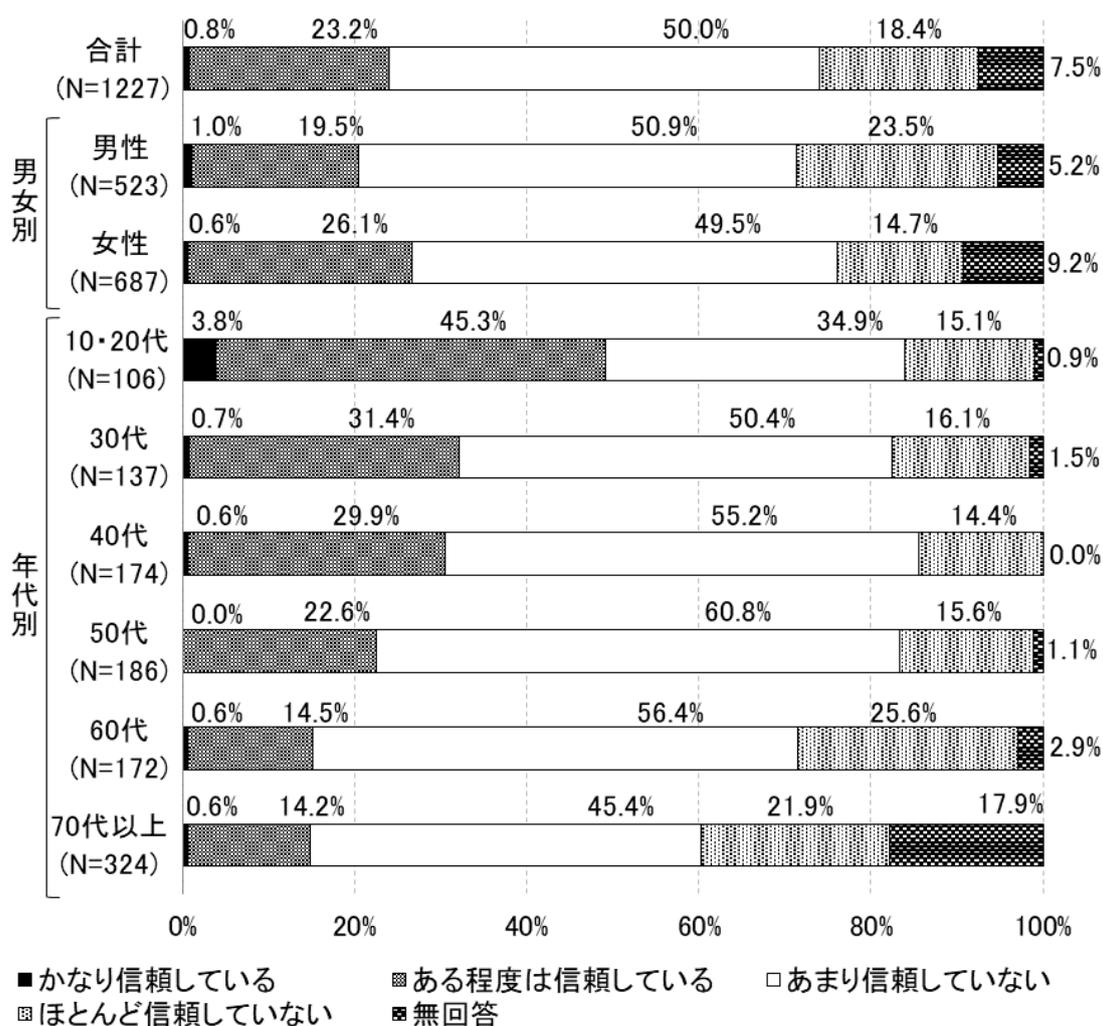


図56 Q18C 情報源への信頼：SNS（Twitter・Instagramなど）

Q18Dの情報源への信頼：ネットニュース（Yahoo ニュース・LINE ニュースなど）に関して、「かなり信頼している」「ある程度は信頼している」と回答した人の割合は、年代別で見ると、70代以上を除くすべての年代でおおよそ6割程度であり、70代以上が39.5%と最も低くなっている（図57）。

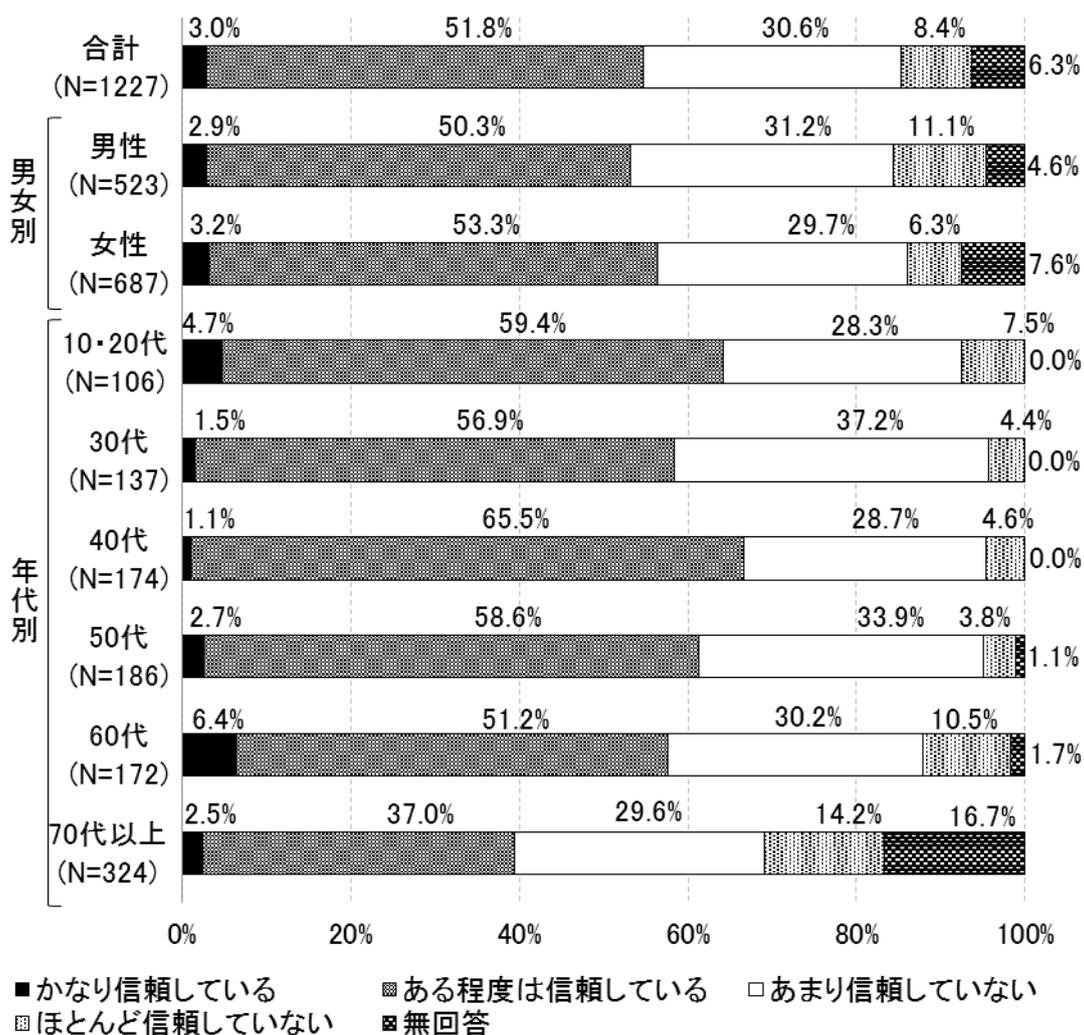


図57 Q18D 情報源への信頼：ネットニュース（Yahoo ニュース・LINE ニュースなど）

Q18E の情報源への信頼：友人・知人の情報に関して、「かなり信頼している」「ある程度は信頼している」と回答した人の割合は、年代別で見ると、40代が79.3%と最も高く、70代以上が68.9%と最も低い（図58）。

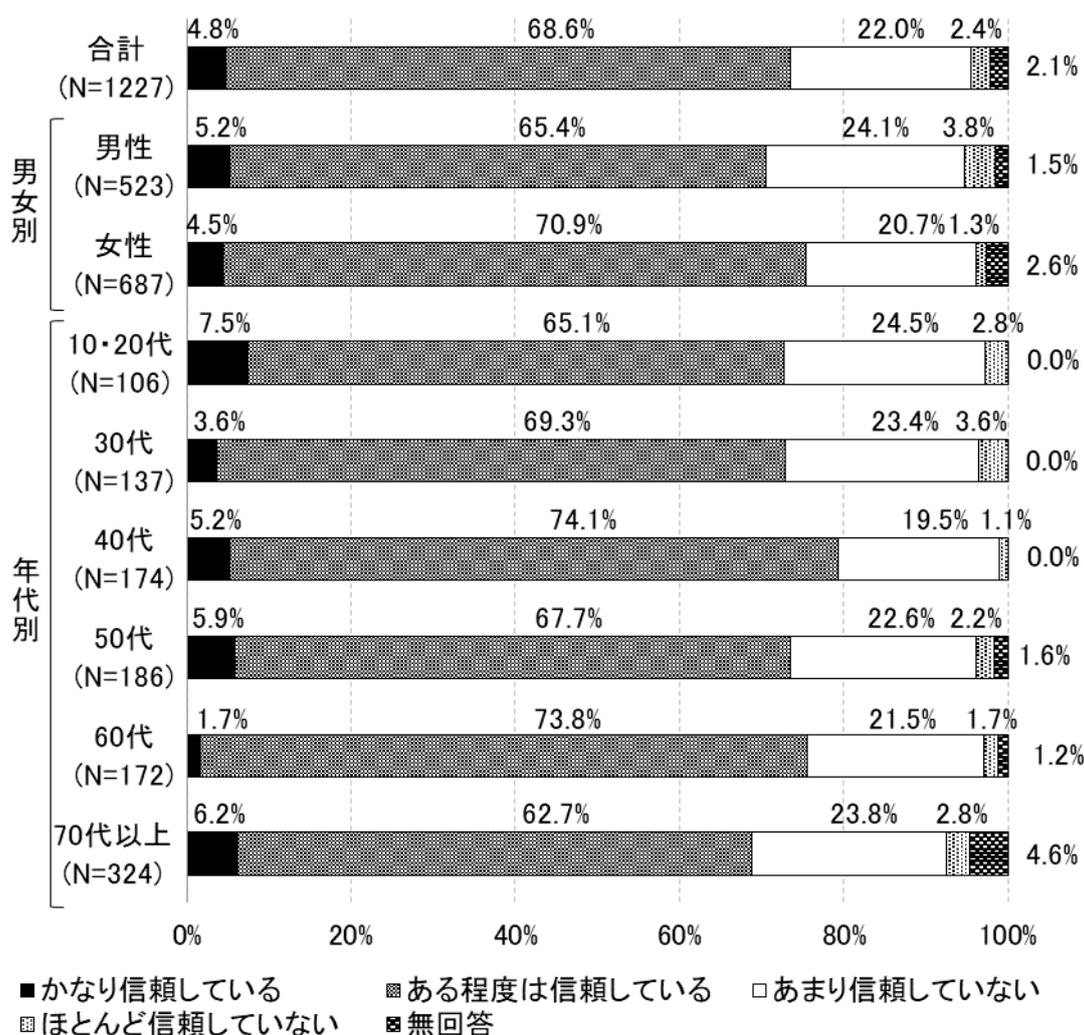


図58 Q18E 情報源への信頼：友人・知人の情報

Q19A の情報源への接触時間：テレビに関して、「全く利用しない」「20分未満」と回答した人の割合は、年代別で見ると、10・20代で21.7%と最も高く、60代で4.6%と最も低い（図59）。

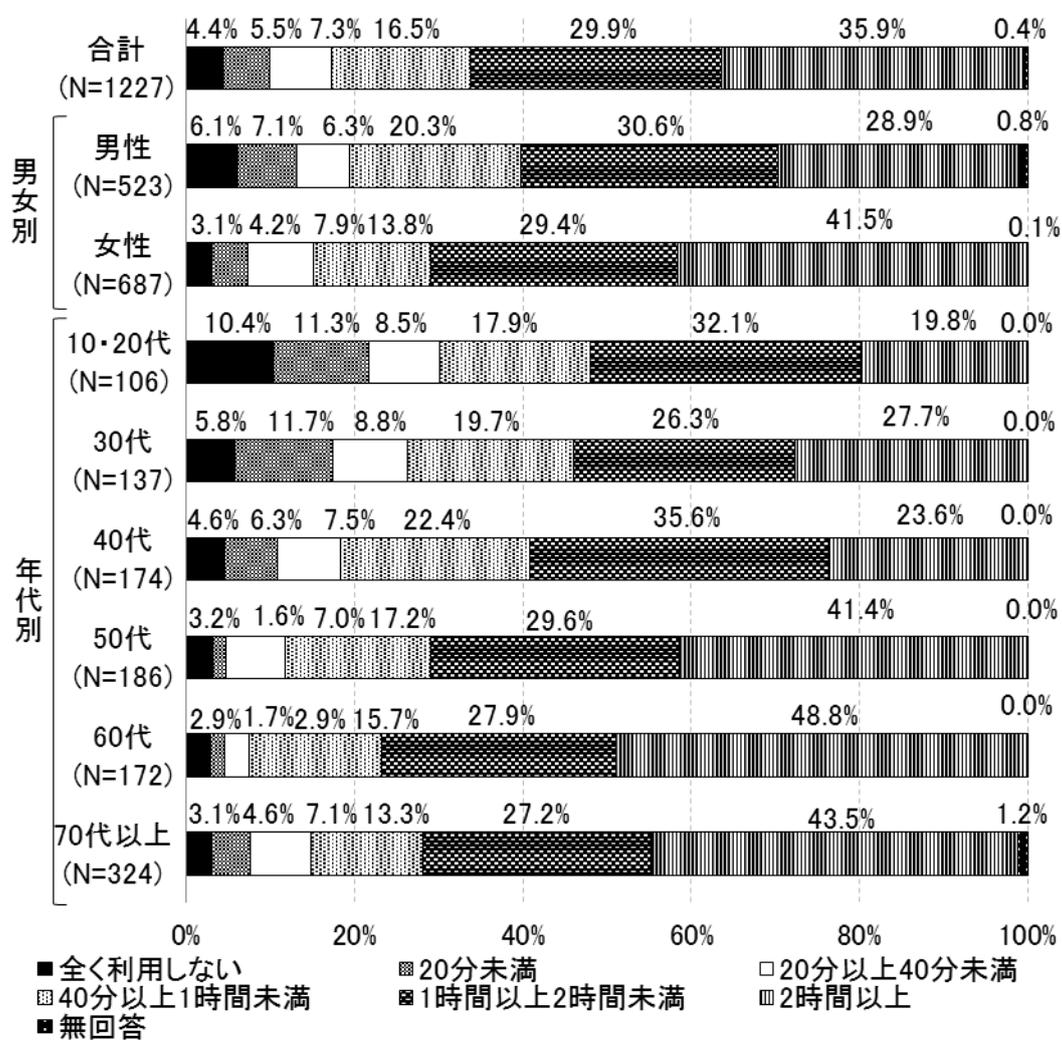


図 59 Q19A 情報源への接触時間：テレビ

Q19B の情報源への接触時間：新聞に関して、「全く利用しない」「20分未満」と回答した人の割合は、年代別で見ると、10・20代で96.3%と最も高く、70代以上で35.5%と最も低い（図60）。

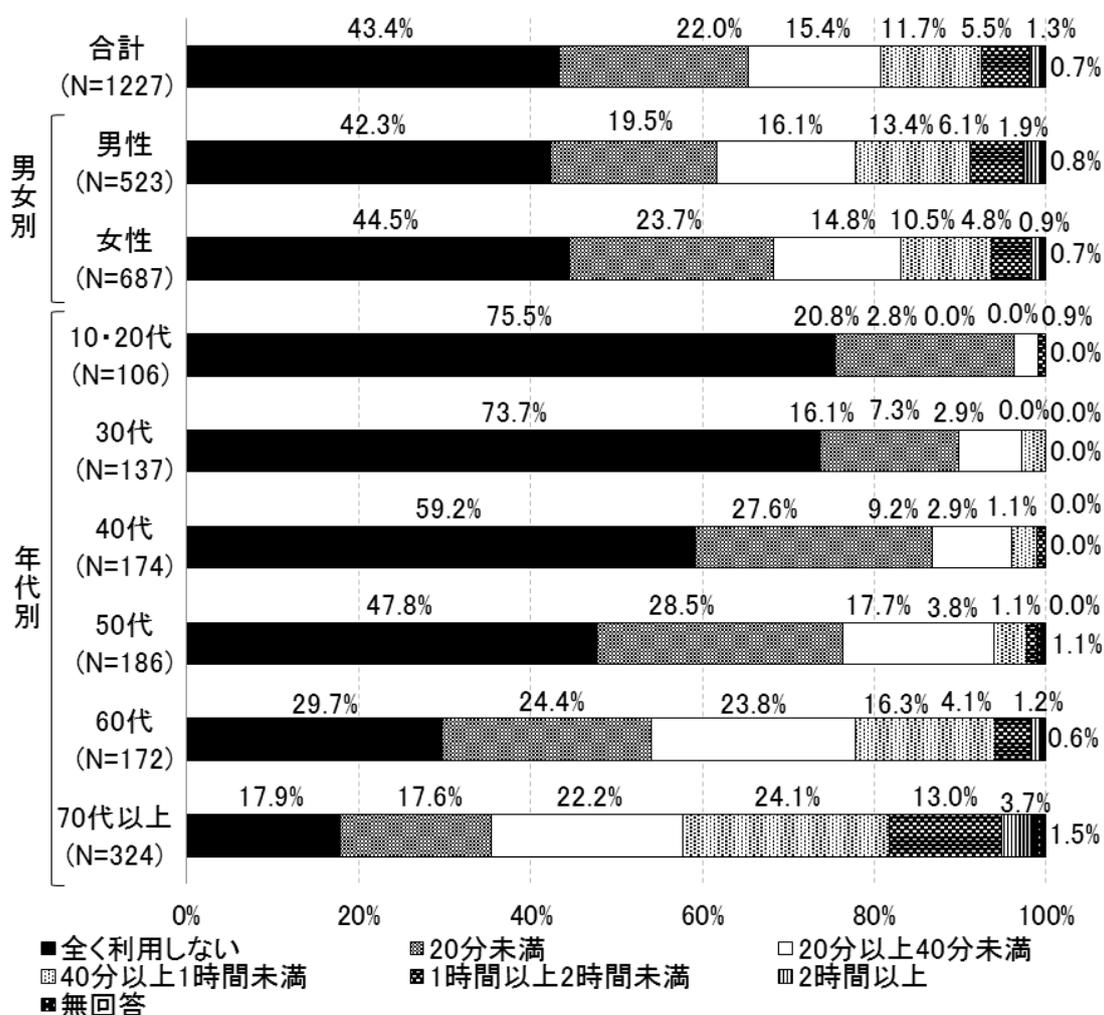


図 60 Q19B 情報源への接触時間：新聞

Q19Cの情報源への接触時間：SNS（Twitter・Instagramなど）に関して、「全く利用しない」「20分未満」と回答した人の割合は、年代別で見ると、10・20代で19.8%と最も低く、70代以上で86.4%と最も高い（図61）。

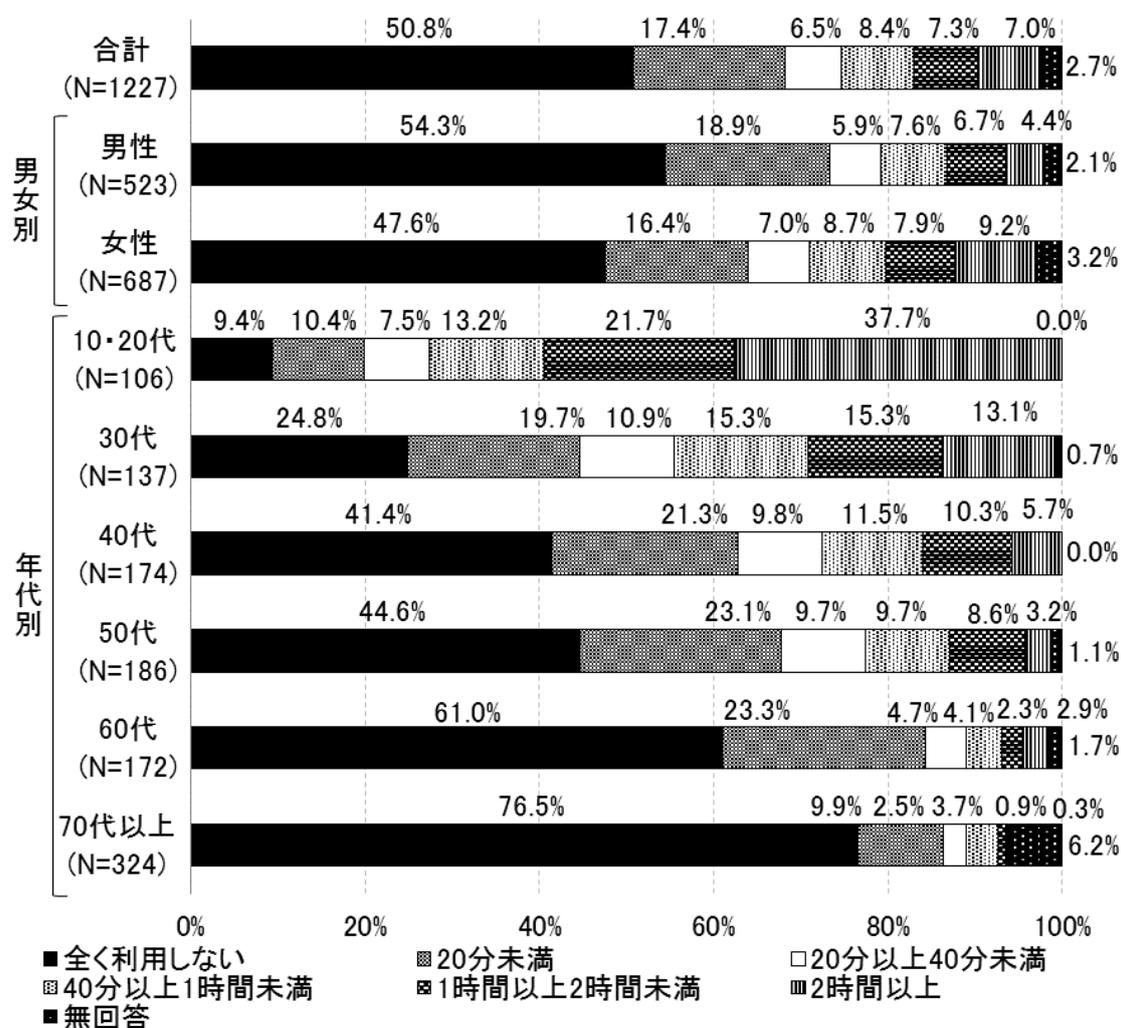


図 61 Q19C 情報源への接触時間：SNS

Q19D の情報源への接触時間：ネットニュース（Yahoo ニュース・LINE ニュースなど）に関して、「全く利用しない」「20分未満」と回答した人の割合は、年代別で見ると、30代で41.6%と最も低く、70代以上で72.5%と最も高い（図 62）。

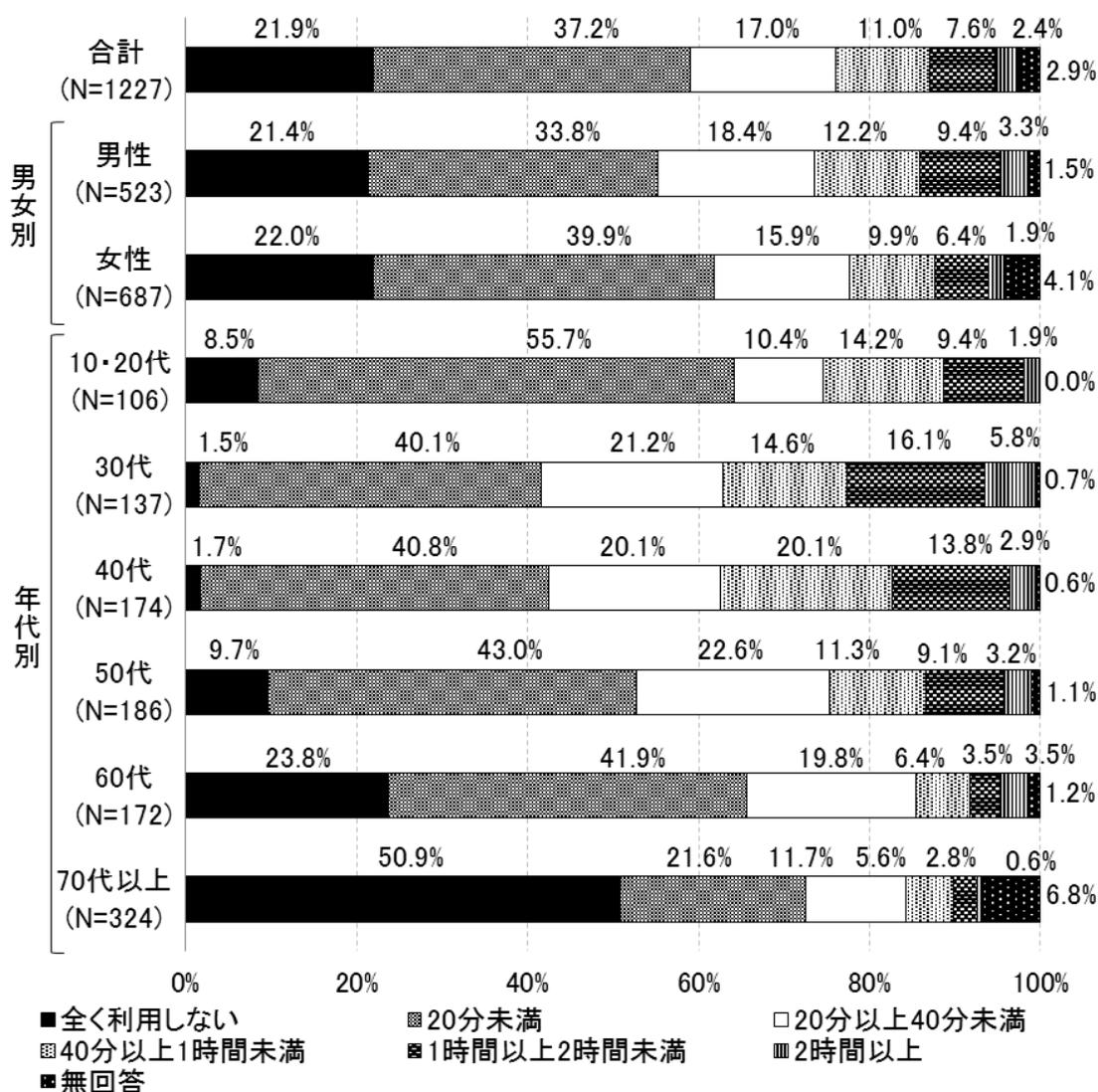


図 62 Q19D 情報源への接触時間：ネットニュース

Q19E の情報源への接触時間：友人・知人の情報に関して、「全く利用しない」「20分未満」と回答した人の割合は、年代別で見ると、10・20代で58.5%と最も低く、60代で76.7%と最も高い（図63）。

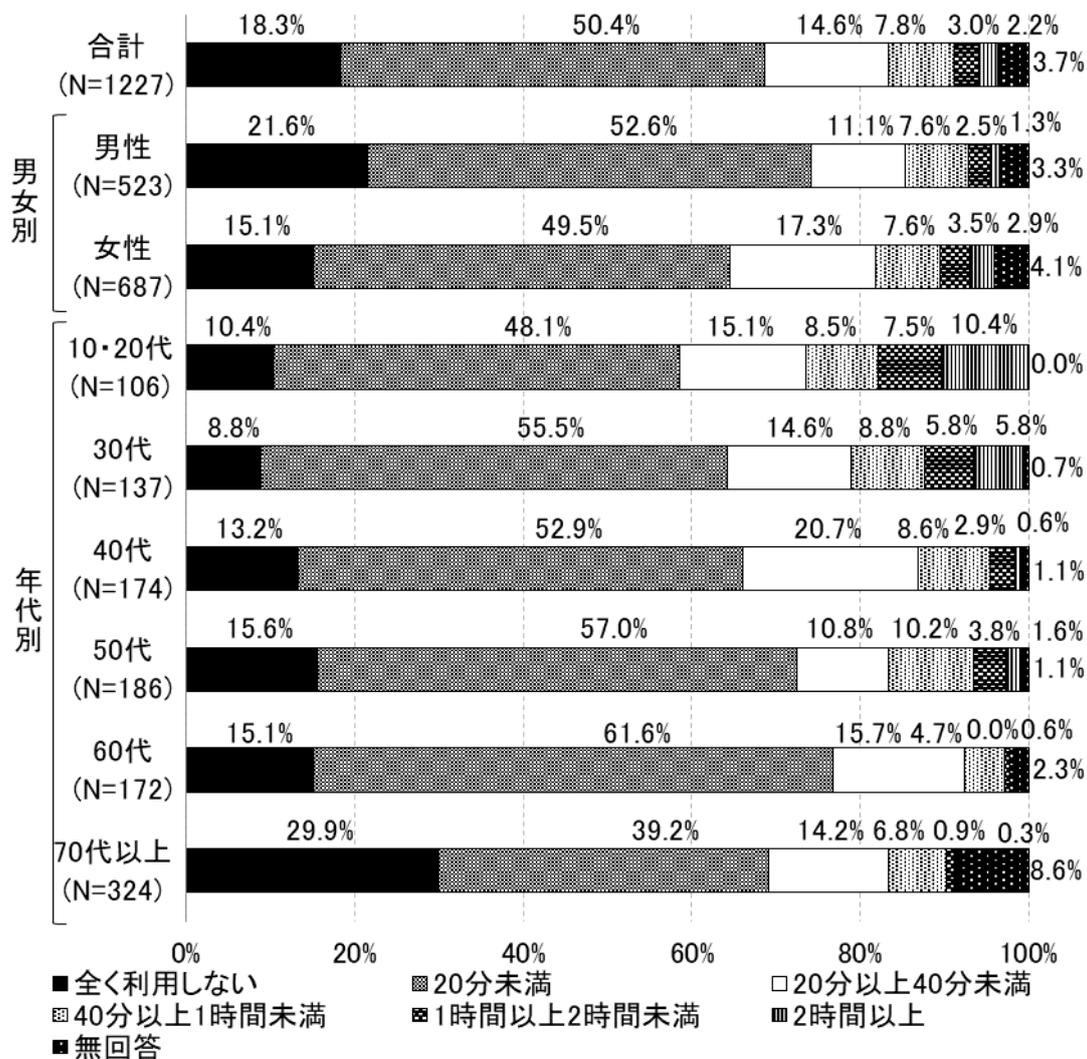
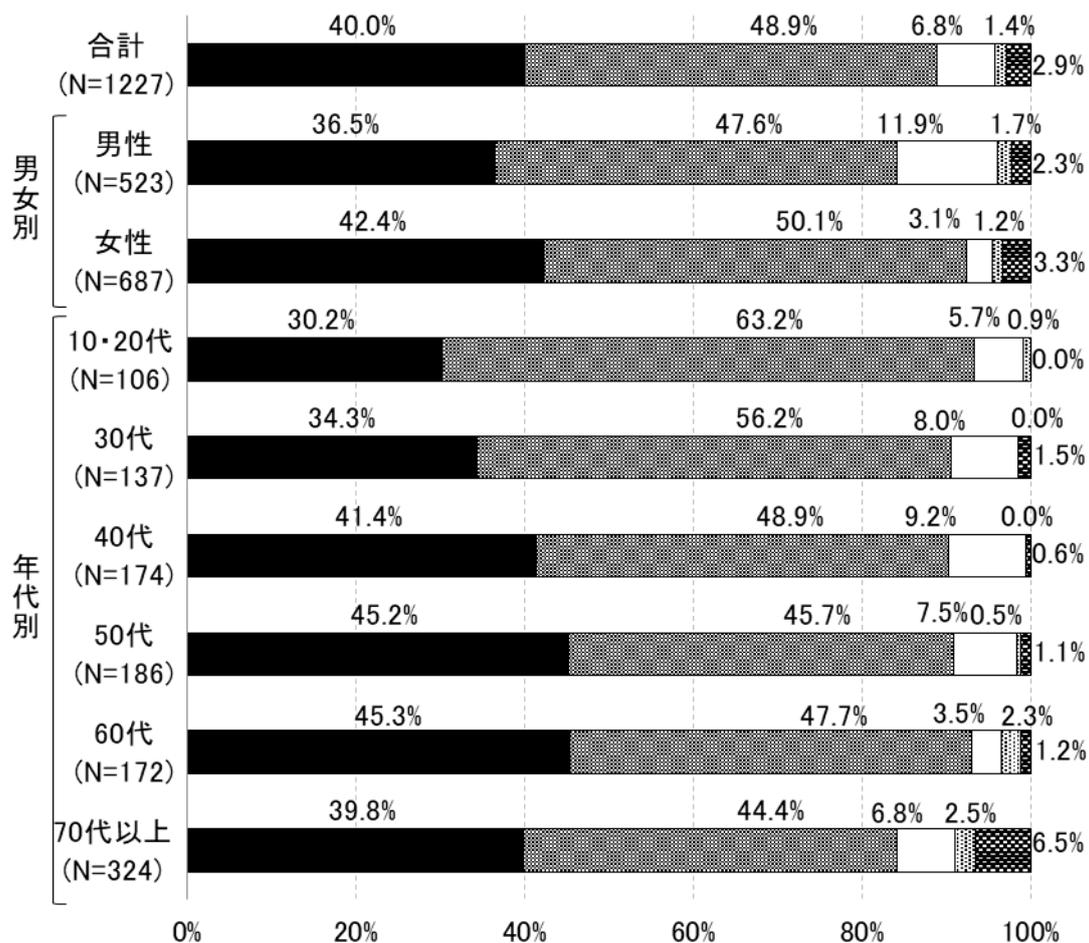


図 63 Q19E 情報源への接触時間：友人・知人の情報

Q20 のインターネットの普及による情報の機密性不安に関して、男女別・年代別のすべての層で「とても不安である」または「ある程度不安である」と回答した人の割合が 8 割以上である。年代別で見ると、「とても不安である」または「ある程度不安である」と回答した人の割合は、70 代以上で 84.2%と最も低い。反対に、10・20 代以上で 93.4%と最も高い（図 64）。



■とても不安である ■ある程度不安である □あまり不安でない ■全く不安でない ■無回答

図 64 Q20 インターネットの普及による情報の機密性不安

Q21 のインターネットの利用時間に関して、年代別で見ると、「全く利用しない」または「30分未満」と回答した人の割合は70代以上で64.6%と最も高い。反対に10・20代が7.6%と最も低い（図65）。

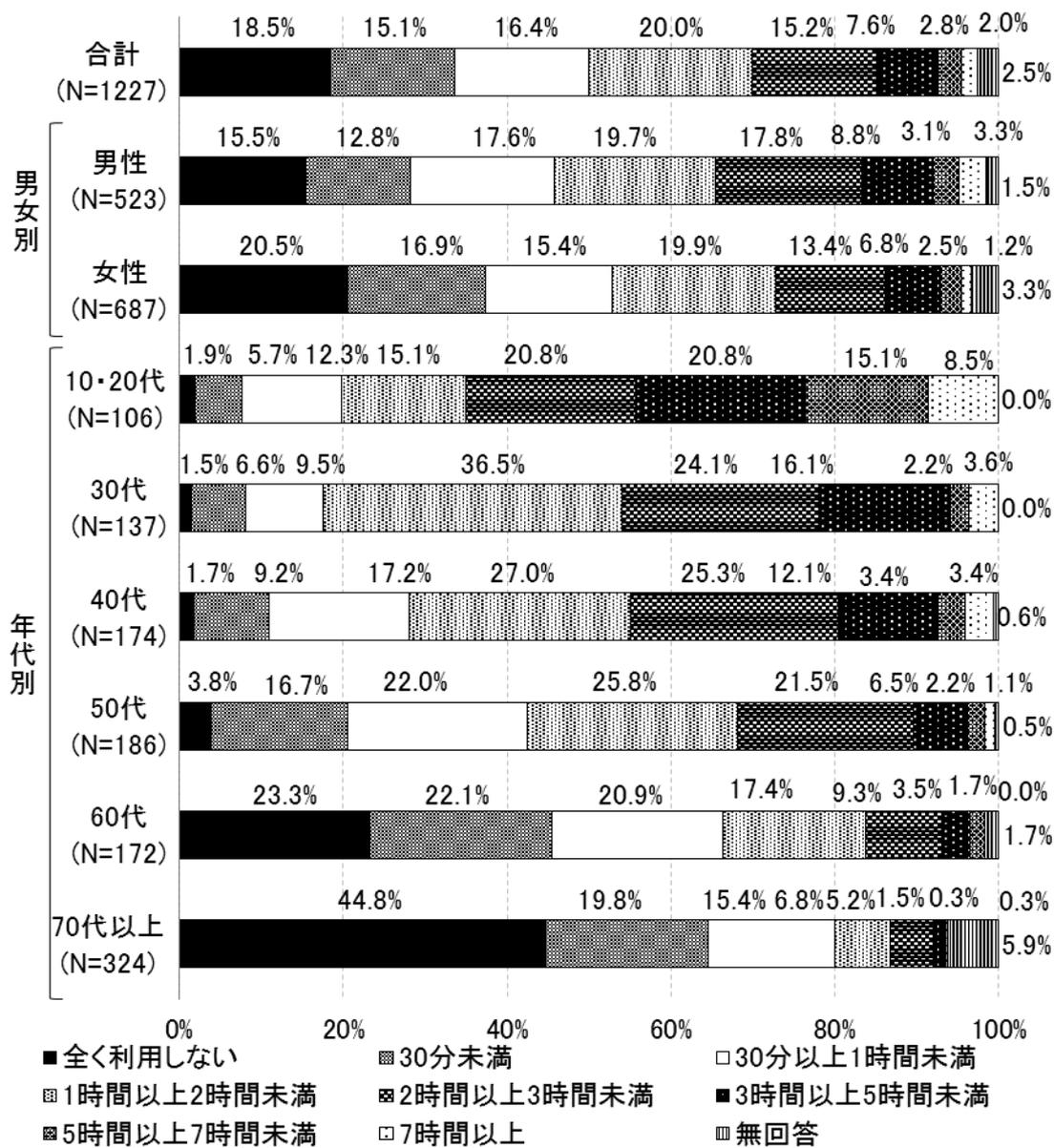


図 65 Q21 インターネットの利用時間

Q22 の精神的健康に関して、年代別で見ると「良い」または「まあまあ良い」と回答した人の割合は 60 代が 84.9%と最も高い。反対に 10・20 代が 77.3%と最も低い（図 66）。

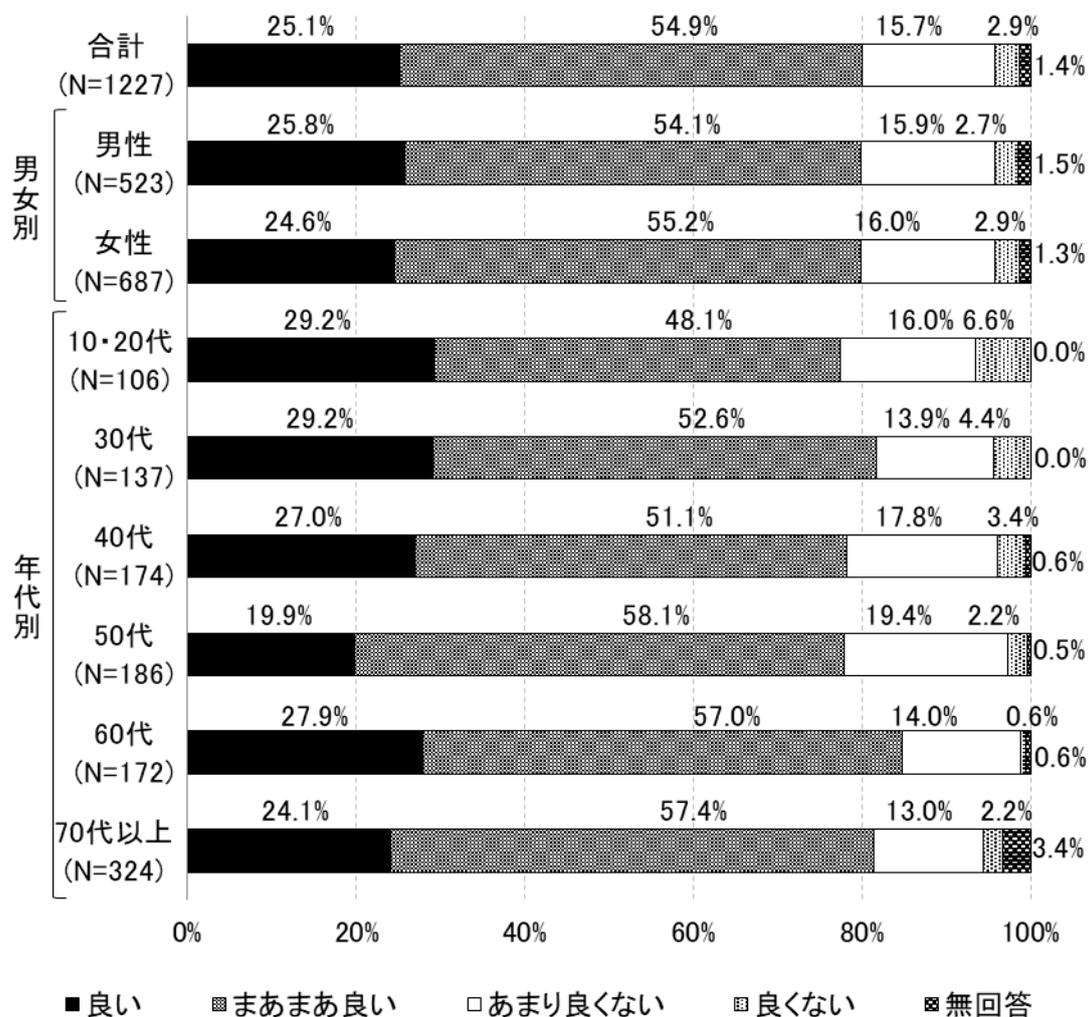


図 66 Q22 精神的健康

Q23 の身体的健康に関して、年代別で見ると「良い」または「まあまあ良い」と回答した人の割合は70代以上が72.6%と最も低い。反対に30代が85.4%と最も高い(図67)。

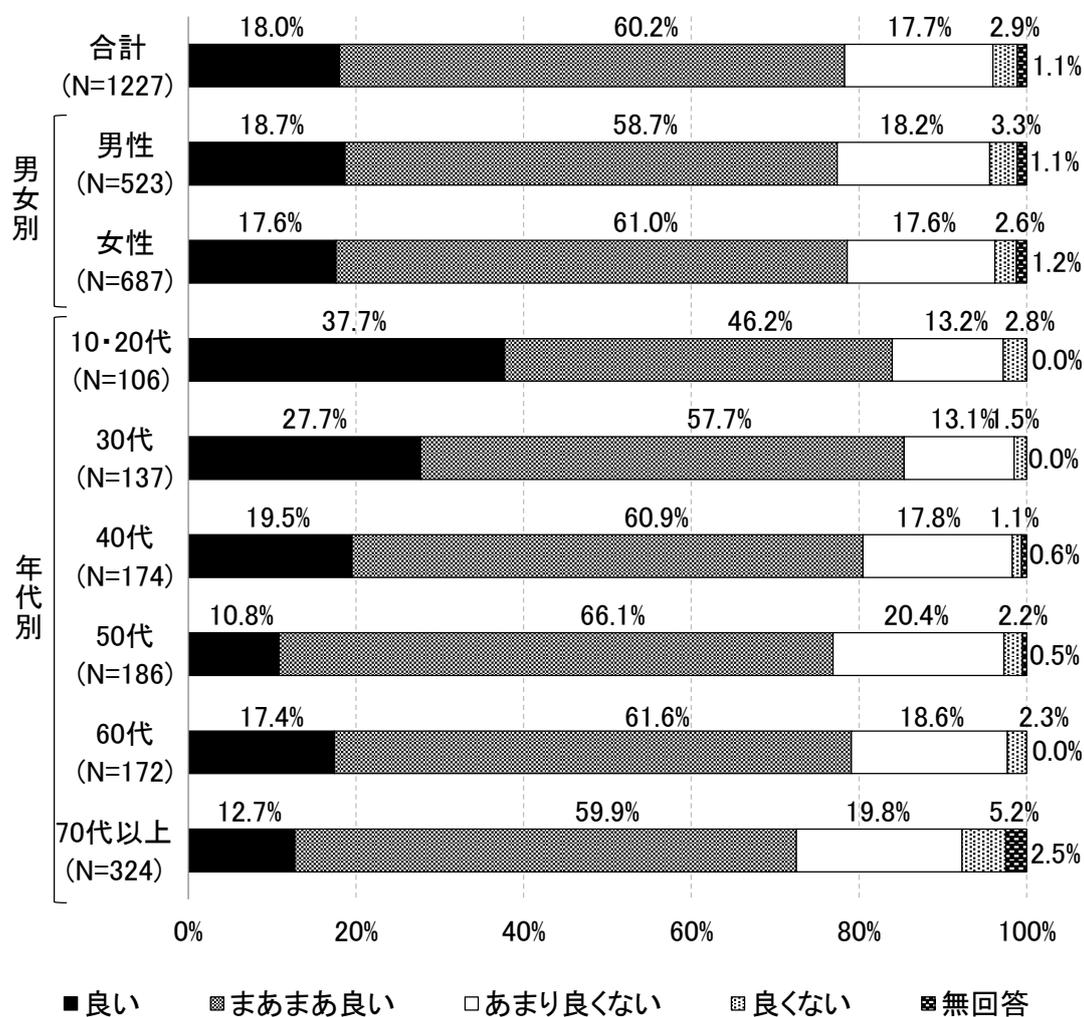


図 67 Q23 身体的健康

Q24 の自覚症状に関して、「目の疲れ」が 48.0%と最も高く、「首・肩のこり」が 47.3%と続く（図 68）。

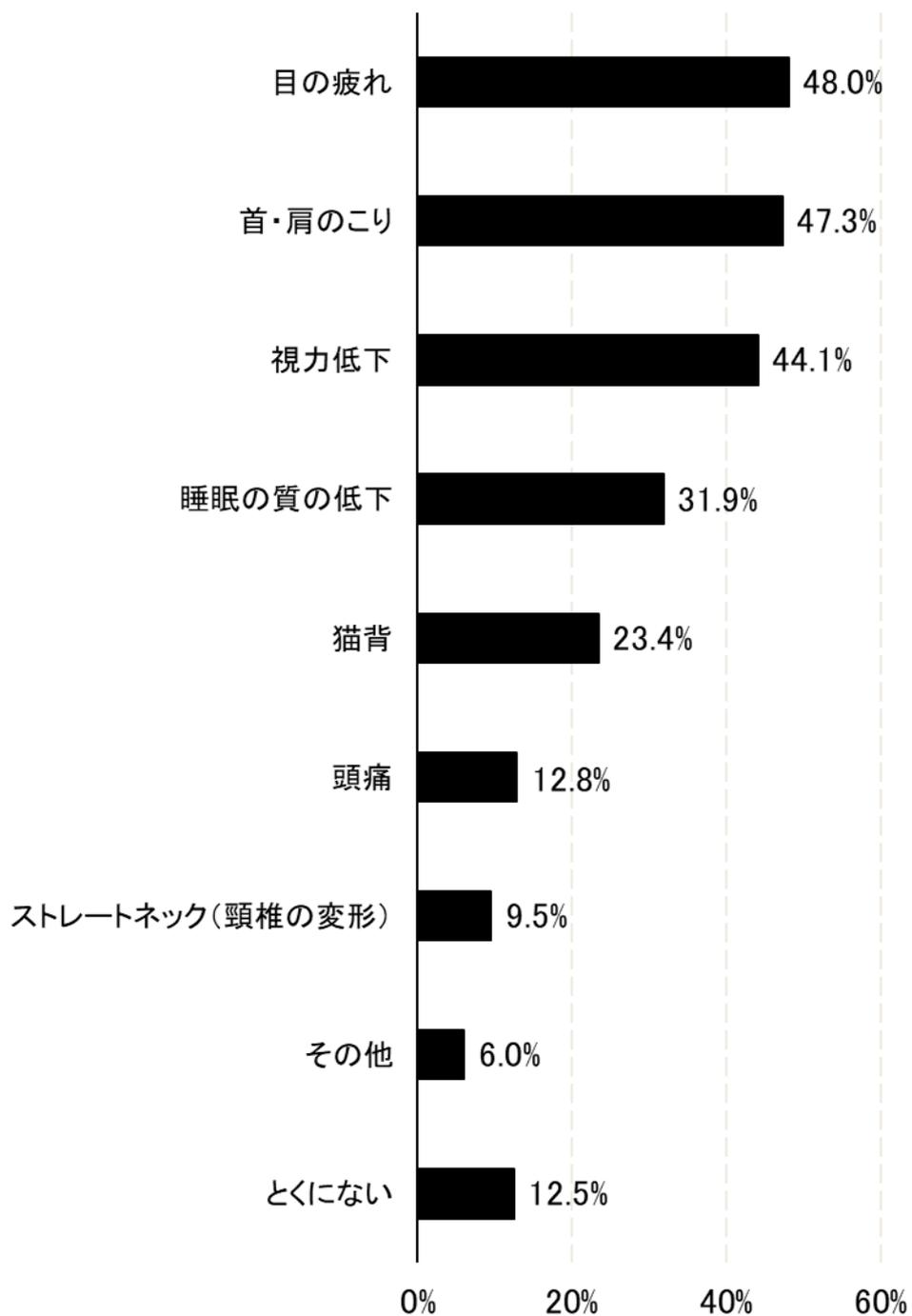


図 68 Q24 自覚症状（複数回答・全体 N=1227）

Q24の自覚症状に関して、男女別で見ると、「首・肩のこり」は男女で差があり、男性よりも女性の方が14.1ポイント高い（図69）。

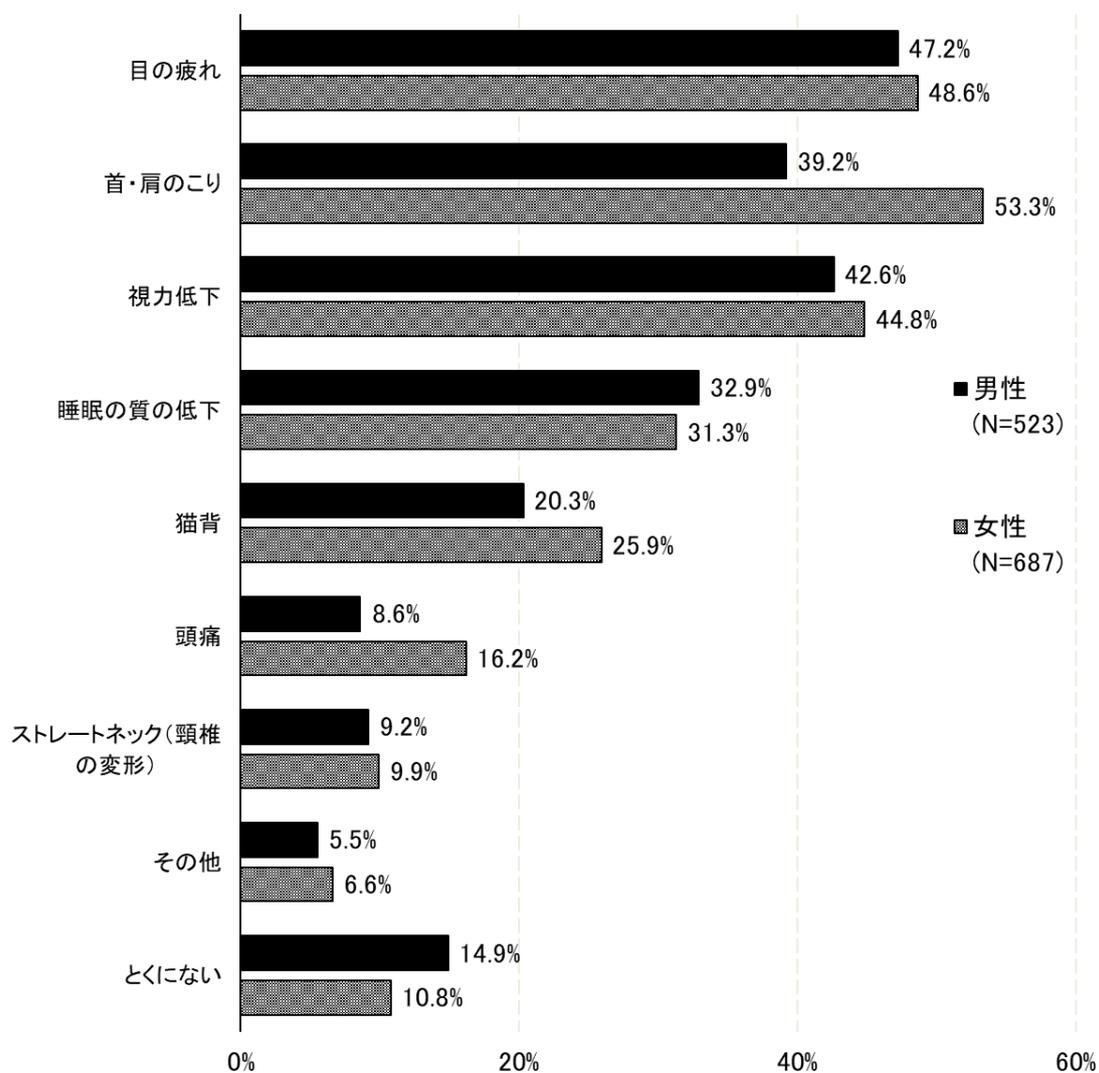


図 69 Q24 自覚症状（複数回答・男女別）

Q24の自覚症状に関して、年代別で見ると、「目の疲れ」への回答の割合は、10・20代で52.8%と最も高い。一方で、「首・肩のこり」に関して、30代で67.2%と最も高い(図70)。

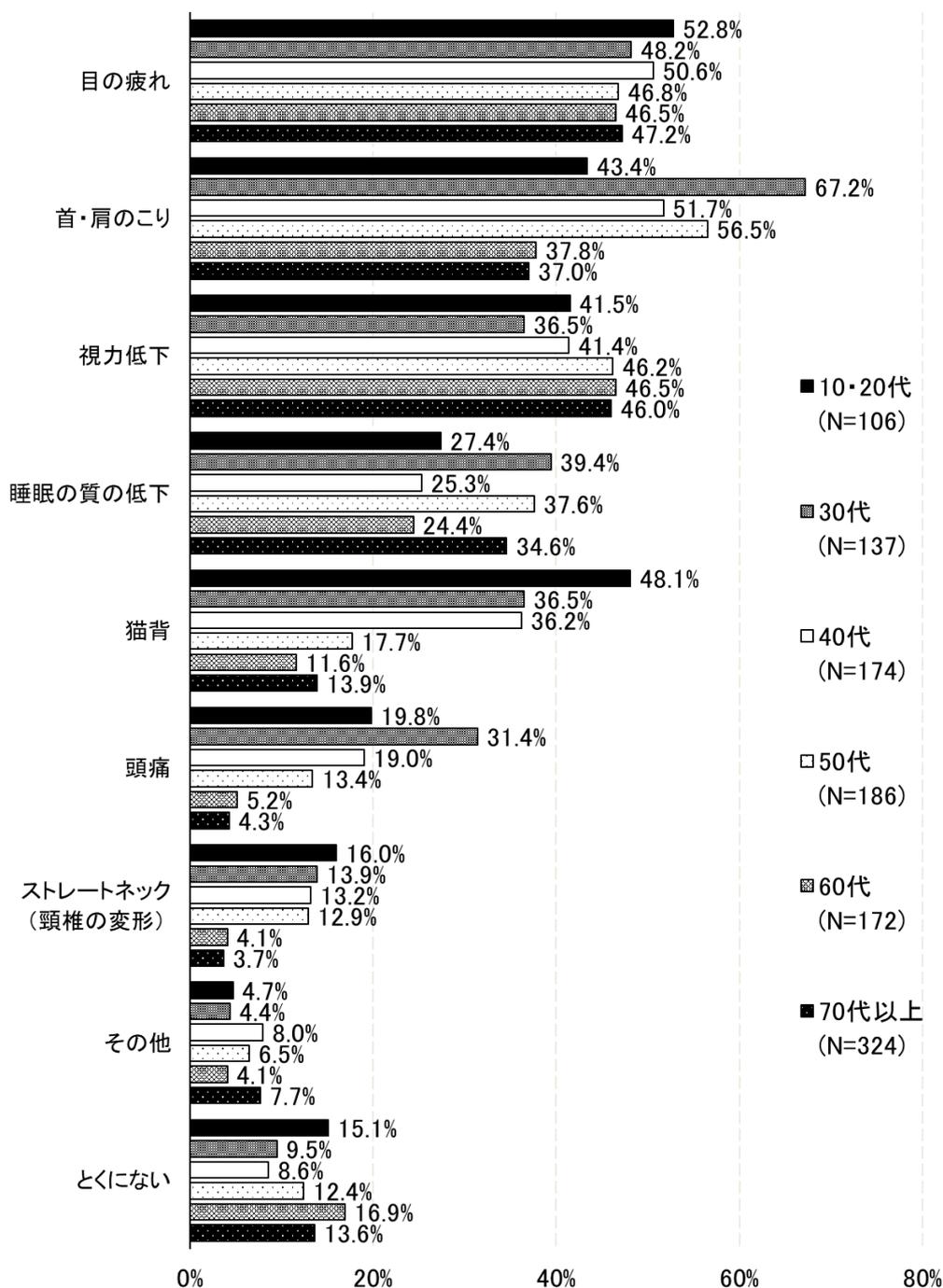


図70 Q24 自覚症状(複数回答・年代別)

Q25A～Fの質問項目は、心理的ストレスを含む精神的な健康の程度を表す K6 と呼ばれる指標を用いている。

Q25Aの精神的健康（K6）：神経過敏に感じたに関して、男女別・年代別のすべての層で「全くない」と回答した人の割合が4割以上である。年代別で見ると「全くない」と回答した人の割合は50代が44.1%と最も低い。反対に、10・20代が62.3%と最も高い（図71）。

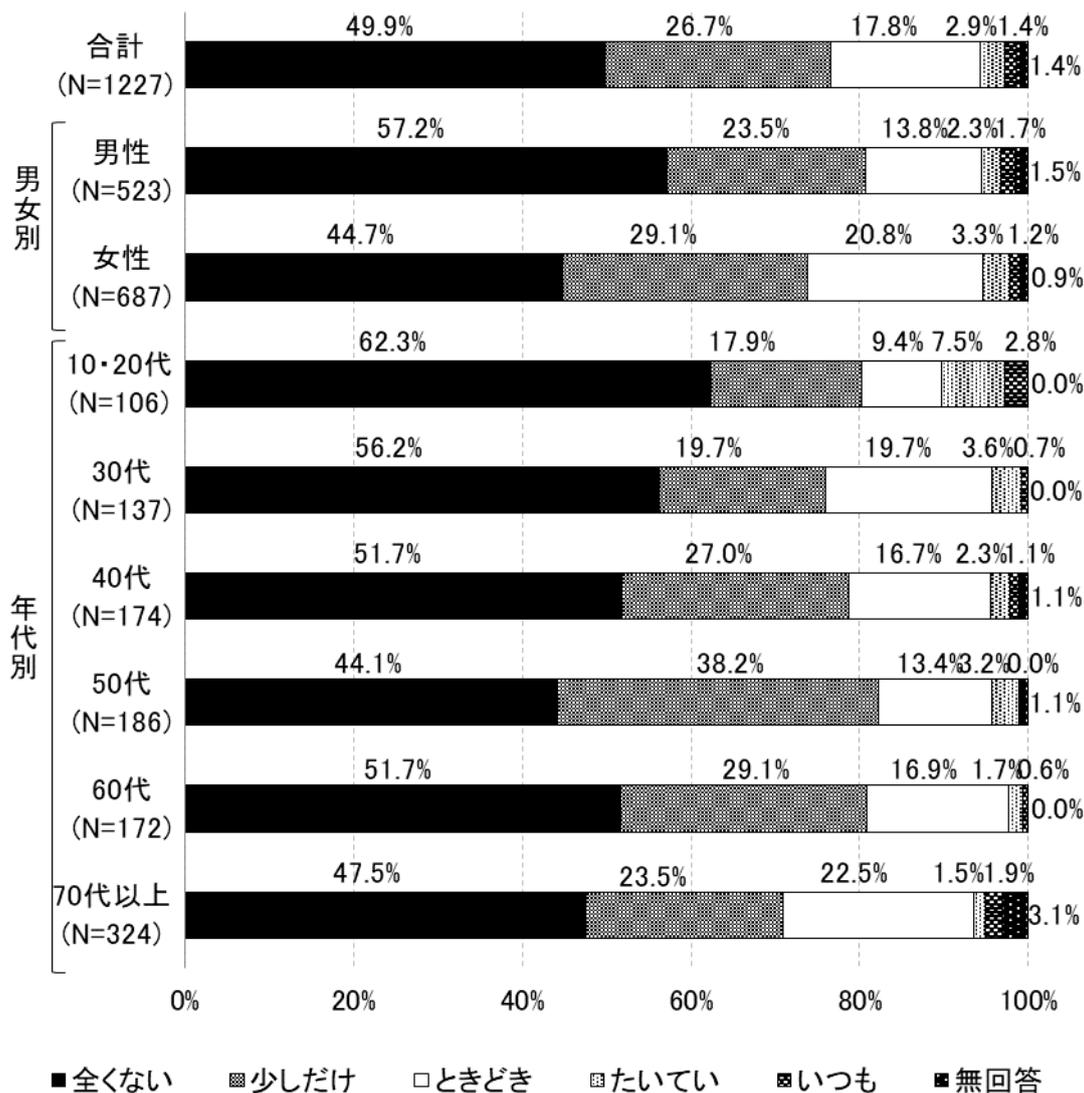


図 71 Q25A 精神的健康（K6）：神経過敏に感じた

Q25Bの精神的健康（K6）：絶望的だと感じたに関して、男女別・年代別のすべての層で「全くない」と回答した人の割合が5割以上である。年代別で見ると「全くない」と回答した人の割合は10・20代が54.7%と最も低い。反対に、60代が78.5%と最も高い（図72）。

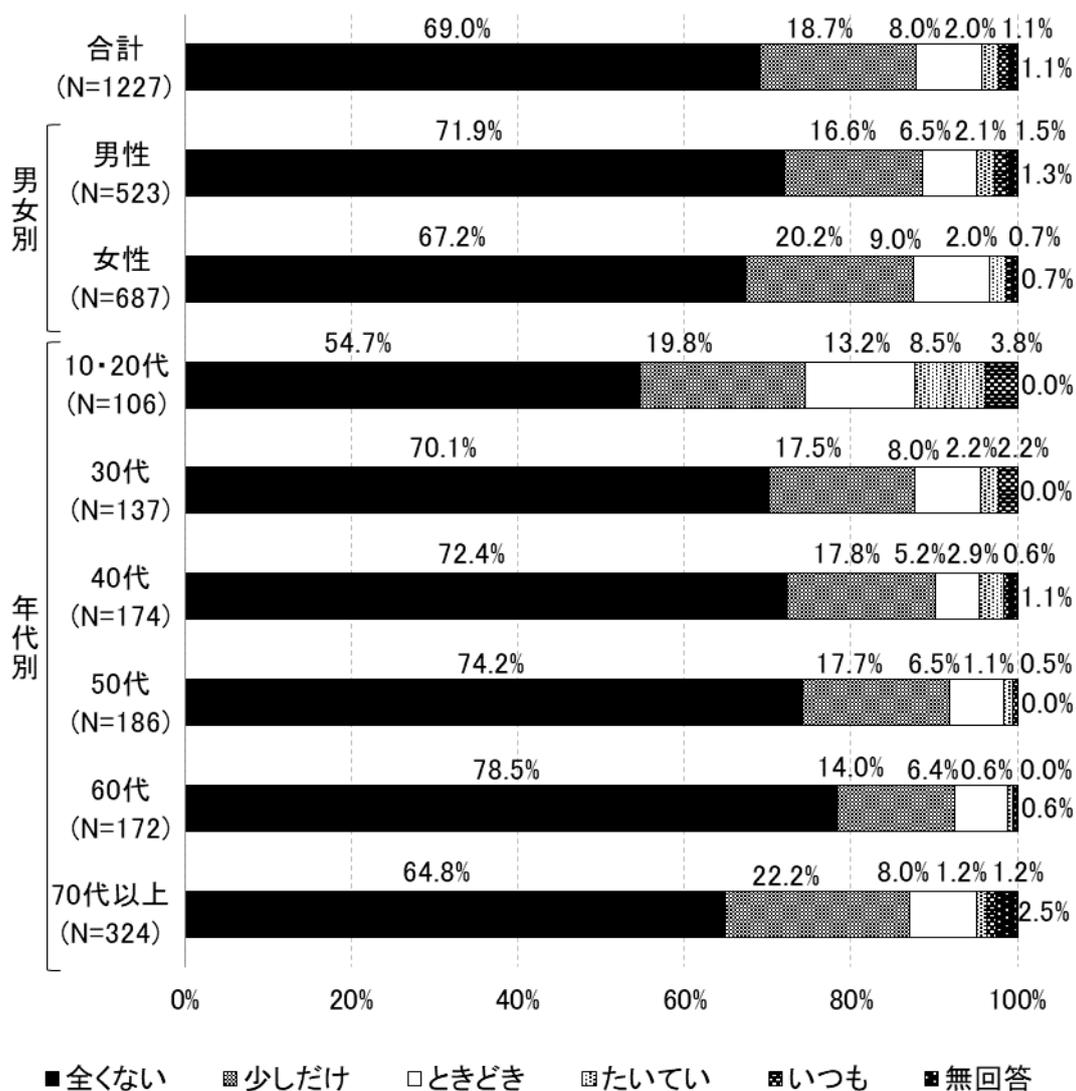


図72 Q25B 精神的健康（K6）：絶望的だと感じた

Q25C の精神的健康 (K6) : そわそわ、落ち着かなく感じたに関して、男女別・年代別のすべての層で「全くない」と回答した人の割合が 5 割以上である。年代別で見ると「全くない」と回答した人の割合は 30 代が 51.1%と最も低い。反対に、60 代が 64.0%と最も高い (図 73)。

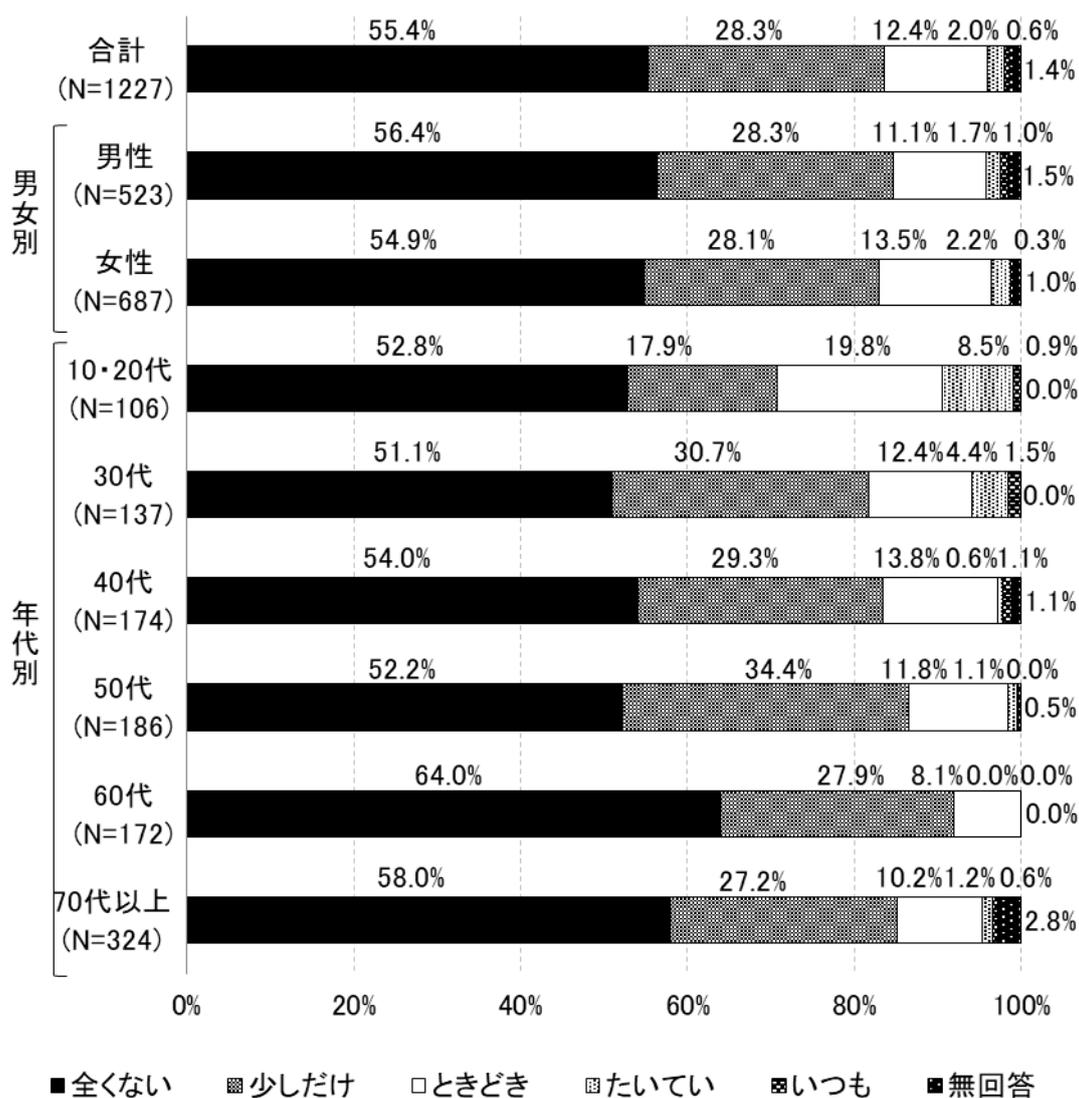


図 73 Q25C 精神的健康 (K6) : そわそわ、落ち着かなく感じた

Q25Dの精神的健康(K6)：気分が沈みこんで、何が起ころうとも気が晴れないように感じたに関して、男女別・年代別のすべての層で「全くない」と回答した人の割合が4割以上である。年代別で見ると「全くない」と回答した人の割合は10・20代と30代で45.3%と最も低い。反対に、60代が60.5%と最も高い(図74)。

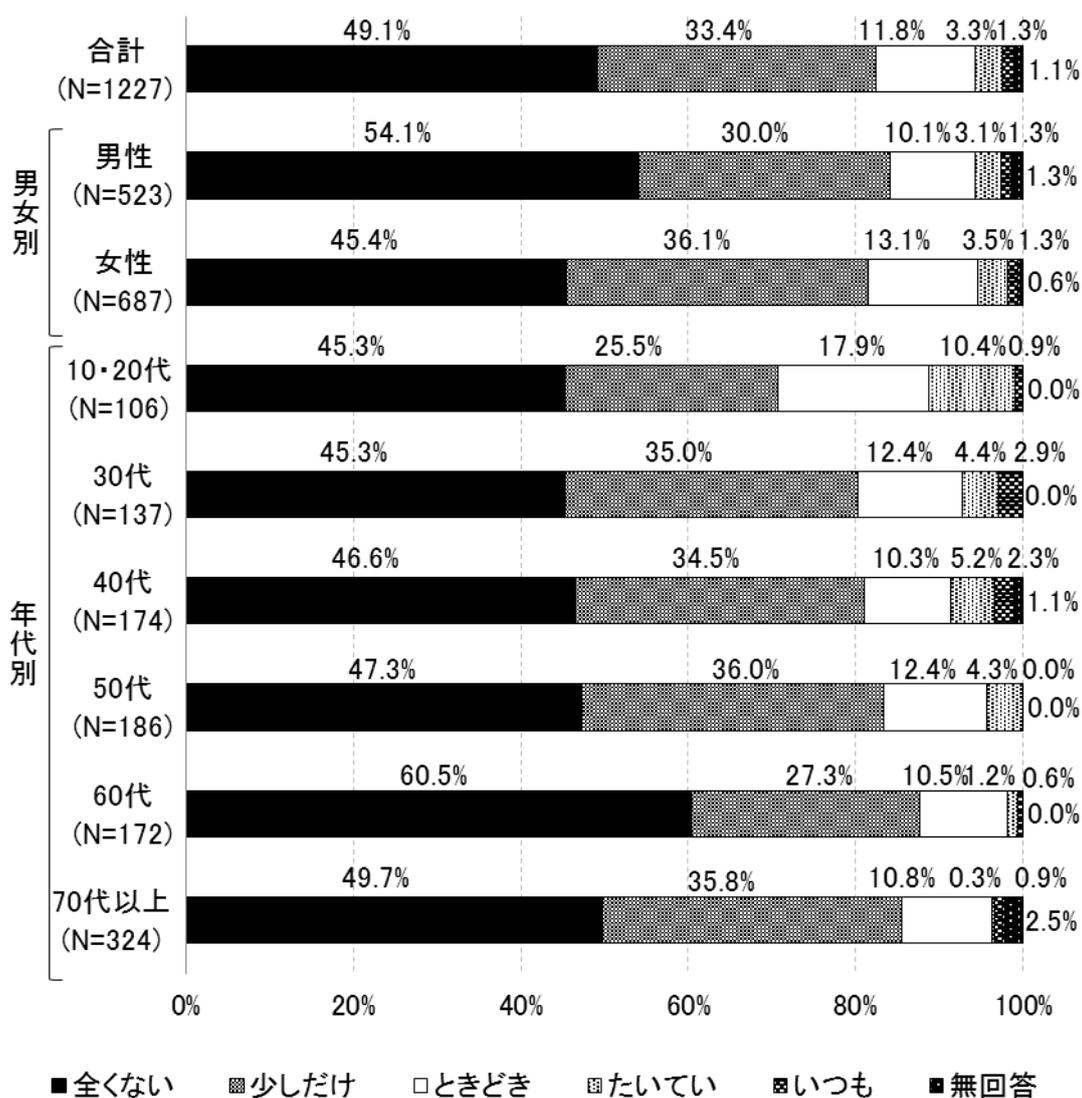


図74 Q25D 精神的健康(K6)：気分が沈みこんで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた

Q25E の精神的健康 (K6) : 何をするのも骨折りだと感じたに関して、年代別で見ると「全くない」と回答した人の割合は 50 代が 39.2%と最も低い。反対に、10・20 代が 53.8%と最も高い (図 75)。

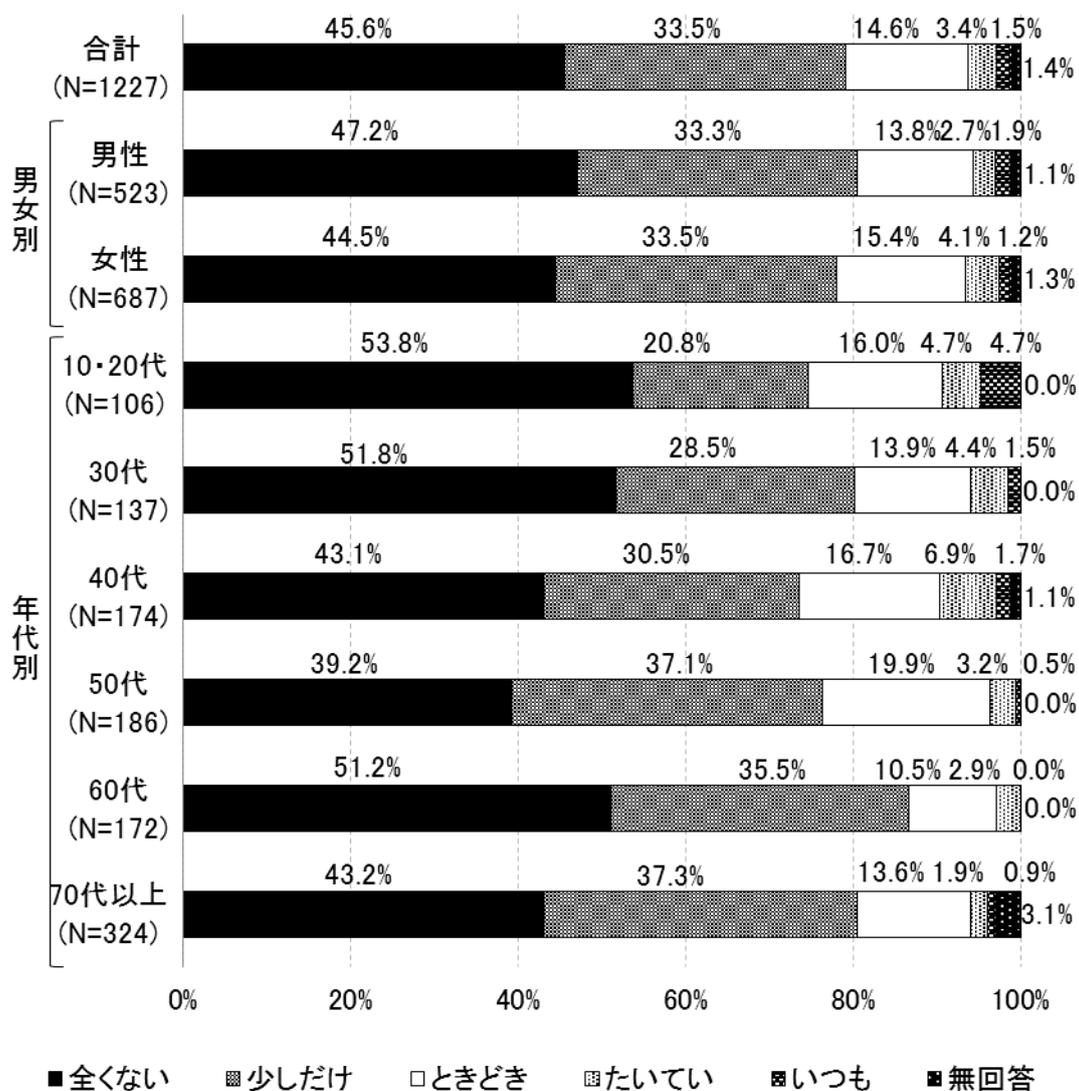


図 75 Q25E 精神的健康 (K6) : 何をするのも骨折りだと感じた

Q25Fの精神的健康（K6）：自分は価値のない人間だと感じたに関して、男女別・年代別のすべての層で「全くない」と回答した人の割合が6割以上である。年代別で見ると「全くない」と回答した人の割合は10・20代と50代が61.3%と最も低い。反対に、60代が70.9%と最も高い（図76）。

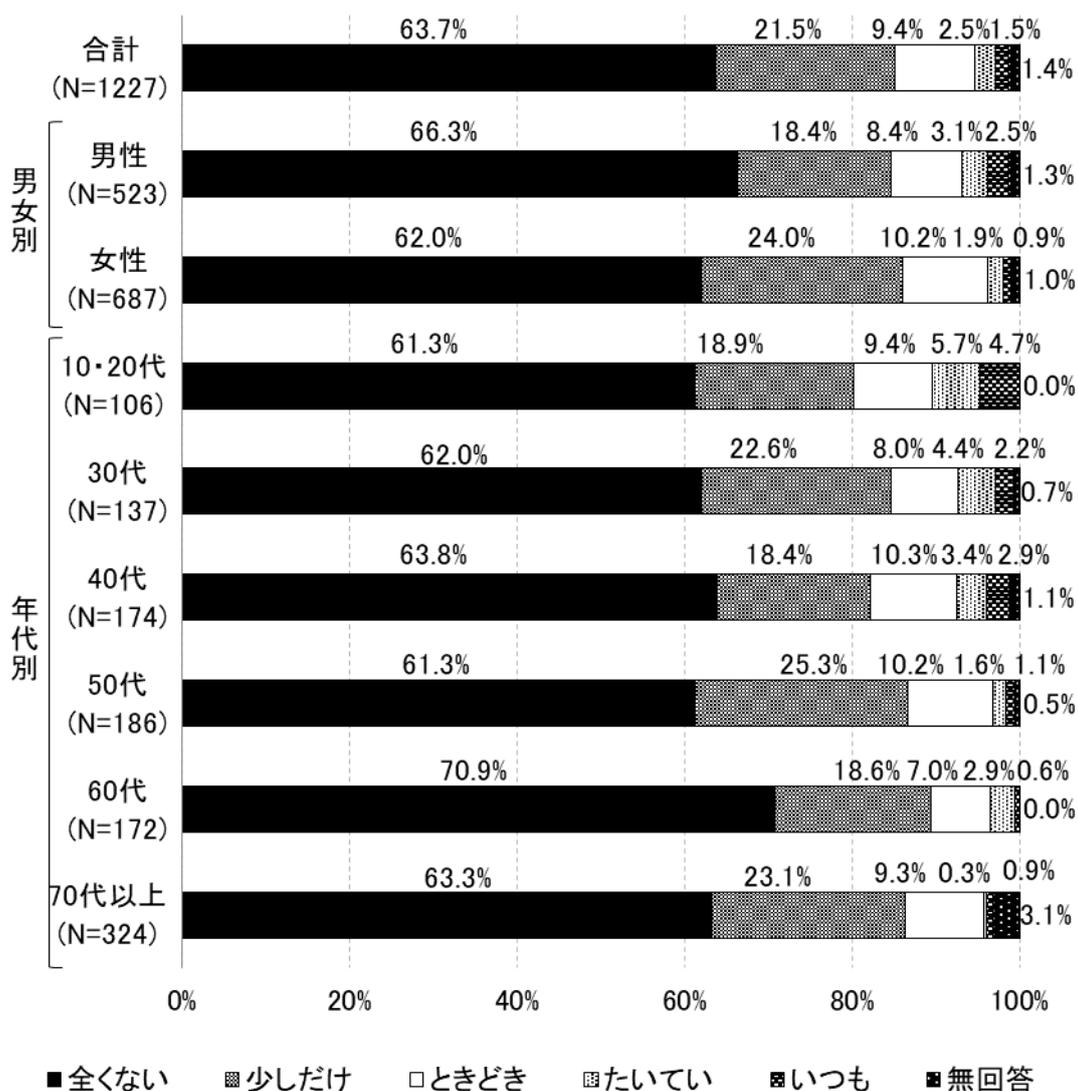


図76 Q25F 精神的健康（K6）：自分は価値のない人間だと感じた

Q26 の年間の自殺者数の認知度に関して、男女別・年代別のすべての層で「知っている」と回答した人の割合が 5 割以上である。年代別で見ると「知っている」と回答した人の割合は 10・20 代が 58.5%と最も低い。反対に、60 代が 76.7%と最も高い（図 77）。

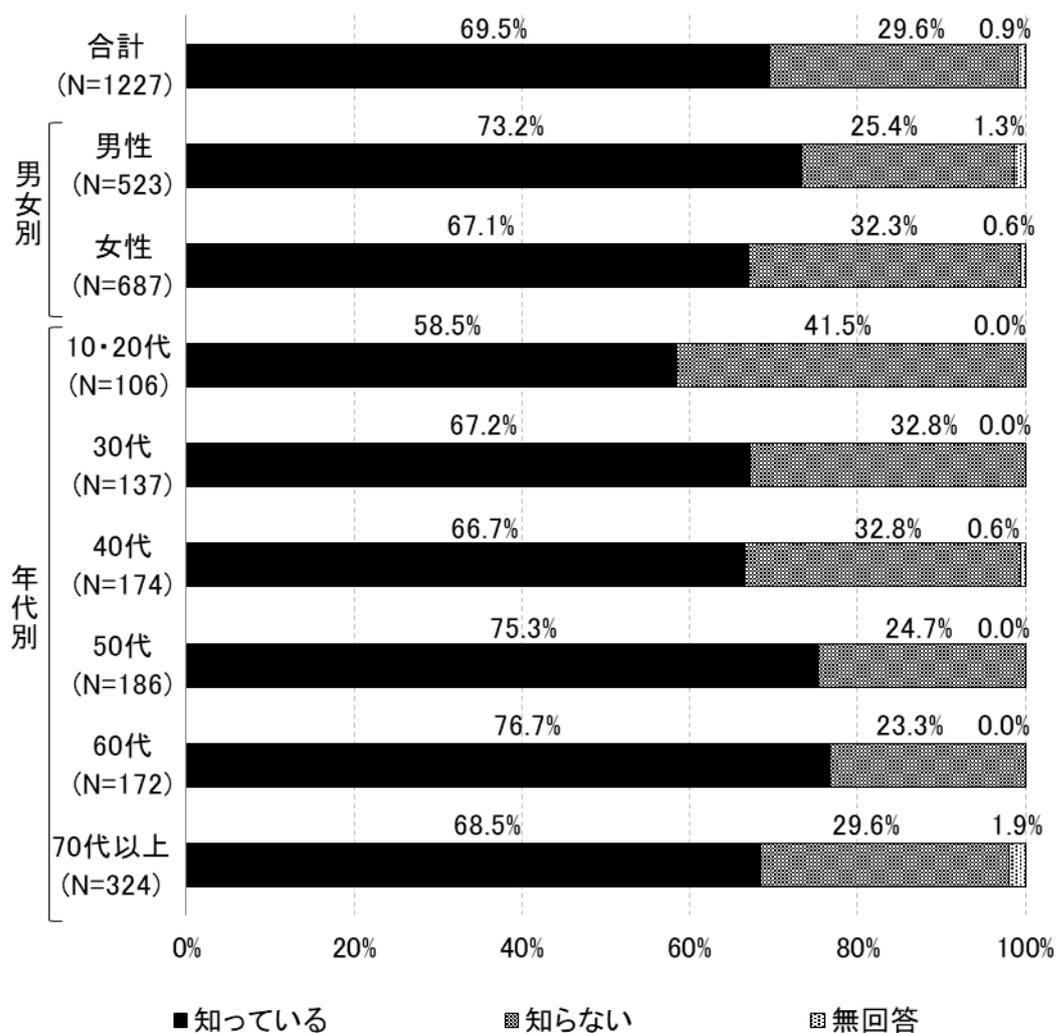


図 77 Q26 年間の自殺者数の認知度

Q27 の自殺について相談できる機関を知っていたかに関して、男女別・年代別のすべての層で「知っている」と回答した人の割合が 5 割以上である。年代別で見ると「知っている」と回答した人の割合は 10・20 代が 82.1%と最も高い。反対に、70 代以上が 57.4%と最も低い（図 78）。

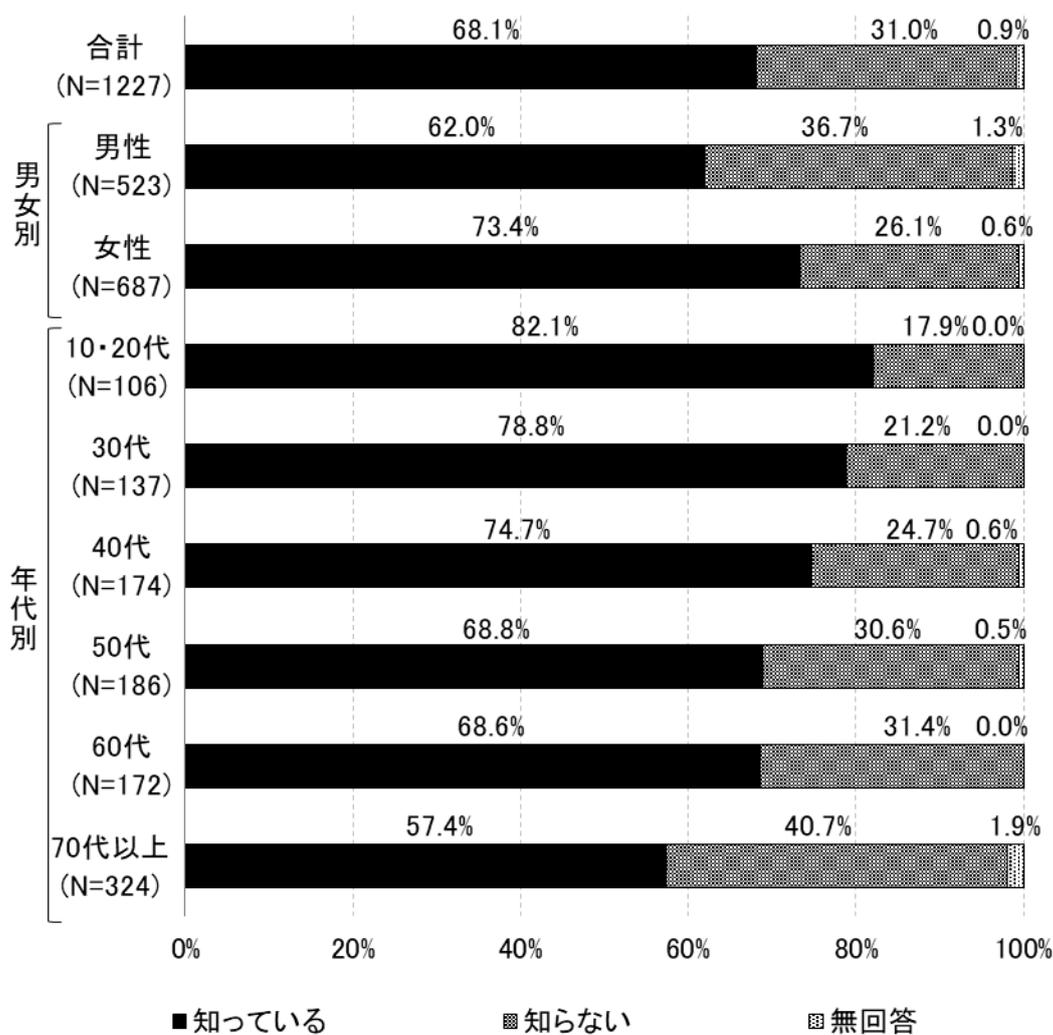


図 78 Q27 自殺について相談できる機関を知っていたか

Q28 の自殺したいと思ったことがあるかに関して、男女別・年代別のすべての層で「ない」と回答した人の割合は7割以上である。年代別で見ると「ある」と回答した人の割合は10・20代が21.7%と最も高い。反対に70代以上が9.6%と最も低い（図79）。

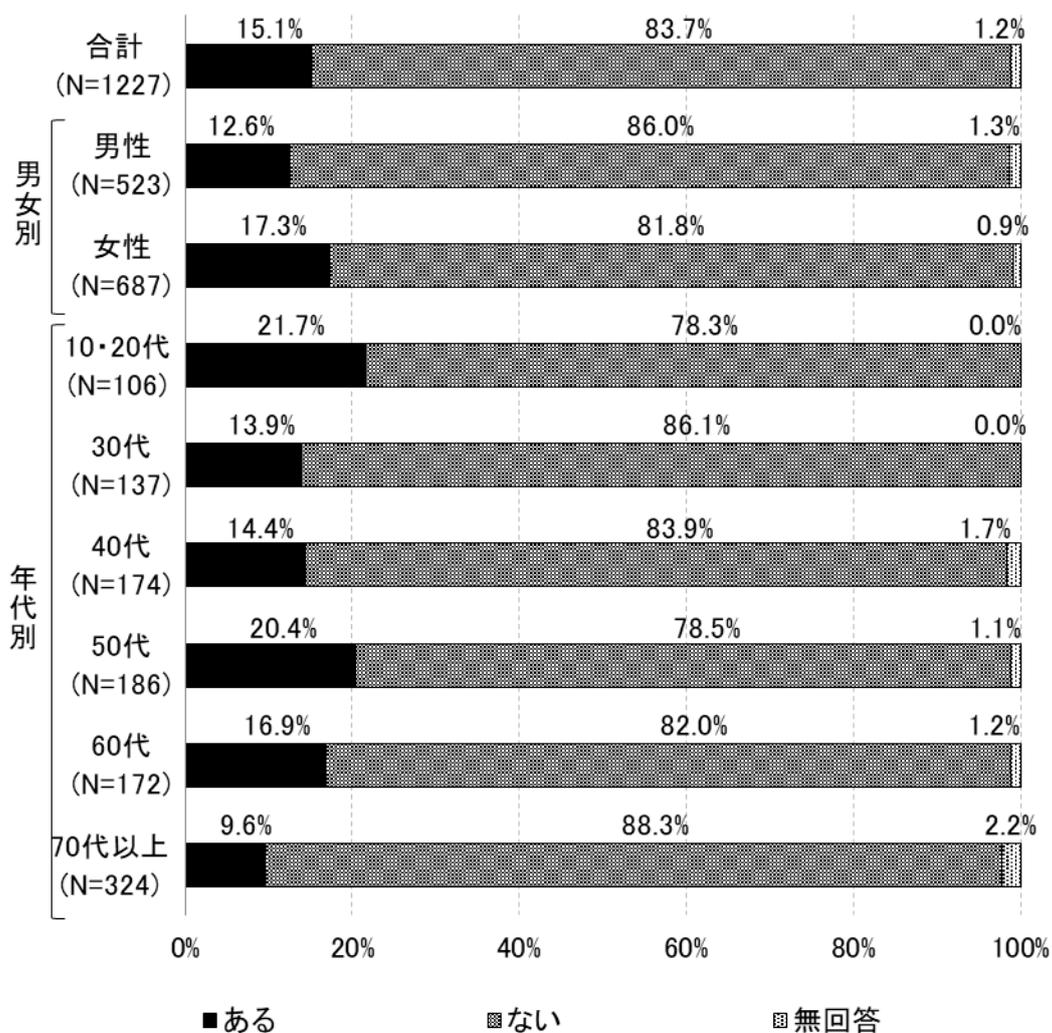


図79 Q28 自殺したいと思ったことがあるか

Q29 打ち明けられた時の対応に関して、「耳を傾けて聞く」と回答した人の割合が 58.4%と最も高く、「共感を示す」と回答した人の割合が 41.4%と続く（図 80）。

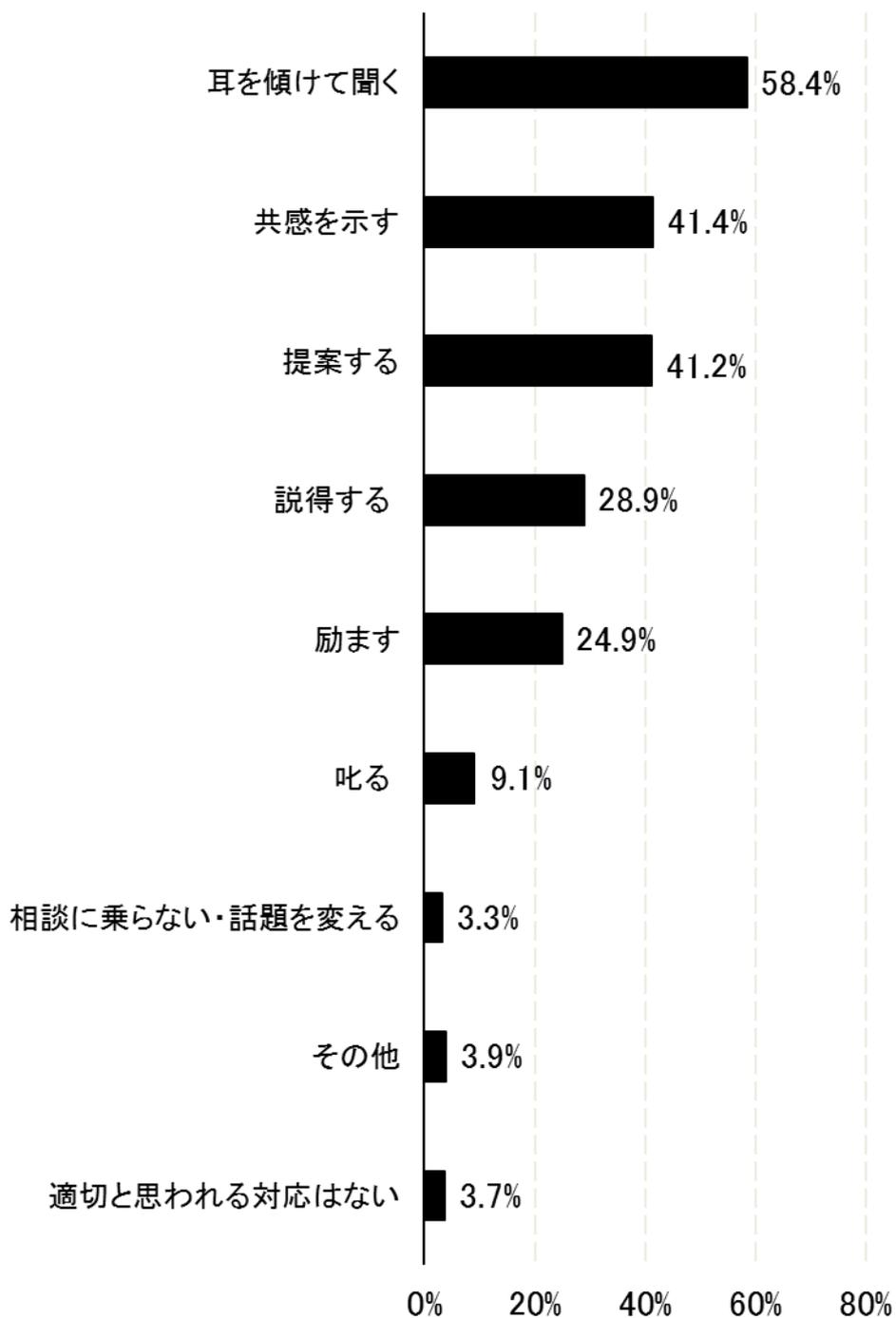


図 80 Q29 打ち明けられた時の対応（複数回答・全体 N=1227）

Q29 の打ち明けられた時の対応に関して、男女別で見ると、「耳を傾けて聞く」は男女で差があり、男性よりも女性の方が 17.1 ポイント高い（図 81）。

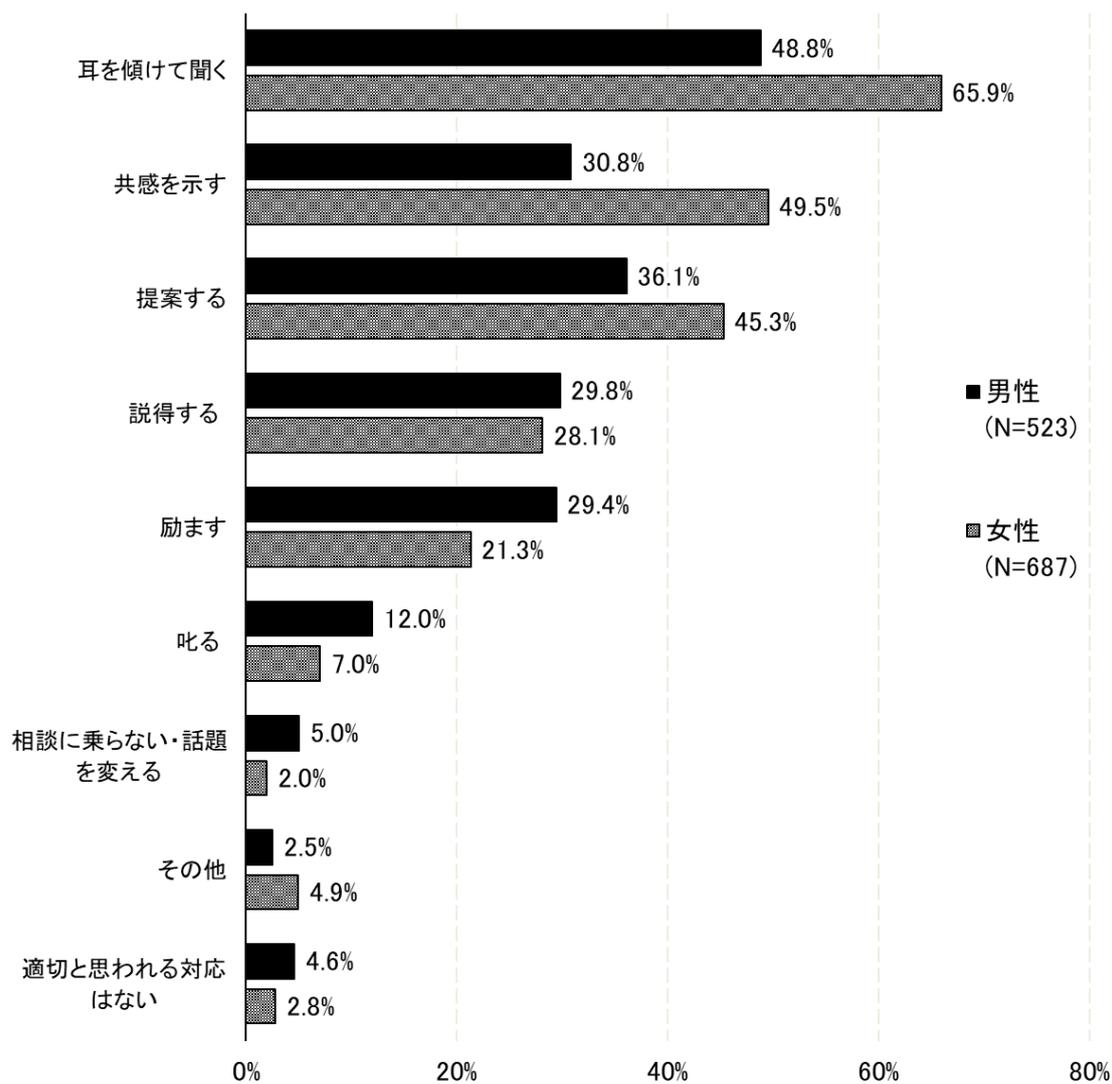


図 81 Q29 打ち明けられた時の対応（複数回答・男女別）

Q29 の打ち明けられた時の対応に関して、年代別で見ると、「耳を傾けて聞く」に関しては、30代が75.9%と最も高い。反対に、70代以上が43.5%と最も低い（図82）。

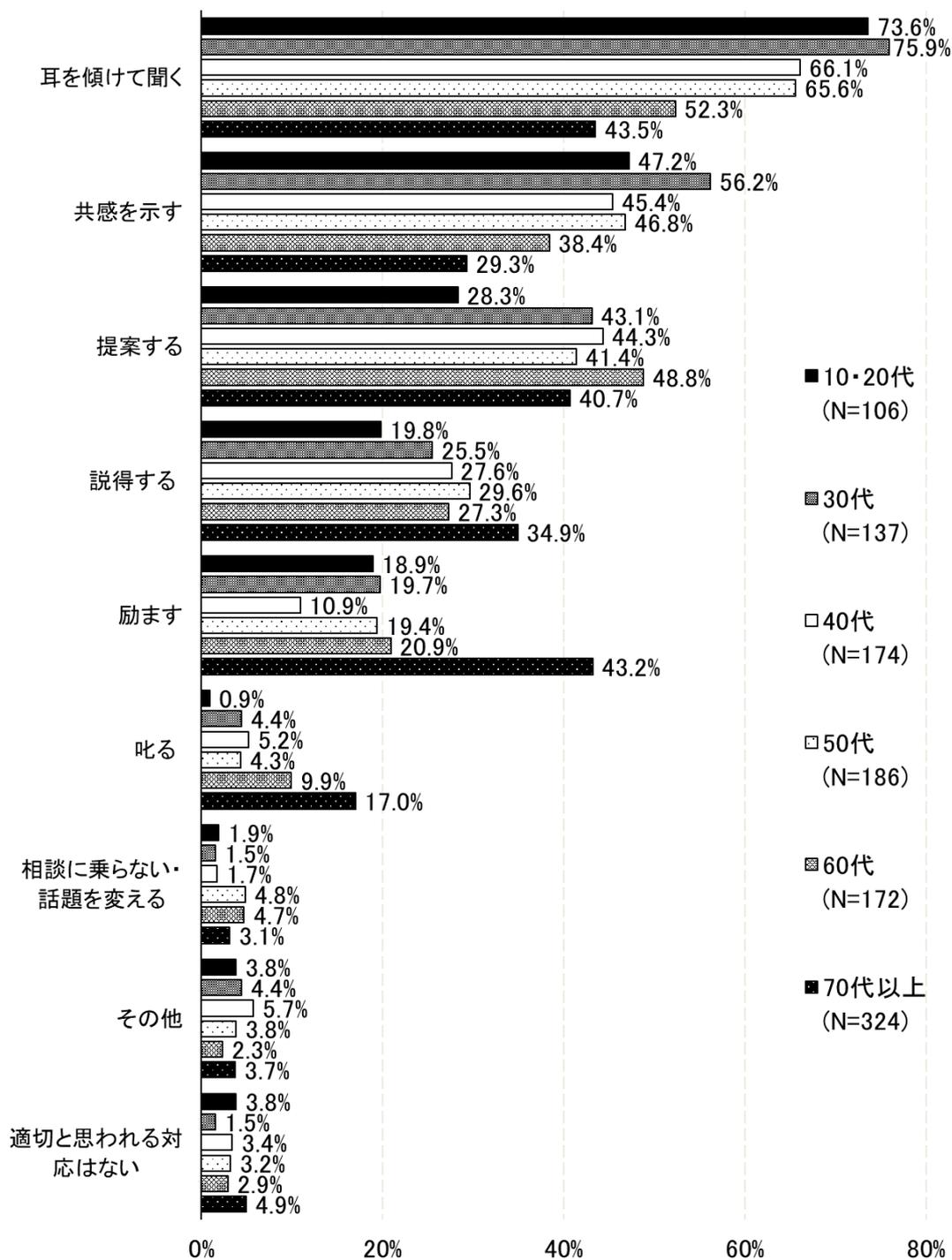


図 82 Q29 打ち明けられた時の対応（複数回答・年代別）

Q30 今後求められる自殺対策に関して、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」と回答した人の割合が 46.2%と最も高く、「職場におけるメンタルヘルス対策の推進」が 42.0%と続く（図 83）。

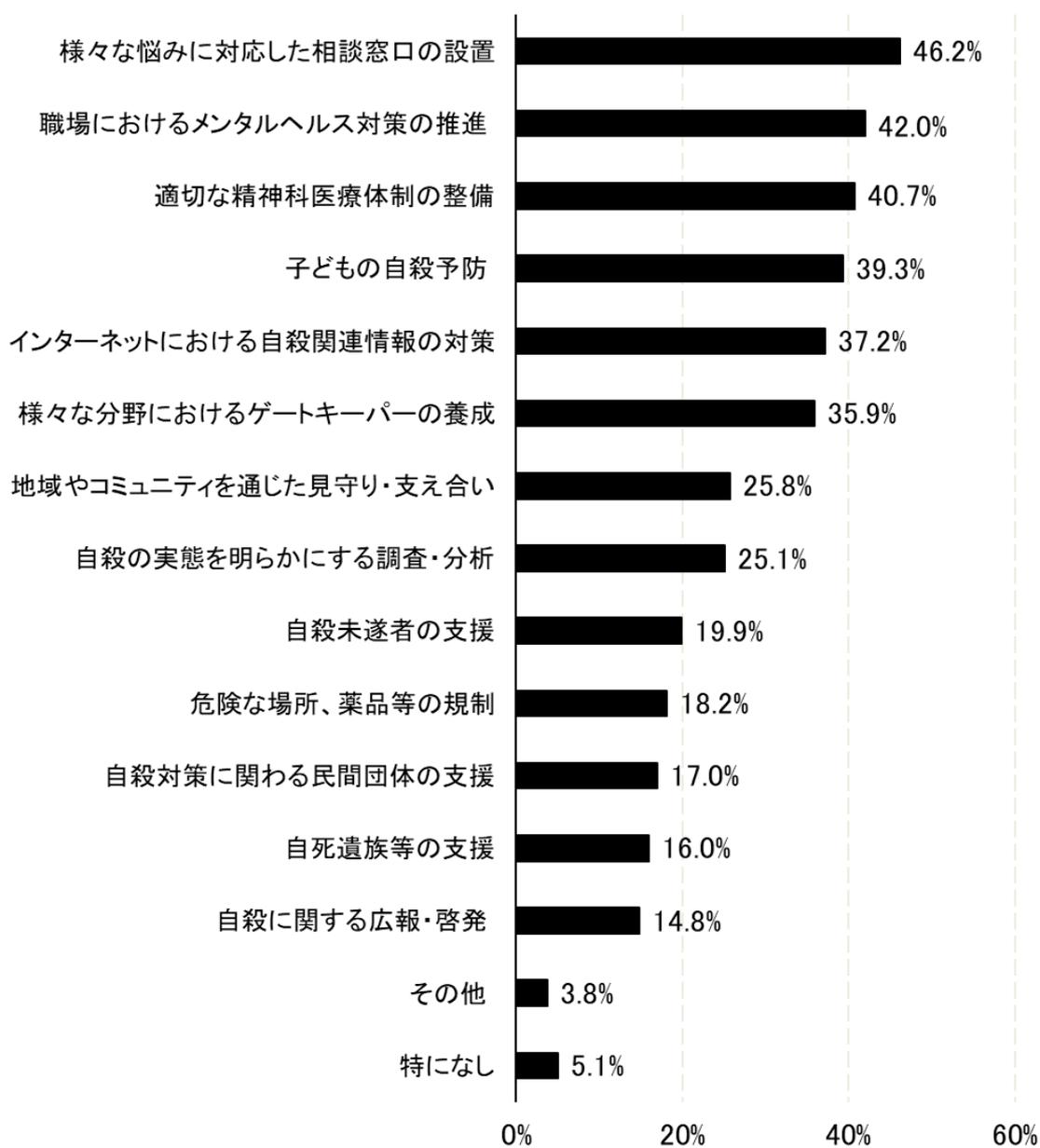


図 83 Q30 今後求められる自殺対策（複数回答・全体 N=1227）

Q30 の今後求められる自殺対策に関して、男女別で見ると、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」は男女で差があり、男性よりも女性の方が 13.1 ポイント高い（図 84）。

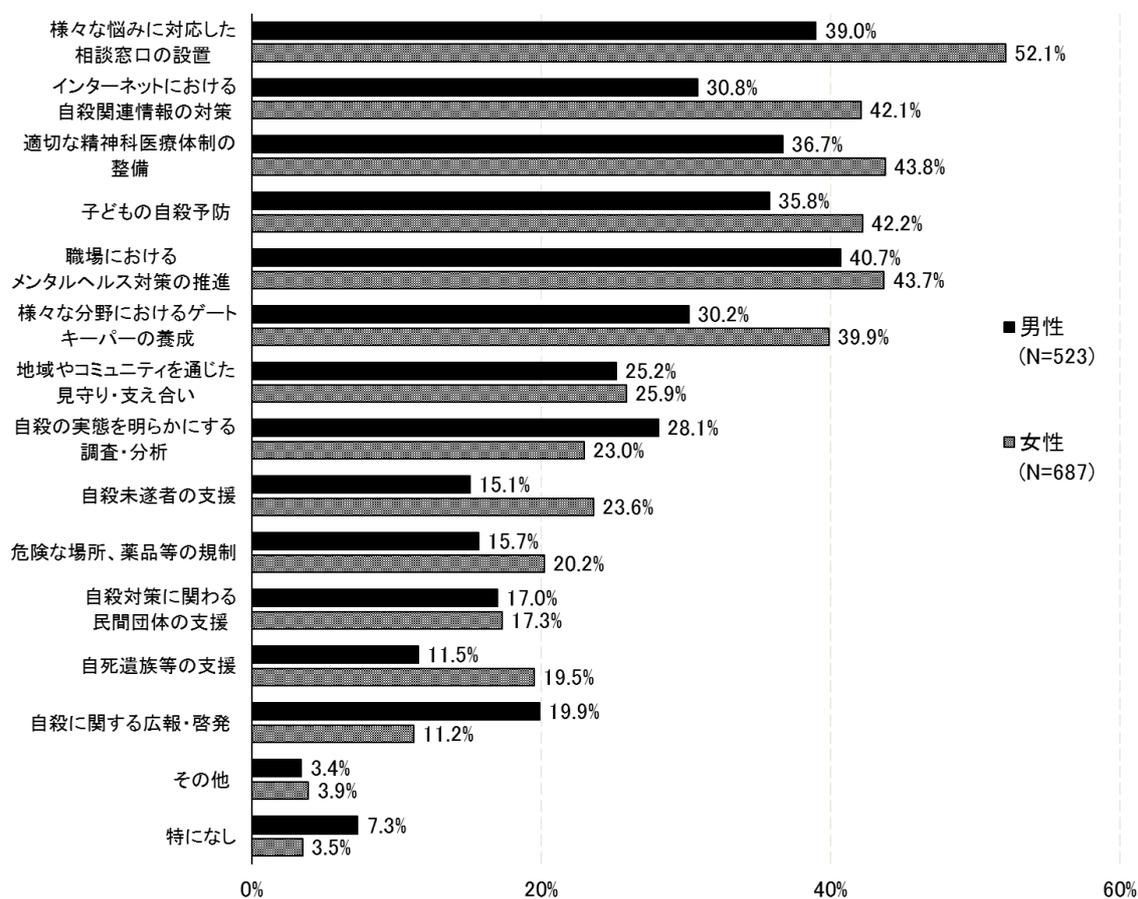


図 84 Q30 今後求められる自殺対策（複数回答・男女別）

Q30 の今後求められる自殺対策に関して、年代別で見ると、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」に関しては、10・20代が37.7%と最も低い。反対に、70代以上が52.8%と最も高い（図 85）。

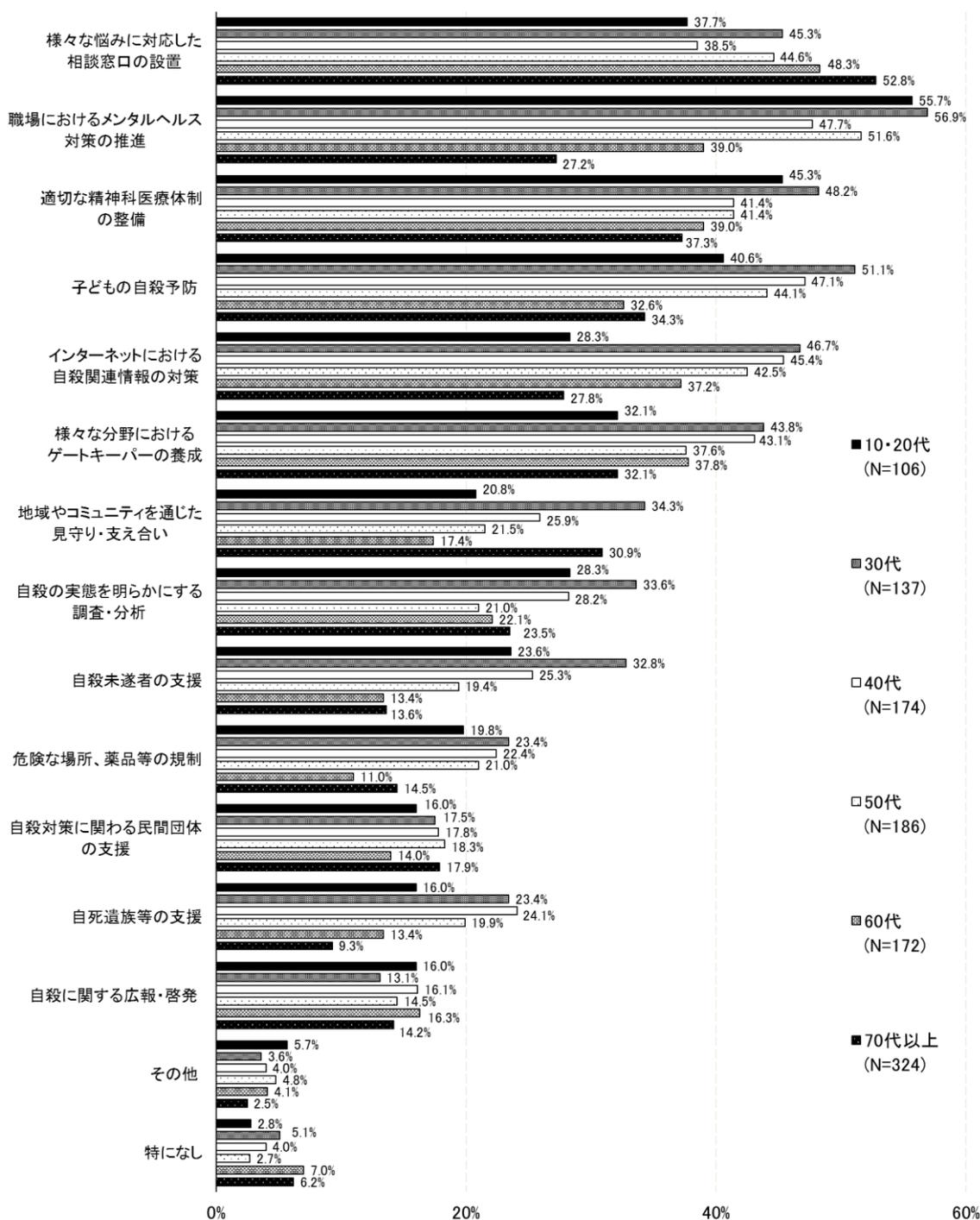


図 85 Q30 今後求められる自殺対策（複数回答・年代別）

Q31 自殺したい気持ちを乗り越える方法に関して、「身近な人に悩みを聞いてもらう」と回答した人の割合が 61.9%と最も高く、「心の健康の専門家に相談する」が 57.0%と続く（図 86）。

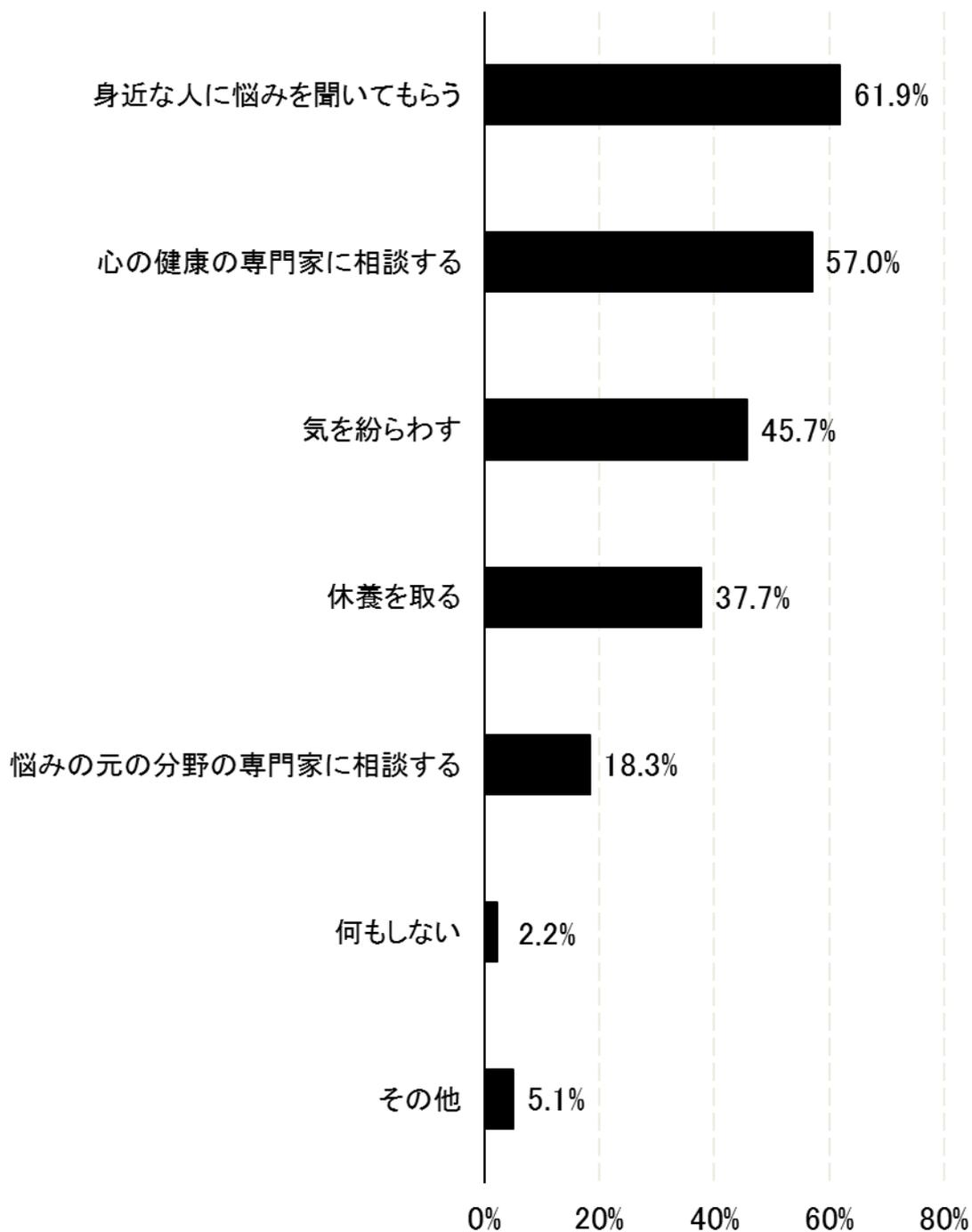


図 86 Q31 自殺したい気持ちを乗り越える方法（複数回答・全体 N=1227）

Q31の自殺したい気持ちを乗り越える方法に関して、男女別で見ると、「身近な人に悩みを聞いてもらう」が男女で差があり、男性よりも女性の方が8.1ポイント高い（図87）。

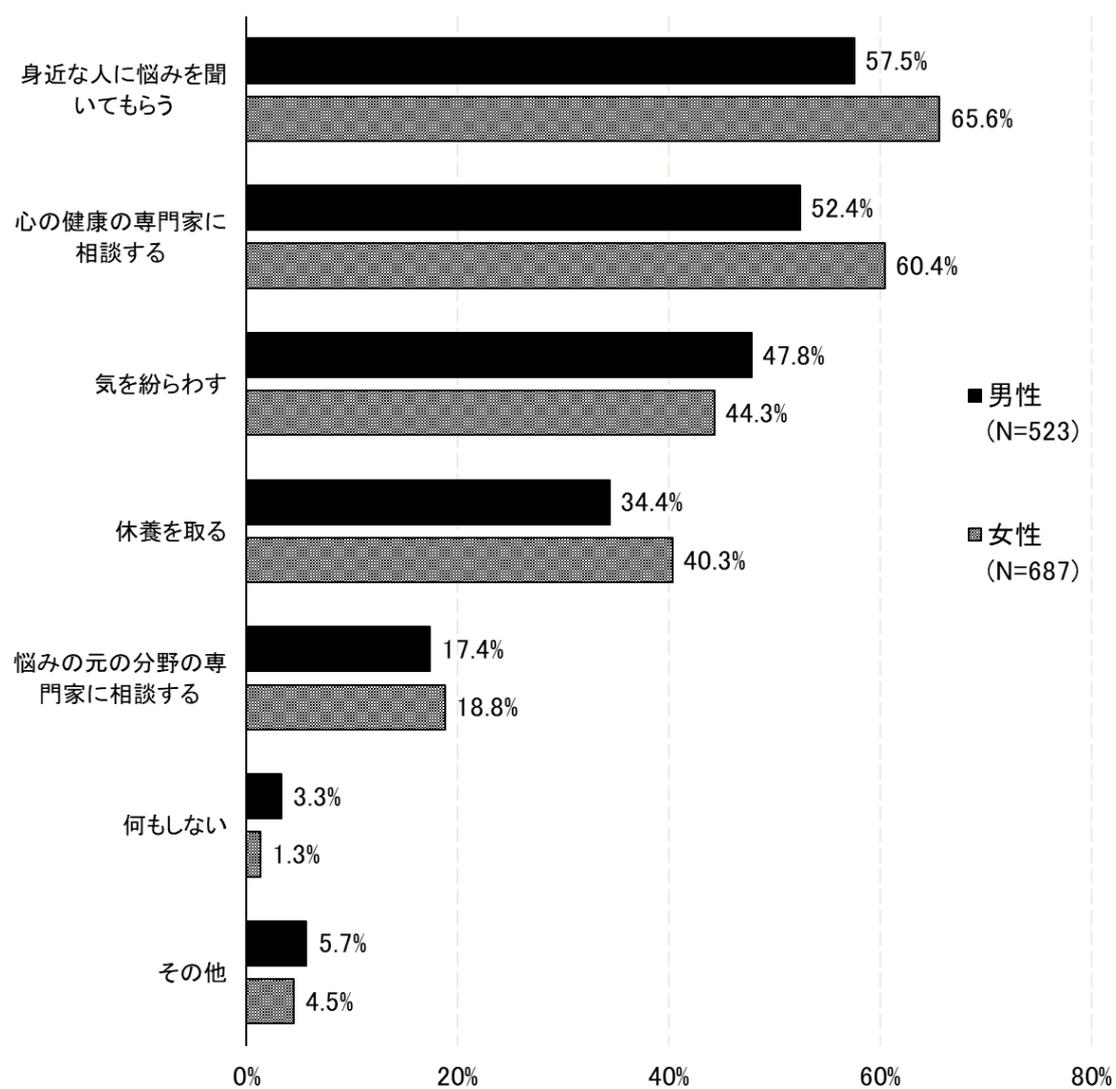


図 87 Q31 自殺したい気持ちを乗り越える方法（複数回答・男女別）

Q31の自殺したい気持ちを乗り越える方法に関して、年代別で見ると、「身近な人に悩みを聞いてもらう」に関しては、10・20代が68.9%と最も高い。反対に、40代が58.0%と最も低い。(図88)。

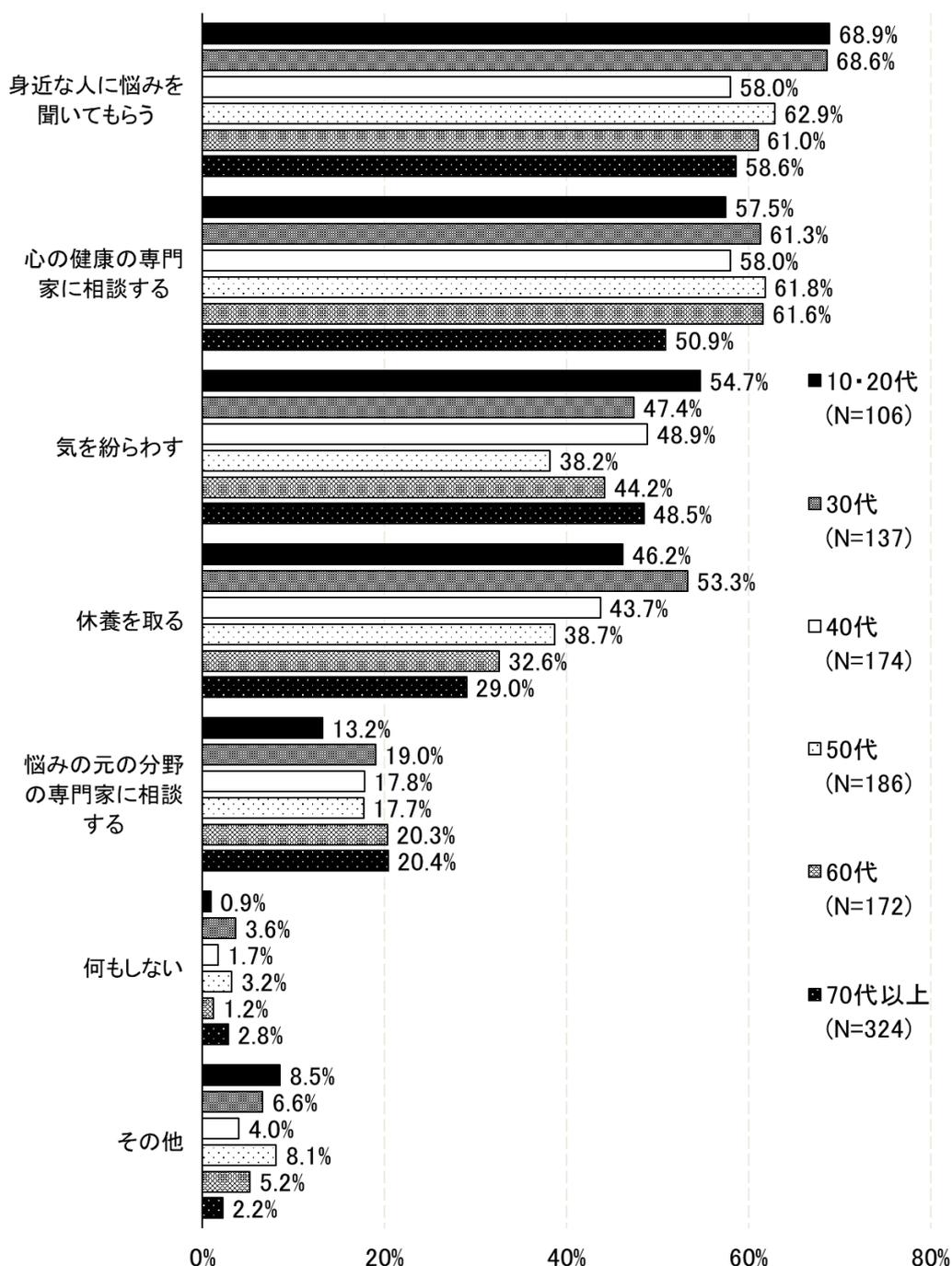


図 88 Q31 自殺したい気持ちを乗り越える方法 (複数回答・年代別)

Q32の『高槻市みらいのための経営革新』に向けた改革方針の認知に関して、年代別で見ると、「知らない」と回答した人の割合は30代が97.1%と最も高い。反対に、70代以上が76.5%と最も低い（図89）。

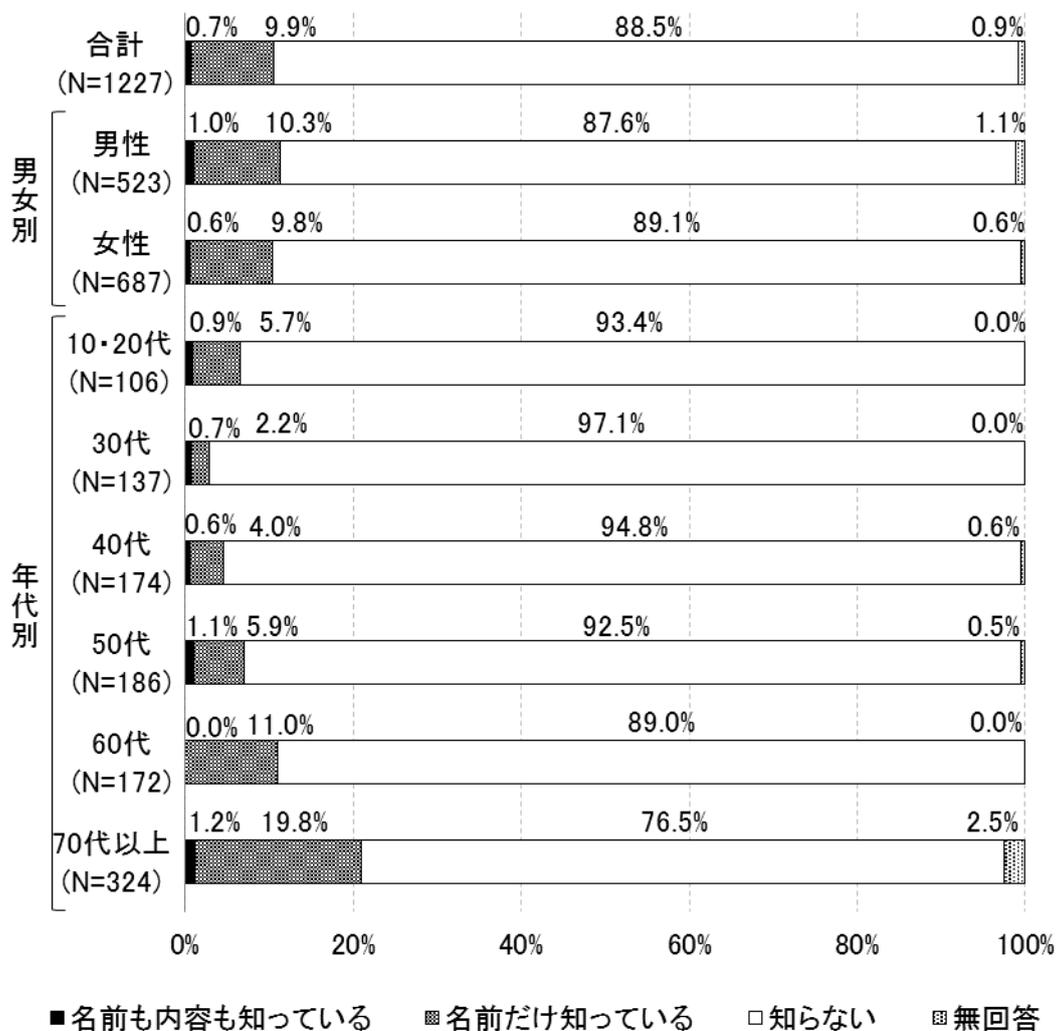


図89 Q32 「『高槻市みらいのための経営革新』に向けた改革方針」の認知

Q33 の高槻市の 20 年後・30 年後を見据えて行政改革に取り組むべきかに関して、男女別・年代別のすべての層で、7 割以上の人々が「感じる」または「やや感じる」と回答している。年代別で見ると、「感じる」または「やや感じる」と回答した人の割合は 30 代が 84.7% と最も高い。反対に、70 代以上が 77.2% と最も低い（図 90）。

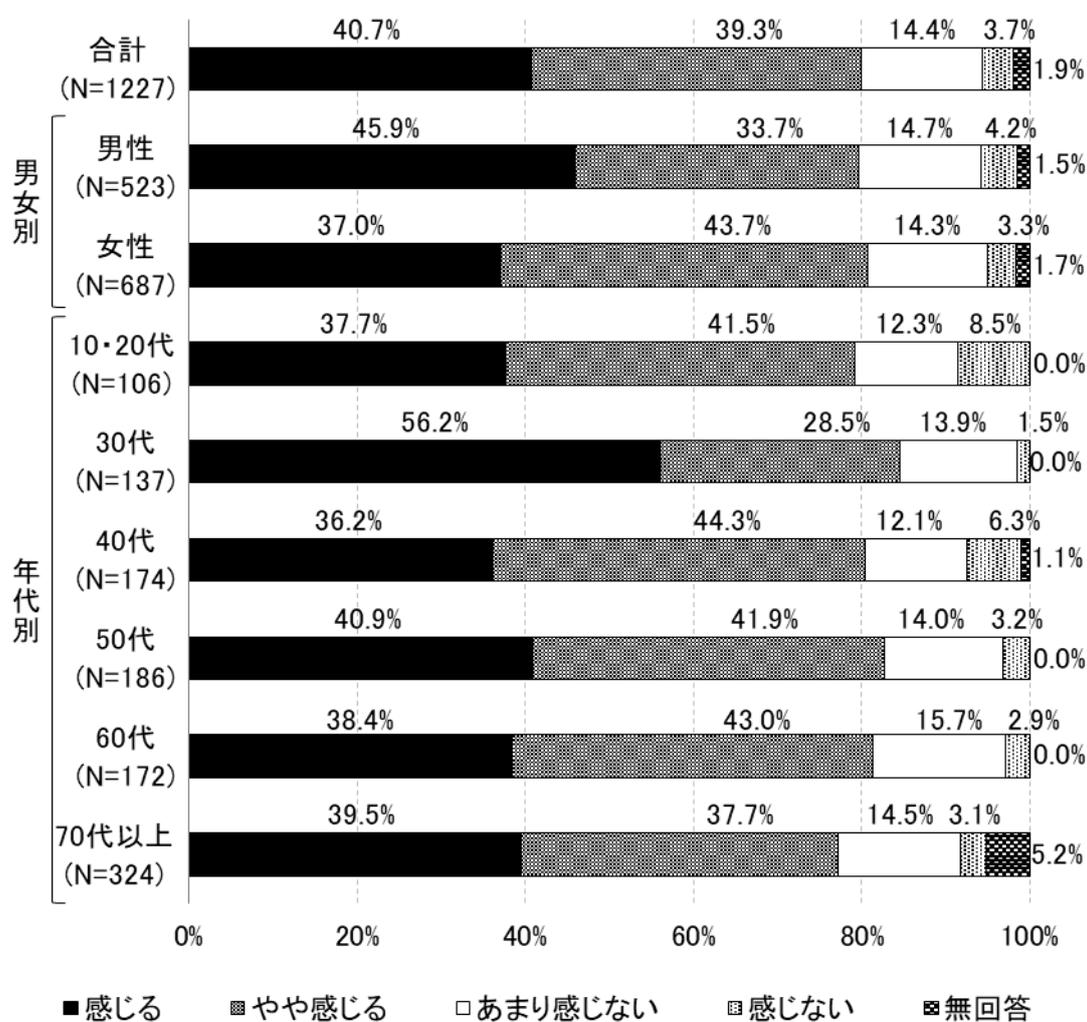


図 90 Q33 高槻市の 20 年後・30 年後を見据えて行政改革に取り組むべきか

Q34①の市の仕事のうち最近良くなってきたものに関して、「駅前の整備、駐車・駐輪対策」が31.4%と最も高く、「公園の整備や自然・緑の保全」が25.4%と続く（図91）。

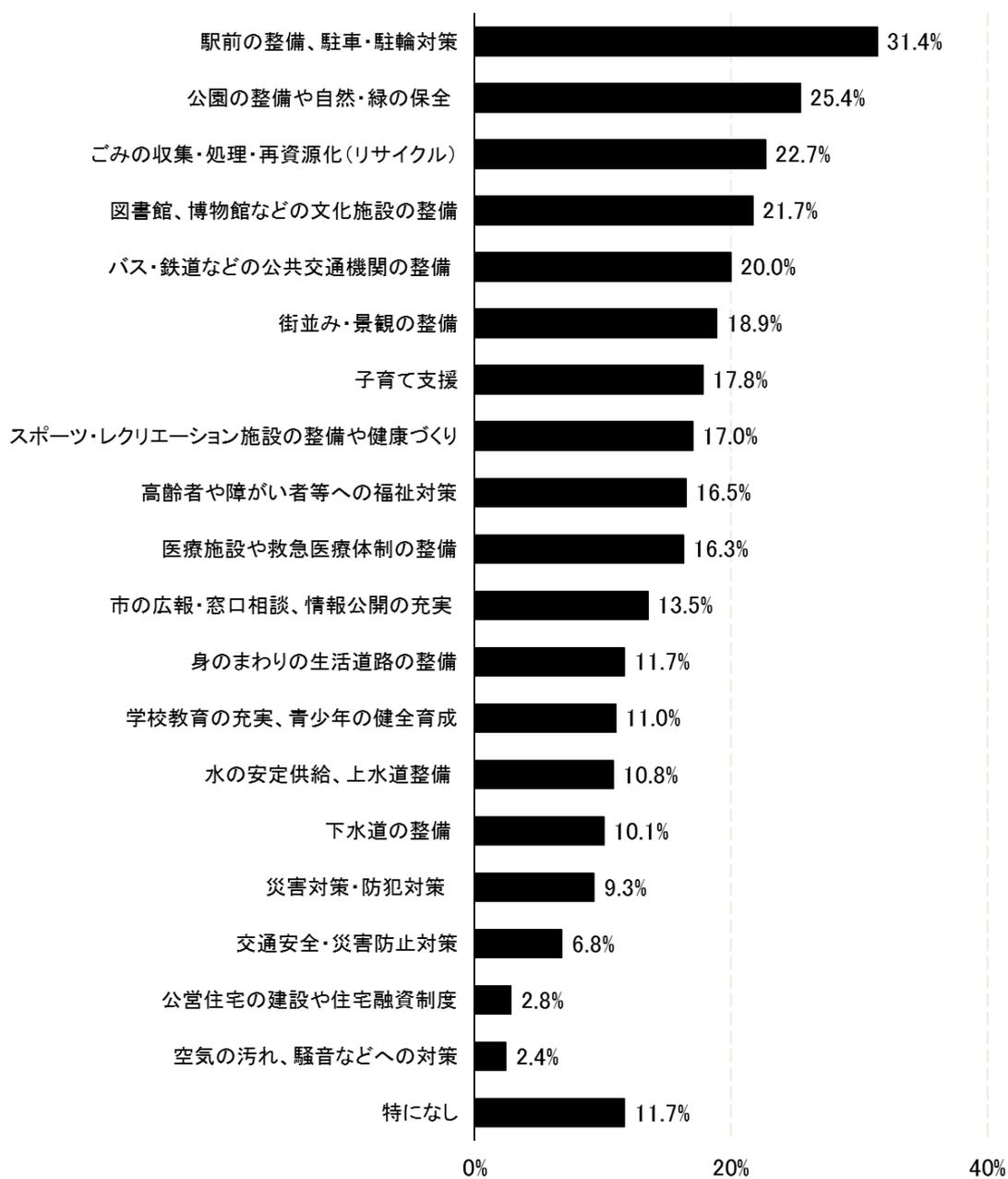


図91 Q34① 市の仕事のうち最近良くなってきたもの（複数回答・全体 N=1227）

Q34①の市の仕事のうち最近良くなってきたものに関して、「駅前の整備、駐車・駐輪対策」は男女で同程度の割合である。また「子育て支援」で男女差が最も大きく、女性よりも男性の方が6.3ポイント低い（図92）。

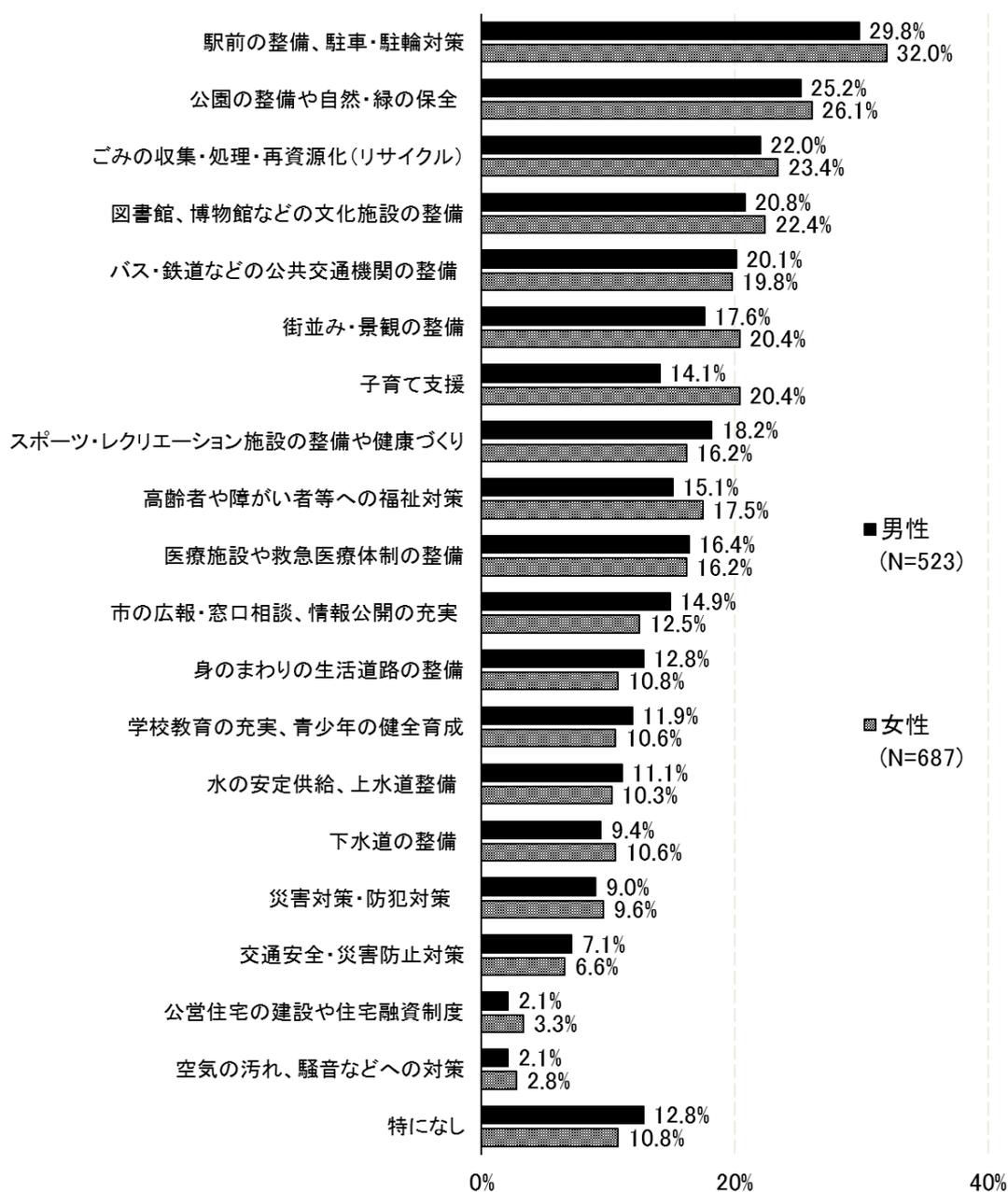


図92 Q34① 市の仕事のうち最近良くなってきたもの（複数回答・男女別）

Q34①の市の仕事のうち最近良くなってきたものを年代別で見ると、「駅前の整備、駐車・駐輪対策」は、60代で34.9%と最も高い。反対に10・20代では25.5%と最も低い（表5、図93）。

表5 Q34① 市の仕事のうち最近良くなってきたもの（複数回答・年代別）

	(%)						
	駅前の整備、駐 車・駐輪対策	公園の整備や 自然・緑の保全	ごみの収集・処 理・再資源化 (リサイクル)	図書館、博物館 などの文化施 設の整備	バス・鉄道など の公共交通機 関の整備	街並み・景観の 整備	子育て支援
10・20代 (N=106)	25.5	25.5	13.2	20.8	25.5	24.5	9.4
30代 (N=137)	27.0	28.5	7.3	14.6	12.4	21.2	21.2
40代 (N=174)	32.8	30.5	13.8	20.7	19.5	21.3	25.9
50代 (N=186)	29.0	25.8	18.3	23.1	21.0	21.0	19.9
60代 (N=172)	34.9	25.0	31.4	24.4	17.4	19.8	17.4
70代以上 (N=324)	34.6	23.1	37.0	24.7	24.4	13.6	14.8

	(%)						
	スポーツ・レクリ エーション施設 の整備や健康 づくり	高齢者や障が い者等への福 祉対策	医療施設や救 急医療体制の 整備	市の広報・窓口 相談、情報公開 の充実	身のまわりの生 活道路の整備	学校教育の充 実、青少年の健 全育成	水の安定供給、 上水道整備
10・20代 (N=106)	13.2	10.4	8.5	5.7	15.1	8.5	5.7
30代 (N=137)	12.4	4.4	11.7	13.9	10.9	10.2	5.1
40代 (N=174)	11.5	7.5	10.9	9.8	13.8	14.9	5.2
50代 (N=186)	14.5	12.9	17.2	11.3	14.5	10.8	8.6
60代 (N=172)	19.8	14.0	18.6	14.5	7.0	6.4	9.9
70代以上 (N=324)	22.2	31.2	23.8	20.1	13.0	14.2	19.4

	(%)					
	下水道の整備	災害対策・防犯 対策	交通安全・災害 防止対策	公営住宅の建 設や住宅融資 制度	空気の汚れ、騒 音などへの 対策	特になし
10・20代 (N=106)	5.7	3.8	5.7	0.9	3.8	25.5
30代 (N=137)	2.9	2.9	3.6	1.5	2.2	20.4
40代 (N=174)	5.2	6.3	5.2	2.3	1.1	13.2
50代 (N=186)	8.1	11.3	9.1	4.3	2.7	14.0
60代 (N=172)	12.2	9.9	5.2	0.6	1.7	9.3
70代以上 (N=324)	17.3	13.9	9.0	4.0	3.1	4.9

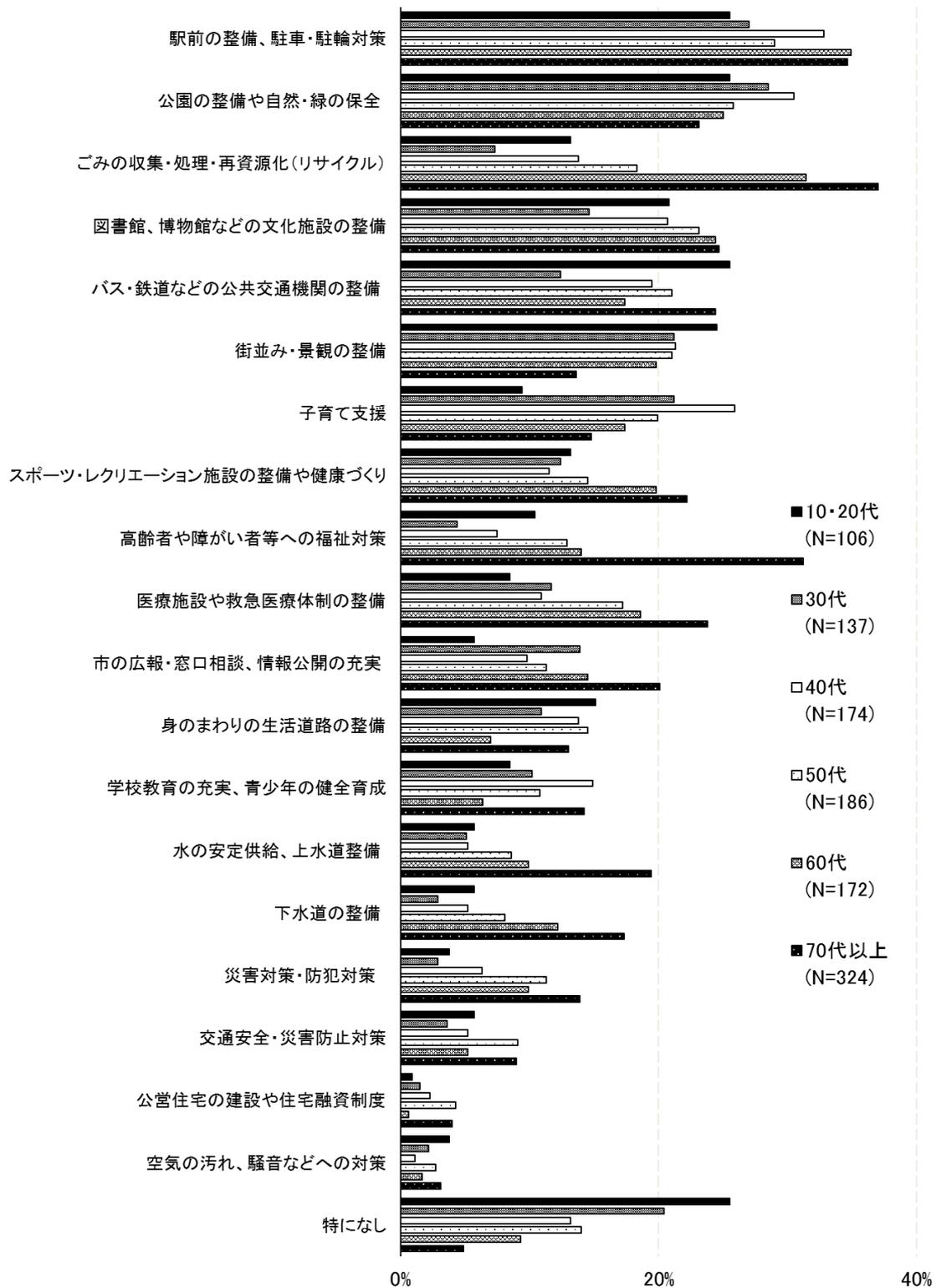


図 93 Q34① 市の仕事のうち最近良くなってきたもの（複数回答・年代別）

Q34①の市の仕事のうち最近良くなってきたものを居住地域別で見ると、「駅前の整備、駐車・駐輪対策」について、高槻南地区では、35.0%と最も高くなっており、五領地区では、16.7%と最も低くなっている（表 6、図 94）。

表 6 Q34① 市の仕事のうち最近良くなってきたもの（複数回答・居住地域別）

	(%)						
	駅前の整備、駐車・駐輪対策	公園の整備や自然・緑の保全	ごみの収集・処理・再資源化(リサイクル)	図書館、博物館などの文化施設の整備	バス・鉄道などの公共交通機関の整備	街並み・景観の整備	子育て支援
高槻北地区 (N=356)	32.0	30.9	20.2	29.8	20.5	21.6	19.7
高槻南地区 (N=314)	35.0	27.7	26.4	17.5	19.7	20.4	20.1
五領地区 (N=48)	16.7	27.1	14.6	10.4	18.8	18.8	12.5
高槻西地区 (N=196)	32.1	24.0	26.0	23.5	21.9	20.4	18.9
如是・富田地区 (N=234)	29.9	18.4	21.8	19.2	20.5	15.0	13.7
三箇牧地区 (N=31)	19.4	19.4	22.6	9.7	16.1	12.9	12.9

	(%)						
	スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり	高齢者や障がい者等への福祉対策	医療施設や救急医療体制の整備	市の広報・窓口相談、情報公開の充実	身のまわりの生活道路の整備	学校教育の充実、青少年の健全育成	水の安定供給、上水道整備
高槻北地区 (N=356)	18.0	14.6	17.4	14.3	12.6	10.1	10.1
高槻南地区 (N=314)	18.5	17.2	18.2	15.6	8.9	12.1	13.1
五領地区 (N=48)	12.5	14.6	6.3	8.3	6.3	8.3	8.3
高槻西地区 (N=196)	16.3	19.4	12.2	12.8	15.8	11.2	13.3
如是・富田地区 (N=234)	15.8	15.0	17.1	12.8	12.0	12.4	9.4
三箇牧地区 (N=31)	19.4	25.8	22.6	16.1	6.5	9.7	3.2

	(%)						
	下水道の整備	災害対策・防犯対策	交通安全・災害防止対策	公営住宅の建設や住宅融資制度	空気の汚れ、騒音などへの対策	特になし	
高槻北地区 (N=356)	10.7	7.9	5.9	1.7	2.0	10.7	
高槻南地区 (N=314)	10.5	12.1	7.6	4.5	2.9	11.8	
五領地区 (N=48)	10.4	4.2	2.1	0.0	2.1	22.9	
高槻西地区 (N=196)	11.7	9.7	8.7	3.1	1.0	9.2	
如是・富田地区 (N=234)	8.1	10.3	7.7	3.0	2.6	12.4	
三箇牧地区 (N=31)	16.1	6.5	6.5	3.2	12.9	9.7	

注) 樫田地区の回答者は1人と少数であるため、精度上の理由で調査結果に表示していない。

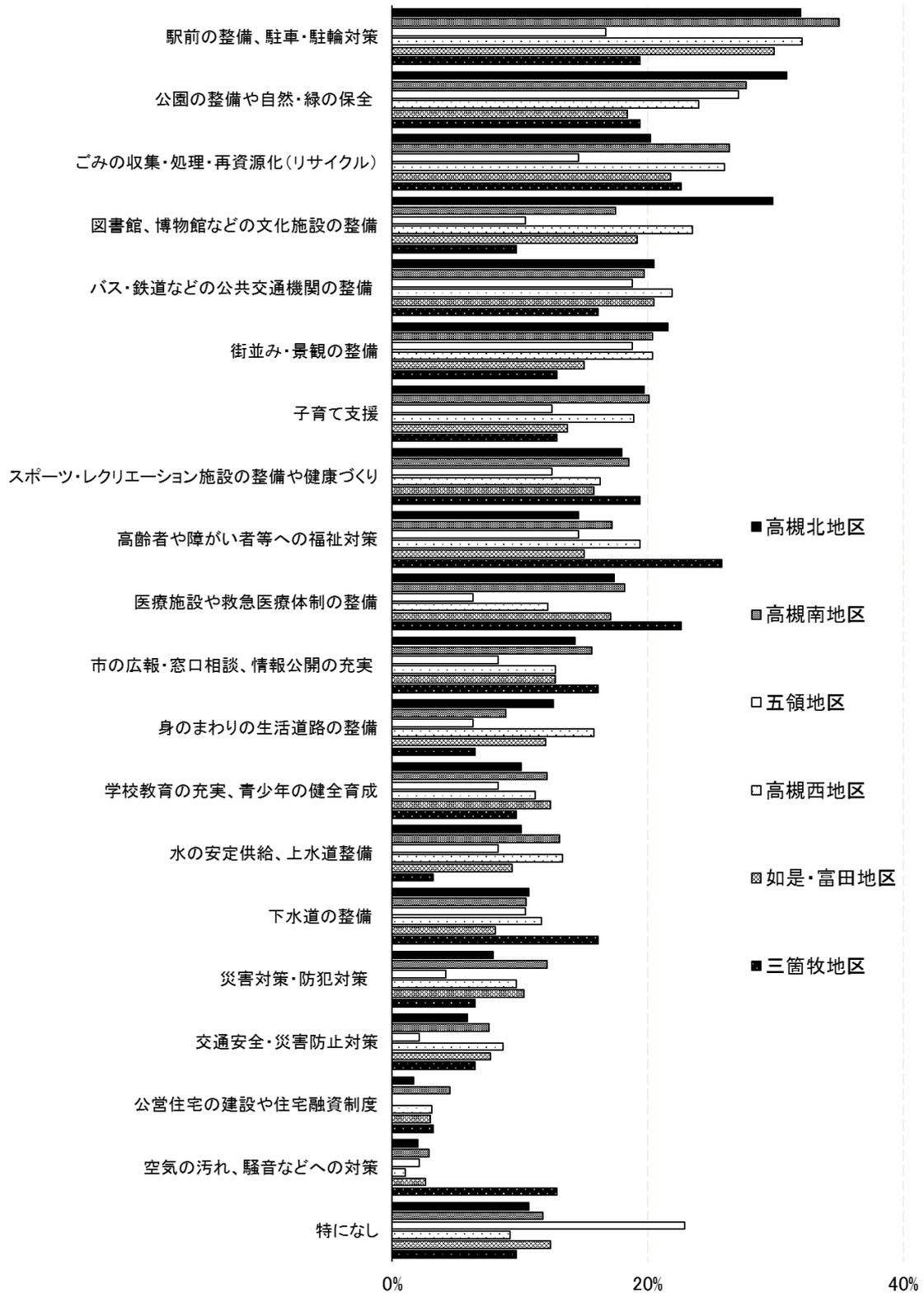


図 94 Q34① 市の仕事のうち最近良くなってきたもの（複数回答・居住地域別）

Q34①の市の仕事のうち最近良くなってきたものを居住年数別で見ると、「駅前の整備、駐車・駐輪対策」は、居住年数5年以上でおおよそ3割以上である（表7、図95）。

表7 Q34①市の仕事のうち最近良くなってきたもの（複数回答・居住年数別）

	(%)						
	駅前の整備、 駐車・駐輪 対策	公園の整備 や自然・緑の 保全	ごみの収集・ 処理・ 再資源化 (リサイクル)	図書館、博物 館などの文化 施設の整備	バス・鉄道な どの公共交 通機関 の整備	街並み・景観 の整備	子育て支援
1年未満(N=22)	9.1	9.1	4.5	0.0	13.6	4.5	18.2
1年以上3年未満(N=48)	10.4	31.3	14.6	8.3	8.3	18.8	16.7
3年以上5年未満(N=44)	13.6	22.7	4.5	9.1	9.1	15.9	18.2
5年以上10年未満(N=67)	28.4	35.8	14.9	16.4	17.9	16.4	20.9
10年以上20年未満(N=188)	34.0	28.2	16.5	16.0	19.7	22.3	23.4
20年以上30年未満(N=189)	29.1	26.5	15.9	25.4	22.2	24.9	13.2
30年以上40年未満(N=213)	38.0	23.0	23.9	24.4	23.9	16.0	17.8
40年以上50年未満(N=256)	33.2	23.8	28.9	22.7	18.8	16.8	16.8
50年以上(N=191)	34.0	25.1	37.7	30.4	22.5	19.4	17.8

	(%)						
	スポーツ・レ クリエーション 施設の整備 や健康づくり	高齢者や障 がい者等へ の福祉対策	医療施設や 救急医療体 制の整備	市の広報・窓 口相談、情報 公開の充実	身のまわりの 生活道路の 整備	学校教育の 充実、青少年 の健全育成	水の安定供 給、上水道 整備
1年未満(N=22)	0.0	9.1	0.0	0.0	4.5	13.6	4.5
1年以上3年未満(N=48)	4.2	8.3	8.3	4.2	6.3	8.3	6.3
3年以上5年未満(N=44)	6.8	4.5	2.3	18.2	15.9	6.8	6.8
5年以上10年未満(N=67)	11.9	6.0	16.4	6.0	11.9	9.0	4.5
10年以上20年未満(N=188)	14.9	14.4	13.3	9.0	11.7	16.0	5.3
20年以上30年未満(N=189)	15.3	12.2	12.2	8.5	12.2	10.6	7.4
30年以上40年未満(N=213)	20.7	15.5	15.5	15.5	10.3	7.5	13.1
40年以上50年未満(N=256)	19.9	19.5	22.7	16.8	10.9	8.2	11.3
50年以上(N=191)	22.0	28.8	23.0	22.5	14.1	16.8	21.5

	(%)						
	下水道の 整備	災害対策・防 犯対策	交通安全・災 害防止対策	公営住宅の 建設や住宅 融資制度	空気の汚れ、 騒音などへの 対策	特になし	
1年未満(N=22)	4.5	0.0	0.0	4.5	0.0	59.1	
1年以上3年未満(N=48)	4.2	0.0	2.1	2.1	0.0	27.1	
3年以上5年未満(N=44)	4.5	0.0	0.0	2.3	6.8	22.7	
5年以上10年未満(N=67)	4.5	7.5	3.0	1.5	1.5	11.9	
10年以上20年未満(N=188)	3.7	10.6	9.0	3.7	1.6	13.8	
20年以上30年未満(N=189)	3.7	5.8	4.8	1.6	1.1	14.8	
30年以上40年未満(N=213)	12.2	8.0	4.2	1.9	2.3	7.5	
40年以上50年未満(N=256)	12.9	12.1	9.4	2.7	3.5	8.2	
50年以上(N=191)	22.5	15.7	11.5	4.7	3.7	4.7	

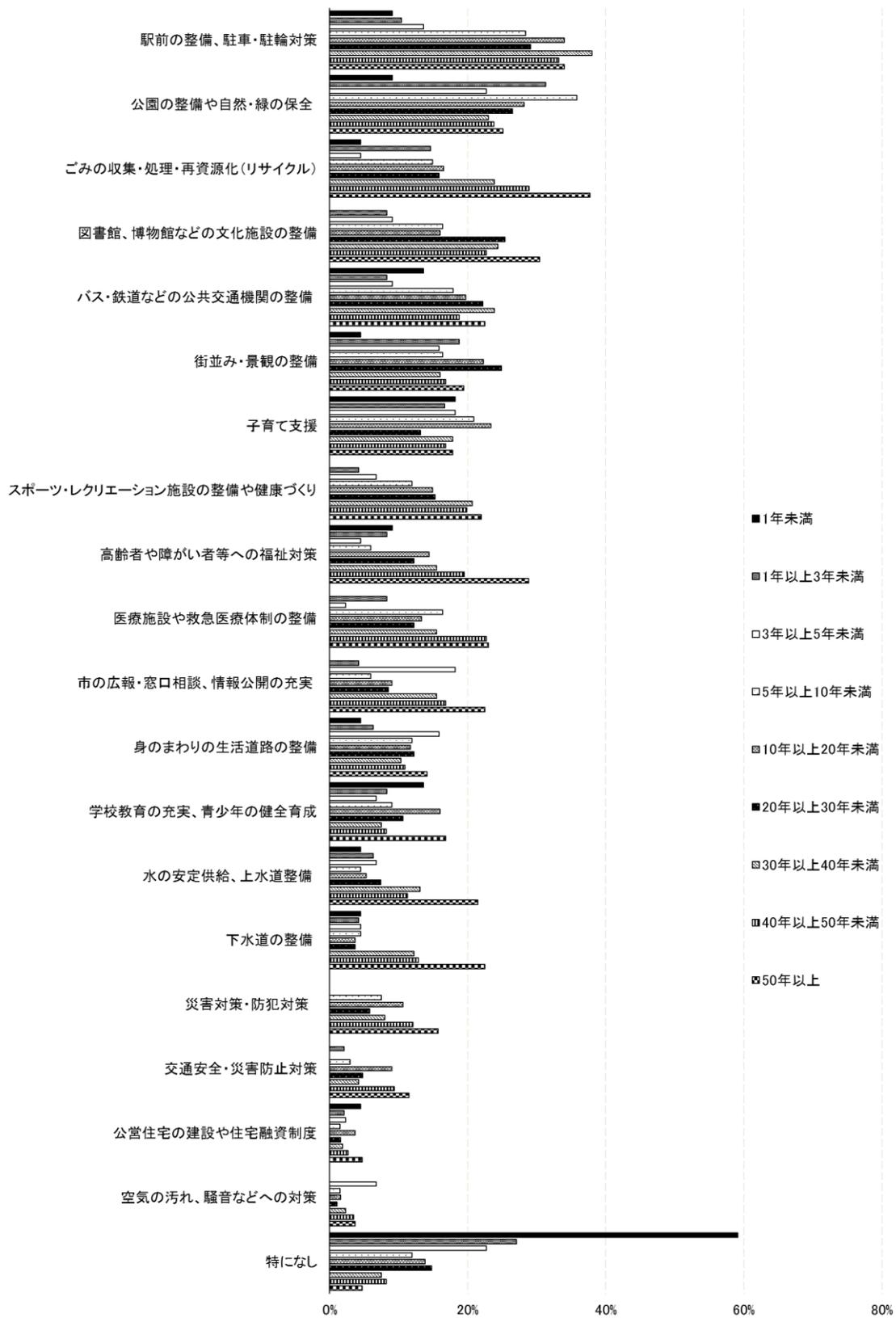


図 95 Q34① 市の仕事のうち最近良くなってきたもの（複数回答・居住年数別）

Q34②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、「医療施設や救急医療体制の整備」が24.1%と最も高く、「災害対策・防犯対策」が21.2%と続く（図96）。

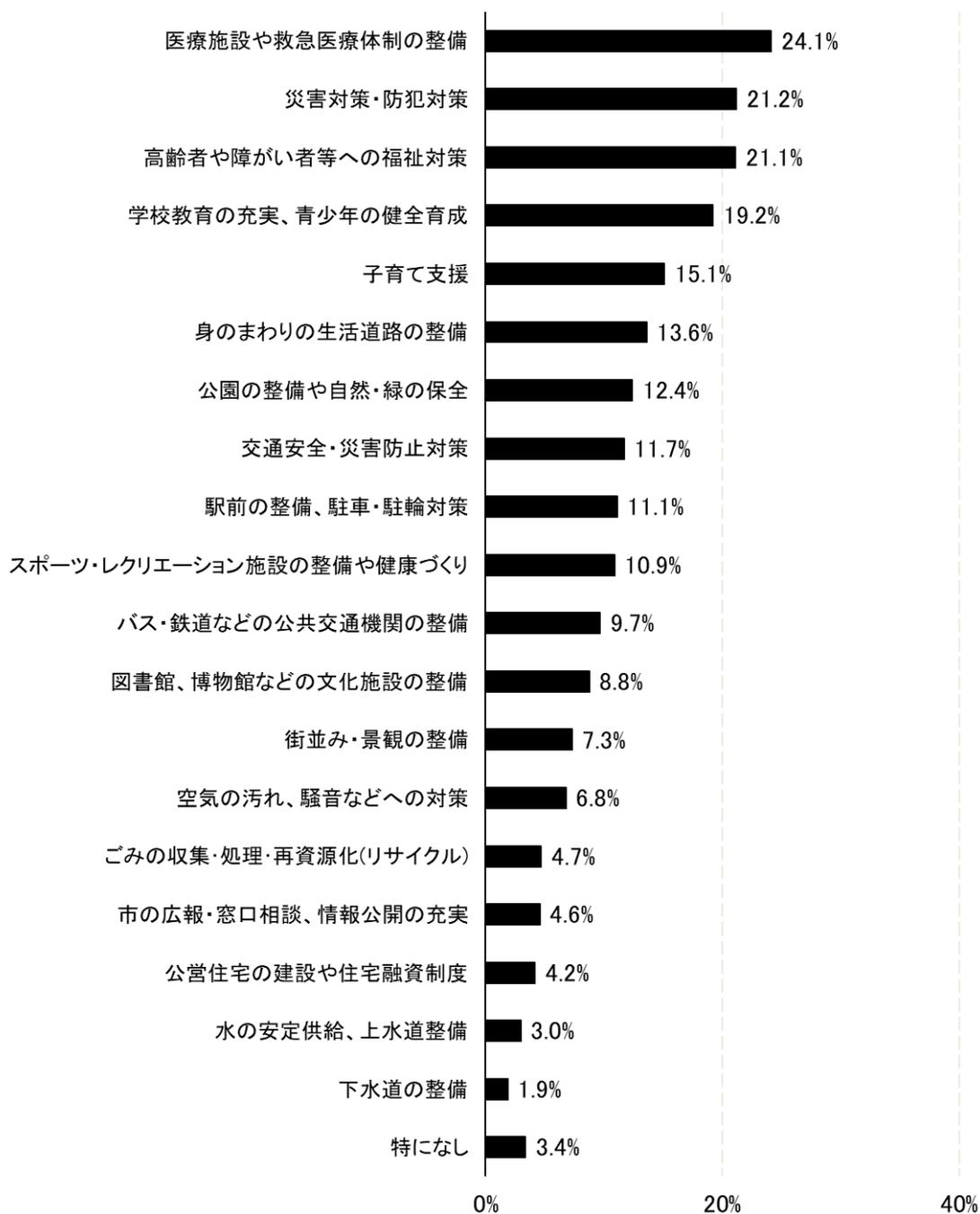


図96 Q34② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・全体 N=1227）

Q34②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものを男女別で見ると、「医療施設や救急医療制度の整備」について、男女に差があり、男性よりも女性の方が 3.8 ポイント高くなっている。「公園の整備や自然・緑の保全」と「スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり」についても、男女に差があり、女性よりも男性の方が 5 ポイント程度高い（図 97）。

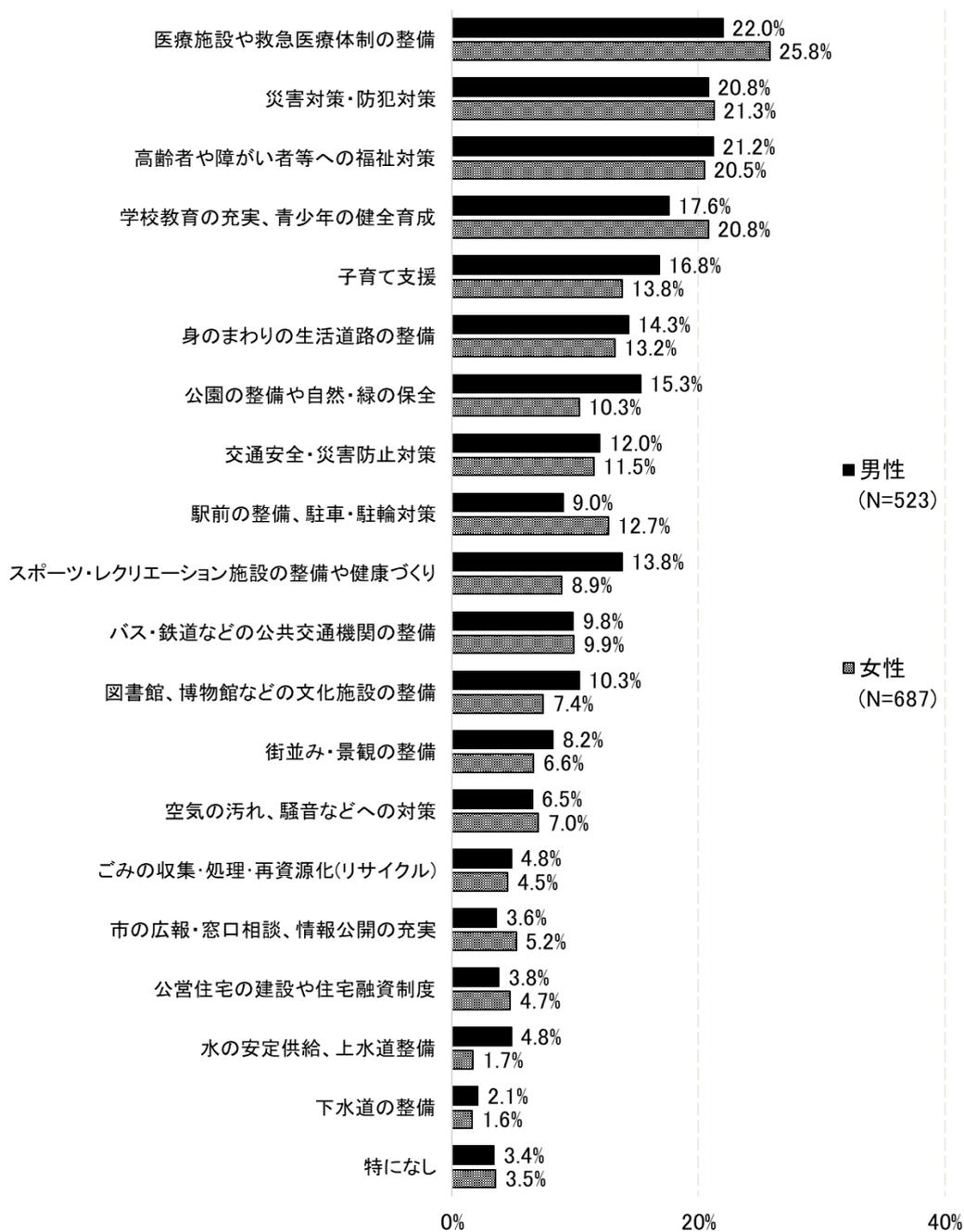


図 97 Q34② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・男女別）

Q34②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものを年代別で見ると、60代では「医療施設や救急医療体制の整備」が29.7%と最も高く、30代では「子育て支援」が45.3%と最も高い（表8、図98）。

表8 Q34② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・年代別）

	医療施設や救急医療体制の整備	災害対策・防犯対策	高齢者や障がい者等への福祉対策	学校教育の充実、青少年の健全育成	子育て支援	身のまわりの生活道路の整備	公園の整備や自然・緑の保全
10・20代 (N=106)	15.1	17.0	8.5	15.1	25.5	11.3	12.3
30代 (N=137)	14.6	18.2	8.0	35.0	45.3	16.8	15.3
40代 (N=174)	20.7	24.1	16.7	25.9	16.7	15.5	9.8
50代 (N=186)	26.9	28.5	19.4	18.3	9.1	11.3	14.0
60代 (N=172)	29.7	25.0	26.2	11.0	11.0	18.0	19.8
70代以上 (N=324)	28.4	17.3	30.9	15.7	5.9	13.6	8.3

	交通安全・災害防止対策	駅前の整備、駐車・駐輪対策	スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり	バス・鉄道などの公共交通機関の整備	図書館、博物館などの文化施設の整備	街並み・景観の整備	空気の汚れ、騒音などへの対策
10・20代 (N=106)	14.2	16.0	18.9	9.4	10.4	8.5	10.4
30代 (N=137)	16.1	13.1	13.1	8.8	10.9	5.1	5.8
40代 (N=174)	18.4	6.9	14.9	7.5	9.8	7.5	6.9
50代 (N=186)	11.3	13.4	8.6	11.3	9.7	9.1	8.1
60代 (N=172)	9.9	13.4	9.9	9.9	7.6	6.4	4.1
70代以上 (N=324)	6.5	9.0	7.1	9.6	7.7	7.7	7.1

	ごみの収集・処理・再資源化（リサイクル）	市の広報・窓口相談、情報公開の充実	公営住宅の建設や住宅融資制度	水の安定供給、上水道整備	下水道の整備	特になし
10・20代 (N=106)	1.9	4.7	1.9	0.9	0.9	9.4
30代 (N=137)	2.2	0.7	5.1	1.5	0.7	1.5
40代 (N=174)	8.0	1.1	3.4	6.3	0.6	4.0
50代 (N=186)	4.8	4.3	4.8	3.2	2.2	4.8
60代 (N=172)	5.2	5.8	4.1	0.0	3.5	3.5
70代以上 (N=324)	4.3	7.7	5.2	4.6	2.5	2.2

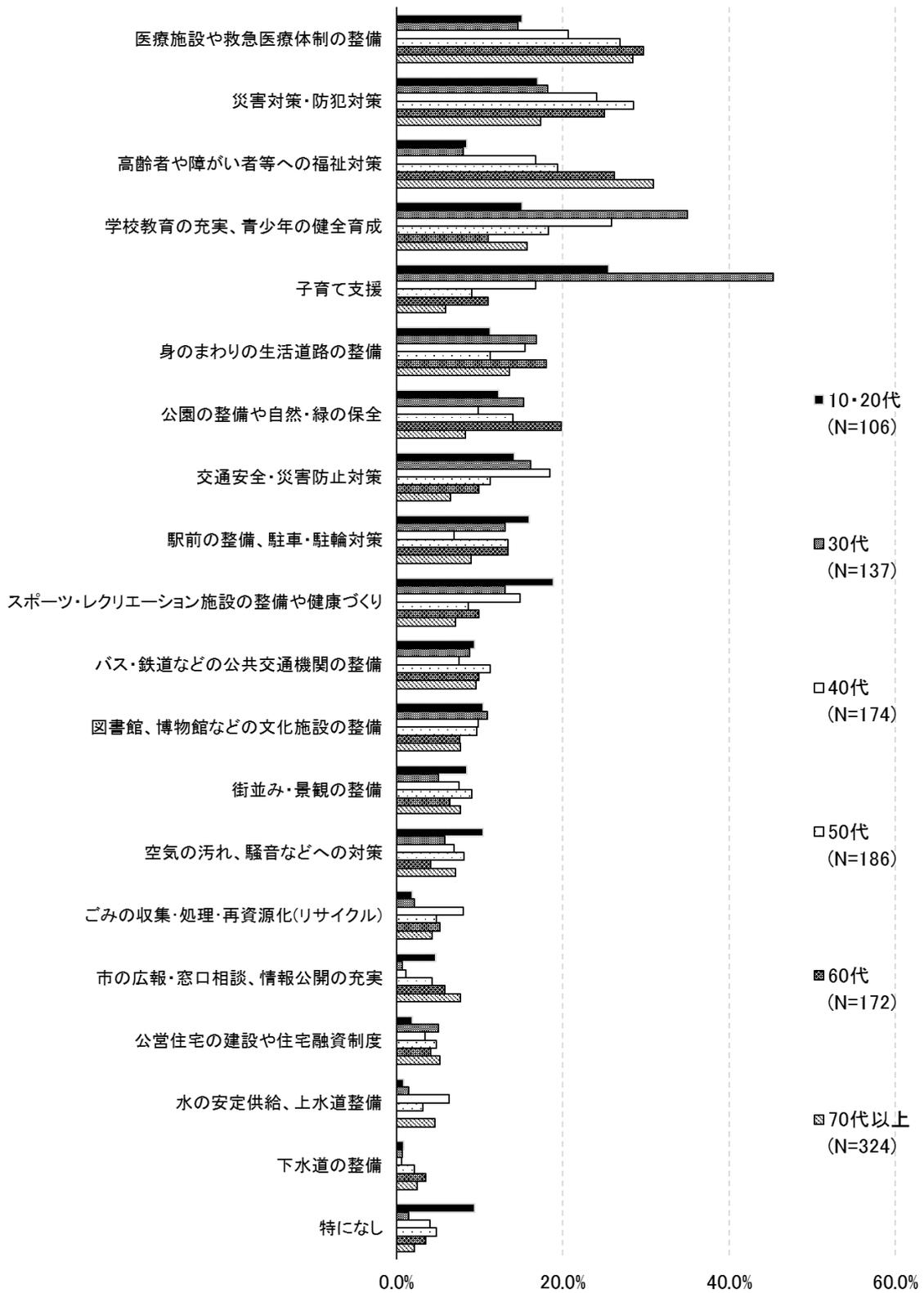


図 98 Q34② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・年代別）

Q34②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものを居住地域別で見ると、「医療施設や救急医療体制の整備」について、如是・富田地区では 29.1%と最も高く、高槻南地区では 21.0%と最も低い（表 9、図 99）。

表 9 Q34② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・居住地域別）

	（%）						
	医療施設や救急医療体制の整備	災害対策・防犯対策	高齢者や障がい者等への福祉対策	学校教育の充実、青少年の健全育成	子育て支援	身のまわりの生活道路の整備	公園の整備や自然・緑の保全
高槻北地区 (N=356)	21.6	21.3	20.2	21.6	16.9	16.3	12.6
高槻南地区 (N=314)	21.0	22.0	23.2	18.5	13.1	13.4	13.1
五領地区 (N=48)	27.1	18.8	12.5	22.9	22.9	4.2	12.5
高槻西地区 (N=196)	27.6	24.0	23.5	18.9	16.3	12.2	11.7
如是・富田地区 (N=234)	29.1	20.5	19.2	18.4	13.7	13.2	12.4
三箇牧地区 (N=31)	29.0	6.5	35.5	9.7	9.7	9.7	12.9

	（%）						
	交通安全・災害防止対策	駅前の整備、駐車・駐輪対策	スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり	バス・鉄道などの公共交通機関の整備	図書館、博物館などの文化施設の整備	街並み・景観の整備	空気の汚れ、騒音などへの対策
高槻北地区 (N=356)	11.0	10.1	11.8	10.7	10.7	7.9	5.1
高槻南地区 (N=314)	11.5	13.1	12.1	6.7	8.0	7.3	8.6
五領地区 (N=48)	20.8	10.4	14.6	12.5	22.9	8.3	14.6
高槻西地区 (N=196)	14.3	11.2	13.8	13.8	6.6	9.2	4.6
如是・富田地区 (N=234)	10.3	10.7	6.0	8.5	6.0	5.6	7.3
三箇牧地区 (N=31)	6.5	12.9	12.9	16.1	6.5	6.5	6.5

	（%）						
	ごみの収集・処理・再資源化(リサイクル)	市の広報・窓口相談、情報公開の充実	公営住宅の建設や住宅融資制度	水の安定供給、上下水道整備	下水道の整備	特になし	
高槻北地区 (N=356)	5.9	3.1	3.9	4.2	1.4	2.5	
高槻南地区 (N=314)	4.8	5.4	5.1	2.9	1.9	4.1	
五領地区 (N=48)	6.3	6.3	2.1	0.0	0.0	4.2	
高槻西地区 (N=196)	3.1	4.6	3.1	2.6	2.6	2.6	
如是・富田地区 (N=234)	3.0	4.7	5.1	3.0	2.6	3.8	
三箇牧地区 (N=31)	16.1	6.5	9.7	0.0	0.0	0.0	

注) 榎田地区の回答者は1人と少数であるため、精度上の理由で調査結果に表示していない。

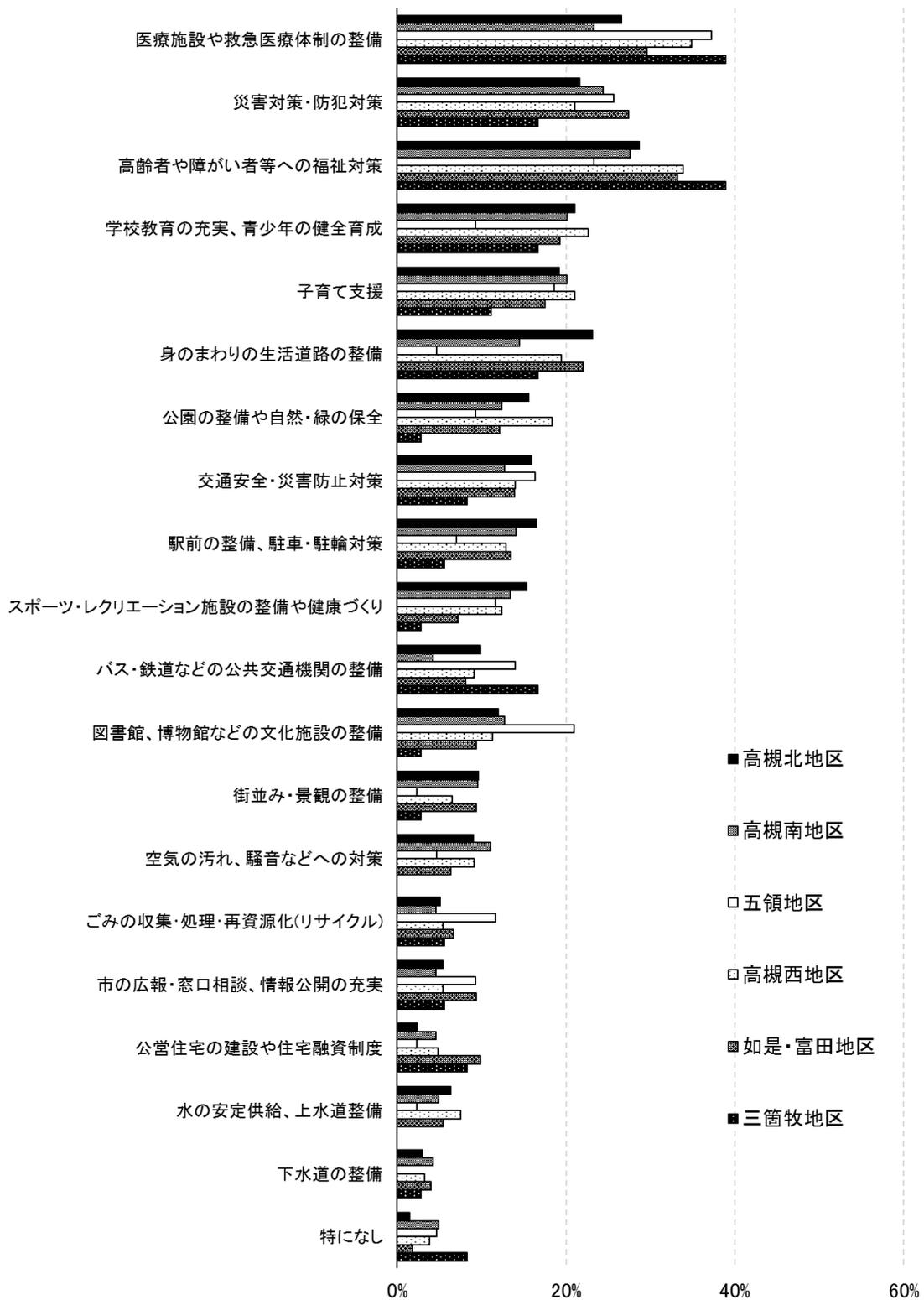


図 99 Q34② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・居住地域別）

Q34②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものを居住年数別で見ると、「医療体制や救急医療制度の整備」について居住年数 50 年以上で 31.9%と最も高く、居住年数 1 年未満では 9.1%と最も低い（表 10, 図 100）。

表 10 Q34② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・居住年数別）

	医療施設や 救急医療体 制の整備	災害対策・防 犯対策	高齢者や障 がい者等へ の福祉対策	学校教育の 充実、青少年 の健全育成	子育て支援	身のまわりの 生活道路の 整備	公園の整備 や自然・緑の 保全	(%)
1年未満(N=22)	9.1	13.6	9.1	13.6	27.3	9.1	4.5	
1年以上3年未満(N=48)	14.6	22.9	8.3	18.8	33.3	12.5	6.3	
3年以上5年未満(N=44)	20.5	13.6	11.4	18.2	38.6	11.4	15.9	
5年以上10年未満(N=67)	14.9	14.9	19.4	40.3	35.8	19.4	14.9	
10年以上20年未満(N=188)	20.2	24.5	13.3	20.7	18.6	14.4	13.8	
20年以上30年未満(N=189)	22.2	21.7	14.8	15.3	11.1	11.6	15.9	
30年以上40年未満(N=213)	23.5	21.6	26.8	19.2	12.2	13.6	12.2	
40年以上50年未満(N=256)	29.7	20.7	27.7	18.4	12.1	18.0	11.7	
50年以上(N=191)	31.9	22.0	27.7	16.8	4.7	8.4	9.9	

	交通安全・災 害防止対策	駅前の整備、 駐車・駐輪 対策	スポーツ・レ クリエーション 施設の整備 や健康づくり	バス・鉄道な どの公共 交通機関 の整備	図書館、博物 館などの文化 施設の整備	街並み・景観 の整備	空気の汚れ、 騒音などへの 対策	(%)
1年未満(N=22)	9.1	9.1	0.0	0.0	13.6	9.1	9.1	
1年以上3年未満(N=48)	14.6	22.9	10.4	14.6	4.2	2.1	4.2	
3年以上5年未満(N=44)	11.4	18.2	11.4	6.8	9.1	6.8	11.4	
5年以上10年未満(N=67)	10.4	4.5	19.4	9.0	16.4	7.5	7.5	
10年以上20年未満(N=188)	13.3	10.1	16.0	8.5	12.8	6.9	4.8	
20年以上30年未満(N=189)	13.8	13.8	16.4	12.7	7.9	8.5	10.6	
30年以上40年未満(N=213)	9.9	8.9	10.3	9.9	7.5	8.9	8.0	
40年以上50年未満(N=256)	11.7	10.2	8.6	9.4	7.8	5.9	5.1	
50年以上(N=191)	10.5	11.0	3.1	9.4	6.3	7.3	4.7	

	ごみの収集・ 処理・ 再資源化 (リサイクル)	市の広報・窓 口相談、情報 公開の充実	公営住宅の 建設や住宅 融資制度	水の安定供 給、上水道 整備	下水道の 整備	特になし	(%)
1年未満(N=22)	13.6	9.1	9.1	4.5	4.5	22.7	
1年以上3年未満(N=48)	6.3	2.1	8.3	2.1	0.0	4.2	
3年以上5年未満(N=44)	6.8	4.5	2.3	0.0	0.0	4.5	
5年以上10年未満(N=67)	0.0	0.0	6.0	1.5	0.0	1.5	
10年以上20年未満(N=188)	6.4	5.3	3.7	3.2	0.0	4.8	
20年以上30年未満(N=189)	3.7	1.6	5.3	3.7	2.6	4.8	
30年以上40年未満(N=213)	3.8	8.0	2.3	4.2	3.3	1.9	
40年以上50年未満(N=256)	4.3	3.1	5.5	2.7	2.7	2.0	
50年以上(N=191)	5.8	6.8	2.6	2.6	1.6	2.6	

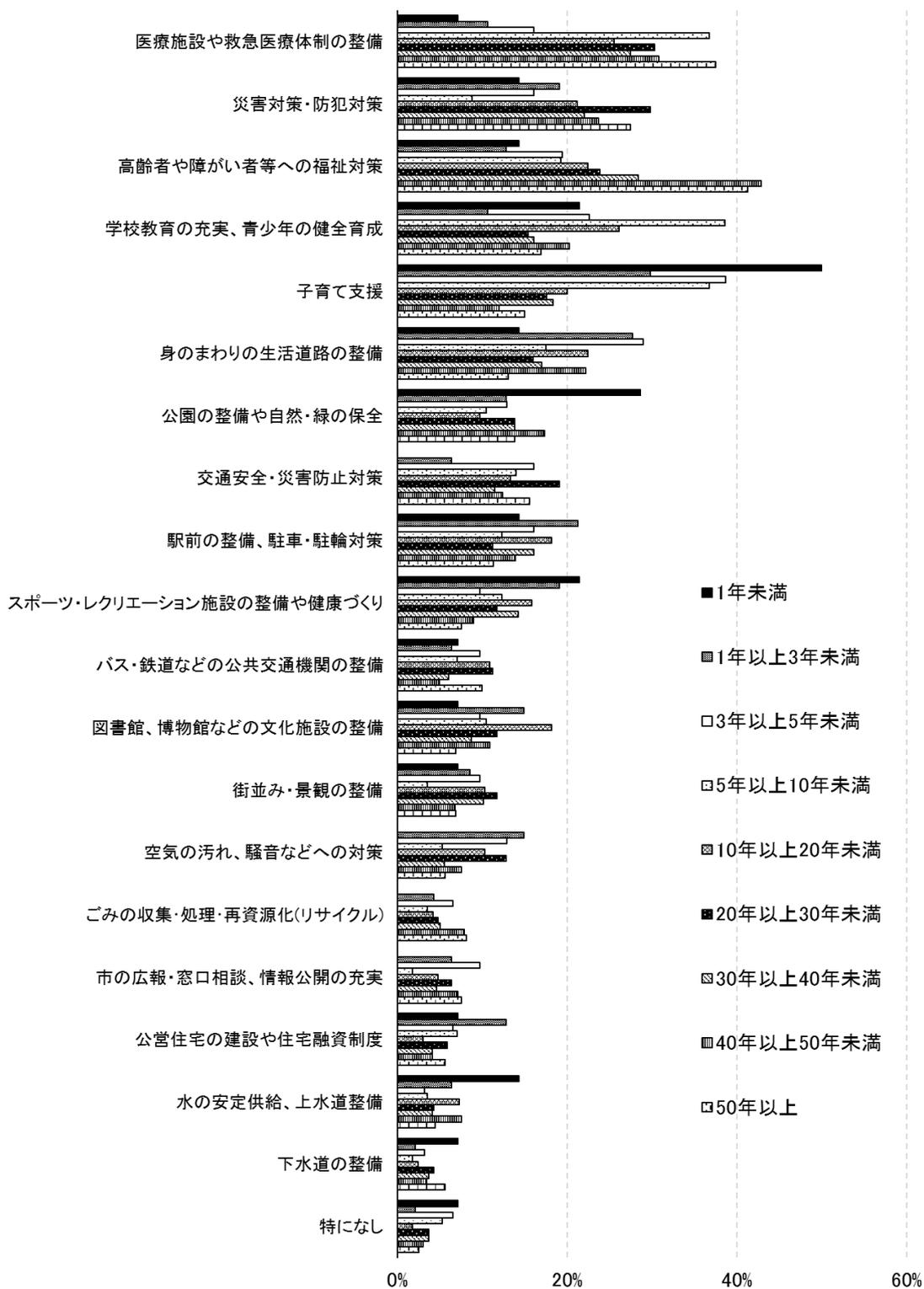


図 100 Q34② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・居住年数別）

Q35 のマスクの備蓄意図に関して、男女別で見ると、「とても感じた」と回答した割合は男女に差があり、男性よりも女性の方が 16.1 ポイント高い。年代別で見ると、「とても感じた」と回答した人の割合は 30 代が 59.1%と最も高く、70 代以上で 36.1%と最も低い（図 101）。

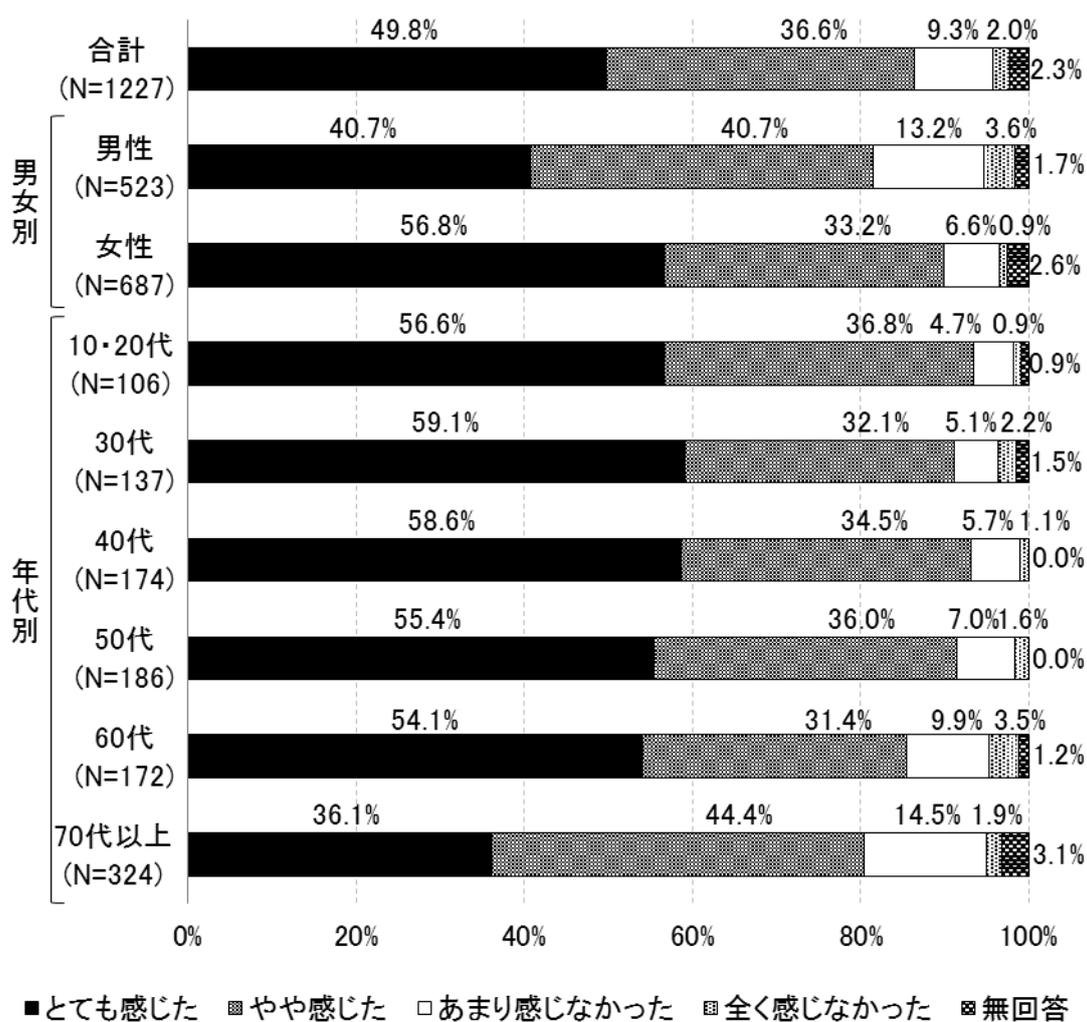


図 101 Q35 マスクの備蓄意図

Q36 のトイレトペーパーの備蓄意図に関して、年代別で見ると、「とても感じた」または「やや感じた」と回答した人の割合は40代で61.5%と最も高い。反対に、60代が45.9%と最も低い（図 102）。

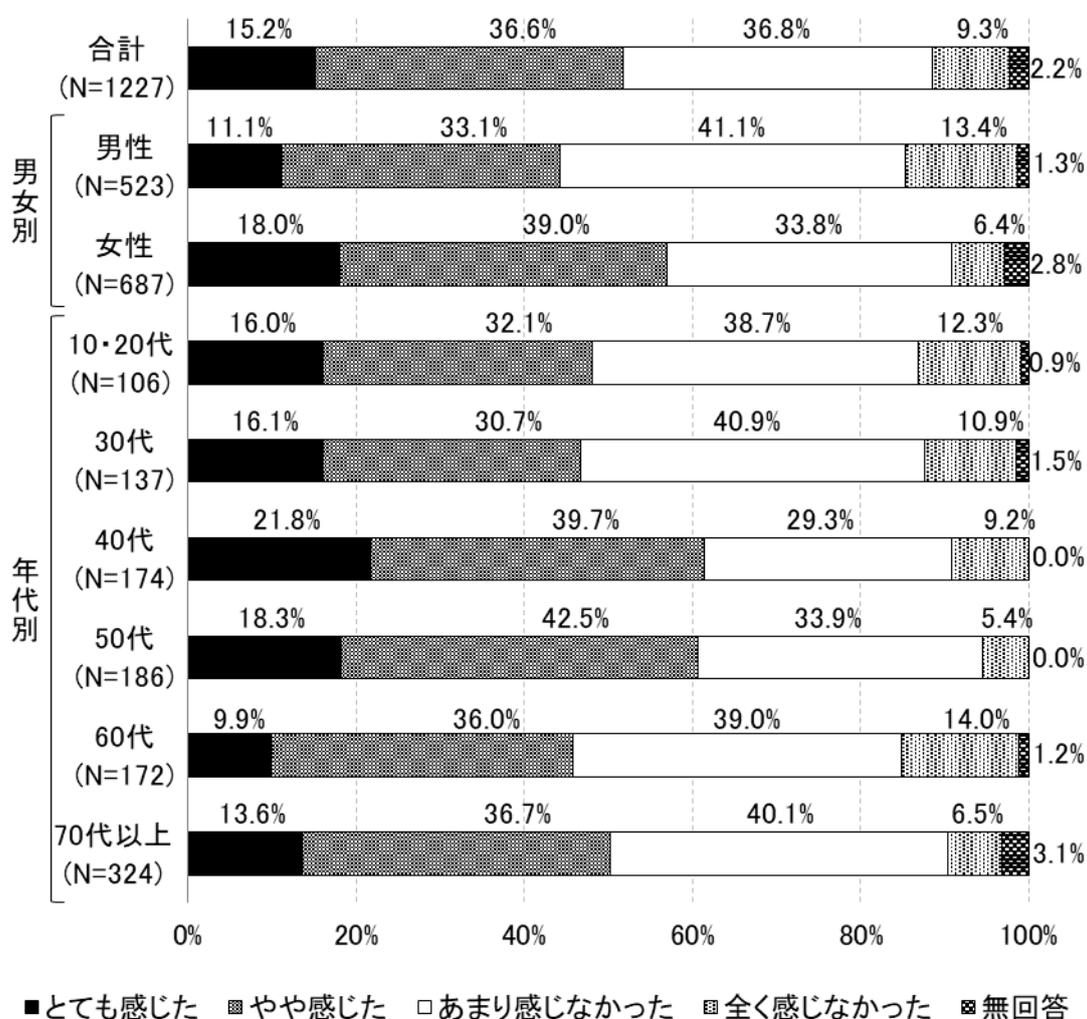


図 102 Q36 トイレトペーパーの備蓄意図

Q37 の週あたりの勤務日数に関して、「0日」と回答した人の割合は、男女別に見ると、男性は 28.1%に対して、女性は 37.8%と 9.7 ポイント高い。年代別で見ると、70 代以上で 64.2%と最も高い。反対に、40 代が 12.1%と最も低い（図 103）。

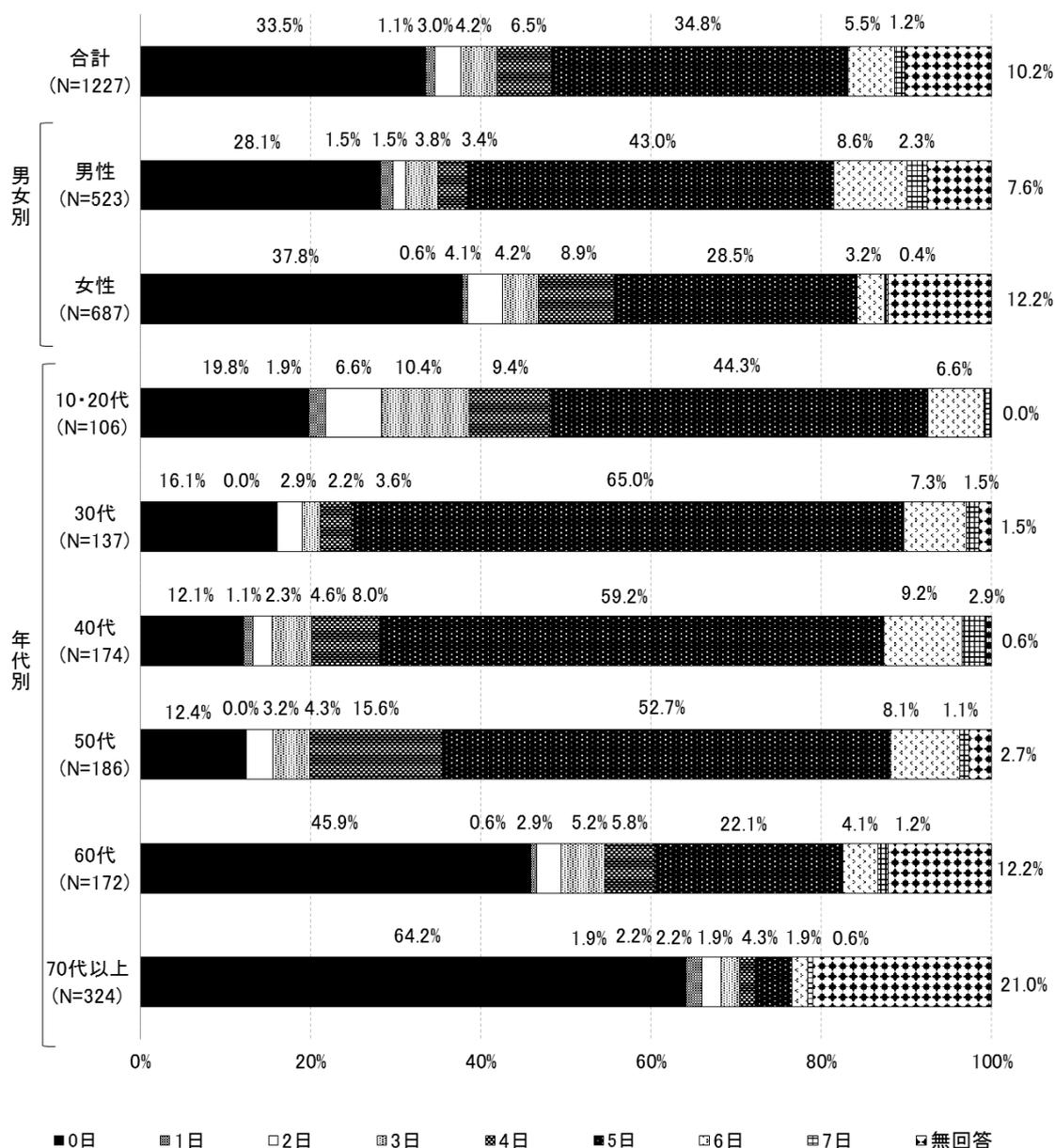


図 103 Q37 週あたりの勤務日数

Q38 のテレワークの頻度（Q37 で週 1 日以上とした人のみが回答）に関して、男女別・年代別のすべての層で、「行っていない」と回答した人の割合は 6 割以上である。年代別で見ると「週 5 回」「週 3~4 回」「週 1~2 回」「2 週に 1 回」「1 か月に 1 回」と回答した人の割合は、30 代で 22.2%と最も高い。反対に 70 代以上が 14.7%と最も低い（図 104）。

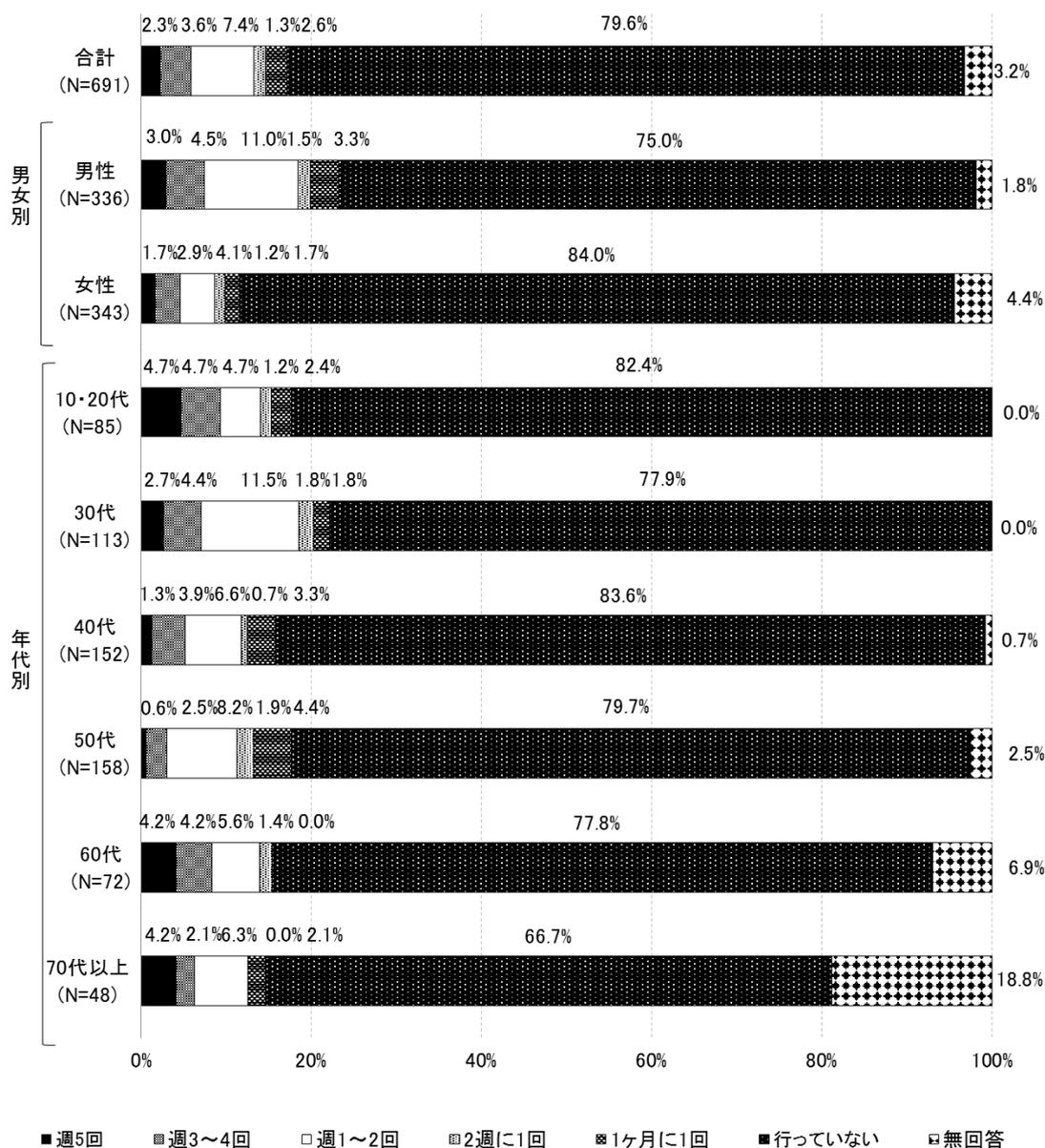


図 104 Q38 テレワークの頻度

Q39 のテレワークの期間に関して (Q37 で週 1 日以上とした人のみが回答)、男女別・年代別のすべての層で、「行っていない」と回答した人の割合は 6 割以上である。年代別で見ると「2 ヶ月以上」と回答した人の割合は、30 代が 18.6%と最も高い。反対に 70 代以上が 6.3%と最も低い (図 105)。

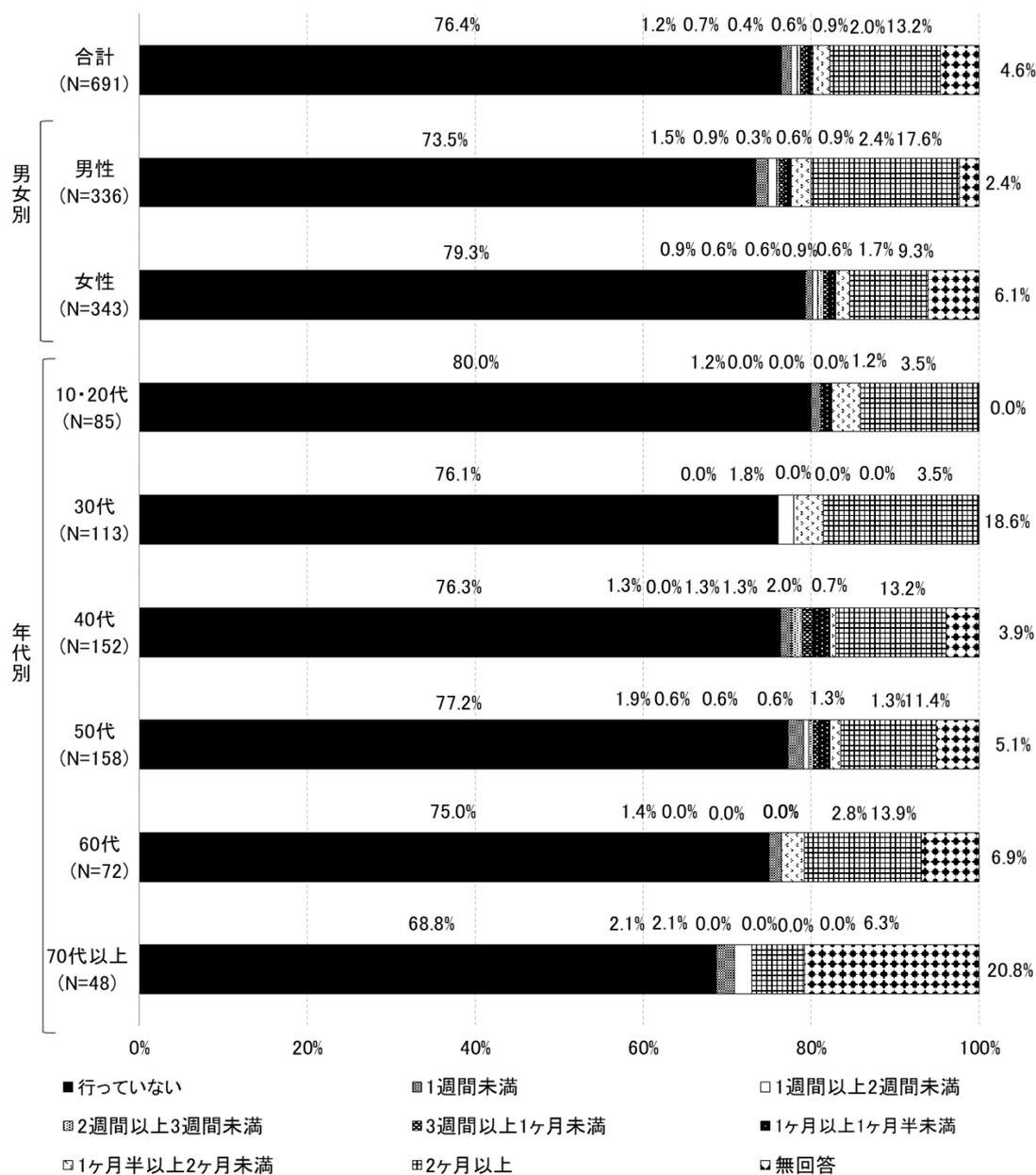


図 105 Q39 テレワークの期間

Q40 の自宅での余暇時間に関して、年代別で見ると、「30分未満」または「30分以上2時間未満」と回答した人の割合は30代が34.3%と最も高い。2時間以上と回答した人の割合は70代以上が85.2%と最も高い（図106）。

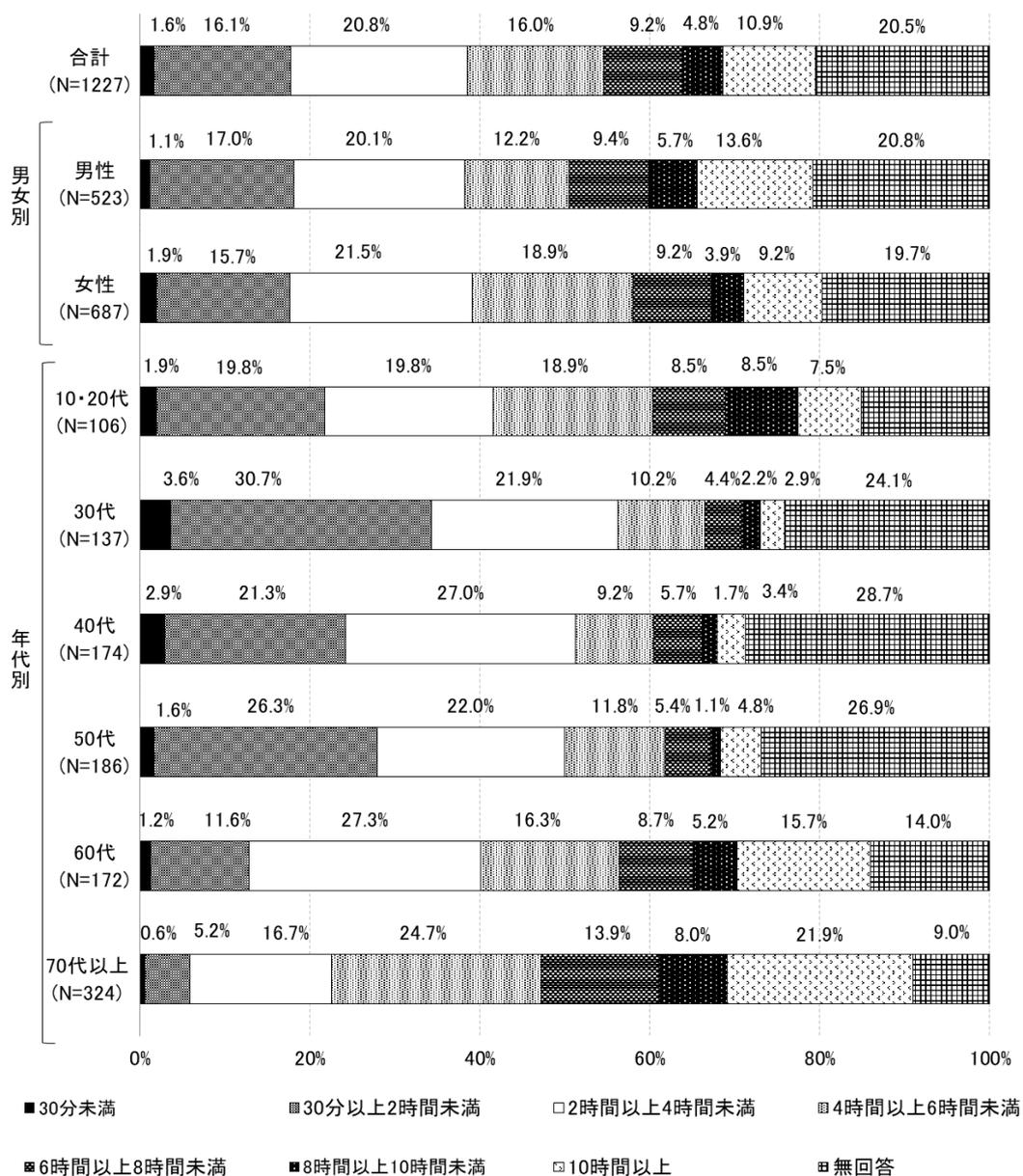


図 106 Q40 自宅での余暇時間

Q41の普段の運動頻度に関して、年代別で見ると「全くしていない」と回答した人の割合は、50代が44.6%と最も高い。週に1日以上運動していると回答した人の割合は、70代以上が70.1%と最も高い（図107）。

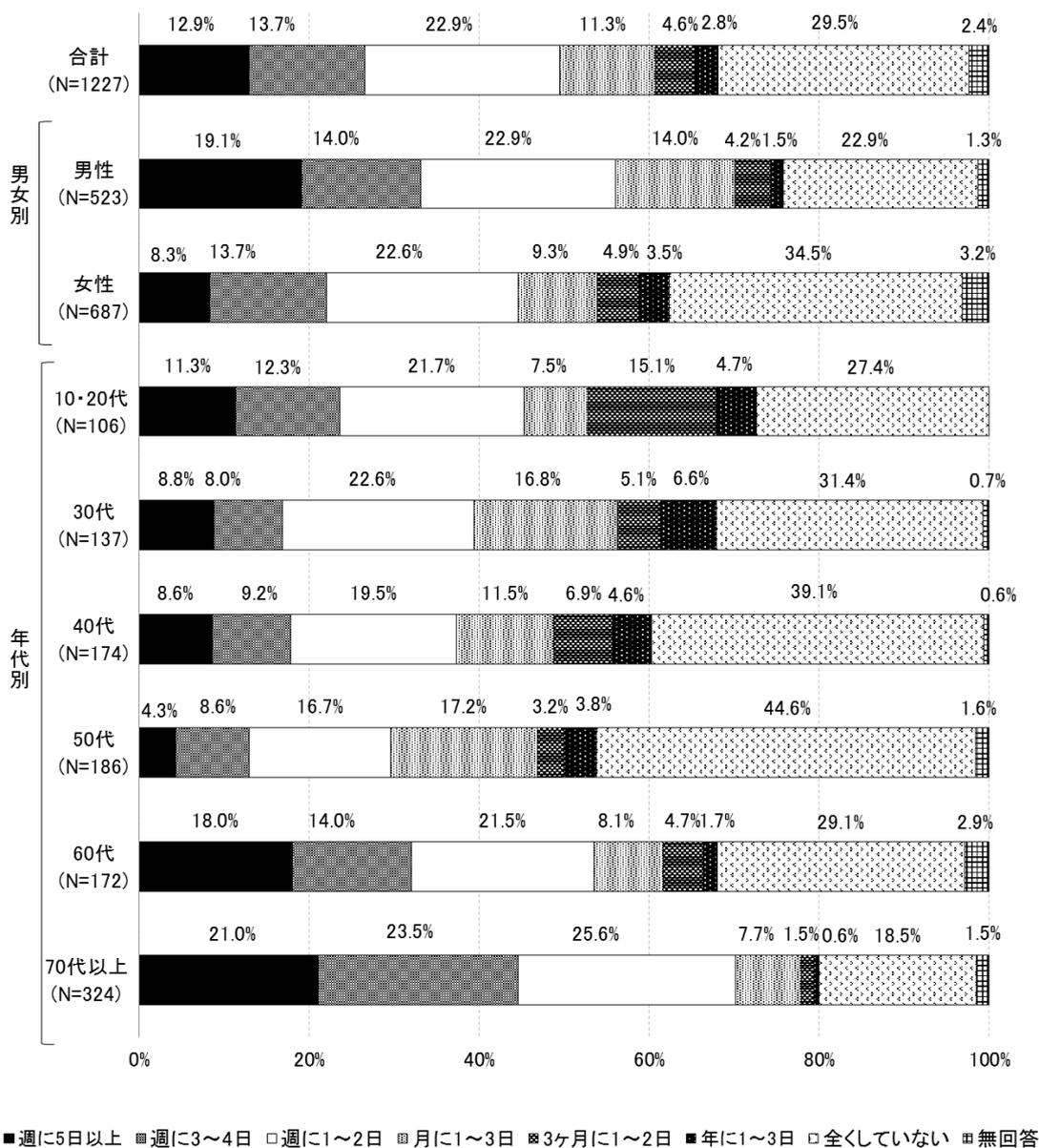


図 107 Q41 普段の運動頻度

Q42 の普通自動車運転免許の取得方法に関して、男女別・年代別のすべての層において「通学免許」と回答した人の割合が最も高い。年代別で見ると、40代が82.2%と最も高い。「合宿免許」と回答した人の割合は、10・20代で11.3%と最も高い（図108）。

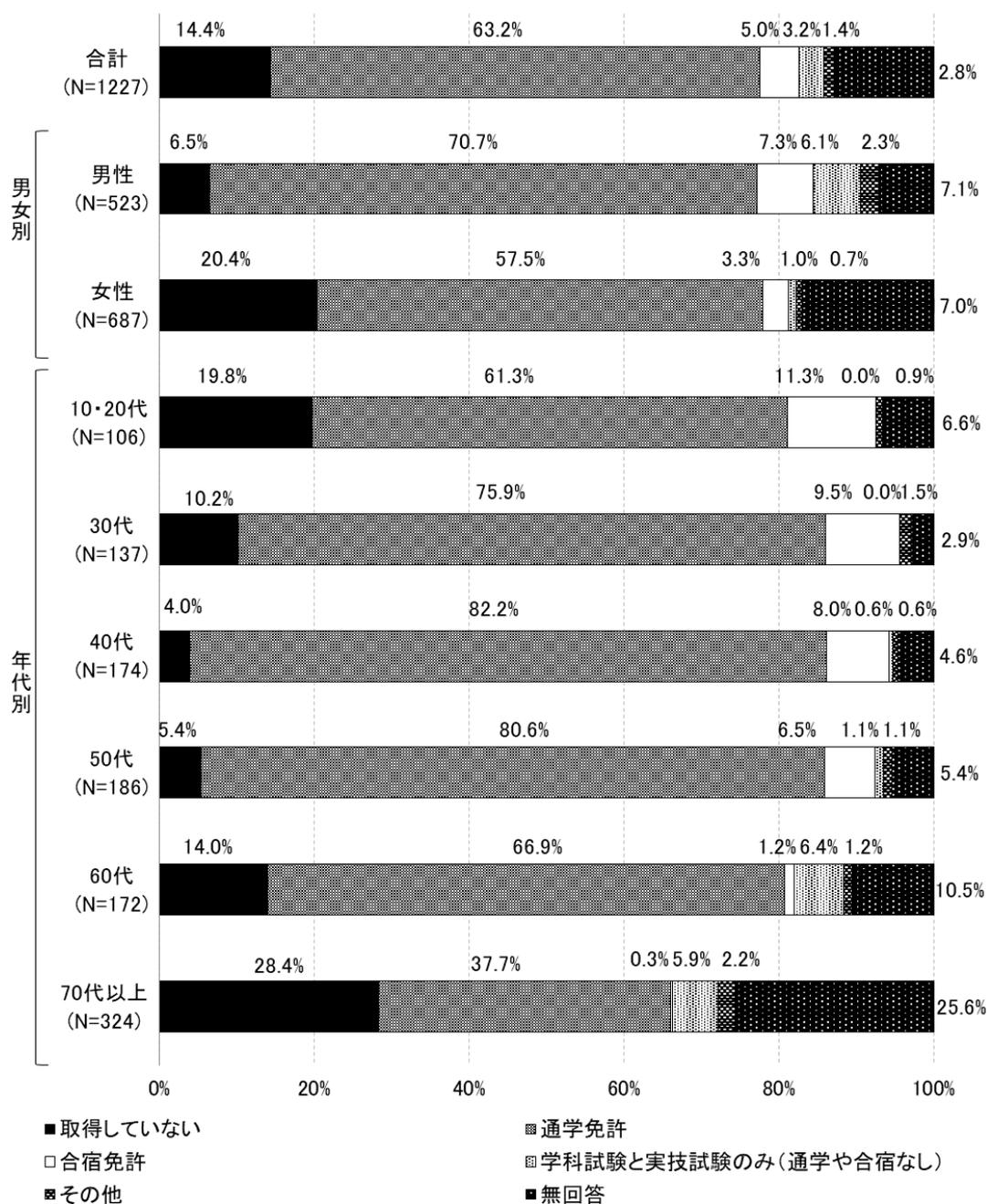


図108 Q42 普通自動車運転免許の取得方法

Q43の自動車の運転頻度に関して、男女別・年代別のすべての層において「週2～3回以上」と回答した人の割合が最も高い。年代別で見ると、60代が49.2%と最も高いのに対して、10・20代は26.9%と最も高い（図109）。

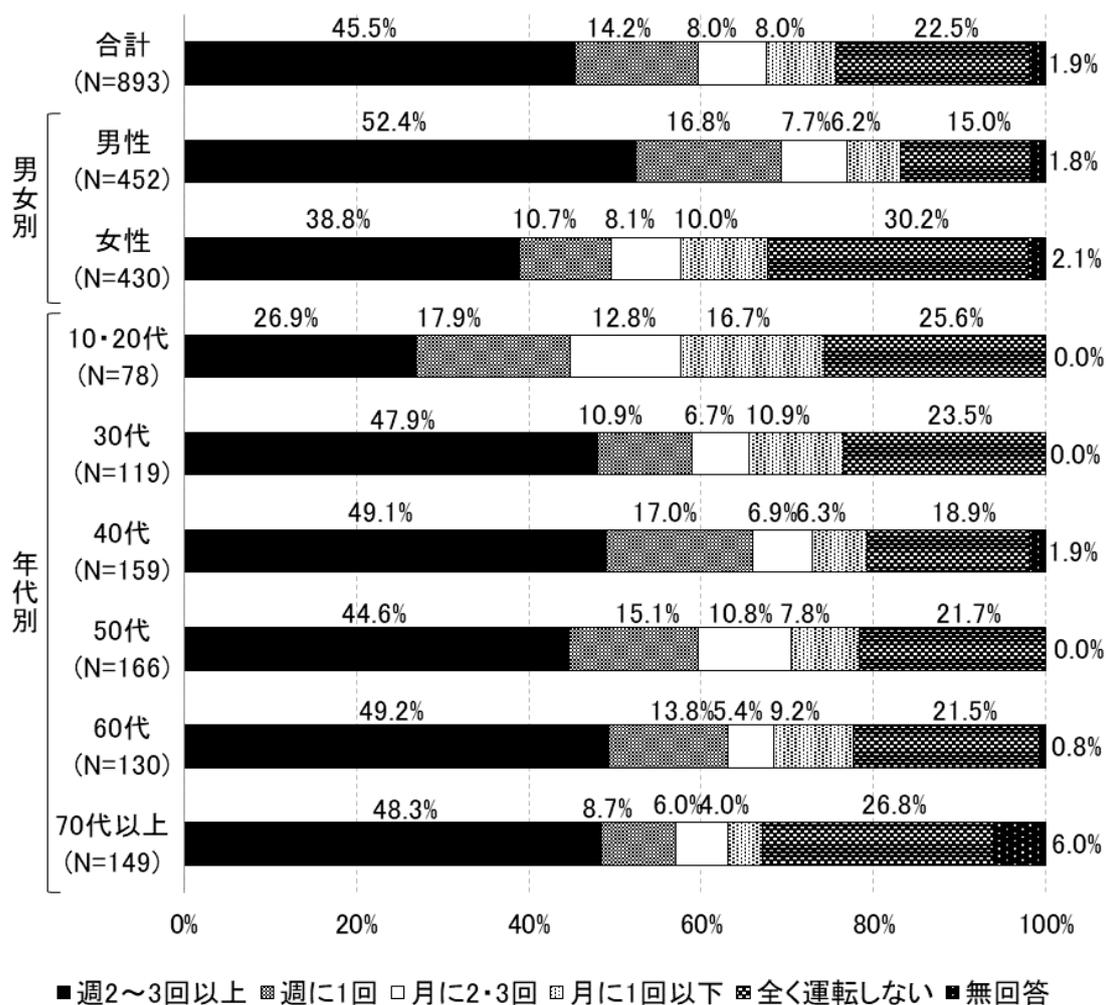


図 109 Q43 自動車の運転頻度

Q44 の交通違反は仕方がないと思うかに関して、年代別で見ると「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は 40 代が 20.8%と最も高い。反対に 70 代以上で 6.7%と最も低い（図 110）。

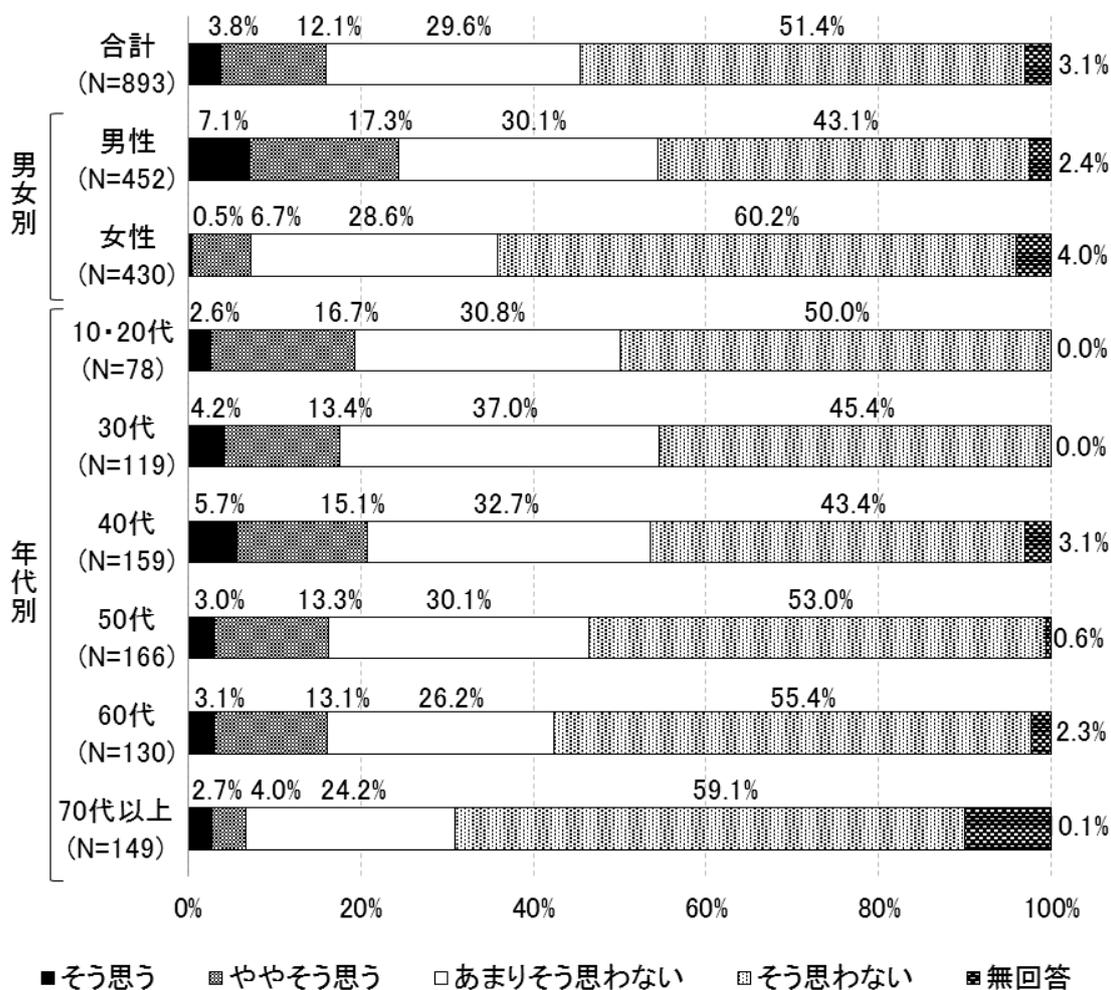


図 110 Q44 交通違反は仕方がないと思うか

Q45 の交通違反で取り締まりを受けた経験に関して、年代別で見ると、10・20代を除く年代別のすべての層で「ある」と回答した人の割合は5割以上である。「ある」と回答した人の割合は50代が64.5%と最も高い。反対に10・20代が28.2%と最も低い（図 111）。

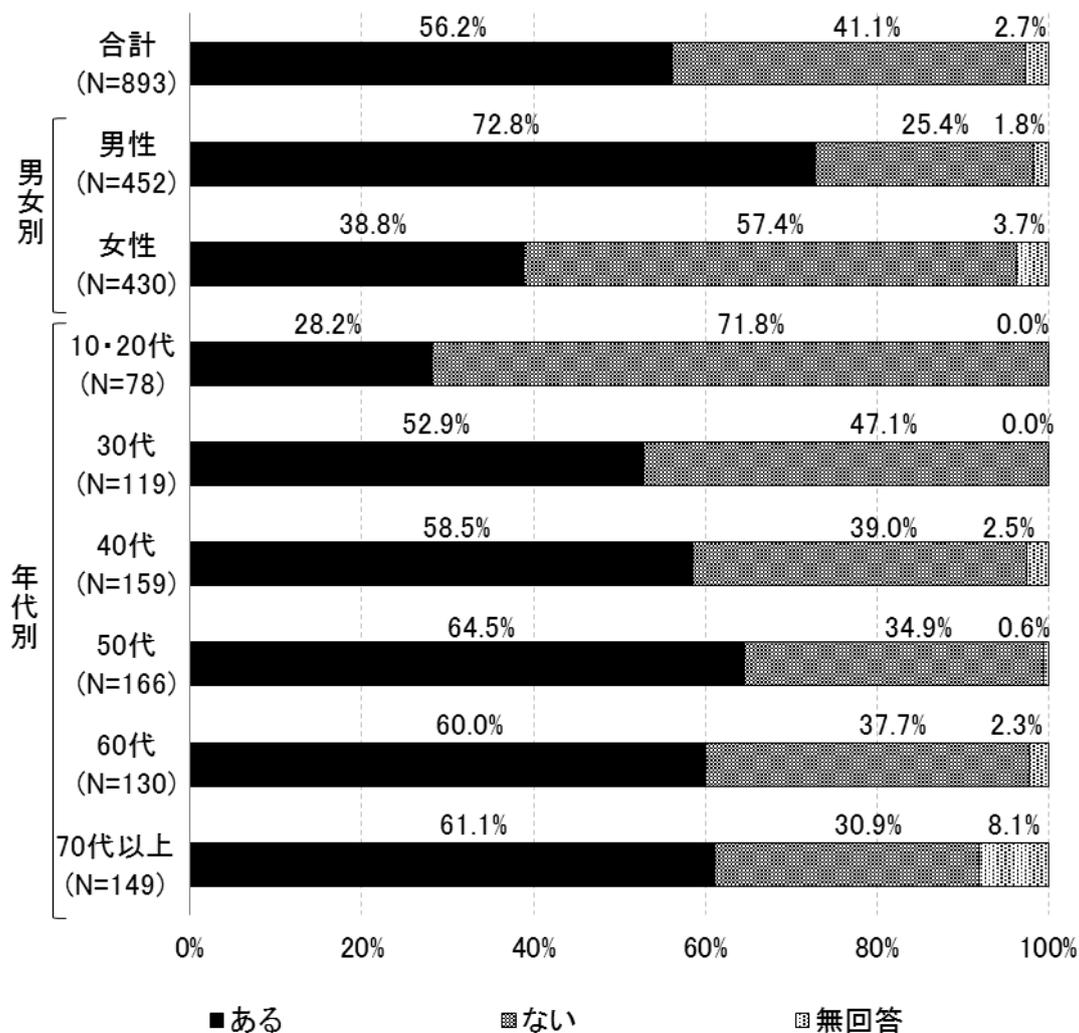


図 111 Q45 交通違反で取り締まりを受けた経験

Q46の自動車事故を起こした・巻き込まれた経験に関して、男女別・年代別のすべての層で「どちらもない」と回答した人の割合は3割以上である。年代別で見ると「どちらもない」と回答した人50代で38.6%と最も低い。反対に10・20代が70.5%と最も高い(図112)。

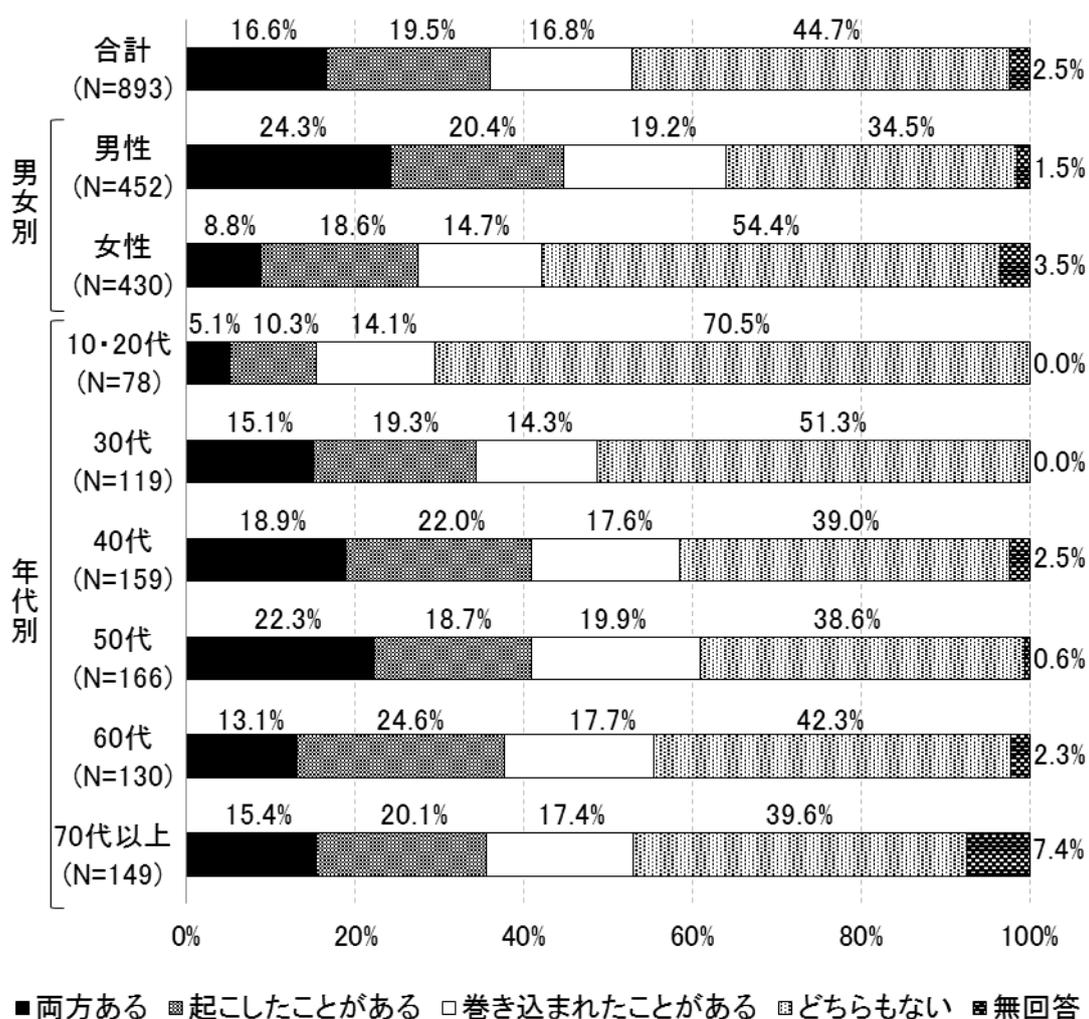


図 112 Q46 自動車事故を起こした・巻き込まれた経験

Q48 の一日の喫煙量に関して、「全く吸ったことがない」と回答した人の割合は、全体で 55.3%である。「全く吸ったことがない」と回答した人の割合は男女で差があり、女性が 72.4%であるのに対して、男性は 33.0%である。年代別で見ると、70 代以上が 49.1%と最も低い。反対に、20 代は 84.6%と最も高い (図 113)。

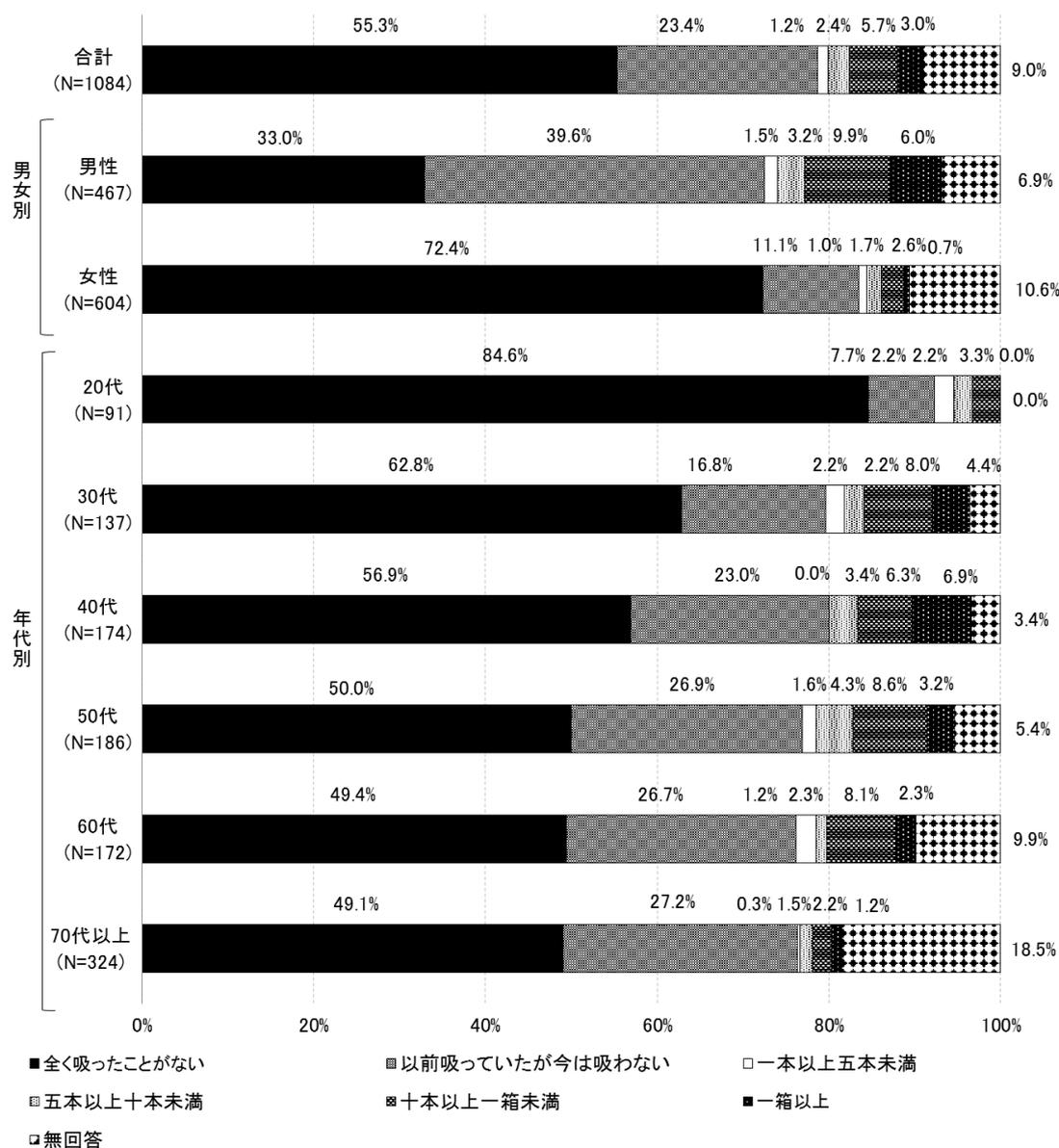


図 113 Q48 一日の喫煙量

Q50の配偶者との会話時間に関して、年代別で見ると「15分未満」または「15分以上30分未満」と回答した人の割合は40代が42.8%と最も高い。反対に、10・20代で6.3%と最も低い（図114）。

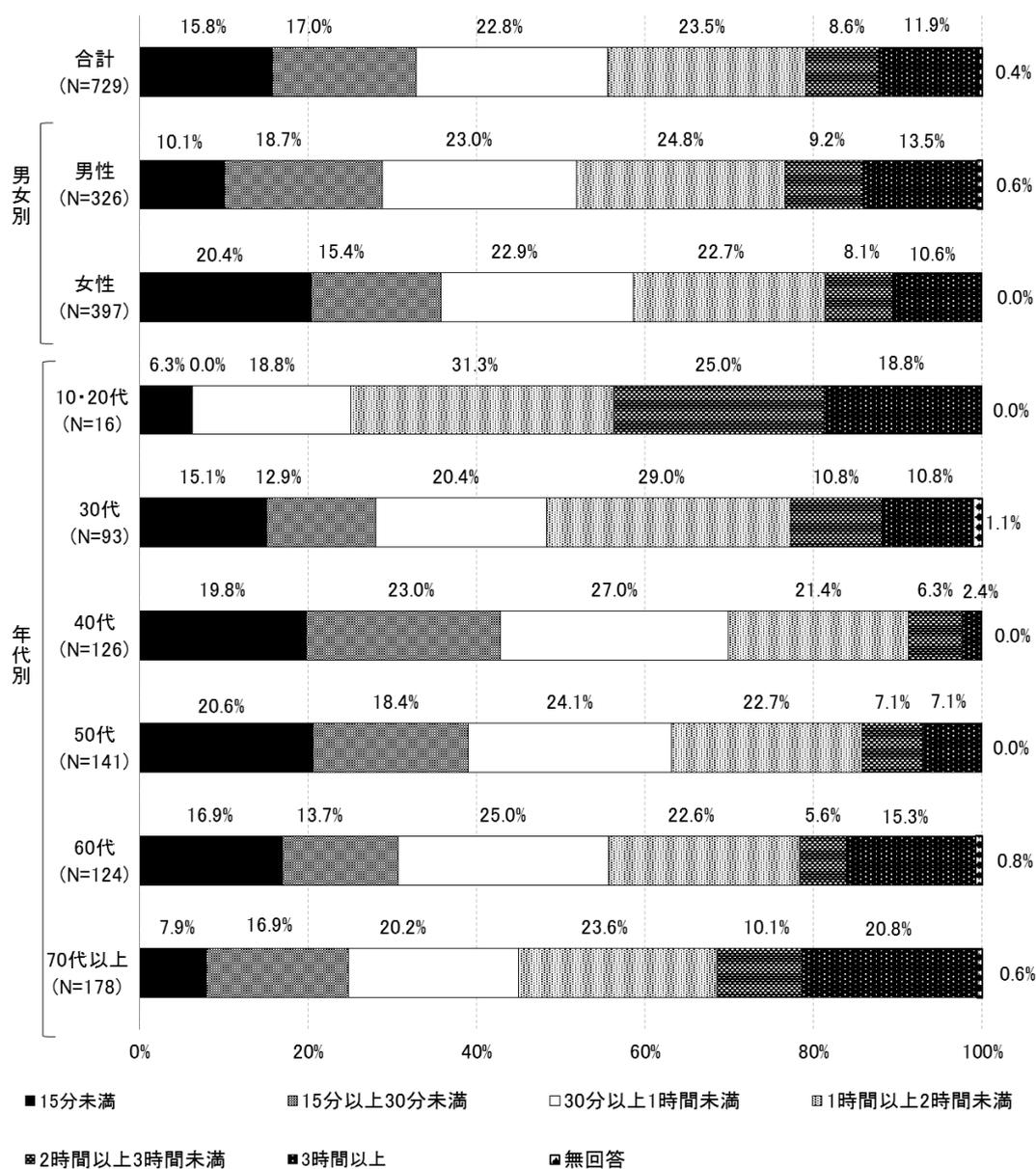


図 114 Q50 配偶者との会話時間

Q51 の家事分担への満足度に関して、男女別で見ると、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は男女で差があり、男性よりも女性の方が 30.8 ポイント低い。年代別で見ると「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は 40 代が 51.6%と最も低い。反対に、10・20 代が 75.0%と最も高い（図 115）。

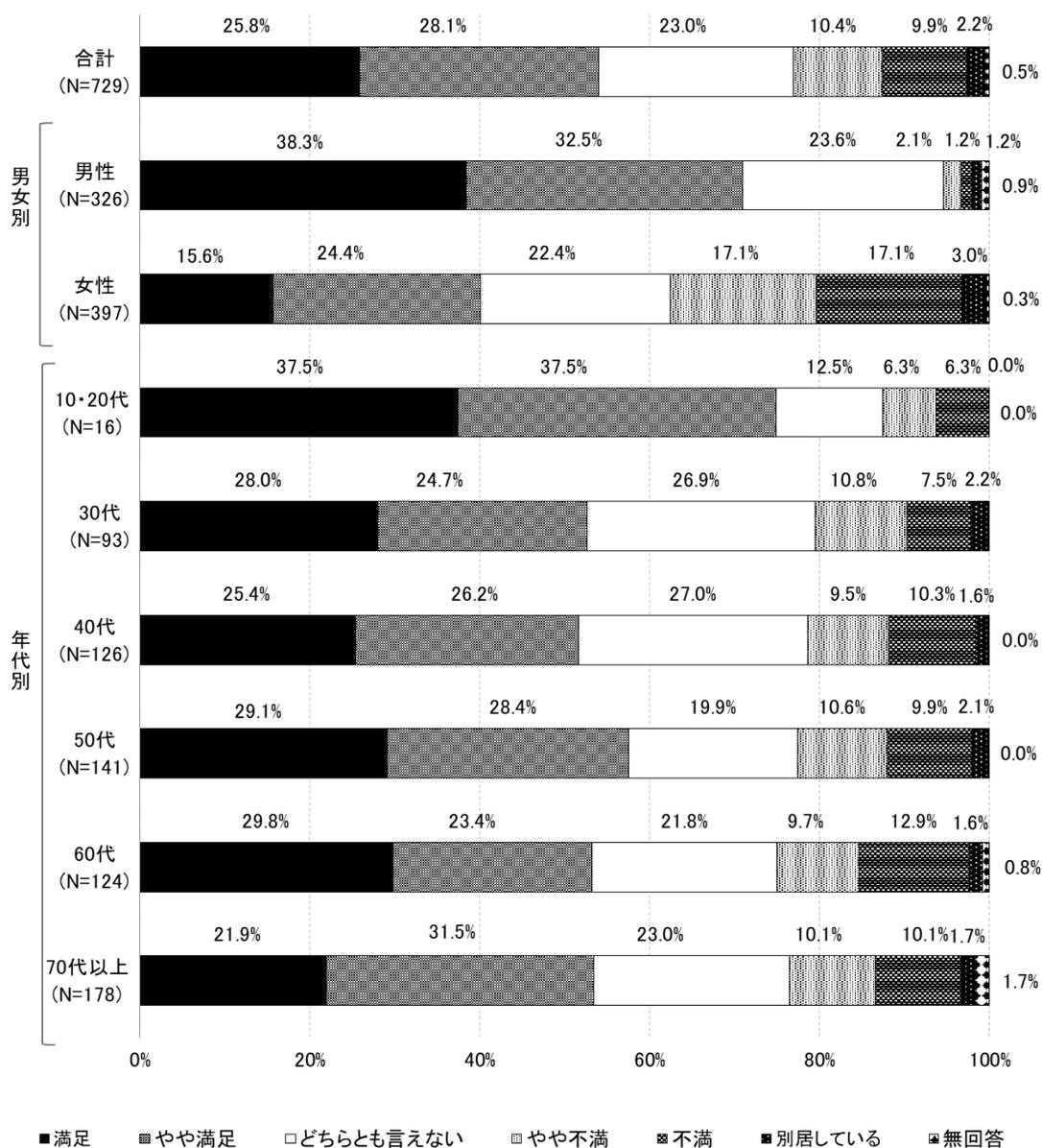


図 115 Q51 家事分担への満足度

Q52の共働きかどうかに関して、合計で見ると、「はい」と回答した人の割合は4割程度である。年代別で見ると「はい」と回答した人の割合は10・20代が81.3%と最も高い。反対に、70代以上で7.3%と最も低い（図115）。

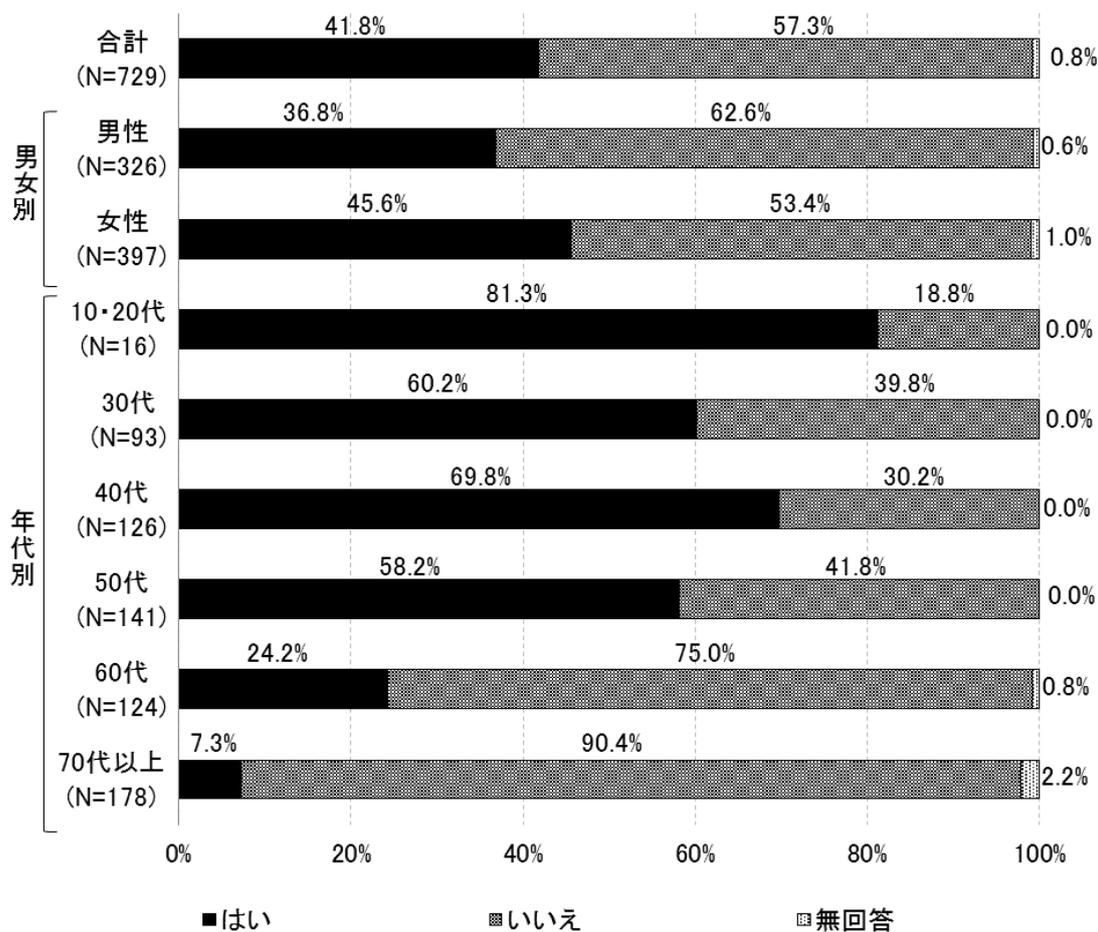


図 116 Q52 共働きかどうか

Q62 の家族との会話時間に関して、合計で見ると、「30分未満」または「30分以上1時間未満」と回答した人の割合は4割程度である。年代別で見ると「30分未満」または「30分以上1時間未満」と回答した人の割合は50代が50.6%と最も高い。反対に、10・20代で31.9%と最も低い（図117）。

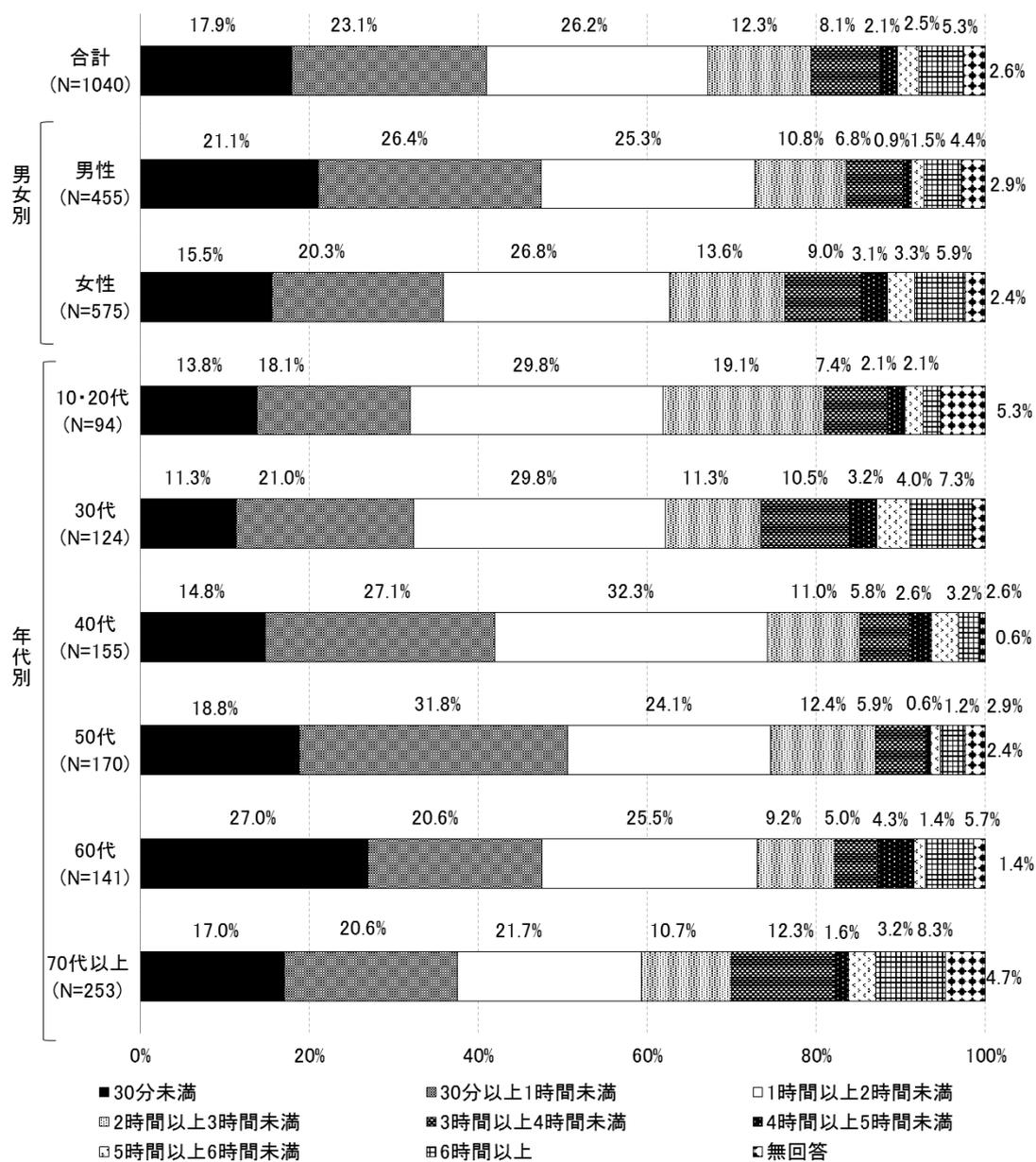


図 117 Q62 家族との会話時間

最後に、質問項目ごとの設問提案者と例年の質問項目との対応関係の一覧を以下に示す。

No.	質問項目	高槻市	関西大学	R01	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	備考
Q1	生活満足度		○	Q1	Q1	Q1	Q1	Q1	Q1	Q1	Q1		
Q2	幸福度		○	Q33									JGSS2002 留置票 Q41
Q3	居住地域は暮らしやすいか		○	Q4	Q2	Q2	*Q2	*Q2	*Q3	*Q2	*Q2		
Q4	地域に住み続けたいか		○	Q5				*Q3	*Q4	*Q3	*Q3		
Q5	高槻市に地域ブランドがあると思うか	○		Q9				Q23					
Q6	中心市街地に行く頻度が3年前と比べて増加したか	○		Q10				Q16					
Q7A	中心市街地の向上: 防災面での安全性や快適性	○		Q11A	Q10A			Q17A					
Q7B	中心市街地の向上: 防犯面での安全性や快適性	○		Q11B	Q10B			Q17B					
Q7C	中心市街地の向上: 居住環境	○		Q11C	Q10C			Q17C					
Q7D	中心市街地の向上: 公共交通機関の利便性	○		Q11D	Q10D			Q17D					
Q7E	中心市街地の向上: 歩行者にとっての歩きやすさ	○		Q11E	Q10E			Q17E					
Q7F	中心市街地の向上: 風紀や治安	○		Q11F	Q10F			Q17F					
Q8A	中心市街地で3年前と比べて増加したか: 文化活動	○		Q12A				Q18A					
Q8B	中心市街地で3年前と比べて増加したか: コミュニティ活動	○		Q12B				Q18B					
Q8C	中心市街地で3年前と比べて増加したか: 商店街の賑わい	○		Q12C				Q18C					
Q8D	中心市街地で3年前と比べて増加したか: 百貨店などの大型店の賑わい	○		Q12D				Q18D					
Q8E	中心市街地で3年前と比べて増加したか: 買い物やイベントでの賑わい	○		Q12E				Q18E					
Q8F	中心市街地で3年前と比べて増加したか: 賑わいの飲食店	○		Q12F				Q18F					
Q8G	中心市街地で3年前と比べて増加したか: オフィスなど業務施設	○		Q12G				Q18G					
Q8H	中心市街地で3年前と比べて増加したか: 病院などの医療機関	○		Q12H				Q18H					
Q8I	中心市街地で3年前と比べて増加したか: 道路の渋滞	○		Q12I				Q18I					
Q8J	中心市街地で3年前と比べて増加したか: 駐輪場	○		Q12J				Q18J					
Q8K	中心市街地で3年前と比べて増加したか: 街なかの緑や潤い	○		Q12K				Q18K					
Q9	中心市街地を住みやすい街にするための取り組み	○		Q13				Q19					

No.	質問項目	高槻市	関西大学	R01	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	備考
Q10	知っている高槻市の歴史遺産	○									Q16		
Q11	城跡公園へ行ったことがあるか	○											
Q12	城跡公園で再整備した方がよいもの	○											
Q13	高槻城の城下町だったエリアに関する認知	○											
Q14	高槻城と城下町があったエリアで取り組んだ方がよいこと	○											
Q15	文化財に親しみを持ったためよいと思うもの	○									Q21		
Q16	歴史講座・現地説明会・体験学習会	○									Q19		
Q17	文化財についての情報源	○									Q22		
Q18A	情報媒体への信頼：テレビ	○			Q20A								
Q18B	情報媒体への信頼：新聞	○			Q20C								
Q18C	情報媒体への信頼：SNS (Twitter・Instagramなど)	○											
Q18D	情報媒体への信頼：ネットニュース	○											
Q18E	(Yahooニュース・LINEニュースなど)	○											
Q19A	情報媒体への信頼：友人・知人の情報	○			Q25A			Q44B				Q26	
Q19B	情報媒体の利用：テレビ	○			Q25C			Q44A					
Q19C	情報媒体の利用：SNS (Twitter・Instagramなど)	○											
Q19D	情報媒体の利用：ネットニュース (Yahooニュース・LINEニュースなど)	○											
Q19E	情報媒体の利用：友人・知人の情報	○											
Q20	インターネットの普及による情報の機密性不安	○											
Q21	インターネットの利用時間	○											
Q22	精神的健康	○											
Q23	身体的健康	○											
Q24	自覚症状	○											
Q25A	精神的健康 (K6)：神経過敏に感じた	○											
Q25B	精神的健康 (K6)：絶望的だと感じた	○											
Q25C	精神的健康 (K6)：そわそわ、落ち着かなく感じた	○											
Q25D	精神的健康 (K6)：気分が沈みこんで、何が起ころってても気が晴れないように感じた	○											
Q25E	精神的健康 (K6)：何をしても骨折りと感じた	○											
Q25F	精神的健康 (K6)：自分は価値のない人間だと感じた	○											
Q26	年間の自殺者数の認知度	○				Q47							
Q27	自殺に関する相談機関の認知度	○				Q49							
Q28	本気で自殺を考えたことがあるか	○				Q52							
Q29	身近な人から自殺願望を聞いたときの対応方法	○				Q53							
Q30	今後求められる自殺対策	○											
Q31	自殺願望の気持ちの乗り越え方	○				Q51							
Q32	「『高槻市みらいのための経営革新』に向けた改革方針」の認知	○			Q30								
Q33	高槻市の20年後・30年後を身振って行政改革に取り組むべきか	○			Q37								

No.	質問項目	高槻市	関西大学	R01	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	備考
Q34①	質問項目												
Q34①	最近良くなってきたと思うもの	○		Q38①	Q32①			Q40①	**Q49①	**Q36①	H24		
Q34②	今後力を入れてほしいもの	○		Q38②	Q32②			Q40②	**Q49②	**Q36②	**Q28①		
Q35	マスクの備蓄意図		○										
Q36	トイレレットペーパーの備蓄意図		○										
Q37	週あたりの労働日数		○				Q61		Q75	Q68	*Q64		
Q38	テレワークの頻度		○										
Q39	テレワークの期間		○										
Q40	自宅での余暇時間		○										
Q41	普段の運動頻度		○										
Q42	普通自動車運転免許の取得方法		○										
Q43	普通自動車の運転頻度		○										
Q44	交通違反は仕方ないと思うか		○										
Q45	交通違反で取り締まりを受けた経験		○										
Q46	自動車事故を起こした経験		○										
Q47	年齢	○	○	Q56	Q50	Q65	Q59	Q54	Q73	Q65	Q62	Q65	
Q48	喫煙状況		○			Q62							
Q49	婚姻状況		○	Q63	Q61	Q72	Q51	Q51	Q67	Q53	Q52	Q59	
Q50	夫婦での1日平均会話時間		○						Q68	Q56			
Q51	家事分担への満足度		○										
Q52	共働きかどうか		○										
Q53	子どもの有無		○										
Q54	性別		○	Q64	Q62	Q73	Q54	Q52	Q71	Q58	Q56	Q73	
Q55	職業	○	○	Q55	Q53	Q64	Q58	Q53	Q72	Q64	Q61	**Q64	
Q56	最終学歴	○	○	Q57	Q55	Q66	Q60	Q55	Q74	Q66	Q63	Q66	
Q57	居住地域		○	Q58	Q56	Q67	Q62	Q57	Q76	Q69	Q65	Q67	
Q58	市内居住年数	○	○	Q59	Q57	Q68	Q63	Q58	Q77	Q70	Q66	Q69	
Q59	居住形態	○	○	Q60	Q58	Q69	Q64	Q59	Q78	Q71	Q67	Q68	
Q60	住居		○	Q62	Q60	Q71	Q66	Q61	Q80	Q73	Q69	Q71	
Q61	世帯人数		○	Q61	Q59	Q70	Q65	Q60	Q79	Q72	Q68	Q70	
Q62	家族との1日平均会話時間		○	Q65	Q63	Q74	Q67	Q62	Q81	Q63	Q70	Q72	
Q63	世帯年収		○	Q66	Q64	Q75	Q68	Q63	Q82	Q74	Q71	Q74	

注) \*印は、質問文の表現・形式が異なるため、比較する際に注意が必要である。変更の程度は、\*の数に応じて、下記の通りである。

\* : 分析にそのまま使用できる（「てにをは」、濁点の位置、末尾などの変更）

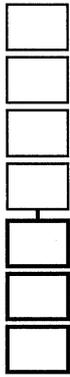
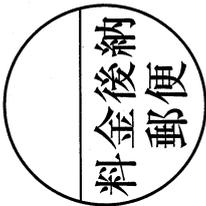
\*\* : 分析には注意が必要である（選択肢の数が異なるなどの変更）

\*\*\* : 同一の変数として分析に使用するの難しい（概念範囲が異なる）

資料：  
予告はがき・調査票



郵便はがき



### 「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」 ご協力のお願い

高槻市と関西大学は、高槻市民の生活ともの見  
方についての調査を共同で実施することになりまし  
た。調査の対象は、無作為に選ばれた18歳以上の  
市民の方です。

近日中に調査票の入った大きな茶封筒（ポールペ  
ン入り）が届きます。ご多忙中、誠に恐縮ですが、  
届き次第、調査票に回答をご記入の上、ご返送頂き  
ますようお願い申し上げます。

令和2年8月



市民生活環境部 市民生活相談課  
〒569-0067 高槻市桃園町2-1  
TEL 072-674-7130

関西大学 総合情報学部  
〒569-1095 高槻市霊仙寺町2-1-1  
TEL 072-690-2151

※あて所に尋ねあたらぬ場合は、高槻市へ返戻して下さい。

予告はがき



## 高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査

(調査実施) 高槻市・関西大学総合情報学部

高槻市と関西大学は共同で、市政と市民生活に関する調査を行っています。市は、今後の施策を検討するうえでの基礎資料とすることを目的に、大学は、高槻市民の生活ともの見方に関する研究と教育を行うことを目的に実施するもので、調査の対象は、住民基本台帳から無作為に選ばれた18歳以上の市民の方です。**封筒宛名のご本人様ご自身の回答を**、この調査票にご記入いただきますようお願いいたします。調査の回答は、調査の目的以外には、一切利用いたしませんので安心してお答えください。

調査結果につきましては、本年12月頃に速報版を、翌年3月中旬に最終報告書を発行し、高槻市と関西大学で閲覧できるようにいたします。できるだけ多くの方のご意見を反映した調査を目指しておりますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

\*ボールペンを同封しております。回答の際にご利用ください(返却の必要はありません)。

\*ご回答は、とくに断りがなければ、選択肢番号を1つだけ選んでマルをつけてください。マルをつける個数が決められていたり、回答していただく方が限られていたりするものは、指示に従ってお答えください。

\*お忙しいところ誠に恐縮ですが、**9月11日(金)**までに、同封の封筒(切手貼付済み)でご返送いただきますようお願いいたします。

\*この調査票と封筒には、ご住所やお名前を記入されないようお願いいたします。

(どなたがどのような回答をされたかわからないようにするためです。)

<調査に関するお問い合わせ> 高槻市 市民生活環境部 市民生活相談課 tel: 072-674-7130  
関西大学 総合情報学部 tel: 072-690-2151

Q1. あなたは、現在の生活全体にどのくらい満足していますか。

1	2	3	4	5
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満

Q2. あなたは、現在どのくらい幸せですか。

1	2	3	4	5
幸せ	やや幸せ	どちらともいえない	やや不幸せ	不幸せ

Q3. あなたのお住まいの地域は、全体的に暮らしやすいと思いますか。

1	2	3	4	5
そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない

Q4. あなたは、現在お住まいの地域にどのくらい「住み続けたい」と思いますか。

1	2	3	4	5
ずっと住み続けたい	住み続けたい	まあ住み続けたい	どちらともいえない	機会があれば引っ越したい

Q5. あなたは、高槻市には地域ブランドと呼べるような特産品や観光地があると思いますか。

1	2	3	4	5
そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない

Q6. あなたが買い物・食事・娯楽などで中心市街地(JR高槻駅・阪急高槻市駅周辺)に行く頻度は、3年前と比べて増加しましたか。それとも減少しましたか。

1	2	3	4	5	6
増加した	少し増加した	変わらない	少し減少した	減少した	3年前をした知らない

Q7. あなたは、中心市街地（JR高槻駅・阪急高槻市駅周辺）に関する以下の点について、3年前と比べて向上したと思いますか。それとも低下したと思いますか。

A. 防災面での安全性や快適性

1	2	3	4
向上した	変わらない	低下した	3年前を知らない

B. 防犯面での安全性や快適性

1	2	3	4
向上した	変わらない	低下した	3年前を知らない

C. 居住環境

1	2	3	4
向上した	変わらない	低下した	3年前を知らない

D. 公共交通機関の利便性

1	2	3	4
向上した	変わらない	低下した	3年前を知らない

E. 歩行者にとっての歩きやすさ

1	2	3	4
向上した	変わらない	低下した	3年前を知らない

F. 風紀や治安

1	2	3	4
向上した	変わらない	低下した	3年前を知らない

Q8. あなたは、中心市街地（JR高槻駅・阪急高槻市駅周辺）に関する以下の点について、3年前と比べて増加したと思いますか。それとも減少したと思いますか。

A. 文化活動

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	3年前を知らない

B. コミュニティ活動

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	3年前を知らない

C. 商店街の魅力

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	3年前を知らない

D. 百貨店などの大型店の魅力

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	3年前を知らない

E. 買い物やイベントでのにぎわい

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	3年前を知らない

F. 魅力的な飲食店

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	3年前を知らない

G. オフィスなど業務施設

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	3年前を知らない

H. 病院などの医療機関

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	3年前を知らない

I. 道路の渋滞

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	3年前を知らない

J. 駐輪場

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	3年前を知らない

K. 街なかの緑や潤い

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	3年前を知らない

Q9. 中心市街地（JR高槻駅・阪急高槻市駅周辺）を住み良い街にするために、あなたはどのような取り組みが必要だと思いますか。3つ以内にマルをつけてください。

1. 街路樹や植栽、公園の整備など、緑豊かな住居環境の向上を図る
2. 日常生活に困らないよう、スーパーマーケットや食料品店などの充実を図る
3. 休日や夜間の突然の病気やケガで困らないよう、病院など医療機能の充実を図る
4. 安心・安全に生活できるよう、治安・防犯の向上を図る
5. 高齢者等も安全・快適に生活できるよう、街のバリアフリー化を図る
6. 民間のマンションや公的住宅など、中心市街地での住宅の供給を促進する
7. その他（ ）
8. 今以上の取り組みは必要ない



Q18. あなたは、以下の情報源から得た情報の正確さをどのくらい信頼していますか。

A. テレビ

1	2	3	4
かなり信頼している	ある程度は信頼している	あまり信頼していない	ほとんど信頼していない

B. 新聞

1	2	3	4
かなり信頼している	ある程度は信頼している	あまり信頼していない	ほとんど信頼していない

C. SNS (Twitter・Instagram など)

1	2	3	4
かなり信頼している	ある程度は信頼している	あまり信頼していない	ほとんど信頼していない

D. ネットニュース (Yahoo ニュース・LINE ニュース など)

1	2	3	4
かなり信頼している	ある程度は信頼している	あまり信頼していない	ほとんど信頼していない

E. 友人・知人の情報

1	2	3	4
かなり信頼している	ある程度は信頼している	あまり信頼していない	ほとんど信頼していない

Q19. あなたは普段、一日どのくらいの時間、以下の情報源に触れていますか。

A. テレビ

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1. 全く利用しない    | 4. 40分以上1時間未満 |
| 2. 20分未満      | 5. 1時間以上2時間未満 |
| 3. 20分以上40分未満 | 6. 2時間以上      |

B. 新聞

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1. 全く利用しない    | 4. 40分以上1時間未満 |
| 2. 20分未満      | 5. 1時間以上2時間未満 |
| 3. 20分以上40分未満 | 6. 2時間以上      |

C. SNS (Twitter・Instagram など)

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1. 全く利用しない    | 4. 40分以上1時間未満 |
| 2. 20分未満      | 5. 1時間以上2時間未満 |
| 3. 20分以上40分未満 | 6. 2時間以上      |

D. ネットニュース (Yahoo ニュース・LINE ニュース など)

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1. 全く利用しない    | 4. 40分以上1時間未満 |
| 2. 20分未満      | 5. 1時間以上2時間未満 |
| 3. 20分以上40分未満 | 6. 2時間以上      |

E. 友人・知人の情報

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1. 全く利用しない    | 4. 40分以上1時間未満 |
| 2. 20分未満      | 5. 1時間以上2時間未満 |
| 3. 20分以上40分未満 | 6. 2時間以上      |

Q20. あなたは、インターネットの普及によって、個人情報やプライバシー等の情報漏洩や、情報を悪用されることにどのくらい不安を感じていますか。

1	2	3	4
とても不安である	ある程度不安である	あまり不安でない	全く不安でない

Q21. あなたのインターネットの利用時間は、一日あたりどのくらいですか。

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 0. 全く利用しない    | 4. 2時間以上3時間未満 |
| 1. 30分未満      | 5. 3時間以上5時間未満 |
| 2. 30分以上1時間未満 | 6. 5時間以上7時間未満 |
| 3. 1時間以上2時間未満 | 7. 7時間以上      |

Q22. あなたの現在の健康状態のうち、精神的な面についてはいかがですか。

1	2	3	4
良い	まあまあ良い	あまり良くない	良くない

Q23. あなたの現在の健康状態のうち、身体的な面についてはいかがですか。

1	2	3	4
良い	まあまあ良い	あまり良くない	良くない

Q24. 現在、次のような自覚症状はありますか。あてはまるものにマルをつけてください。(マルはいくつでも)

- |                        |            |
|------------------------|------------|
| 1. ストレートネック<br>(頸椎の変形) | 5. 目の疲れ    |
| 2. 猫背                  | 6. 頭痛      |
| 3. 視力低下                | 7. 睡眠の質の低下 |
| 4. 首・肩のこり              | 8. その他 ( ) |
|                        | 9. とくにない   |

Q25. 過去1ヶ月間に、以下のことがどのくらいの頻度で起こりましたか。

A. 神経過敏に感じた。

0 1 2 3 4  
全くない 少しだけ ときどき たいてい いつも

B. 絶望的だと感じた。

0 1 2 3 4  
全くない 少しだけ ときどき たいてい いつも

C. そわそわ、落ち着かなく感じた。

0 1 2 3 4  
全くない 少しだけ ときどき たいてい いつも

D. 気分が沈みこんで、何が起っても気が晴れないように感じた。

0 1 2 3 4  
全くない 少しだけ ときどき たいてい いつも

E. 何をするのも骨折りだと感じた。

0 1 2 3 4  
全くない 少しだけ ときどき たいてい いつも

F. 自分は価値のない人間だと感じた。

0 1 2 3 4  
全くない 少しだけ ときどき たいてい いつも

Q26. 自殺で亡くなる人の数は全国で年間約2万人となっています。あなたは毎年、このように多くの方が自殺で亡くなっていることをご存知ですか。

1. 知っている 2. 知らない

Q27. あなたは、自殺について相談できる機関があるのをご存知ですか。(例えば、保健所 ところの健康相談など)

1. 知っている 2. 知らない

Q28. あなたは、これまでの人生の中で本気で自殺したいと考えたことがありますか。

1. ある 2. ない

Q29. あなたは、もし身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、どう対応するのが良いと思いますか。適切と思われるものをいくつかもお選びください。

1. 相談に乗らない、もしくは話題を変える
2. 「死んではいけない」と説得する
3. 「つまらないことを考えるな」と叱る
4. 「がんばって生きよう」と励ます
5. 「死にたいくらい辛いんだね」と共感を示す
6. 「医師など専門家に相談した方が良い」と提案する
7. ひたすら耳を傾けて聞く
8. その他 ( )
9. 適切と思われる対応はない

Q30. 今後の自殺対策について、お伺いします。今後、どのような自殺対策が求められるとあなたは思いますか。いくつかもお選びください。

1. 自殺の実態を明らかにする調査・分析
2. 危険な場所、薬品等の規制
3. インターネットにおける自殺関連情報の対策
4. 自殺に関する広報・啓発
5. 適切な精神科医療体制の整備
6. 職場におけるメンタルヘルス対策の推進
7. 自殺対策に関わる民間団体の支援
8. 様々な分野におけるゲートキーパー※の養成
9. 様々な悩みに対応した相談窓口の設置
10. 地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い
11. 子どもの自殺予防
12. 自殺未遂者の支援
13. 自死遺族等の支援
14. その他 ( )
15. 特になし

※「ゲートキーパー」とは、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聴いて、必要な支援につなげ、見守る人のことです。

Q31. 自殺したいという気持ち乗り越えるには、どのような方法が適切と思われますか。適切と思われるものをいくつかもお選びください。

1. 家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらう
2. 医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家に相談する
3. 弁護士や司法書士、公的機関の相談員など、悩みの元となる分野の専門家に相談する
4. できるだけ休養を取るようにする
5. 趣味や仕事など他のことで気を紛らわすよう努める
6. 特に何もしない
7. その他 ( )
8. 適切と思われる方法はない

Q32. あなたは、『高槻市みらいのための経営革新』に向けた改革方針をご存知ですか。

1	2	3
名前も内容も知っている	名前だけ知っている	知らない

Q33. あなたは、高槻市が20年後、30年後を見据えて行財政改革に取り組む必要性を感じますか。

1	2	3	4
感じる	やや感じる	あまり感じる	感じない

Q34. 次のa～sは、市の仕事のうち、生活に関係の深いものをあげています。

以下から、①あなたが、最近良くなってきたと思うもの(マルはいくつでも)、また、②あなたが、今後力を入れてほしいもの(マルは3つまで)をそれぞれ選んでください。

②力を入れてほしいもの (3つまで)		
①良くなってきたもの (いくつでも)	↓	
a. 学校教育の充実、青少年の健全育成	1	1
b. 図書館、博物館などの文化施設の整備	2	2
c. スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり	3	3
d. 高齢者や障がい者等への福祉対策	4	4
e. 医療施設や救急医療体制の整備	5	5
f. 空気の汚れ、騒音などへの対策	6	6
g. 公園の整備や自然・緑の保全	7	7
h. 街並み・景観の整備	8	8
i. 駅前の整備、駐車・駐輪対策	9	9
j. ごみの収集・処理・再資源化(リサイクル)	10	10
k. 下水道の整備	11	11
l. 水の安定供給、上水道整備	12	12
m. バス・鉄道などの公共交通機関の整備	13	13
n. 身のまわりの生活道路の整備	14	14
o. 交通安全・災害防止対策	15	15
p. 公営住宅の建設や住宅融資制度	16	16
q. 市の広報・窓口相談、情報公開の充実	17	17
r. 災害対策・防犯対策	18	18
s. 子育て支援	19	19
t. 特になし	20	20

Q35. 今年、あなたはマスクの備蓄をしたいとどのくらい感じましたか。

- |        |       |           |          |
|--------|-------|-----------|----------|
| 1      | 2     | 3         | 4        |
| とても感じた | やや感じた | あまり感じなかった | 全く感じなかった |

Q36. 今年、あなたはトイレットペーパーの備蓄がしたいとどのくらい感じましたか。

- |        |       |           |          |
|--------|-------|-----------|----------|
| 1      | 2     | 3         | 4        |
| とても感じた | やや感じた | あまり感じなかった | 全く感じなかった |

Q37. あなたは、平均すると週に何日間、収入を得られる仕事をしていますか。

0	1	2	3	4	5	6	7
0日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日
Q40へ				Q38へ			

1日以上と回答された方への質問です。

Q38. あなたは、どのくらいの頻度でテレワークを行っていますか。  
(※テレワークとは、インターネットなどの情報通信技術を活用した場所や時間にとらわれない働き方のことです)

- |     |       |       |       |        |        |
|-----|-------|-------|-------|--------|--------|
| 1   | 2     | 3     | 4     | 5      | 6      |
| 週5回 | 週3～4回 | 週1～2回 | 2週に1回 | 1ヶ月に1回 | 行っていない |

Q39. あなたは、テレワークをどのくらいの期間行っていますか。

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. 行っていない     | 5. 3週間以上1ヶ月未満  |
| 2. 1週間未満      | 6. 1ヶ月以上1ヶ月半未満 |
| 3. 1週間以上2週間未満 | 7. 1ヶ月半以上2ヶ月未満 |
| 4. 2週間以上3週間未満 | 8. 2ヶ月以上       |

Q40. あなたの自宅での平均的な余暇の時間は、一日あたりどのくらいですか。

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. 30分未満      | 5. 6時間以上8時間未満  |
| 2. 30分以上2時間未満 | 6. 8時間以上10時間未満 |
| 3. 2時間以上4時間未満 | 7. 10時間以上      |
| 4. 4時間以上6時間未満 |                |

Q41. あなたは、普段どのくらいの頻度で運動をしていますか。

- |        |        |        |        |          |        |         |
|--------|--------|--------|--------|----------|--------|---------|
| 1      | 2      | 3      | 4      | 5        | 6      | 7       |
| 週に5日以上 | 週に3～4日 | 週に1～2日 | 月に1～3日 | 3ヶ月に1～2日 | 年に1～3日 | 全くしていない |





## 執筆者紹介

上原 依子（うえはら よりこ） 編集・はじめに・第 1 章（関西大学総合情報学部非常勤講師）  
松本 渉（まつもと わたる） 編集・第 1 章（関西大学総合情報学部教授）  
尾藤 央延（びとう ひろのぶ） 第 2 章（関西大学ティーチング・アシスタント）

### 高槻市と関西大学による市民意識調査報告書

—令和 2 年度—

編集 関西大学総合情報学部、発行 高槻市・関西大学総合情報学部、発行年月 令和 3 年 3 月

※ 関連する資料として、同時期に発行された『2020 年度社会調査実習報告書—高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査—』（関西大学総合情報学部[編集], 関西大学総合情報学部[発行]）があります。総合情報学部学生による詳細な分析も掲載されています。